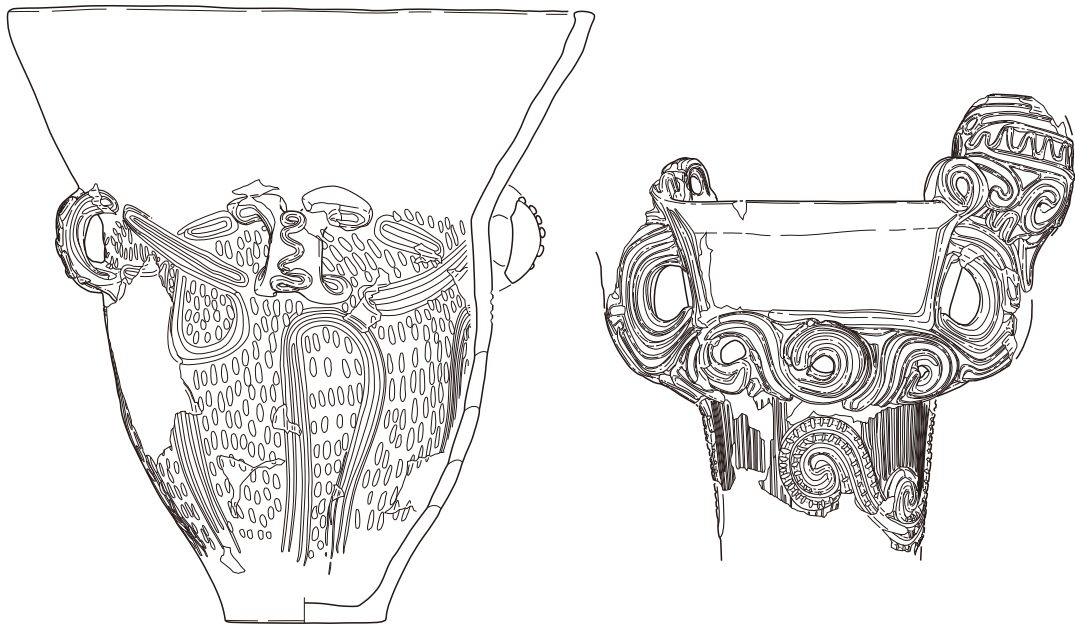


酒呑場遺跡 (第5次)

SAKENOMIBA SITE

— 畜産酪農技術センター長坂支所施設等整備事業に伴う発掘調査報告書 —



2019. 3

山梨県教育委員会
山梨県農政部

酒呑場遺跡 (第5次)

SAKENOMIBA SITE

— 畜産酪農技術センター長坂支所施設等整備事業に伴う発掘調査報告書 —

2019. 3

山梨県教育委員会
山梨県農政部



酒呑場遺跡第5次調査区遠景（八ヶ岳方面を望む）



酒呑場遺跡第5次調査区 正面俯瞰写真

卷頭写真 2



5号住居跡埋設土器出土状況



56号土坑遺物出土状況



7号住居跡出土遺物 集合写真



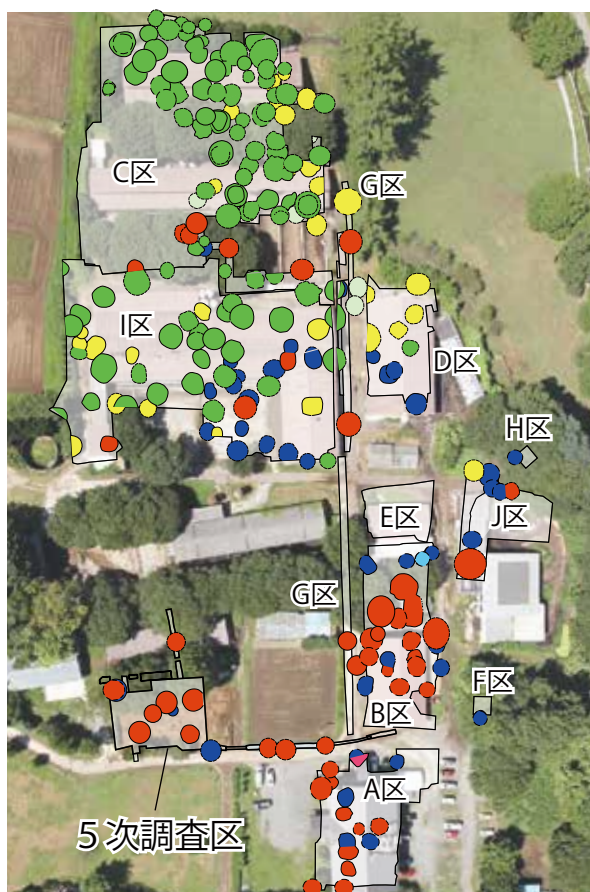
出土曾利式土器 集合写真

酒呑場遺跡第 5 次調査のあらまし

酒呑場遺跡とは、北杜市長坂町長坂上条にある、今から約 4000 年～6500 年前（縄文時代前期から中期）を中心とした集落遺跡です。山梨県埋蔵文化財センターでは、1994 年度から 1996 年度までの第 1 次～第 3 次調査、2000 年度に第 4 次調査を実施しており、2017 年度に第 5 次となる発掘調査を実施しました。



第 5 次調査区 東側から撮影



大集落を形成する酒呑場遺跡ですが、時期ごとに集落の中心を変えていっていることが分かりました。左の図は、現在の航空写真に調査区を重ねたものになります。縄文時代前期の集落が中心付近で形成されたのち、北側を中心に縄文時代中期中葉の環状集落がつくられ、中期後葉になると南側を中心に同じく環状の集落がつくられるようになります。

今回の調査区は、バスケットコート 1 個分くらいの面積でしたが、前期後半の住居跡 2 軒、中期後半の住居跡 10 軒、前期後半と中期後葉を中心とした土坑 89 基、前期後半の竪穴状遺構 2 基が見つかりました。

出土した土器や石器などの遺物は、プラスチックの箱で70箱以上となりました。474 m²の面積ながら、たくさんの遺物が発見されたことが分かります。実は、酒呑場遺跡の過去の調査で出土した遺物は、八ヶ岳南麓で育まれた豊かな縄文文化を示す資料として、2013年度に683点が国の重要文化財に指定されています。

日本遺産「星降る中部高地の縄文世界」は2018年に認定されたもので、酒呑場遺跡の過去の出土遺物も構成文化財となっています。今回の出土遺物にも、これまでのものに匹敵するような、縄文世界を映しだした魅力的な資料があります。その一つが、11号住居跡から出土した水煙文土器です。土器の把手や表面に描かれた渦巻文などが、舞い上がる水煙をイメージさせます。



4号住居跡 石囲炉

今回の発掘調査で発見された、特徴的なものについて、4つだけ紹介したいと思います。一つ目は、縄文時代中期後葉の竪穴住居跡から発見された石囲炉です。

縄文時代の人々は様々な目的で、竪穴住居の中で火を燃やして生活していました。石囲炉は、地面を掘りこんだところに、石と石を組み合わせて造るもので、現代の“掘りごたつ”に似た造りです。

今回見つかった石囲炉のうちには、炉の外側隅部に小型の土器を置く、珍しいタイプのものもありました。また、1号住居跡の石囲炉には、炉石の縁に沿って黒い付着物があり、今回の報告ではこの付着物についての化学的分析も試みています。



1号住居跡 石囲炉

次は、竪穴住居跡の入口付近に埋められた土器、いわゆる埋甕が挙げられます。巻頭写真 2 に掲載した 5 号住居跡のものは、大きな土器を逆さまにして埋めていました。同じ場所から、穴が明けられた底の破片も出土しました。



7号住居跡 埋甕

また、7 号住居跡では、2 個の埋甕が並んで見つかりました。こちらは、そのままの向きで、底をくり抜いて埋めていました。



3つ目に、お墓と思われる土坑が見つかりました。巻頭写真 2 の下段に、56 号土坑の調査時の写真がありますが、この土器を復元したものが左の写真です。3 つの土器が、土坑の中に納められていたようです。

これらの土器のうち、1 つは底に、1 つは胴部に、わざと割ったような痕跡がありました。曽利式期の最終段階の特徴をもつ土器で、貴重な事例となりました。

最後に、貴重な石製品の発見もありました。住居跡を探しているときに出土したのですが、硬玉（ヒスイ）で作られた垂飾が見つかりました。ヒスイは新潟県の糸魚川で産出したものを獲得したのだと思われます。第 1 次調査時にも出土はありますが、今回、改めて酒呑場遺跡の重要性を裏付けることとなりました。



今回の調査によって、酒呑場遺跡の資料はますます充実し、縄文のムラの様子が解明されつつあります。本書が多くの方に活用いただければ幸いです。

序 文

本書は、平成 29 年度（2017 年度）に発掘調査が行われた酒呑場遺跡第 5 次調査の発掘調査報告書です。この発掘調査は、山梨県農政部畜産課の畜産酪農技術センター長坂支所施設等整備事業に伴って実施されました。この事業は、畜産酪農技術センター長坂支所に新しくバイオテクノロジー研究棟を建設するもので、施設建設予定地点および電気配管・水道配管埋設地点等の外構工事地点において発掘調査を行いました。

畜産酪農技術センター長坂支所は、施設のほぼ全域が埋蔵文化財包蔵地である酒呑場遺跡であると考えられています。埋蔵文化財センターでは、畜産酪農技術センター長坂支所（旧酪農試験場）の施設増改築に伴って、1994 年度から 1996 年度まで第 1 次～第 3 次調査、2000 年度に第 4 次調査を行いました。その際に、縄文時代の竪穴住居跡 220 軒、土坑 5800 基以上が発見され、縄文時代前期～中期の大規模集落遺跡であると分かっております。出土した土器や石器などの遺物については、八ヶ岳南麓で育まれた豊かな文化を示す一括遺物として、2013 年度に 683 点が国の重要文化財として指定されています。

今回、第 5 次調査として、約 474㎡が発掘調査の対象となり、縄文時代の竪穴住居跡 12 軒、竪穴状遺構 2 基、土坑 89 基、礫集積遺構 1 基が検出され、土器や石器などの遺物がプラスチック箱にして 80 箱以上出土しました。調査地点は、酒呑場遺跡のこれまでの調査区の南西部分にあたり、今から 4300～5000 年ほど前の縄文時代中期後半（曾利式期）の集落の中心域で、6000 年前～6500 年ほど前の縄文時代前期後半（諸磯式期）の遺構も多く見つかっています。今回の発掘調査によって、酒呑場遺跡の集落が徐々に場所を変えて変遷していく様子を確認出来るようになりました。特に曾利式期の住居跡からは、立派な石囲炉や埋設土器が見つかり、縄文人の精神世界の片鱗を垣間見ることができます。

酒呑場遺跡は、畜産酪農技術センター長坂支所内に位置しており、遺跡と施設が上手に付き合っていかなければ、埋蔵文化財の保存・活用という目的を達成することができません。今回の発掘調査にあたっては、施設関係者・関係機関の皆様に多大なるご協力をいただきました。厚く御礼申し上げます。

最後に、本書が地域における歴史学習や研究等のために、多くの方にご活用いただければ幸いです。

2019 年 3 月

山梨県埋蔵文化財センター
所 長 馬 場 博 樹

例 言

- 1 本書は酒呑場遺跡第5次調査の発掘調査報告書である。
- 2 遺跡の調査原因は、畜産酪農技術センター長坂支所施設等整備事業に伴うものである。原因者は山梨県農政部畜産課である。
- 3 遺跡は山梨県北杜市長坂町長坂上条 621-2 に位置している。
- 4 発掘調査・整理作業・報告書刊行は教育庁学術文化財課からの依頼を受け、山梨県埋蔵文化財センター（甲府市下曾根町所在）が実施した。平成29年度・30年度の調査体制は次の通りである。
調査主体 山梨県教育委員会 調査機関 山梨県埋蔵文化財センター
所長 中山誠二（平成29年度）・馬場博樹（平成30年度） 次長 高野玄明
調査研究課長 今福利恵（平成29年度）・笠原みゆき（平成30年度）
史跡資料活用課長 保坂和博（平成29年度）・今福利恵（平成30年度）
調査研究課リーダー 笠原みゆき・吉岡弘樹（平成29年度）・吉岡弘樹（平成30年度）
- 5 発掘調査は、熊谷晋祐（文化財主事）、浅川一郎（主幹・文化財主事）が担当し、基礎的整理作業は熊谷、浅川、本格的整理作業は熊谷、岩永祐貴（文化財主事）が担当した。
作業員については次の通りである。
発掘作業員 雨宮信次 オルドネス・ミヤヒラ・アダ・ファニー 柿澤勇 川住たまみ 功刀せつ子
功刀千秋 小松千賀子 進藤美紀 中川恵美子 中山ひとみ 新田史男 前川三樹夫
整理作業員 雨宮信次 猪股順子 長田良二 川住たまみ 越山敏子 小松千賀子 進藤美紀
新田史男 外菌椋
- 6 本書の第2章1節を浅川一郎、同章2節を岩永祐貴が、第4章については、分析を委託したパリノ・サーヴェイ株式会社が執筆した。その他の文章執筆および全体の編集は熊谷晋祐が行った。
- 7 遺構・遺物の写真については熊谷晋祐・浅川一郎が撮影した。
- 8 発掘調査の期間は、建物建設予定地点について平成29年5月9日から9月22日まで実施し、追加調査として平成29年10月17日、18日、24日、11月29日、12月1日、20日、平成30年3月2日に工事立会による調査を実施した。基礎的整理作業は平成29年10月23日から平成30年3月30日まで実施した。平成30年度本格的整理作業ならびに報告書作成を平成31年3月15日まで実施した。
- 9 出土遺物の整理作業は、山梨県埋蔵文化財センターで実施した。
- 10 本書にかかる記録図面・電子データ、写真、出土遺物などは山梨県埋蔵文化財センターに保管してある。
- 11 発掘調査に係り山梨県教育庁学術文化財課が調整機関となり、埋蔵文化財担当久保田健太郎が担当した。
- 12 発掘調査及び整理作業にあたって、以下のように業務を委託した。
 - ・国土座標による基準杭の測量…株式会社テクノプランニング
 - ・RCヘリによる遺跡全体、遺跡景観の航空空中写真の撮影…株式会社シン技術コンサル
 - ・採集炭化材および土壌、炉石付着物の化学分析…パリノ・サーヴェイ株式会社
 - ・一部の検出遺構および遺物出土状況のデジタル図化作業…株式会社テクノプランニング
 - ・出土遺物（一部の土器・石器）の図化およびデジタルトレース作業…株式会社アルカナ
なお、遺構の測量及び図化システムとして、株式会社CUBICの「遺構くん」を使用した。
- 13 調査にあたり、次の方々からご教示・ご協力をいただいた。記して謝意を表する。（敬称略）
櫛原功一 佐野隆 長谷川誠 保坂康夫 村松佳幸 北杜市教育委員会

凡 例

- 1 遺構・遺物図面の縮尺は、各図中に示した。原則として、遺構は竪穴住居跡 1/60、土坑・ピット・炉跡 1/40 とし、遺物は土器 1/3、1/4、1/6、土製品 2/3、石器・石製品 1/1、2/3、1/2、1/3、1/4、1/6 とした。
- 2 遺物の注記は全て「サケ 5 次」を冠して、例えば光波番号がある住居跡出土のものについては「サケ 5 次 ○住 P△△」などとし、グリッド一括遺物（例：E 4 グリッド一括の場合）については「サケ 5 次 E 4」などとした。
- 3 遺物実測図は口径および底径が復元できるもの、時期が推定できる文様をもつものを基準に選定した。
- 4 遺構図版中のドットマークは遺物を示しており、付された番号はそれぞれの遺物に対応している。なお、「S—○○」とするものは、石器図版の番号に対応している。
ドットマークは、土器●、石器・礫▲、黒曜石★、土製品☆、採取サンプル◇を基本とする。一部の住居跡や土坑においては、土器の帰属時期を細分し、□諸磯式、■五領ヶ台式、○中期中葉、●中期後葉で示している。
- 5 遺構断面図の左側基点に付した数字は標高（m）を表す。
- 6 土器観察表中及び土層注記の色調名は、農林水産省水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』1990 年度版による。
- 7 遺構の写真はニコン D 7200 デジタル一眼レフカメラ及び 35mm フィルムカメラで撮影した。
- 8 本報告書中遺跡分布図は、国土地理院発行の 1/25,000 地図を利用した。
- 9 発掘調査時および『年報』等に使用した遺構名・番号から、下記表のものは変更及び欠番とした。

新旧対応表

名称変更（旧→新）			欠番
2 号住居跡	→	1 号竪穴状遺構	8 号土坑
3 号住居跡	→	2 号竪穴状遺構	13 号土坑
5 号住居跡 2 号炉跡	→	5 号住居跡 vi 土坑	20 号土坑
5 号住居跡 3 号炉跡	→	8 号住居跡炉跡	

- 10 石囲炉の法量については、長径・短径を炉石の頂点間、深さは床面からの掘り込みで計測した。

目 次

<p>巻頭写真図版 あらし 序文 例言・凡例 目次</p> <p>第1章 調査の経緯と経過 1</p> <p> 第1節 調査に至る経緯 1</p> <p> 第2節 調査の目的と課題 1</p> <p> 第3節 発掘調査の経過 2</p> <p> 第4節 室内調査等の経過 3</p> <p>第2章 遺跡の位置と環境 5</p> <p> 第1節 地理的環境 5</p> <p> 第2節 歴史的環境 5</p> <p> 第3節 遺跡の概要と研究略史 6</p> <p>第3章 調査の方法と成果 12</p> <p> 第1節 発掘調査の方法 12</p>	<p> 第2節 基本層序 12</p> <p> 第3節 遺構と遺物 13</p> <p> 第4節 土製品・石器等の遺物 23</p> <p> 遺構図版 27</p> <p> 遺物図版 54</p> <p> 遺物観察表 107</p> <p>第4章 自然科学分析 125</p> <p> 第1節 炭化物の分析 125</p> <p> 第2節 炉石付着物の分析 127</p> <p> 第3節 埋設土器等の土壌の分析 130</p> <p>第5章 総括 134</p> <p> 第1節 酒呑場遺跡の集落変遷 134</p> <p> 第2節 石囲炉について 136</p> <p> 第3節 その他の遺構・遺物について 138</p> <p>写真図版 報告書抄録・奥付</p>
--	--

図 版 目 次

<p>第1図 過去の調査区及びグリット設定図 4</p> <p>第2図 周辺遺跡分布図 7</p> <p>第3図 遺跡詳細分布図 9</p> <p>第4図 調査区設定図 9</p> <p>第5図 基本土層図 13</p> <p>第6図 グリット設定図 14</p> <p>第7図 本調査区遺構分布図 27</p> <p>第8図 1号住居跡 28</p> <p>第9図 1号住居(2) 29</p> <p>第10図 4号住居跡 30</p> <p>第11図 4号住居跡(2) 31</p> <p>第12図 5号住居跡・8号住居跡 32</p> <p>第13図 5号住居跡・8号住居跡(2) 33</p> <p>第14図 5号住居跡・8号住居跡(3) 34</p> <p>第15図 5号住居跡・8号住居跡(4) 35</p> <p>第16図 6号住居跡 36</p> <p>第17図 6号住居跡(2) 37</p> <p>第18図 7号住居跡 38</p> <p>第19図 7号住居跡(2) 39</p> <p>第20図 7号住居跡(3) 40</p> <p>第21図 9号住居跡・外構E区 41</p>	<p>第22図 10号住居跡 42</p> <p>第23図 11号住居跡 43</p> <p>第24図 11号住居跡(2)・1号・2号竪穴状遺構 44</p> <p>第25図 外構B区・C区遺構分布図 45</p> <p>第26図 外構B区・C区 46</p> <p>第27図 外構B区・C区(2) 47</p> <p>第28図 土抗 49</p> <p>第29図 土抗(2) 50</p> <p>第30図 土抗(3) 51</p> <p>第31図 土抗(4) 52</p> <p>第32図 土抗(5) 53</p> <p>第33図 1号住居跡出土遺物 54</p> <p>第34図 4号住居跡出土遺物 55</p> <p>第35図 5号住居跡出土遺物(2)・5号住居跡出土遺物 56</p> <p>第36図 5号住居跡出土遺物(2) 57</p> <p>第37図 5号住居跡出土遺物(3) 58</p> <p>第38図 6号住居跡出土遺物 59</p> <p>第39図 7号住居跡出土遺物 60</p> <p>第40図 7号住居跡出土遺物(2) 61</p>
--	--

第41図	7号住居跡出土遺物(3)	62	第67図	石器3(石匙)	88
第42図	7号住居跡出土遺物(4)	63	第68図	石器4(石匙)	89
第43図	7号住居跡出土遺物(5)・8号住居跡出土遺物・9号住居跡出土遺物	64	第69図	石器5(楔形石器・二次加工剥片・搔器)	90
第44図	10号住居跡出土遺物	65	第70図	石器6(石錐)	91
第45図	11号住居跡出土遺物	66	第71図	石器7(横刃型石器・原石・石核・打製石斧)	92
第46図	11号住居跡出土遺物(2)・12号住居跡出土遺物	67	第72図	石器8(打製石斧)	93
第47図	12号住居跡出土遺物(2)・13号住居跡出土遺物	68	第73図	石器9(磨製石斧・尖頭器)	94
第48図	14号住居跡出土遺物	69	第74図	石器10(磨石類)	95
第49図	1号竪穴・2号竪穴出土遺物	70	第75図	石器11(磨石類)	96
第50図	土抗出土遺物(3土~31土)	71	第76図	石器12(磨石類)	97
第51図	土抗出土遺物2(31土~33土)	72	第77図	石器13(磨石類)	98
第52図	土抗出土遺物3(34土)	73	第78図	石器14(磨石類)	99
第53図	土抗出土遺物4(34土~41土)	74	第79図	石器15(磨石類)	100
第54図	土抗出土遺物5(43土~53土)	75	第80図	石器16(磨石類・石皿)	101
第55図	土抗出土遺物6(53土~56土)	76	第81図	石器17(石皿・礫石皿)	102
第56図	土抗出土遺物7(56土)	77	第82図	石器18(礫石皿)	103
第57図	土抗出土遺物8(57土)	78	第83図	石器19(礫石皿・大型磨石)	104
第58図	土抗出土遺物9(58土~65土)	79	第84図	石製品	105
第59図	土抗出土遺物10・遺構外出土遺物	80	第85図	石器・礫平面分布図	106
第60図	遺構外出土遺物・外構C区出土遺物	81	第86図	暦年較正結果	126
第61図	調査区一括出土遺物	82	第87図	FT-IR スペクトル	128
第62図	土製品(土偶・ミニチュア土器)	83	第88図	測定結果と食材の比較	130
第63図	土製品(土製円盤・獣面把手)	84	第89図	炭化物顕微鏡写真	133
第64図	土製品(その他)	85	第90図	酒呑場遺跡の集落変遷	135
第65図	石器1(石鏃)	86	第91図	酒呑場遺跡台地南部域の土坑分布	136
第66図	石器2(石鏃)	87	第92図	石囲炉の諸例	137
			第93図	56号土坑出土遺物に表現される“数の認識”	139
			第94図	酒呑場遺跡の屋内土器埋設遺構	140

表 目 次

第1表	酒呑場遺跡周辺遺跡一覧表	8	第6表	放射性炭素年代測定結果	126
第2表	土坑一覧表	48	第7表	樹種同定結果	126
第3表	出土遺物一覧表(土器)	107	第8表	安定同位体分析結果	129
第4表	出土遺物一覧表(土偶・土製品)	120	第9表	土壌化学分析結果	131
第5表	出土遺物一覧表(石器・石製品)	121			

第1章 調査の経緯と経過

第1節 調査に至る経緯

酒呑場遺跡は八ヶ岳南麓に位置する我が県を代表する縄文時代の集落遺跡で、過去に1～4次の発掘調査が実施されている。この度、畜産酪農技術センター長坂支所の施設等整備事業に伴い、第5次となる発掘調査が実施されることとなった。

山梨県教育庁学術文化財課では、平成28年10月と平成29年1月および3月に、事業主体である農政部農業技術課と協議を実施し、平成29年度中に発掘調査を実施することで調整をおこなった。事業は国庫補助金による緊急的な開発であったため、開発予定地点はこれまでの調査地点から推定される遺構の分布域と判断された。なお、建物基礎工事および電気配管・上下水道配管の埋設工事については、いずれも掘削深度が想定される遺構面の深度よりも深くなることが推測されたことから、検出遺構については原則として記録保存を目的とすることが協議された。

平成29年度からは、事業主体が農業技術課から畜産課へ変更となり、平成29年4月11日に学術文化財課、埋蔵文化財センター、畜産課、畜産酪農技術センター長坂支所職員の間で現地協議を実施、発掘調査における留意点等を確認した。同年4月14日、5月8日には県土整備部営繕課を加えて協議を行い、研究棟本体以外の外構工事地点に係わる調査を含めて、留意点等を相互に確認し、調整をすすめた。5月8日に事業課立会のもと現地の墨出しを行った後、5月9日から発掘調査を開始した。

なお、今回の埋蔵文化財調査に係わる法的手続き等は以下のとおりである。

- ・平成29年3月3日 文化財保護法第94条第1項に基づく埋蔵文化財発掘の通知が山梨県知事から山梨県教育委員会教育長宛に提出される（農技第2939号「埋蔵文化財発掘の通知について」）。
- ・平成29年3月13日 文化財保護法第94条第1項に基づく埋蔵文化財発掘の通知についての返答が、山梨県教育委員会教育長から山梨県知事宛に提出される（教学文第3251号「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について」）。
- ・平成29年4月3日 畜産酪農技術センター長坂支所施設等整備事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査に関する覚書を山梨県農政部畜産課と山梨県教育委員会学術文化財課とで交換。
- ・平成29年5月10日 文化財保護法第99条第1項に基づく埋蔵文化財発掘調査着手の報告を山梨県教育委員会教育長へ提出（教埋文第59号「埋蔵文化財発掘調査の実施について」）。
- ・平成29年9月28日 文化財保護法第100条第2項の規定により埋蔵文化財発見の通知を山梨県教育委員会教育長へ提出（教埋文第495号「埋蔵文化財の発見について」）。
- ・平成29年12月21日 追加調査で出土した埋蔵文化財について、文化財保護法第100条第2項の規定により埋蔵文化財発見の通知を山梨県教育委員会教育長へ提出（教埋文第586号「埋蔵文化財の発見について」）。
- ・平成30年4月16日 畜産酪農技術センター長坂支所施設等整備事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査に関する覚書（本格的な整理作業、報告書作成・刊行）を山梨県農政部畜産課と山梨県教育委員会学術文化財課とで交換。

第2節 調査の目的と課題

酒呑場遺跡は、中部高地における代表的な縄文時代前期～中期の集落遺跡とされ、出土した遺物のうち土器・土製品463点と、石器・石製品220点の計683点は2013年度に国の重要文化財として指定されている。集落遺跡としては、計6,200㎡が発掘されたC区（第2次調査）やI区（第3次調査）では、縄文時代中期初頭から中葉にかけての環状集落の存在が明らかとなり、大規模な集落を形成する点でもたびたび議論にあがる。このように酒呑場遺跡はこれまで行われてきた4次の発掘調査によって、集落構成や出土遺物の価値が評価され、県あるいは国レベルでの縄文時代の代表的な遺跡となっている。発掘調査された遺構・遺物の記録を正確に記録保存し、地域に還元し将来へつなげることが第一の目的である。

さて、今回の発掘調査地点は、先述の縄文時代中期初頭～中葉の環状集落域中心部から南に約120m離れた位置に所

在する。これはむしろ、縄文時代前期後半、中期後葉の遺構が主体的に発見された第1次調査のA区やB区に近く、B区から西に約70m離れた地点である。このことから、調査着手前より、調査地点からは縄文時代中期初頭～中葉の遺物よりも、前期後半あるいは中期後葉の遺構・遺物の発見が見込まれた。

縄文時代前期後半及び中期後葉の遺構・遺物については、A区やB区、I区の東南側にほぼ限定的に分布するが、調査面積の制約もあるため、その集落分布の範囲については限定的な解釈に留まっていた。発掘調査を開始すると、想定されたとおり前期後半、中期後葉を中心とした遺構群が見つかった。これにより、中期初頭～中葉の環状集落の南側には、前期後半と中期後葉の2時期の大規模な集落が広がることが確定し、当該集落域の機能、細別した土器型式による集落変遷など、集落構造を解釈するための課題が挙げられるようになった。また、中期後葉の竪穴住居跡から、良好な状態で地中に埋没していた石囲炉や、土器埋設遺構などがみつき、これらの構造・機能について、測量および化学分析を用いた科学的な手法による解明を目指した。

第3節 発掘調査の経過

調査の計画については山梨県埋蔵文化財センター調査研究課が主体となり、熊谷・浅川が担当し調査計画案を作成した。発掘調査区は、研究施設の建設予定地点である本体部分約400㎡のほか、外構工事に係わる地点も本調査の対象とした。外構工事の施工位置と工法については、調査着手直前の5月8日の協議において決定したため、調査期間中の7月13日に学術文化財課と畜産酪農技術センター長坂支所とで打ち合わせを行い、外構工事地点の調査期間について再度調整を行った。外構工事地点については、外構B区～外構E区までを設定した。

発掘調査は平成29年5月9日より着手した。5月9日～12日、15日の5日間で、オペ付バックホウによるトレンチ確認調査を伴う表土剥ぎを実施した。トレンチは調査区内2箇所に設定し、遺物包含層および遺構確認面を観察した後に全面的な表土剥ぎを行った。なお、調査区脇には排土を十分に置く場所がなく、オペ付ダンプにより場内の保管場所へ土砂を運搬・整地した。5月15日からは発掘作業員を8名雇用し、随時遺構の検出及び精査を実施した。5月16日は4級基準点測量及びグリッド杭打設を、株式会社テクノプランニングに業務委託し実施している。調査時における排土の運搬、整地を目的として、6月5日よりミニバックホウとクローラダンプ等を借用した。また、発掘作業員は5月24日より1名、6月26日より3名を増員している。なお、荒天により現場の調査が不可能な場合は、現場プレハブにおいて土器の洗浄を実施しながら、天候が回復するまで待機した。

遺構の調査は西側から実施していき、検出された順に遺構の番号を付し、竪穴住居跡および遺物の出土量が多い土坑を優先しながら精査していった。7月26日、5号住居跡のピット精査中に、逆位埋設した大型深鉢を発見する。8月4日、5号住居跡の建て替えた柱穴の相関関係について、ピットの深さや位置からa～cを想定した。7号住居跡は遺物の出土量が多く、8月23日には遺物集中としてブロックごとに写真測量用の遺物出土状況を撮影した。調査区東端にある56号土坑は9月6日から調査を開始し、ほぼ完形の3個体の深鉢が出土した。

外構工事地点については、職員・家畜の通路として使用している地点もあることから、7月13日の打ち合わせ後、畜産酪農技術センター長坂支所と調整をし、8月9日～8月24日まで外構E区（給水管埋設地点）、8月9日～9月22日まで外構D区（電話線埋設地点）、8月17日～9月22日まで外構B区（電気配管地点西側）、8月24日～8月30日まで外構C区（電気配管地点東側）の調査を実施した。0.15㎡クラスのバックホウを8月9日、17日、24日の計3日間貸借し、外構工事地点の表土剥ぎ、埋め戻しをおこなった。外構工事地点については、狭小な調査区ながらも、住居跡や土坑などの遺構が確認出来たため、本調査区と同様に遺構を精査し記録をとった。

9月8日はシン技術コンサルに空中写真撮影を委託した。9月11日～14日まで、石囲炉掘りかたや埋設土器、外構B区地点などの調査を実施し、9月14日に作業員雇用を終了した。9月15日に作業員休憩棟・トイレなどの設備を撤収し、9月20日～22日にオペ付バックホウ及びオペ付ダンプにより土砂の運搬と整地を行い、調査区を埋め戻した。なお、調査区壁に一部が突出していた土器について、9月20日に取り上げようとしたところ、水煙文土器である事が判明したため、急遽一部を50cm×50cmの範囲で拡大し、土器の平面図および縦断面図を作成した。

本調査終了後、追加調査として、外構工事地点の立会調査を数回実施した。これは、県内遺跡分布調査事業とは区別し、あくまで当事業の一環として位置づけ、物品の借り上げを行い調査している。給水管埋設地点（外構E区）におけ

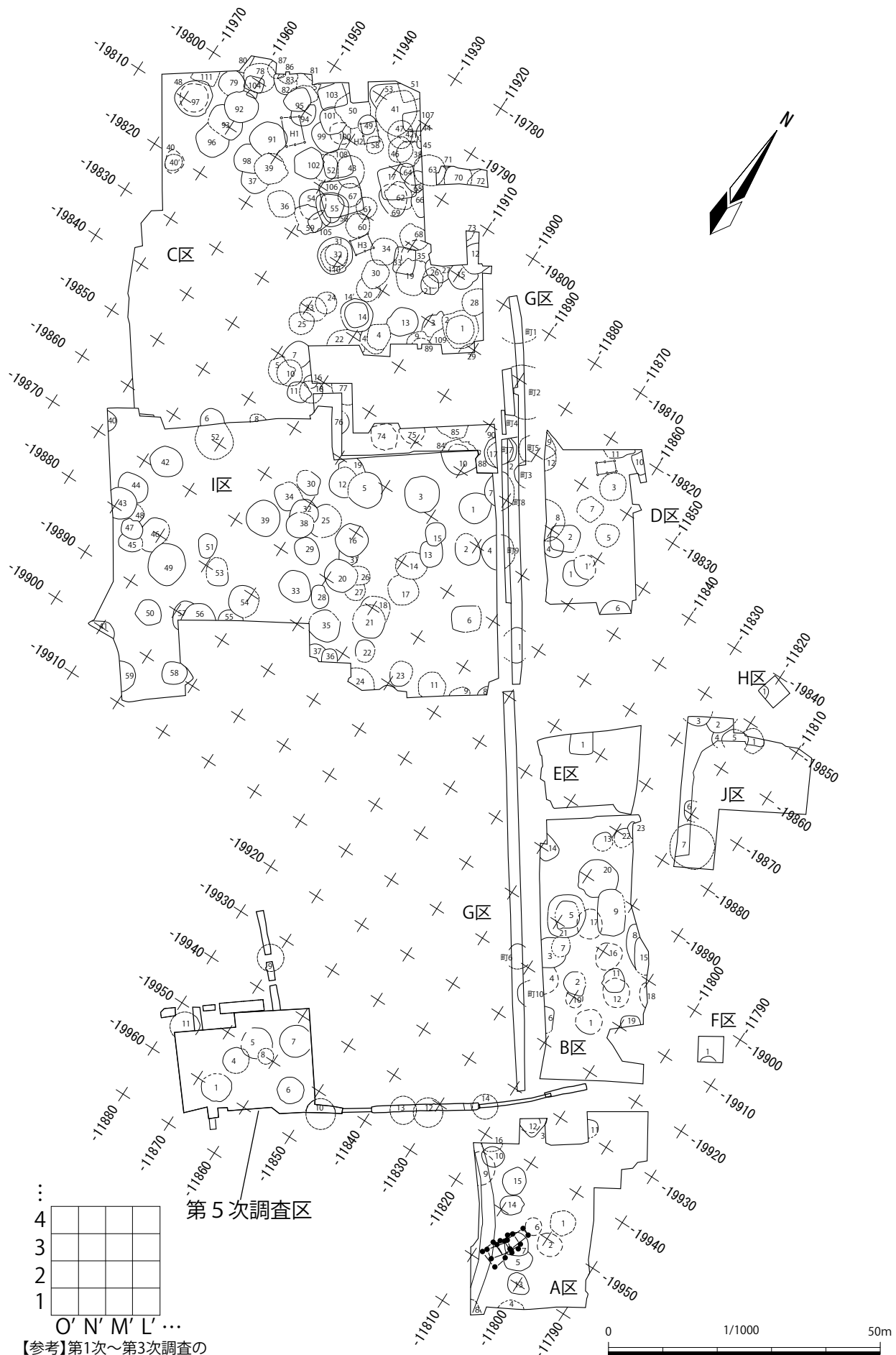
る立会調査は10月17日、18日に実施、発掘調査では調査できなかったマンホール周辺の切り回し部分で新規掘削範囲が僅かに拡大したが、大きな影響は認められない。10月24日には本調査区の北側にあるケヤキの抜根作業の立会調査を実施、ケヤキは全5本で、範囲は約20㎡。ケヤキは巨木が多く、引き抜きではなく幹の周囲を掘り下げて太い根を切断した後にバックホウバケットで抜根し、その際遺物包含層に相当する層から遺物の出土があった。電気配管埋設地点（外構B区）については、施設内道路のため本調査できなかった2地点において、11月29日、12月1日に立会調査を実施した。外構B区と外構C区の間地点では、遺構の覆土と思われる黒褐色土のプランが検出されたため、精査をしたところ遺物とピット状の遺構が確認された。よって、本調査地点から連続する番号で14号住居跡として記録をとった。下水道管理設地点については、12月20日に2㎡程度立会を行ったが、遺構・遺物は確認されなかった。

12月20日の追加調査をもって、当初予定していた範囲は一度調査を終了した。しかし、平成30年1月17日に段差解消を目的とした最大30cmの掘削を伴う整地を実施したい旨の連絡を受け、2月6日に現地において営繕課等と協議を実施した。協議の結果、保護層30cm以上を確保することを前提として、立会調査で対応することとし、3月2日に施工された。立会調査の結果、表土の掘削に留まり、埋蔵文化財への影響はなしとした。

発掘調査に伴って、考古博物館・埋蔵文化財センターの職場体験で平成29年7月6日に中学生2名を受け入れ発掘調査体験を行った。7月8日土曜日には発掘体験セミナーを実施し、一般参加者36名が発掘調査を体験した。9月9日土曜日には遺跡見学会を実施し、参加は定員制として、計25名に遺跡の調査状況や出土遺物について説明を行った。また、埋蔵文化財センターHPには、酒呑場遺跡の発掘調査状況や整理作業状況を計6回に渡って更新をおこなっている。平成30年3月10日に、2017年度下半期遺跡調査発表会において一般参加者約100名の前で報告を行い、遺物の一部については「山梨の遺跡発掘展2018」において展示を行った。

第4節 室内作業等の経過

今回の発掘調査において出土した遺物は、プラスチック収納箱にして75箱と、プラスチック箱に入りきらなかった大型の土器および石器数点である。平成29年度の基礎的整理作業では、平成29年10月23日から平成30年3月30日まで、遺物の洗浄・注記・接合作業及び遺構の図面整理・デジタルトレース、写真整理等を実施した。また、出土炭化物や炉石に付着した黒色物質、採取した土壌の理化学分析をバリノ・サーヴェイ株式会社に委託している。平成30年度は、平成30年4月16日に畜産酪農技術センター長坂支所施設等整備事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査に関する覚書が交わされ、平成30年5月28日より、遺物の実測・拓本、実測図のデジタルトレース、遺物の写真撮影、報告書図版の作成などの本格的整理作業を実施し、平成31年3月15日に発掘調査報告書を刊行した。



第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

酒呑場遺跡は山梨県北西部、北杜市長坂町長坂上条に位置し、地形的には当地は第四紀火山である八ヶ岳の南麓にあたる。遺跡とその周辺の地形は、小丘状の高所と幅の広い谷が入り組み、大きく緩やかに起伏した形状を呈する。この地形は約20万年前に八ヶ岳の山体崩壊によって流下した葦崎岩屑流の堆積面が侵食されたものであり、南方の七里岩台地へと連続する。

酒呑場遺跡の指定範囲は、畜産酪農技術センター長坂支所から山梨県立農業大学校に広がる小高い平坦面の頂部からその北・東・南の幅の広い谷底部までである。標高は、平坦面の頂部で710m、谷底は北部では700m、南部では680mである。遺跡の西縁は大深沢川左岸の急崖となっており、遺跡と大深沢川河床との比高は約60mである。なお、埋蔵文化財センターによる酒呑場遺跡の発掘調査は今回を含めて5回実施されているが、調査位置はいずれも畜産酪農技術センター長坂支所の敷地内の平坦面部分である。

次に、周辺地域の調査に基づき表層地質について記す。地表から1m前後は降下テフラを起源とする腐植土や耕作土といった表土であり、一部には盛り土が施されていた。表土の下は5m前後の降下テフラである。テフラの最下層は茶褐色を呈する古期ローム層で、その上位にPm-I（御岳第一軽石：約10万年前降下）が認められた。Pm-Iの層厚は最大約1.5mで下部は白色に変色している。降下テフラの下位は葦崎岩屑流堆積物である。葦崎岩屑流は大深沢川河床でも確認できることから、その層厚は崖の比高である60m以上となる。

第2節 歴史的環境

酒呑場遺跡が位置する北杜市は、八ヶ岳南麓と茅ヶ岳西麓地域に、縄文時代や古代・中世の遺跡が濃密に分布する。本節では八ヶ岳南麓と茅ヶ岳西麓周辺において、本遺跡で遺構・遺物が多く確認できる縄文時代の遺跡を中心に概要を述べる。

本地域において縄文時代草創期～早期の遺跡は、前期・中期に比べ遺跡数が少ない。押取遺跡や中込遺跡、丘の公園内遺跡群が代表的な遺跡として挙げられる。

大規模な集落は、縄文時代前期から出現し、本遺跡においても遺物・遺構が確認できる。前期を代表する遺跡として、天神遺跡（28・30）がある（新津・米田1994）。前期に該当する住居跡は49軒あり、これらの住居跡は環状集落の形状を示し、集落の中心には墓坑が密集している。

縄文時代中期は本地域において遺跡数が最も多い。本遺跡周辺では、上条宮久保遺跡（170、村松2005）、段道遺跡（198、長谷川2004）、大深沢川対岸の清春白樺美術館南遺跡（138、村松2003）で、中期後半の小規模な集落跡が見つかっている。旧長坂町内にある原町農業高校前遺跡は、縄文時代中期の住居跡が103軒検出されており、中期中葉から後期初頭にかけての大規模集落として知られる。同じく旧長坂町内の柳坪A遺跡・同B遺跡（102・104、米田1986）・同北遺跡（103、櫛原2002）、頭無遺跡（189、山梨県教育委員会1975）、頭無A遺跡（196、村松2008）でも、曾利式期の集落が調査されている。北杜市域に広げると、甲ッ原遺跡は83軒の住居が中期に存在し、岩手県産の琥珀で製作されたと考えられる垂飾が出土しており、東北地方とのかかわりが伺える。諏訪原遺跡は住居跡が100軒以上検出された環状集落である。梅之木遺跡は約150軒の住居跡から成る環状集落であり、縄文時代の道状遺構と水場遺構が検出され、平成26年には国の史跡に指定された。縄文時代の生活空間が明確に残っている貴重な遺跡である。また、同時期の甲府盆地では釈迦堂遺跡や、一の沢遺跡が大規模な集落遺跡として知られる。

縄文時代後・晩期になると遺跡数が減少するが、酒呑場遺跡の南東約400mに位置する長坂上条遺跡（167）が学史的に著名である。1940年に史前学研究所の大山柏氏を中心に調査が行われ（大山・竹下・井出1941）、後・晩期の加曾利B式や佐野式等の土器や配石遺構等が確認されている。また、昭和58年に史跡指定された金生遺跡（75）も後・晩期を代表する遺跡である（新津1989）。後・晩期にあたる住居跡は42軒確認された。立石が伴う配石遺構が確認され、石棒や耳飾り等の祭祀遺物が出土していることから、祭祀性のある集落遺跡として理解されている。

弥生時代には、頭無A遺跡において、弥生時代後期の方形周溝墓群が見つまっている(村松2008)ほか、長坂上条遺跡から弥生中期の土器が確認されている。古墳時代では、宮尾根C遺跡(211)や柳坪遺跡(102・104)等で住居跡が確認されるが(佐野2009、米田1986)、縄文時代の遺跡に比べ遺跡数は少なくなる。平安時代から北杜市周辺で再び遺跡数が増加する。柳坪遺跡や金生遺跡、梅之木遺跡などで平安時代の住居跡が確認される。規模の大きい遺跡としては寺所遺跡(82)が知られ、これまで3次に渡って調査が実施されており、竪穴住居跡71軒・掘立建物跡55棟が確認されている(佐野2018、新津・八巻1987)。

城館跡には、国指定史跡である谷戸城跡(36)や深草館址(76)などがある。平安時代以降では、北杜市周辺に城館跡・集落跡が多く認められ、土地開発が活発に行われていた。

参考文献

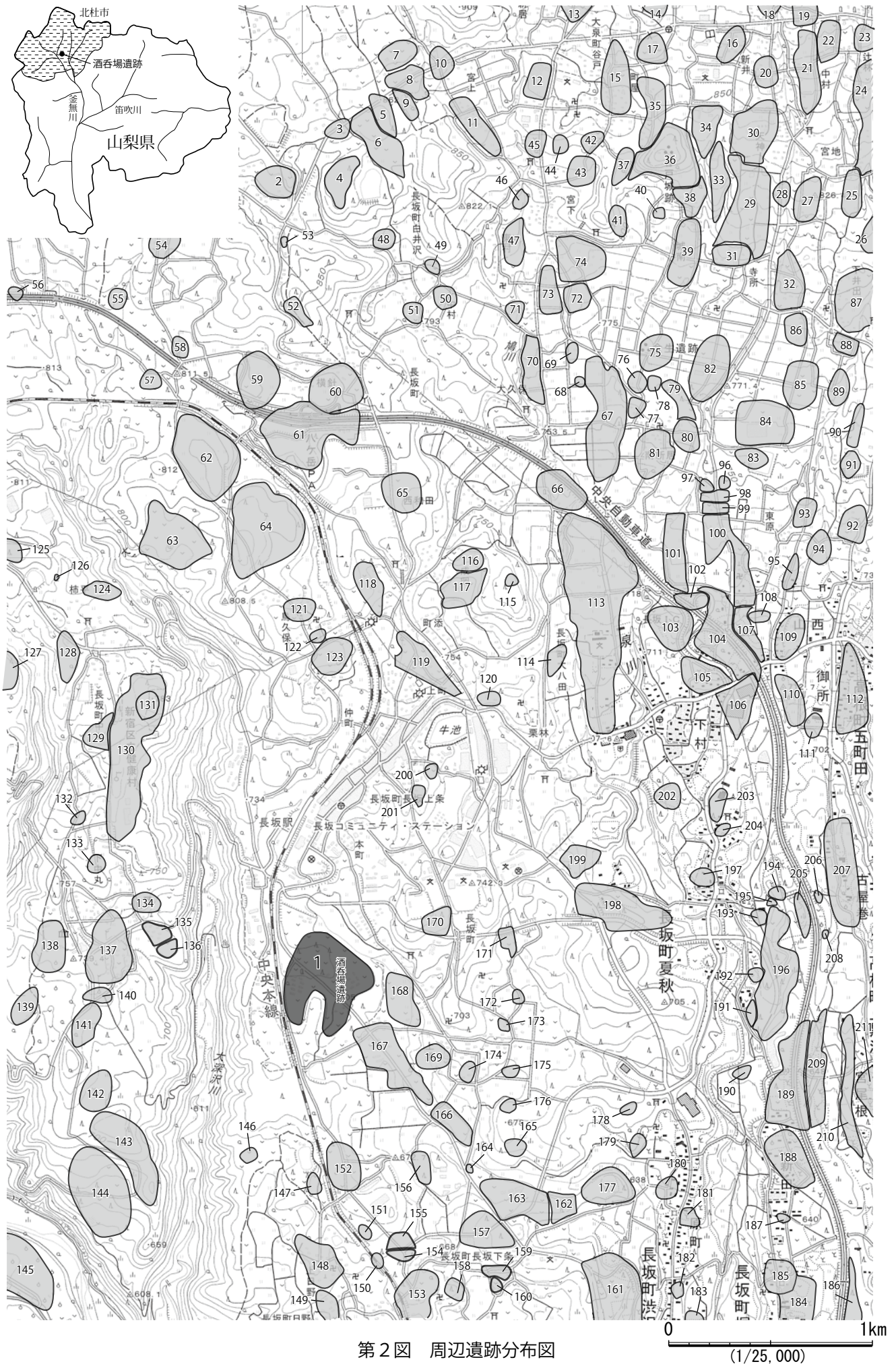
- 大山 柏・竹下次作・井出佐重1941「山梨県日野春村長坂上条発掘調査報告」『史前学雑誌』13-3 史前学会
榎原功一2002『柳坪北遺跡』柳坪北遺跡発掘調査会
小宮山隆1997『長坂上条遺跡』長坂町教育委員会
佐野 隆2002『梅之木遺跡Ⅰ』明野村教育委員会
佐野 隆2008『梅之木遺跡Ⅶ』北杜市教育委員会
佐野 隆2009『宮尾根C遺跡』北杜市教育委員会
佐野 隆2014『諏訪原遺跡・屋代氏館跡』北杜市教育委員会
佐野 隆2018『寺所遺跡』北杜市教育委員会
新津 健1989『金生遺跡Ⅱ(縄文時代編)』山梨県教育委員会
新津 健・八巻与志夫1987『寺所遺跡』山梨県教育委員会
新津 健・米田明訓1994『天神遺跡』山梨県教育委員会
長谷川誠2004『段道遺跡』
保坂康夫1986『八ヶ岳東南麓遺跡分布調査報告書』山梨県教育委員会
村松佳幸2008『清春白樺美術館南遺跡』長坂町教育委員会
村松佳幸2005『上条宮久保遺跡』北杜市教育委員会
村松佳幸2008『頭無A遺跡』北杜市教育委員会
米田明訓1986『柳坪遺跡』山梨県教育委員会
山梨県1998『山梨県史 資料編1 原始・古代1』
山梨県教育委員会1975『山梨県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書—北巨摩郡長坂・明野・韮崎地内—』
山本茂樹・野代幸和1994『甲ッ原遺跡(第5次)Ⅰ』山梨県教育委員会
山本茂樹1996『甲ッ原遺跡Ⅱ(第3次・第4次調査)』山梨県教育委員会
山本茂樹1997『甲ッ原遺跡Ⅲ(第2次・第3次調査)』山梨県教育委員会
山本茂樹1998『甲ッ原遺跡Ⅳ(第1次・2次・3次・6次・7次調査)』山梨県教育委員会

第3節 遺跡の概要と研究略史

酒呑場遺跡はこれまで数回に渡り発掘調査が実施されている。さらに、埋蔵文化財センターの調査で検出された遺構・出土遺物は膨大な量があり、追補的に研究論文が発表されている。本節ではこれまでの調査履歴や研究事例についてまとめる。

酒呑場遺跡は、1931(昭和6)年『史跡名勝天然記念物調査報』第5輯に、「長坂上条字酒呑場」に位置する遺跡として発見遺物が写真等により報告されている。1940(昭和15)年、大山史前学研究所の大山柏を筆頭に、地元出身の井出佐重らによって「長坂上条遺跡」が発掘調査された。この調査は山梨県内初とされる学術的な発掘調査であり、学史的にも重要な位置を占める。長坂上条遺跡からは縄文時代後期・晩期を中心とした出土遺物、配石遺構と考えられる「石塊群」という遺構が見つまっている。

酒呑場遺跡の発掘調査は、旧酪農試験場の増・改築工事に伴って実施されている。1993(平成5)年度に試掘調査、1994(平成6)年度に第1次調査(A区・B区)、1995(平成7)年度に第2次調査(C区～H区)、1996(平成8)年度に第3次調査(I区)を実施し、竪穴住居跡や土坑が重複しながら検出され、縄文時代前期～中期を中心とした大量の遺物が出土した。2001(平成13)年度には尿尿発酵施設の建築に伴って第4次調査(J区)を実施してい



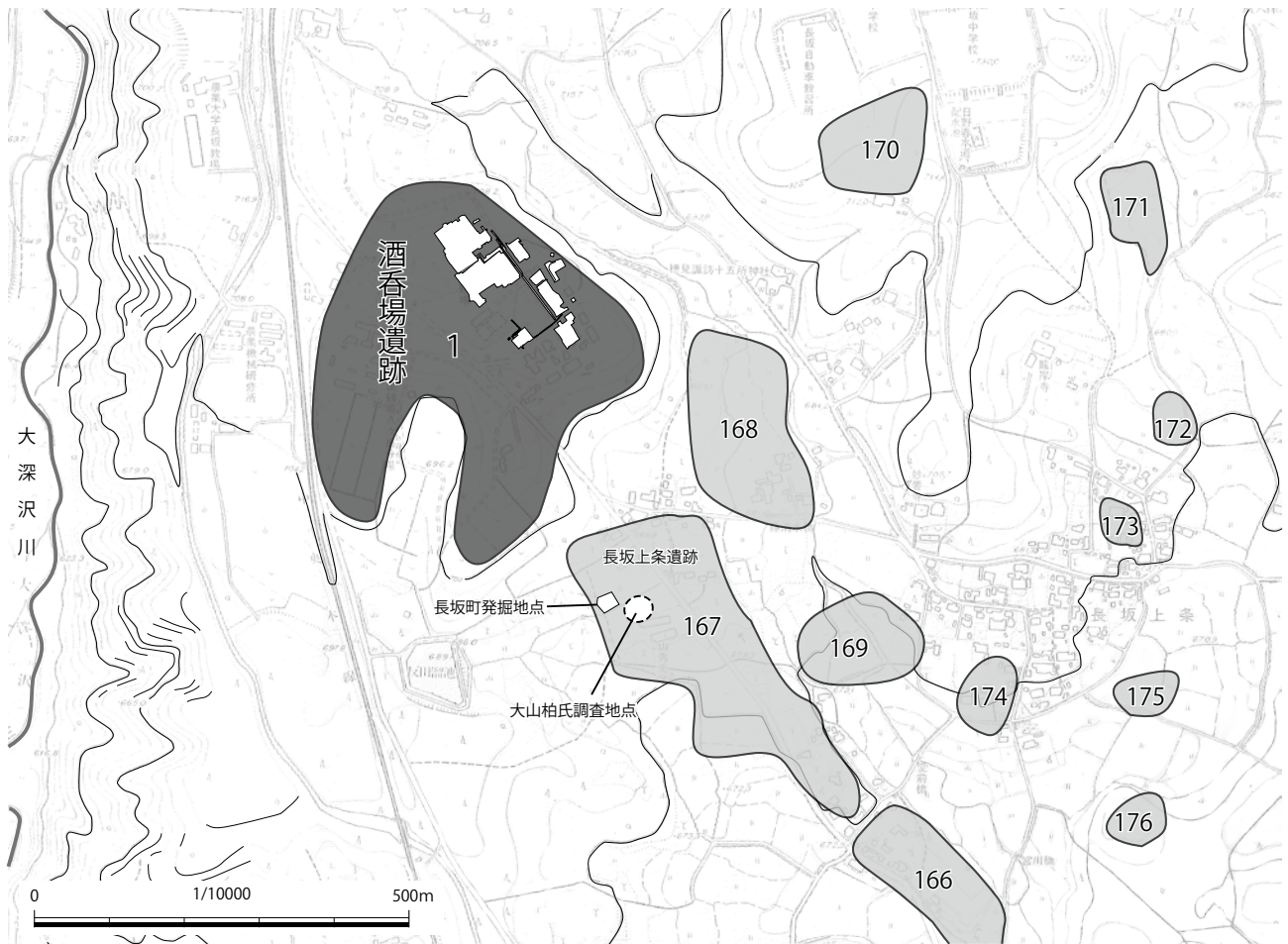
第2図 周辺遺跡分布図

第1表 酒呑場遺跡周辺 遺跡一覧表

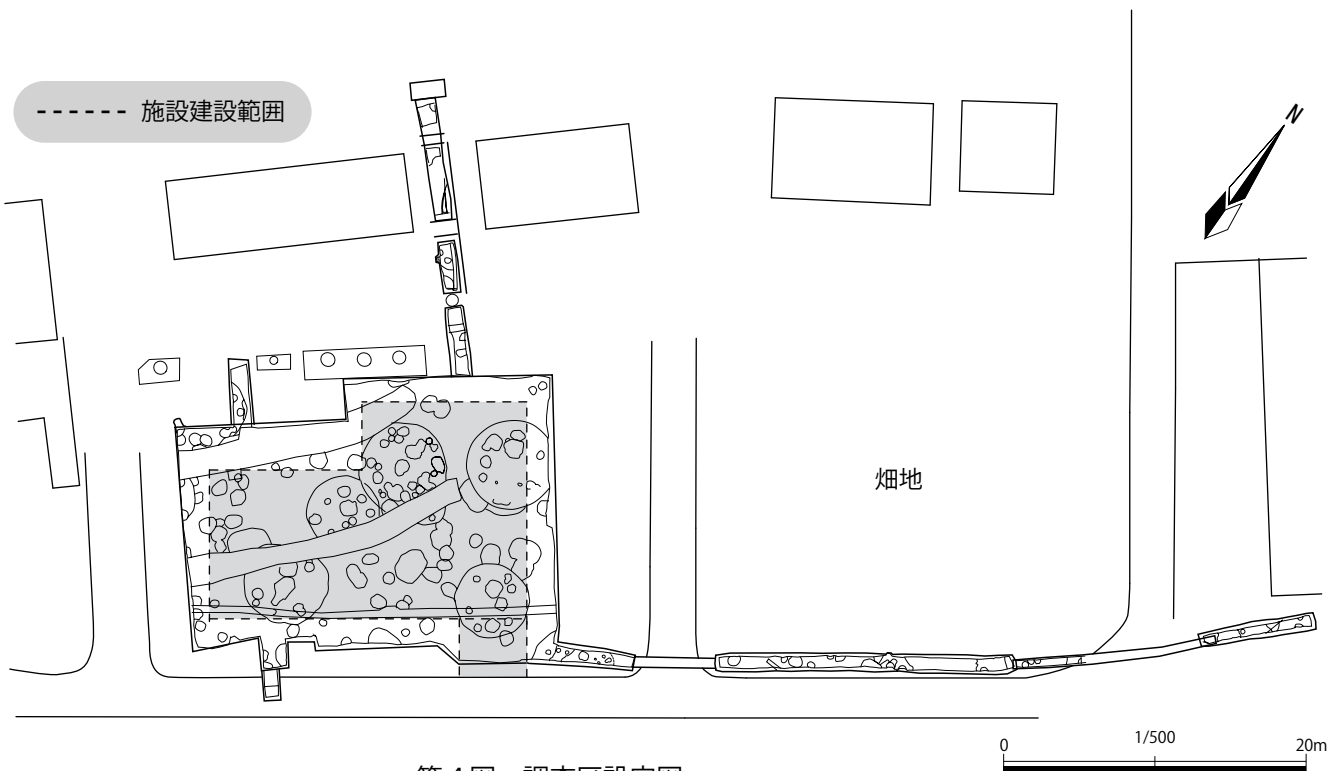
番号	遺跡名	時期
1	酒呑場遺跡	縄・古
2	沢入遺跡(菅沼氏屋敷)	縄
3	字干平遺跡	縄・中
4	字干平の土塁	中
5	牛久保遺跡	縄・弥
6	牛久保南遺跡	縄
7	糶屋敷北遺跡	縄
8	糶屋敷東遺跡	縄
9	糶屋敷遺跡	縄・近
10	大芦遺跡	縄
11	吉指遺跡	縄・平
12	西田第2遺跡	縄・中
13	下新居遺跡	縄・平・中
14	方城第2遺跡	縄
15	町屋第2遺跡	縄・平・中
16	城上第2遺跡	縄
17	城上第3遺跡	縄・平
18	姥神遺跡	縄・弥
19	東姥神遺跡	縄・平・中
20	新井遺跡	縄・平
21	新井第2遺跡	縄・弥・平
22	中村遺跡	縄・中・近
23	中村第2遺跡	縄・中
24	宮地第1遺跡	縄・平・中
25	宮地第2遺跡	縄・平・近
26	宮地第3遺跡	縄・平・中
27	宮地第4遺跡	縄・平・中
28	天神遺跡(A・B地区)	縄・平
29	寺所第2遺跡	縄・平
30	天神(C地区)	縄・平
31	寺所壘跡	中
32	清水遺跡	縄・平・中
33	山崎第4遺跡	縄
34	城上第1遺跡	縄・平・中
35	町屋第1遺跡	縄・中
36	谷戸城跡	中
37	御所遺跡	縄・中
38	城下第2遺跡	縄・平・中
39	城下遺跡	縄・平・中
40	城下壘跡	中
41	前林山十三塚遺跡	中
42	御所第2遺跡	縄・中
43	御所第3遺跡	中
44	谷戸氏館跡	中
45	西田遺跡	縄・中
46	油川第1遺跡	縄
47	屋敷附遺跡	縄・中
48	横手遺跡	縄・中
49	十郎林遺跡	縄・中
50	阿原遺跡	平
51	中屋根遺跡	縄
52	横針宮久保遺跡	縄・平
53	横針・宮久保遺跡	縄・平
54	東下屋敷遺跡	縄
55	葛原遺跡	縄・弥
56	下フノリ平遺跡	縄・中
57	西下屋敷南遺跡	縄
58	新田森遺跡	縄
59	横針中山遺跡	弥・古
60	横針前久保遺跡	旧・縄
61	米山遺跡	縄・近
62	越中久保遺跡	縄・平・中・近
63	竹原遺跡	縄・中・近
64	久保遺跡	縄
65	米山東遺跡	縄
66	小和田館址	縄・平・中
67	小和田遺跡	縄・平・中
68	別当十三塚	中・近
69	別当遺跡	縄・中
70	別当西遺跡	縄
71	内城遺跡	縄・中

番号	遺跡名	時期
72	豆生田第1遺跡	縄・平・中
73	豆生田第2遺跡	縄・平
74	豆生田第3遺跡	縄・平・中
75	金生遺跡	縄・平・中
76	深草館址	中
77	深草遺跡	平
78	南新居北遺跡	縄・平・中
79	南新居屋敷跡	平・中
80	南新居遺跡	平
81	南新居西遺跡	縄・平・中・近
82	寺所遺跡	縄・平
83	塚田遺跡	古・平
84	木ノ下・大坪遺跡	平
85	原田遺跡	縄・平・中
86	原田第2遺跡	平
87	下井手遺跡	縄・中
88	下井手壘跡	中
89	甲ツ遺跡	縄・弥・中
90	和田第2遺跡	縄
91	土蜂地A遺跡	平
92	土蜂地B遺跡	平・近
93	渋田北遺跡	平
94	竹の内遺跡	平・中
95	渋田遺跡	弥・平・中
96	東原遺跡	中・近
97	東原の土塁跡	中
98	弥右衛門塚1	中・近
99	弥右衛門塚2	中・近
100	窪田遺跡	縄・古・奈・平
101	柳新居遺跡	縄・古・奈・平
102	柳坪A遺跡	縄・弥・古・平
103	柳坪北遺跡	縄・弥・平
104	柳坪B遺跡	縄・弥・古・平
105	柳坪南遺跡	平
106	石原田北遺跡	縄・平
107	境原遺跡	弥・平
108	馬越場遺跡	
109	神明遺跡	平・中・近
110	柳田B遺跡	縄・平・近
111	柳田A遺跡	平
112	御所遺跡	縄・平
113	小屋敷遺跡	平
114	久保地遺跡	縄
115	成岡・藤塚	縄・平
116	成岡遺跡	縄・弥・平
117	成岡新田遺跡	弥・平
118	房屋敷遺跡	縄
119	大林遺跡	縄・近
120	曲田遺跡	平
121	下烏久保遺跡	縄
122	烏久保遺跡	縄・近
123	高松遺跡	縄
124	和手山東遺跡(砦)	中
125	池の平遺跡	縄
126	天白砦址	中
127	東蕪4遺跡	縄・平
128	小尾平遺跡	旧・縄
129	間原遺跡	縄
130	健康村遺跡	縄・平
131	柿平・藤塚	
132	和手遺跡	縄・平
133	腰巻遺跡	縄
134	城山上北遺跡	縄・平
135	城山上遺跡	縄
136	中丸砦址	戦
137	居久保遺跡	縄・平
138	清春白樺美術館南遺跡	縄・中
139	祭の神2遺跡	縄・平・中
140	細久保遺跡	縄
141	祭の神1遺跡	縄・平
142	中原遺跡	縄・平

番号	遺跡名	時期
143	深沢砦跡	中
144	押野遺跡	縄・弥・平・中
145	屋敷平遺跡	縄・弥・平・中・近
146	池之平北遺跡	縄・平
147	池平昭和堤北遺跡	縄
148	池之平A遺跡	縄・平
149	向井丹下屋敷址	中
150	西久保遺跡	縄
151	北村北遺跡	縄・弥・平・近
152	反田遺跡	縄・平・中
153	新居遺跡	縄
154	三井氏屋敷址	中
155	北村遺跡	縄・弥・古・中
156	北村東遺跡	縄・古
157	紺屋遺跡	縄・平
158	植松氏屋敷址	中
159	相吉氏屋敷址	中
160	相吉遺跡	平
161	山本遺跡	縄
162	龍角遺跡	古・平
163	龍角西遺跡	縄・古・平
164	長坂下条・藤塚	
165	和田遺跡	弥・古・平
166	長坂上条・藤塚	古・平
167	長坂上条遺跡	縄・平
168	酒呑場東遺跡	縄・弥・平
169	中反遺跡	縄・平・近
170	上条宮久保遺跡	縄・平・近
171	蜂塚遺跡	縄・古・平
172	東村A遺跡	縄・平
173	東村B遺跡	古・奈・平
174	西村遺跡	古・奈・平
175	錨田遺跡	平
176	長坂氏屋敷	古・平・中
177	西屋敷遺跡	古
178	大久保遺跡	縄・中
179	寺前遺跡	縄
180	渋沢・上町遺跡	縄・奈
181	原町北遺跡	平・中
182	原町遺跡	平・近
183	上久通北遺跡	縄・平
184	下村遺跡	縄・平・中
185	塚川の土塁	中
186	塚川十三塚群	縄
187	塚之越遺跡	中
188	新田遺跡	縄
189	頭無(二本木)遺跡	縄・古
190	古屋敷遺跡	縄
191	塚川・柳坪遺跡	縄・近
192	檜木遺跡	弥・古・平
193	大々神B遺跡	古・平
194	大々神A遺跡	平
195	大々神十三塚	中
196	頭無A遺跡	平
197	上ノ屋敷遺跡	縄・平
198	段道遺跡	縄
199	池之窪遺跡	縄・平
200	上町遺跡	縄・平
201	上町南遺跡	縄
202	塚原遺跡	縄・平・中・近
203	石原田南遺跡	縄・平
204	白山神社前遺跡	平
205	治郎田遺跡	古・奈・平
206	治郎田北遺跡	縄
207	沢田遺跡	平・中
208	天王塚古墳	古
209	西久保遺跡	縄
210	宮尾根B遺跡	縄・平
211	宮尾根C遺跡	縄・弥・平・近



第3図 遺跡詳細分布図 (1/10,000)



第4図 調査区設定図
(工事用図面をトレースし合成)

る。一方、旧長坂町教育委員会では、旧長坂町環境課の下水道敷設事業に伴って1995年度に発掘調査を実施している（町G区：埋蔵文化財センター第2次調査G区に隣接する）ほか、1996年度には宅地造成に伴って「長坂上条遺跡」の発掘調査が実施されている。埋蔵文化財センターにおける試掘・立会調査では、2006（平成18）年度、2010（平成22）年度に旧酪農試験場内の試掘調査または立会調査、2008（平成20）年度、2010（平成22）年度、2014（平成26）年度に近接地点である農業大学校内での試掘調査を実施している。これらの試掘・立会調査の結果は、埋蔵文化財に影響が無いと判断されており、本調査には発展していない。

第1次調査から第3次調査の発掘調査報告書は、遺構編と遺物編に分けて刊行された。遺物編については山梨県教育委員会の単独事業によって報告書を作成している。まとめると以下の通りである。

<本調査>

- 長坂町教育委員会 1996 『酒呑場遺跡G区』長坂町埋蔵文化財発掘調査報告書第11集
山梨県教育委員会・山梨県農務部 1997 『酒呑場遺跡（第1・2次）遺構編』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第135集
山梨県教育委員会・山梨県農務部 1997 『酒呑場遺跡（第3次）遺構編—前編』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第136集
山梨県教育委員会・山梨県農務部 1998 『酒呑場遺跡（第3次）遺構編—後編』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第169集
山梨県教育委員会・山梨県農政部 2003 『酒呑場遺跡（第4次）』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第209集
山梨県教育委員会 2004 『酒呑場遺跡（第1～3次）遺物編—図版編』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第216集
山梨県教育委員会 2005 『酒呑場遺跡（第1～3次）遺物編—本文編』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第216集

<試掘・立会調査>

- 山梨県教育委員会 2008 『山梨県内分布調査報告書（平成19年1月～12月）』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第257集
山梨県教育委員会 2010 『山梨県内分布調査報告書（平成21年1月～12月）』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第266集
山梨県教育委員会 2011 『山梨県内分布調査報告書（平成22年1月～12月）』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第280集
山梨県教育委員会 2016 『山梨県内分布調査報告書（平成27年1月～12月）』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第309集

このように酒呑場遺跡は周辺地点（「長坂上条遺跡」地点・農業大学校地点）を含め、試掘・発掘調査によって埋蔵物の情報がある程度把握できるようになっている。しかし、遺跡範囲の規模は大きく、未だ馬蹄形状の台地において、未調査地点は多い。また、第1次～第3次調査において検出された遺構・出土した遺物は極めて膨大な量であった。そのため、報告書に掲載できなかった資料については、『研究紀要』で補完的に発表されている。さらに、2008年には中山誠二らによる研究グループにより、酒呑場遺跡出土土器からレプリカ・セム法による植物種子圧痕分析が行われ、当時では最古となる縄文時代中期の栽培ダイズが発見され話題となった（保坂ほか2008）。以下に酒呑場遺跡に係わる論考も含めまとめたい。

<当センター『研究紀要』にて報告した論考>

- 保坂康夫 2006 「縄文時代の剥片剥離手法—酒呑場遺跡出土黒曜石石核の分析から—」『研究紀要』22 pp.27-34 山梨県立考古博物館・山梨県埋蔵文化財センター
野代幸和 2008 「北杜市（旧長坂町）酒呑場遺跡の土坑について—第1～2次調査（A～E区）を中心に—」『研究紀要』24 pp.35-47 山梨県立考古博物館・山梨県埋蔵文化財センター
保坂康夫・野代幸和・長沢宏昌・中山誠二 2008 「山梨県酒呑場遺跡の縄文時代中期の栽培ダイズ *Glycine max*」『研究紀要』24 pp.23-34 山梨県立考古博物館・山梨県埋蔵文化財センター
保坂康夫 2012 「酒呑場遺跡の石皿と石棒」『研究紀要』28 pp.19-28 山梨県立考古博物館・山梨県埋蔵文化財センター
三田村美彦・保坂康夫 2013 「酒呑場遺跡出土の未発表資料について」『研究紀要』29 山梨県立考古博物館・山梨県埋蔵文化財センター
保坂康夫 2015 「打製石斧の石材と形態—山梨県酒呑場遺跡I区の資料分析—」『研究紀要』31 pp.53-60 山梨県立考古博物館・山梨県埋蔵文化財センター

<酒呑場遺跡にまつわる論考（その他学術誌・研究報告）>

- 野代幸和 1996 「山梨県長坂町・長坂上条遺跡と酒呑場遺跡における学史的・学術的意義と関連性について」『考古学論究』第4号 pp.28-36 立正大学考古学会
野代幸和 2001 「酒呑場遺跡の集落変遷」『山梨県考古学協会誌』第12号 pp.33-34 山梨県考古学協会

保坂康夫 2002 「酒呑場遺跡 I 地区における台形土器と機能」『土器から探る縄文社会』2002 年度研究集会資料集 pp.91-96 山梨県考古学協会

村松佳幸 2006 「酒呑場遺跡の集落変遷について」『縄文集落を分析する』2006 年度研究集会資料集 pp.92-97 山梨県考古学協会

中山誠二・長沢宏昌・保坂康夫・野代幸和・櫛原功一・佐野隆 2008 「レプリカ・セム法による圧痕土器の分析（2）—山梨県上ノ原遺跡、酒呑場遺跡、中谷遺跡」『山梨県立博物館研究紀要』2 pp.1-10 山梨県立博物館

中山誠二・長沢宏昌・保坂康夫・野代幸和 2009 「レプリカ・セム法による圧痕土器の分析（3）—山梨県天神遺跡、酒呑場遺跡」『山梨県立博物館研究紀要』3 pp.1-22 山梨県立博物館



調査前状況



調査前状況 2



調査後の施工状況



整理作業状況

第3章 調査の方法と成果

第1節 発掘調査の方法

酒呑場遺跡の第1次～4次調査において、多数の遺構・遺物が発見されていたことから、これらの埋蔵文化財を正確かつ迅速に記録することを目的として調査計画を立案した。一方で、今回の調査地点では事前の試掘調査を実施していないこともあり、遺構の残存状況は不明であった。発掘作業員についてはこのような状況もあり当初8名で開始し、後に増員している。

発掘作業に当たっては、重機により遺物包含層まで掘削した後、調査区に国土座標に基づく三次元座標の基準杭を4点設置し、1辺5m間隔のグリッド杭を打設した。酒呑場遺跡の第1次～第3次調査では、旧酪農試験場の主軸に合わせて任意のグリッドを使用していたが、第4次調査では国土座標を使用している。第1次～第3次調査グリッドについても、2点国土座標値が判明しているため、国土座標値に則った第1次～第5次調査の分布図を作成した(第1図)。本調査地点のグリッド名については東西方向(X軸)にアルファベット大文字で西からA・B・C…、南北方向(Y軸)にアラビア数字で北から1・2・3…の順に記号・番号を与え、その交点(平面図上でグリッドの北西端)にA1のようにグリッド名を付し、4点に囲まれた範囲をA1グリッドのように呼称した。グリッドによる遺構・遺物の管理については原則研究棟建設予定地点のみに適用し、外構工事地点についてはそれぞれ外構B区～E区の名称を付した。

人力による遺跡の精査は、平面プランが確認出来たところで遺構の規模に応じて土層観察ベルトを設定するか半裁する方法で掘り下げていった。土層断面の観察・実測図化・写真撮影を実施したのちは、完掘して写真撮影、平面図の作成を行った。遺物の出土量に応じて、遺物の出土状況写真撮影、平面図・エレベーション図の作成を行ったが、一部の遺物出土状況や遺構平面図については、写真測量によって平面図を作成した。遺構から出土する遺物については、遺構ごとに光波による取り上げ遺物、一括遺物を管理し、竪穴住居跡については、四分法により設定したベルトに応じて“A”～“D”に分け、一括遺物を管理した。遺構外出土遺物については、各グリッドで管理した。

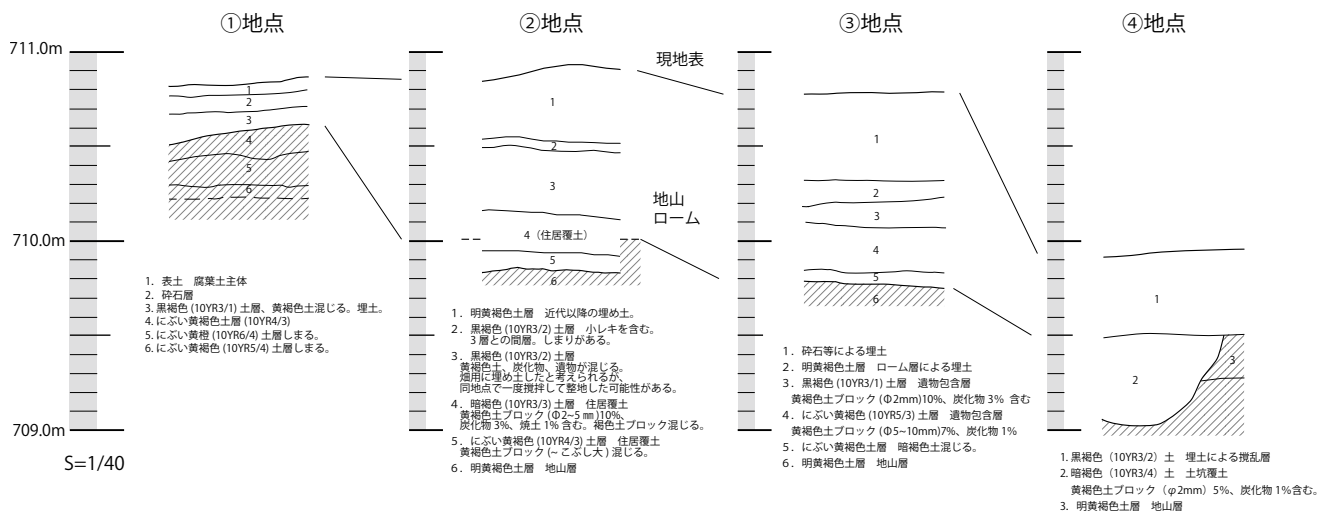
測量については、打設した基準杭を使用して、光波測距儀と遺跡管理システム(『遺構くん』)により遺構平面図の作成および遺物の取り上げを行い、位置情報の記録をとった。なお、遺物の取り上げについては1辺3～5cm以上の土器(P)と、石器あるいは径5cm以上の礫(S)、石鍬サイズ以上の黒曜石(K)として取り上げた。礫と石器の判断は困難である場合があることから、現地ではこれらを分別して管理はしなかった。また、遺物包含層を掘り下げている際に“遺構外”として光波で取り上げた遺物については、整理作業の際にコンピューター上で位置を確認し、遺構の上層だった場合は○○住居跡‘上層’などとして管理した。

調査の進捗状況および発見された遺構や遺物の確認状況などは、デジタル一眼レフカメラ(ニコンD7200)や35mm一眼レフカメラにより撮影した。空中写真撮影については、遺構の完掘状況や位置の把握を目的とした上方俯瞰写真のほか、景観の把握を目的として八ヶ岳や南アルプスを望むアングルにより撮影した。

第2節 基本層序

第5次調査区から得られた層序については、第5図にまとめた。また、基本土層図を作成した①～④の地点については、第6図に位置を示している。建物建設予定地(代表として②地点)では、約60～70cmほどの表土が認められた後、遺物包含層となる。表土は分層が可能で、1層が調査着手前までに牧草地として使われていた客土、2層が整地層、3層が畑として利用していた時期の耕作土である。3層は一部で畝溝状に下層を攪乱している。なお、調査区を横断する2つの溝状の攪乱(戦時期とされるもの)は、調査区壁面で3層より下層から掘り込んでいることがわかっている。3層より下層では、縄文時代前期～中期の遺物包含層となる。一部の遺構は遺物包含層の上面でもプランを確認するが、原則的にソフトローム層まで掘り下げた後に遺構検出をしている。ただし、3層による攪乱は建物予定地ほぼ全域に及んでおり、多くの遺構は上層が消失していると思われる。

基本層序を取得したそれぞれの地点での比高差を確認すると、外構E区(①地点)と建物予定地(②地点)では、現地表面はほぼ同じ高さだが、旧地表面は大きく異なる。外構E区の位置する牛舎小屋付近では、平地にするためにかな



第5図 基本土層図

り削平を受けていることがわかる。②地点から東へ50mほど離れた③地点までは、現地表面および旧地表においてもほぼ平坦である。施設内道路に近接する④地点では、①地点と同様、整地等により遺物包含層が削平されている。建物予定地点の旧地表については、北側から南側へ緩やかに傾斜している。

ローム層以下に関しては、既刊の報告書に詳しいが、第3次調査地点では30cmほどのソフトローム、40cmほどの暗色帯、その下位にハードロームが確認されている。第4次調査では地表下1.5mでPm-I（御岳第1パミス・8万年前頃降灰）を確認している。

第3節 遺構と遺物（土器）

（1）竪穴住居跡

合計12軒の竪穴住居跡を検出した。建物建設予定地点では、いずれの遺構も後世の耕作地化によって削平されており、検出面から住居床面までは浅いものが多い。

● 1号住居跡（第8・9図 遺物：第33図）

<位置> C5・6、D5・6グリッド

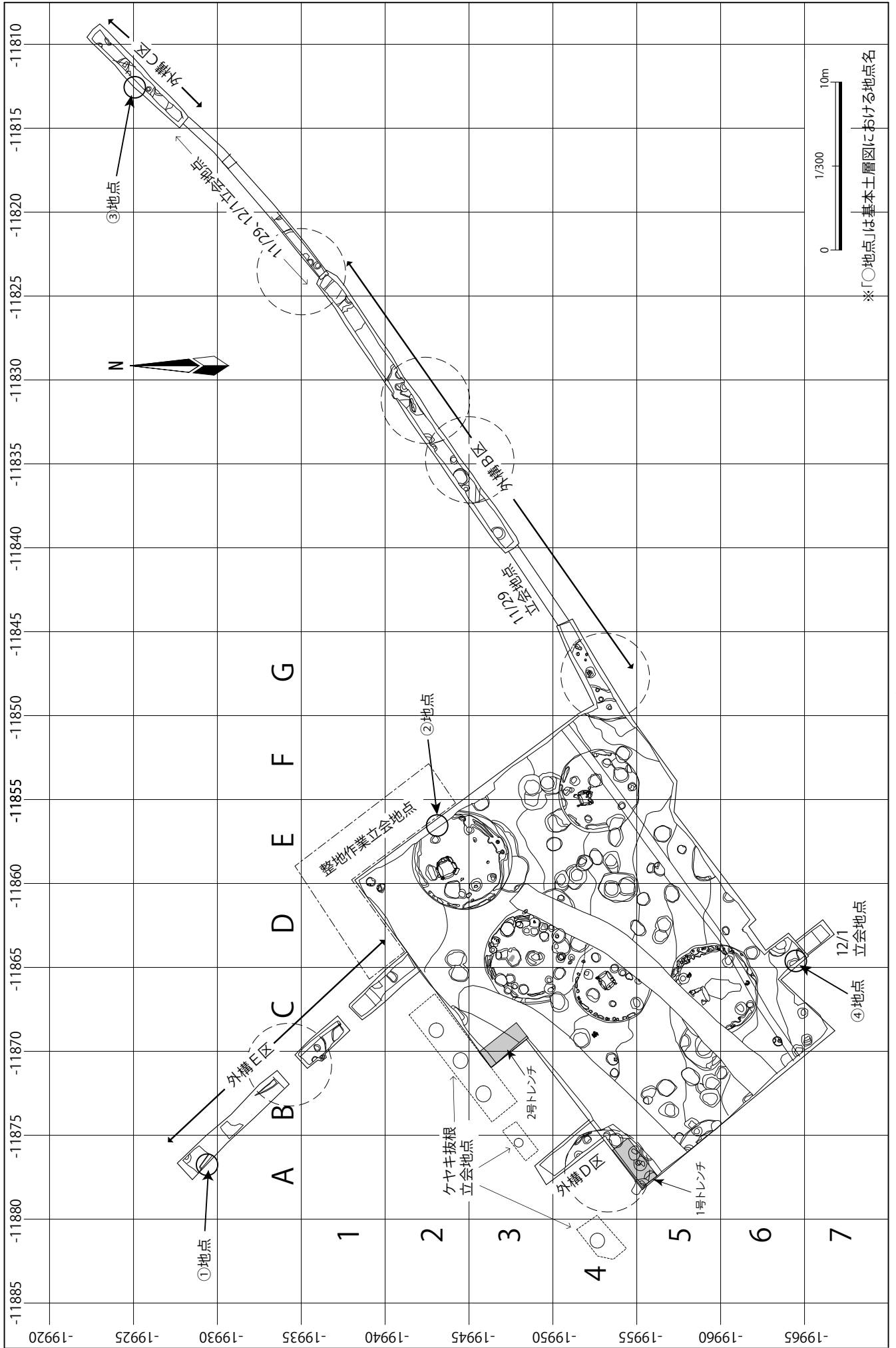
<形態・規模> 長軸5.55m、短軸推定4.0mで不整の楕円形を呈している。住居跡の北西部分、全体の約1/5程度が、調査区を横断する溝状の攪乱を受ける。この攪乱は、第1次～3次調査でもみられるもので、戦時期のものとされている。また、住居跡の南側にも東西方向へ伸びる電気配管によって、床面から深さ10cm程度の攪乱が及んでいる。

<壁・周溝> 壁は緩やかに立ち上がる。遺構の確認面からの深さは10～20cm。周溝は壁沿いに全周しており、周溝内には小柱穴が認められる。小柱穴は東側では二重になる。

<柱穴> 支柱穴は3基認められる。攪乱のため確認出来なかったが、おそらく4本の支柱穴になると推定される。ピットの土層断面からは、柱根の可能性のある堆積を認めることができる。3ピットと4ピットは重複しており、柱の建替を行っている可能性もある。

<検出状況・覆土> 上層は基本土層3層により削平されている。覆土は黒褐色土層が主体で、炭化物を多く含んでおり、場所により棒状の炭化材が認められる。他の遺構覆土と比較して明らかに黒色に近く暗い。炭化材は第5章の分析にあるように、クリ材で3,220±25BPの年代を示しており、埋設土器との年代差があることから住居跡の廃絶時によるものではないと推定される。よって焼失住居の可能性は低いと思われる。

<炉> 住居内のやや北側に1基確認された。溝状の攪乱により北側の大半が消失している。大型の礫を使用した長方



第6図 グリッド設定図

形の石囲炉で、東西軸90cm、南北軸は現存約60cm、深さ42cmとなる。南側には扁平の礫を水平に据え、東側と西側は扁平の面を斜めにして断面逆台形状に礫を組み込んでいる。南側の両端隅には、棒状の円礫をそれぞれほぼ垂直に配している。これらは大型磨石類の転用品（S-175、176）である。炉石の燃焼部側の縁には、黒色物質が帯状に付着しており、この物質については第4章で化学分析を実施した。炉の床面は焼土が認められる。

<土器埋設遺構> 住居内の南側に両耳鉢が1個体埋設されていた。埋設土器は正位で上半部が電気配管の攪乱により欠失している。底部全体も欠失しているが、埋設時に穿孔されたものと推定される。出土状況からいわゆる埋甕として判断出来る。

<遺物出土状況> 埋設土器（1）は口縁部を欠失するが、曾利Ⅲ～Ⅳ式期段階のものと想定される。覆土からは破片が主体でまばらに遺物が分布する。2は無文の鉢で、曾利式期にほぼ共通してみられるタイプの個体である。ほかに曾利式段階の土器片は3～10がみられる。3は口縁部の内縁がやや膨らむタイプのもの、4、5、7～9は縄文を地文とする胴部片で、6は条線を地文とする。1号住居跡内には諸磯式期の土器片が多く流入しており、11～13は口縁部片、15～19は胴部片、20は底部片となる。いずれも諸磯b式期が主体である。14、21は五領ヶ台式期、23は曾利Ⅰ式期、24は曾利Ⅱ式段階と推定される。

<時期> 埋設土器から曾利Ⅳ式期と想定できる。ただし、覆土内から曾利Ⅳ式期の特徴をもつ土器片の出土は極めて少なく、むしろ諸磯b式期の土器片のほうが量は多い。覆土内炭化物も縄文時代後期の年代観を示しているなど、覆土の形成過程に不明な点が多い。

●4号住居跡（第10・11図 遺物：第34・35図）

<位置> C4・5、D4グリッド

<形態・規模> 長軸4.83m、短軸残存3.49mでほぼ円形となる。住居跡の南東部分、全体の約1/5程度が、調査区を横断する溝状の攪乱を受ける。住居跡の北東側は5号住居跡と重複する。

<壁・周溝> 壁は急角度で立ち上がる。遺構の確認面からの深さは12～18cm。周溝は明確ではなく、小柱穴が北側を中心に壁に沿って認められる。

<柱穴> 主柱穴は3基認められる。攪乱のため確認出来なかったが、おそらく4本の主柱穴になると推定される。

<検出状況・覆土> 上層は基本土層3層により削平されている。表土剥ぎの段階で遺物集中が露出したため、住居跡の存在を推定できた。

<炉> 住居内のほぼ中央に1基確認された。大型の礫を使用した長方形の石囲炉で、東西軸78cm、南北軸68cm、深さ40cmとなる。四方に扁平の礫を用いて、扁平な面を斜めにして断面逆台形状に礫を組み込んでいる。炉の外側北隅には、小型の土器（2）が正位に埋置されていた。出土状況から、炉の利用と同時期に埋置されていたと考えられるが、土器表面に煤などの付着はない。炉の床面は焼土が認められる。

<遺物出土状況> 住居跡中央付近、炉内から炉外にかけて、1がつぶれたように出土している。x字把手をもつ大型深鉢で、炉の外側（南側）に底部と口縁部、炉の内部から胴部が出土している。胴部は列点文を施すが、懸垂区画文は隆帯ではなく沈線によって表されている。また口縁部の一部は、2に蓋をするような位置で出土している。住居跡廃絶後に廃棄されたと推定できるが、意図的に部位を分けて廃棄している可能性も考えられる。曾利Ⅱ式新段階。炉に添えられた2は蛇行隆帯と綾杉状の沈線で施文される小型の鉢である。4はつなぎ弧文を口縁に施す浅鉢、5は両耳鉢で把手はX字状になる。6、7は胴部片だが、唐草文系の土器系譜をひくものと思われ、沈線により渦巻文、綾杉文が施されている。このほか8～10、12、13といった曾利式土器の破片が出土している。覆土内には1号住居跡と同じく他時期の破片が流入しており、14、15、17諸磯b式、16諸磯c式、19曾利Ⅳ式といったものがある。11は縄文や器形の傾きから、早期の土器である可能性も考えられるが不明である。

<時期> 出土土器から曾利Ⅱ式の新段階に推定できる。

●5号住居跡（第12～15図 遺物：第35～37図）

<位置> C3・4、D3・4グリッド

<形態・規模> 径5.7mほどで不整の円形を呈している。柱穴の状況から3回程度の建替を実施していると推定でき

る。住居跡の北西部分と南東部分は、調査区を横断する溝状の攪乱を受ける。住居跡の南西側は4号住居跡と重複し、南東側は8号住居跡と重複している。

<壁・周溝> 壁は急角度で立ち上がる。遺構の確認面からの深さは20~24cm。周溝は壁沿いにほぼ全周するが、南側には周溝がみられなくなる。周溝は二重となり、建替時によるものと推定される。

<柱穴・土坑> 柱穴は多数認められることから、柱穴の大きさ・深さなどから、調査時に3つの対応関係を推定し、5a・5b・5cとしてそれぞれのピット名を付した。5c→5a→5bの順で建替えたと想定し、5cが5本の支柱穴、5a・5bが6本の支柱穴と推定される。当初柱穴と想定したc5ピットは、袋状土坑となったため、c6ピットに対応関係を求めた。また、住居内より発見された土坑についてはi~vi土坑とした。

<検出状況・覆土> 上層は基本土層3層により削平されている。表土剥ぎの段階で遺物集中が露出したため、住居跡の存在を推定できた。

<炉> 住居内のやや北側に1基確認された。浅い長方形の掘り込みをもっており、痕跡は明確ではないが、炉石を抜き取られた石囲炉と推定できる。長軸約100cm、短軸85cm、深さ12cmとなる。炉の床面は焼土が認められる。

<土器埋設遺構> 住居入口側、i土坑内に大型深鉢（長胴甕）が1個体埋設されていた。土器は逆位でやや斜位に埋設されている。住居およびi土坑の覆土は攪乱等を受けている様子はなかったが、埋設土器の胴下半部はほとんどが欠失している。ただし、土器の底部については埋設土器の脇から破片で出土しており、焼成前に径2cmほど穿孔している様子が分かる。出土状況からいわゆる埋甕として判断出来る。また、住居奥側、a4ピット内にも小型深鉢が横位に埋設されていた。a4ピットを柱穴として利用した後、土器を埋設したと推定でき、ピット内の覆土上層には径30cmほどの礫が認められた。ここでは広義の土器埋設遺構として報告する。

<遺物出土状況> 1は埋設土器の長胴甕で、推定器高は約70cmとみられる大型のものである。土器は条線地文で刻みのある1本隆帯で区画され、要所に蕨手状の渦巻文を施す。口縁が一度くびれて再度開き、口縁部下段には大きめの渦巻文をもつ。甲ツ原遺跡等に類例があり曾利I式古段階とみられる。2はa4ピット内の埋設土器で、頸部に斜行する沈線を施すのみのシンプルなものである。

覆土内からは住居跡中央付近に遺物の集中が確認された。3は縄文を地文とする深鉢で、隆帯により懸垂文等を施す。埋設土器より新しい曾利II式段階と思われる。4、5は条線小甕で、4は11号住居跡上層の破片と接合関係をもつ。7~11は浅鉢あるいは両耳鉢で、7、8は無文、9、11は縄文を地文としている。10は36号土坑の上層、5号住居覆土内から出土しており、半裁竹管により沈線文を施している。12、13は無文口縁の破片、14はつなぎ弧文とみられ、15は前段階の井戸尻式期の深鉢口縁である。このほかに16~33といった井戸尻式期から曾利I式段階と推定される土器片の出土がある。34~42は他時期と想定される土器群で、やはり諸磯式期の遺物の出土は多い。

石器も覆土内からの出土が比較的多く、磨製石斧3個、打製石斧は破片を含めると13個以上の出土があった。なお、石器についてはピット内から出土しているものも認められる。

<時期> 埋設土器から曾利I式期古段階に一つの定点を置くことができる。ただし、住居は3回の建て替えが想定されるもので、埋設土器が当初より存在していたかは不明である。住居跡の覆土内には井戸尻式期から曾利II式段階までの土器片が出土しているため、井戸尻式期の終わりから曾利I式期の初めにかけての所産と想定しておく。

●6号住居跡（第16・17図 遺物：第38図）

<位置> E4、F4グリッド

<形態・規模> 東西軸4.96m、南北軸4.85mでほぼ円形を呈している。住居跡の中央南側は、調査区を横断する電気配管の攪乱を受ける。

<壁・周溝> 壁は急角度で立ち上がる。遺構の確認面からの深さは15~18cm。周溝は壁沿いに北側を中心に認められる。

<柱穴・土坑> 支柱穴は4本認められる。住居中央には40号土坑が位置しているほか、土坑状のピットが4基ある。

<検出状況・覆土> 上層は基本土層3層により削平されている。遺物包含層と比較してやや暗めの暗褐色土層が覆土となる。

<炉> 住居内のやや北側に1基確認された。大型の礫を使用した長方形の石囲炉で、東西軸70cm、南北軸は推定60cm、深さ25cmとなる。奥壁及び左右の壁体には、扁平な面を斜めにした礫を断面逆台形状に組み込んでいる。手前（南）側の礫については、扁平面を上面向けて置いていたと思われるが、礫は中央で二つに分割されたまま遺存していた。南側上面から強い圧力によって分割されたと推測されるが、打撃痕は認められなかった。型式的には1号住居跡の石囲炉に類似し、同様に南側の炉石の燃烧部側の縁には、幅1cmほどの黒色物が帯状に付着していた。

<遺物出土状況> 破片が主体で、覆土内からまばらに出土している。埋設土器や完形の個体は見つからなかった。土器には、つなぎ弧文系の口縁をもつ1、4や、肥厚帯口縁の5、6がみられる。2は有孔罅付土器の口縁と考えられる。また、8は唐草文系譜の土器と推定される。胴部は綾杉文(1、7、8、12)のほか縄文(5、10、11)を地文とするものがある。15は両耳鉢とみられる胴部破片である。ほかの住居跡と同様に諸磯式期を主体とした他時期の遺物17～25が出土している。

<時期> 覆土内から出土する遺物の多くは曾利IV式期となることから、該期の所産と考えられる。

●7号住居跡（第18～20図 遺物：第39～43図）

<位置> D2・3、E2・3グリッド

<形態・規模> 東西軸現存5.37m、南北軸5.89mで不整の円形を呈している。東側1/8程度は調査区外のため未調査である。5号住居跡とほぼ同じ大きさで、今回の調査区では大型の部類である。

<壁・周溝> 壁は緩やかに立ち上がる。遺構の確認面からの深さは30cm（調査区東壁）。周溝は壁沿いにほぼ全周する。周溝は南側の一部で二重に認められる

<柱穴・土坑> 主柱穴は5本認められる。小柱穴である7ピット・8ピットは、住居入り口施設に関する柱穴の可能性がある。また、住居内より発見された土坑についてはi・ii土坑とした。

<検出状況・覆土> 上層は基本土層3層により削平されている。表土剥ぎの段階で遺物集中が露出したため、住居跡の存在を推定できた。

<炉> 住居内のやや北側に1基確認された。大型の礫を使用したほぼ方形の石囲炉で、東西軸108cm、南北軸90cm、深さ46cmとなる。奥壁及び左右の壁体には、扁平な面を斜めにした礫を逆台形状に組み込み、手前側（南側）には扁平な面を上面向けた礫を3石配置している。炉の床面には焼土が認められる。炉の外側北西隅には、小型の土器(3)が外側に向けてやや斜位に埋置されていた。同じく南東隅は、土器の口縁の破片(4)が炉壁の一部に組み込まれて使用されており、空間を生み出している。いずれも炉に付属するものと思われる。

<土器埋設遺構> 住居内の南側に、2基の深鉢が並列して埋設されていた。いずれも正位で埋設され、西から1号埋甕・2号埋甕とする。1号埋甕は胴下半部以下、2号埋甕は底部を欠失する。住居内に複数の土器を埋設するものは、酒呑場遺跡の過去の調査でも確認されている。

<遺物出土状況> 埋設土器1は、口縁を楕円形の隆帯で囲い、胴部を刺突状の文様で埋めるもので、曾利Ⅱ式の列点文の変容として解釈できる。埋設土器2は口縁が欠失しているが、わずかにつなぎ弧文の隆帯が残る。櫛描条線により地文が施されるため、1よりもやや新相となる可能性はあるが、概ね曾利Ⅱ式の新段階としておきたい。3は炉に付設されたもので、土器の上半部を打ち欠いて再利用したものと考えられ、櫛描条線地文と3本の垂下する沈線が特徴である。4も3同様、土器片の再利用により炉に付設されたものである。

覆土、あるいは遺構確認面より上層からも大量の遺物が出土し、住居廃絶後に捨て場として利用された可能性がある。床面近くでは8の出土がある。こぶし大の破片がバラバラで出土しており、口縁部のみではあるがほぼ全周する。6も比較的床面近くから出土しており、ほぼ形を保ったまま潰されて出土した。口縁部は6単位のつなぎ弧文をもち胴部はLRLの縄文地文、蛇状沈線を施す。同様の胎土による底部片が近くで出土しているが、別個体の可能性もある。覆土上層では5が出土している。長めの列点文を地文として施し、半裁竹管により整形した3本隆帯によって、胴部の渦巻文、4単位のX字状把手を作り出している。曾利Ⅱ式新段階の資料である。

覆土中から出土した破片資料については、深鉢では無文の口縁部となるもの(12、13)、斜行条線となるもの(10、15)のほか、つなぎ弧文となるもの(11、14)、重弧文となるもの(18、21)、肥厚帯口縁となるもの(19、24、25)などがある。このうち11は、全体に地文として縄文を施文後、つなぎ弧文を隆帯により施してい

る。17は重弧文の可能性があるが、外面と内面両方に渦巻文がある。

胴部文様は縄文を地文とするいわゆる曾利縄文系（27、29、43、45、46）のほか、列点文を施すもの（5、32～35）がある。31は唐草文系譜の土器胴部で、隆帯を整形し渦巻文などで区画、区画内は綾杉文が施される。同じく唐草文系の40がある。また37、39、48は連弧文系譜の土器胴部片で、48は交互刺突をもつなど連弧文系土器の要素が強い。ほかにX字状把手、あるいは両耳鉢の把手部分と推定される49・51～53があるほか、38は水煙把手付土器の一部と考えられる。また、櫛描条線を地文とするものに9、22、44、50、55などがあり、50は田の字区画が認められる。

混入する他時期の土器のうち、59～64は諸磯式である。

<時期> 埋設土器および炉に付設された土器から、曾利Ⅱ式新段階と推定される。覆土内出土遺物も多くは曾利Ⅱ式からⅢ式を示している。

●8号住居跡（第12～15図 遺物：第43図）

<位置> D3、D4グリッド

<形態・規模> 径およそ3.4mの、不整の隅丸方形と推測される。住居跡の中央には溝状の攪乱があり、住居跡の半分はこの攪乱によって失われている。また、住居の北西部分は5号住居跡に重複している。

<壁・周溝> 壁は急角度で立ち上がる。遺構の確認面からの深さは約20cm。周溝は確認出来ない。

<柱穴・土坑> 現状で支柱穴が1基確認出来た。他の柱穴については攪乱により失われたか、5号住居跡の土坑あるいはピットとしたものの中に、8号住居跡のピットとなりうるものがあるかもしれない。

<検出状況・覆土> 上層は基本土層3層により削平されている。当初、5号住居跡が不整形で、東側に突出する可能性があるとして5号住居跡の一部として調査にあたった。しかし、炉跡の存在が認められたことから急遽8号住居跡として記録することとした。検出面における覆土の土質は5号住居跡と大きく変わらない。

<炉> 推定される住居の中央付近に炉が位置している。浅い円形の掘り込みで、床面に焼土が認められる。おそらく地床炉と想定できる。

<遺物出土状況> 8号住居跡の重複していない部分からは、遺物の出土がまばらである。1、2は諸磯b式段階の土器片、3は諸磯式段階と推定されるが不明である。

<時期> 諸磯b式

●9号住居跡（第21図 遺物：第43図）

<位置> 外構E区

<形態・規模> 幅約1mの外構E区区間において、住居南壁の立ち上がりと、土器埋設遺構が確認出来た。形態及び規模については不明であるが、コンクリート基礎の北側にも遺構の覆土が一部で確認されることから、径5.2mほどの住居跡になることが推定できる。

<壁・周溝> 壁は緩やかに立ち上がる。遺構の確認面からの深さは20cm。

<柱穴・土坑> 2基のピットが認められたが、支柱穴かどうかは判断出来ない。

<検出状況・覆土> 上層は攪乱を受けるが、畑の耕作土による攪乱ではなく、施設の造成時に伴う攪乱と推測される。北西の一部は水道管が設置されており、住居の北側壁の立ち上がりが不明である。

<炉> 調査区内には位置していない。

<土器埋設遺構> 住居内の南側に、地山を掘り込んで1基の深鉢を正位で埋設している。トレンチ壁面でも確認できた。土器の底部は焼成後に穿孔されている。上半部は攪乱により欠失するが、残存していたとすれば住居床面から露出していたと想定される。

<遺物出土状況> 埋設土器の1は、胴部にU字あるいは楕円区画後、ハの字文を施している。2はいわゆる広口壺で、低隆帯で施文されX字状の把手がつく。2の出土地点は攪乱の下に覆土が数センチ残っていたのみであった。ほかに同時期の3、5、6があり、藤内式段階の深鉢口縁（4）も出土している。

<時期> 埋設土器から曾利Ⅴ式古段階と判断出来る。

●10号住居跡（第22図 遺物：第44図）

<位置> 外構B区（G 4グリッド）

<形態・規模> 住居の中央からやや北よりをトレンチ状に調査している。遺構の立ち上がりについては、壁面で確認することができる。直径5.4m程度の円形の住居になると推定できる。

<壁・周溝> 壁は緩やかに立ち上がる。遺構の確認面からの深さは10cm。周溝は認められない。

<柱穴・土坑> 柱穴は複数認められるが、1ピットを除いて小型のものが多く配列は明確ではない。

<検出状況・覆土> 上層は周辺に比較してさらに深くまで攪乱を受けている。おそらく南側の道路の造成時によるものと推測される。平面図上で10号住居西側に等高線が褶曲しているのはそのためである。覆土は黒褐色で明確に検出された。

<炬> 調査区内には位置していない。

<遺物出土状況> 住居中央から有孔浅鉢（1）が出土している。比較的形をよく残すものである。大半は諸磯b式で、2～7は深鉢口縁部、8～15は胴部、16、17は浅鉢の底部である。浮線文をもつものと沈線文を施すものがあり、およそ諸磯b式段階を示すものが多い。4は補修孔が穿孔されている。トレンチ状の調査範囲にしては、覆土内から黒曜石の出土が比較的多い。また、獣面把手（土製品-16）の出土もある。

<時期> 縄文時代前期後半、諸磯b式の所産と推定される。

●11号住居跡（第23・24図 遺物：第45・46図）

<位置> A 4グリッド、外構D区

<形態・規模> 推定長径5.0m、推定短径4.5m程度の楕円形プランを想定する。住居の大半は調査区外となっており、南側は溝状の攪乱によって一部が掘削されていると思われるが、表土剥ぎ時の1号トレンチと重複したため南側の立ち上がり位置については不明である。ただし、遺物の出土状況や、その時期差からも、ほぼ同じ位置に2軒の住居跡が重複していたのではないかと考えられる。外構D区の範囲で覆土内から出土した土器片は諸磯式が多く、1号トレンチ内で出土した土器は井戸尻式から曾利I式期が多いという傾向が認められる。

<壁・周溝> 遺構の確認面からの深さは20cm。周溝は東側に一部確認出来る。

<柱穴・土坑> 1号トレンチと重複していた関係から、当初は住居跡と判断することができず、1号土坑～7号土坑が11号住居跡内に位置している。このうち、1号土坑及び7号土坑は柱穴状の掘りかたとなっており、支柱穴とすることができる。外構D区範囲の1ピットも支柱穴とみると、4本ないし5本の支柱穴を想定できる。

<検出状況・覆土> 上層は基本土層3層により削平されている。本調査区は表土剥ぎに試掘をおこなった1号トレンチに重複したため、平面的にプランを検出することができなかったが、外構D区においてはプランを確認することができた。

<炬> 調査区内には位置していない。

<遺物出土状況> 諸磯式段階の17～19ほか数点が外構D区地点や土坑内より出土しており、わずかに五領ヶ台（15、16）も混じる。主体を占める曾利I式は、トレンチ内からの出土が多く、座標値を与えられなかったものが多い。水煙把手付土器（1）は調査区の西壁で把手部分が露出していたもので、左右2単位の把手がつくものである。ほかに井戸尻式段階のもの（3、7～11、13）と曾利I式段階（2、4～6）などが出土している。

<時期> 前述したとおり、2時期の住居跡が重複している可能性が考えられ、諸磯b式の住居跡廃絶後に、曾利I式期の住居跡が再び建てられたと想定する。

●12号住居跡（第25～27図 遺物：第46・47図）

<位置> 外構B区

<形態・規模> トレンチ状の調査区により、住居跡の一部を調査している。住居跡の北東壁はしっかりと立ち上がるが、南西側は13号住居跡と重複しており範囲は不明確である。東西軸の推定径は5.4m。

<壁・周溝> 南壁で確認出来る遺構深さは30cm。周溝は認められない。

<柱穴> 調査区の制約から範囲の把握が困難であったため、12号住居跡と13号住居跡の柱穴は検出された順で番号を付している。12号住居跡は1ピット、2ピット、7ピットが主柱穴になると思われる。2ピットを主柱穴と認めることが可能であれば、主柱穴は5本ないし6本を想定しうる。

<検出状況・覆土> 黒褐色土の覆土となる。本調査区と比較して、上層は攪乱を受けにくい環境にあったと思われる。

<炉> 石囲炉の北側一石が検出された。炉石は平面を斜めにして配置している。左右の炉石は抜き取られたと想定される。炉石は95cmの長さがあり、炉の東西軸も同様の長さだろう。

<遺物出土状況> 1は炉の覆土から出土した1単位の把手がつく綾杉文を施す鉢形土器で、唐草文系土器の特徴を有している。2は縄文を地文とする深鉢、3も縄文地文のX字把手付鉢である。また、斜行文口縁（4、5）などが出土している。曾利期の特徴をもつミニチュア土器（土製品-6）も出土している。

<時期> 覆土からの出土遺物は曾利Ⅱ式～Ⅲ式期が主体であることから、曾利Ⅱ式期を想定する。

●13号住居跡（第25～27図 遺物：第47図）

<位置> 外構B区

<形態・規模> トレンチ状の調査区により、住居跡の一部を調査している。北東側は12号住居跡と重複している。南西側は平面プラン確定ができず、南壁の堆積状況から推定した。東西軸の推定径は4.4m。

<壁・周溝> 南壁で確認出来る遺構の深さは15～30cm。周溝は認められない。

<柱穴> 3ピット、6ピットは36cm程度の深さがあり、主柱穴と考えられる。

<検出状況・覆土> 12号住居跡とほぼ同様の黒褐色土層の覆土である。

<炉> 調査区には位置していない。

<遺物出土状況> 5ピットの上層において遺物の集中があった。1は重弧文の口縁で、胴部は縄文を地文にU字の懸垂文を施すほぼ完形の個体である。2、4、6も縄文を地文とする曾利式土器である。

<時期> 12号住居跡と重複するが、出土遺物は曾利Ⅱ式期が主体であり、ほぼ同時期の所産と捉えることができる。

●14号住居跡（第25～27図 遺物：第48図）

<位置> 外構B区

<形態・規模> トレンチ状の調査区により、住居跡の一部を調査している。南西側はB区1号土坑と重複している。東西軸の推定径は約4.0m。

<壁・周溝> 南壁で確認出来る深さは50cm。周溝は認められない。

<柱穴> 1ピットは深さ約60cmとなり、主柱穴として想定しうる。

<検出状況・覆土> 遺構のプランから推定すると、住居の中心は調査区外（北西側）に位置すると思われる。遺構の上層は今回の調査においてもっとも攪乱の影響が少ない。南壁では覆土を掘り込む土坑状の断面が確認できる。

<炉> 調査区には位置していない。

<遺物出土状況> 住居跡中央覆土内より逆位で1が出土している。加曾利EⅢ式の系譜となる土器である。5は低隆帯の渦巻文に沈線で隙間を埋めるもので、曾利Ⅳ式期。ほかにつなぎ弧文の3や8がある。

<時期> 曾利Ⅳ式期

（2）竪穴状遺構

2基の竪穴状遺構が検出された。いずれも、検出時に竪穴住居跡と誤認したものだが、床面は安定しないため竪穴状遺構として報告する。

●1号竪穴状遺構（第24図 遺物：第49図）

B5・C5グリッドに位置している。南東側半分は攪乱を受けている。長軸2.76m、短軸は1.3m残存する。隅丸方

形の浅い掘り込みで、中央に円形の土坑状の掘り込みがあり、黒曜石原石（S86）が出土している。また、土器1は下半部が残存する諸磯b3式の深鉢であり、縄文を地文として横位の沈線で施文している。諸磯b式期の遺物が認められるが、上層からは五領ヶ台式期の浅鉢破片(5)が出土している。

●2号竪穴状遺構（第24図 遺物：第49図）

A5・B5グリッドに位置している。北東側は攪乱を受け、西側は調査区外に続いている。掘り込みは全体的に浅く、床面は凸凹している。9号土坑と切り合い、覆土の様子から9号土坑に先行すると考えられる。土器の出土は上層からわずかに認められ、諸磯b式期と考えられる。

（3）土坑(第28図～第32図)

土坑はナンバリングしたもので72基、住居内に認められるもので17基（土坑と考えられる“pit”を含む）、合計89基を確認した。土坑の大半は検出面からの掘り込みが浅く、遺物量も少ないため用途不明だが、いくつかの土坑は土坑墓と推定しうる。

時期として特定できるものは、諸磯式期が38基、曾利式期が4基であり、なかでも諸磯b式期の土坑の多いことが特徴である。なお、住居跡の覆土内における土器型式の混在の様子に比較すると、土坑の覆土内からは比較的同時期同型式の遺物が出土する傾向にある。一覧表（第2表）にて土坑を整理しているが、ここでは特記すべきものを報告する。

●18号土坑（第28図 遺物：第50図）

B5グリッドに位置している。長径119cm、短径89cm、深さ45cm。出土遺物6は口縁部で、縄文を地文に集合沈線を施している。諸磯b式。

●30号土坑（第29図 遺物：第50図）

D5グリッドに位置している。楕円形の土坑で長径173cm、短径94cm、深さ50cm。諸磯b3式期の土器片が出土。10、11は縄文を地文とせず横位の沈線のみ施文される。13や14に縄文地文の集合沈線となるものがある。同型品と思われる有孔石製品が2点出土している。

●31号土坑（第29図 遺物：第50・51図）

C4グリッドに位置している。長径残存部で121cm、短径115cm、深さ116cm。非常に深い土坑で、検出面から60cmほどの深さ付近で100個以上の礫の集積が認められる。礫集積下層からは、諸磯b式期の深鉢（15）の口縁波頂部が3単位分重なって出土した。この土器と礫集積の中間層を土壌サンプリングしており、第4章において土壌分析を行っている。このほかの出土遺物（16～24）も諸磯b式期となる。

●33号土坑（第29図 遺物：第51図）

F4グリッドに位置している。6号住居跡に重複する。円形の土坑で長径99cm、短径86cm、深さ70cm。出土遺物は少ないが、大きめの破片が多く、加曾利EⅣ式の系譜となる曾利Ⅴ式の終末段階を示している。

●34号土坑（第30図 遺物：第52・53図）

D4・E4グリッドに位置している。長径235cm、短径178cm、深さ100cm。2つの掘り込みが確認され、実際は2つの円形の土坑が重複していると想定される。北側は諸磯b式期を中心とした遺物が多数出土しており、南側は曾利Ⅱ式期の遺物が中心である。ただし、北側の土坑上層にも数点曾利式土器が出土している。諸磯式期の土器は破片が多く、遺物の出土量に比較して復元可能な土器が少ない。37は縄文地文で集合沈線を施文する深鉢の上半部で、ほぼ全周する。諸磯b式の土器には浮線文（40、44、45、48、50）や沈線文（38、42、43、46、49、52）のほか、縄文のみ（39、41、47）や連続爪形文（51、53）がある。

曾利式土器では7号住居跡の36と接合した資料があり、特筆される。同じく7号住居跡の5と同一個体と思われる列点文の特徴を有し共通の胎土となる破片が10点ほど出土しているが、こちらの接合関係はない。曾利式期の資料は7号住居跡と同様曾利Ⅱ式期のものが多く、諸磯式期の埋まりきっていない土坑を利用して廃棄したものと想定される。

●41号土坑（第30図 遺物：第53図）

D1・E1グリッドに位置している。長径55cm、短径48cm、深さ15cm。覆土は包含層との区別がつきにくく、検

出段階で土坑の上層となる位置から、諸磯b式の有孔浅鉢破片が重なって出土した。ただし、有孔浅鉢68-70は、胎土や焼成の違いからそれぞれ別個体と判断でき、完形にはならない。

●43号土坑 (第30図 遺物：第54図)

D6グリッドに位置している。調査区外へ続いており、現状の長径142cm、短径67cm、深さ74cmでやや大きい土坑となる。覆土内からは諸磯b式期の土器(72-75)が出土しているほか、土坑の上層からは土偶(土製品-2)の出土がある。土偶の年代観は曾利式期で、土偶出土位置の上層はやや焼土を含む土層が観察される。

●52号土坑 (第31図 遺物：第54図)

E4グリッドに位置している。円形の土坑で長径106cm、短径92cm、深さ36cm。51号土坑、53号土坑とそれぞれ重複する。出土土器は縄文を地文に集合沈線を施すものが多く、諸磯b3式が主体だが、わずかに諸磯c式の様相を呈すものもある。

●53号土坑 (第31図 遺物：第54・55図)

E4グリッドに位置している。長径推定142cm、短径131cm、深さ80cmで大きめの土坑である。52号土坑、54号土坑とそれぞれ重複する。出土遺物のうち、87は片口のつく諸磯b式の深鉢で、今回の調査では唯一のもの。縄文を地文に集合沈線を施す土器が多く、概ね諸磯b3式期の所産と推定される。

●56号土坑 (第32図 遺物：第55・56図)

F3グリッドに位置している。円形の土坑で長径146cm、短径138cm、深さ54cm。南側を6号住居跡、北側は57号土坑と重複する。土坑の底からは、3個体の土器がほぼ完形で出土しており、埋納行為と捉えることができる。重なりからその順番が想定可能で、まず107、次に109、さらに109に入れ子になるように108の土器が置かれたと思われる。107は、ハの字文が特徴的な曾利V式の深鉢で、胴部が一部欠損するほかは完形である。欠損部は穿孔行為による可能性も想定できる。108は四単位の波状口縁をもつ綾杉文を地文とする深鉢で、口縁には円形刺突がそれぞれ認められる。109は櫛描条線の深鉢で大きく扁平し、作りもやや粗雑である。出土時には土圧のためか、口縁が内側から外側へ広がるように潰されていた。覆土内からは曾利V式の出土が多いが、114や118などのやや古い曾利期の土器も出土している。

●57号土坑 (第32図 遺物：第57図)

E3・F3グリッドに位置している。長径215cm、短径142cm、深さ101cm。土坑の東側が深く円形になっており、西側の掘り込みと重複している可能性が高いが、西側からの出土遺物が少なく時期差を求めることが難しい。なお、南側は56号土坑に切られる。遺物の出土量は34号土坑に次いで多く、諸磯b式が主体で、縄文を地文に沈線を施すものが多い。121はキャリパー状に大きく口縁が開くもので、諸磯b2式。口縁部に退化した獣面把手をつけるものがある(121-124)。123は縄文を地文に連続刺突で渦巻文などのモチーフを施している。有孔浅鉢の破片も認められる。いずれにしても破片が多く完形になる遺物はなかった。

●63号土坑 (第32図 遺物：第58図)

D6グリッドに位置している。長径93cm、短径77cm、深さ30cm。やや楕円形の土坑で縄文を地文とする諸磯式土器が出土している。146は口縁が外側へ開いていく器形で集合沈線を施すもので、諸磯b3式。石製品-4は黒色の滑石で作られたけつ状耳飾りであり、土坑の底から出土している。

●外構B区1号土坑 (第25～27図 遺物：第59図)

外構B区の東端に位置しており、東側は14号住居跡と重複している可能性がある。土坑として調査したが、第1次調査A区で検出されていた“溝”遺構の直線上に位置しており、おそらく同様の遺構でよいのではないかと思う。出土遺物は混在しているが、覆土は比較的安定しているため、攪乱とは判断できない。

●外構B区2号土坑 (第25～27図 遺物：第60図)

外構B区の西端に位置しており、覆土内からは土器とともにやや大きめの礫も数点出土している。出土遺物は概ね諸磯b3式期が主体である。

(4) 外構C区 (第25～27図 遺物：第60図)

外構C区からは、検出面を掘りこむ5基の土坑を確認したが、調査区の壁面では上層で土坑状の堆積がほかにも認め

られた。調査区の幅はかなり狭いため、住居跡の一部の可能性もあるが、隣接する第1次調査B区では当該付近に住居跡の検出はない。出土遺物（第60図）は諸磯式から曾利式までであるが、189、192-195などの曾利V式の遺物が目立つ。

（5）礫集積遺構 （第24図）

1基の礫集積遺構が見つかった。C4グリッドに位置している。10個程度の礫を集積しているもので、本来はいわゆる集石土坑とされるものであった可能性も考えられるが、検出時にプランは検出できていない。磨石状の円礫も3点認められるが、原則不整形で拳大の礫となり、一部は焼け石である。

（6）遺構外出土土器 （第59・60図）

本調査区の包含層掘削時に遺構外から出土したもの（166-174）、外構B区の遺構外から出土したもの（175-179）がある。166-170などの諸磯式の土器が多いほか、173や174などの曾利V式の土器も見られる。外構B区では井戸尻式期の遺物も出土している。また198-212に調査区一括となる遺物を掲載した。諸磯b式・c式、井戸尻式、曾利式などを中心に出土している。

第4節 土製品・石器等の遺物

遺構の覆土内において、年代差をもった土器が混在して出土していることを確認した。この状況は土器以外の遺物（土製品・石器等）においても同様であると推測される。以下では節を分け、出土遺物ごとに検討を加える。

（1）土偶・土製品

○土偶 （第62図）

土偶の破片が2個体分出土している。

1はポーズ土偶で、右手で折りたんだ左手を抱えている。親指は曖昧だが、人差し指から小指までの四本は丁寧に区切られている。4号住居跡の上層から出土しているが、ポーズ土偶はおおむね中期中葉勝坂期にみられるもので、流れ込みによると判断できる。2は胸部から腹部にかけてで、欠損する腕部はやや上方に開くと思われる。浅い正中線が中央に認められ、乳房の下から背中にかけて沈線でブラ文が施されている。形態的には曾利式期となる。

○ミニチュア土器 （第62図）

3は有孔浅鉢のミニチュアと考えられるもので、1/5周ほど残存しており、口縁部の孔は等間隔に穿たれている。5号住居跡からの出土であり、流れ込みと思われる。4、5はそれぞれ諸磯期の深鉢をモチーフにしたミニチュア土器と思われる、集合沈線を施しているほか、4には赤彩が認められる。4は53号土坑、5は1号堅穴遺構で、いずれも諸磯期に帰属する。6は曾利期の深鉢をモチーフにしたもので、1単位の把手状の突起が口縁につく。曾利Ⅱ式の12号住居跡からの出土。

○土製円盤 （第63図）

土製円盤の出土は比較的少なく、8個体を図示した。無文となるもの（7、8、11）、縄文をもつもの（9、10、13）、浮線文をもつもの（12、14）が確認できる。

○そのほか土製品 （第63・64図）

諸磯b式期に認められる猪獣面把手が2個体分出土している。15は頭部が先端につまみ出されるように整形されたもので、目・鼻・口を沈線などで施している。土器本体の胴部文様は集合沈線になる。16は頭部から鼻先にかけてが強調されているもので、同様に目・鼻・口が認められ、目の表現の上部には孔が貫通している。頭部および土器本体の胴部文様には浮線文が施されている。17は焼成粘土塊で、土鈴と同様のサイズ・整形だが、中実となっている。18、19は土製品としたが、曾利V式の土器につく把手部分の可能性が高いと推定される。

(2) 石器

出土した石器には、石鏃、石匙、石錐、楔形石器、二次加工剥片、搔器、横刃型石器、原石・石核、打製石斧、磨製石斧、尖頭器、磨石類、石皿・礫石皿などがある。このほかに礫が多数出土している。

これらの出土分布については、各遺構で示したほか、本調査区については第85図において、全体の傾向を示している。

○石鏃 (第65・66図)

石鏃および石鏃未製品と考えられるものは、61点出土しており、そのうち53点を図示した。石材はほとんど黒曜石だが、滑石(12)、チャート(34)も認められる。図示した石鏃については、形状から分析を行った。分類基準は、酒呑場遺跡第4次調査報告書に依るものだが、A-1~3の細分は省略した。

A類：側縁部がカーブし、基部端が尖るもの 13点(4・11・14・15・18~20・24・28・30・33・42・44)

B類：側縁部が直線的で、基部端が尖るもの 5点(3・7・16・27・40)

C類：側縁部が直線的で、基部端が丸いもの 17点(1・5・6・8~10・12・17・21~22・31・36・38・41・43・46)

D類：側縁部がカーブし、基部端が丸いもの 9点(2・25・26・32・35・37・45・47・48)

未製品 5点(49~53)

次いで遺構別(製品に限る)では、1号住居跡からは4点(類型順に1:1:1:1)、5号住居跡から2点(0:0:2:0)、6号住居跡から5点(1:1:3:0)、7号住居跡から7点(2:1:3:0:不明1)、8号住居跡からA類1点、9号住居跡からA類1点、10号住居跡から6点(2:1:0:2)などとなる。また諸磯式期の土坑(35土・43土・57土・61土・外構B区2土)から6点(2:0:1:2)が出土している。これらの傾向は、第4次調査でも所見がある通り、諸磯b式期にA類が多く、曾利式期にはC類が多くなる傾向を示している。さらに言えば、D類も諸磯式期に多く、A類との型式差が近いと考えられる。

○石匙 (第67・68図)

石匙は小型で横型のものが9点、縦型が1点、大形のものが3点出土しており、すべて図化した。石材別では、黒曜石が3点、チャートが3点、ホルンフェルスが4点、安山岩・珪質頁岩・流紋岩がそれぞれ1点ずつ出土している。

小型横型石匙にはいくつかの形態がある。つまみ部と対極の位置にある辺を刃部とすると、刃部を両面加工するもの(両刃)、片面加工するもの(片刃)がある。さらに、つまみ部に接する側辺が直線的になるか、凸状になるか、刃部は直刃・凸刃・凹刃のいずれになるかなど様々な属性から分類が可能であるが、ここでは事実確認にとどめる。

54は直刃、側辺直線で、三角形になる唯一のタイプ。55は凸刃で側辺は直線と凸状となり、57、58、62も同様となる。とくに62とは法量までかなり類似する。56は凸刃で側辺は凸状になり肩が張るタイプで、59も同様である。

60、61は破片で全体は分からないが、60は直刃である。

63は縦型のもので、つまみ部挟り加工部に接する辺を刃部としている。刃部はほぼ直線的である。

64~66は大型の石匙である。

遺構別では諸磯期の10号住居跡から2点、同時期の土坑から3点出土しており、比較的曾利式期の住居内からは出土が少ない。

○楔形石器 (第69図)

原石あるいは剥片を両極打撃した痕跡が残るもので、2点を確認した。いずれも遺構外の出土で、これまでの調査で見つかっている割合に比べて極端に少ない。

○二次加工剥片・微細別離剥片 (第69図)

二次加工剥片あるいは微細別離剥片については、5点のみ図示した。69は粘板岩素材で、つまみ部と刃部状の剥離を施しているが、石匙とはならない。70、71は黒曜石で表裏面に微細な剥離面をもつ。71はやや刃部状になり、搔器的な機能を持っていた可能性がある。72は同じく黒曜石で、石鏃未製品の可能性がある。73は水晶製の二次加工剥片で、側面に使用痕をもつ。水晶はほかに2点出土しているが、いずれも加工が一部加えられた剥片である。

○搔器 (第69図)

74は黒曜石素材で、欠損部をもつが半円形の刃部を形成している。75はチャート素材のもの。いずれも曾利Ⅰ式期の5号住居跡から出土している。

○石錐 (第70図)

石錐は14点の出土のうち、9点を図化した。図化したものでは、左右非対称のつまみを持ち棒状の石錐刃部をもつもの(77、78、80、82、84)、左右対称のつまみ部で徐々に尖る石錐刃部をもつもの(76、79、83)、つまみ部がなく棒状のもの(81)がある。断面形状は三角形(77、78、80、83、84)、四角形(81、82)、レンズ状(76、79)となり、やや対応関係もある。石材は黒曜石(76、78、81、83、84)、流紋岩(77、80)、凝灰岩(79)、チャート(82)がある。79・80は諸磯式期の10号住居跡、77・78は曾利Ⅱ式期の7号住居跡、76は曾利Ⅳ式期の1号住居跡からの出土である。

○横刃型石器 (第71図)

長辺のうち片方に刃部を形成するものを横刃型石器として、1点を図化した。頁岩製で両側から刃部を形成する。曾利Ⅳ式期の6号住居跡出土である。

○原石・石核 (第71図)

原石あるいは石核とされるものは、大形のもののみ3点図示した。86は1号竪穴遺構出土で、88gと大型のもの。87は47号土坑から出土したものである。いずれも自然剥離面(ズリ面)をもっているが、中でも88は全体的にその傾向があり、より原石的と思われる。

○打製石斧 (第71・72図)

打製石斧は剥離による整形が明瞭で形をよく残すもの19点のみ図示した。以下のように分類する。

短冊形：ほぼ長方形となるもの 10点(89-92、94、100、102、105-107)

長台形：刃部に向かって直線的に開くもの 5点(96、97、101、103、104)

バチ形：基部で一度くびれたのち、刃部に向かって開くもの 3点(95、98、99)

分銅形：中間でくびれるもの 1点(93)

石材については砂岩8点、ホルンフェルス7点、頁岩2点、流紋岩1点、凝灰岩1点である。

○磨製石斧 (第73図)

小型のものど大型のもの、定角式と乳棒式がある。108～110は定格式である。108は残存する長径が2.85cmで小型の緑色岩製。109は長径6.15cmで刃部に向かってやや開く形態、緑色岩製。110は蛇紋岩製でほぼ長方形。

111は大型のもので残存長径15.2cm。緑色岩製の乳棒式である。112、113は破片だが、やや大型のものと思われる。112は緑色岩製で乳棒式か。113は硬質細砂凝灰岩製で、同じく乳棒式と思われる。

5号住居跡から108、109、111と、サイズの異なる3点が同一住居の覆土内から出土している。

○尖頭器 (第73図)

尖頭器の可能性のあるものについて2点図示した。114は基部と推定されるもので、押圧剥離により側辺を調整している。115は刃部か。いずれもチャート製で、前期のものど推定され、115は10号住居跡の出土で遺構に伴うと思われるが、114は56号土坑の上層からの出土で、おそらく流れ込みだろう。

○磨石類 (第74～80図)

磨石類は多くの出土が認められた。磨石類には磨石・稜磨石・凹み石・たたき石を含むものとするが、これらは複合的な要素を多く含むため、まとめて報告することとした。

磨石類に使用される礫の素材は、円礫が主体だが、方形礫(角礫)を使用するものも認められるほか、棒状礫や不整形の礫を使用しているものもある。

凹み石には表裏両面に敲打痕が明瞭に残るものが多いが、側面にも敲打痕をもつもの(134、136、144、146、157、158)や、小口をたたき面とするもの(126、134、146、152、153)も認められる。敲打痕には径1～2cmほどのものや、1cm以下の細かい打痕を連続するものなどがある。稜磨石となるものは118、143、147、151などであり、稜をもつ面がザラザラと摩耗している。いわゆるたたき石的な形態となるものは132、133、139、148などがあり、小口面に細かい敲打痕が認められる。なお133は蛤刃状を呈する。

遺構内からも多く出土する。1号住居跡から出土した116は、炉石の側壁の一部として再利用されていた。5号住居跡からは図示しただけでも8点の磨石類が出土し、ピット内から出土するものもある。同じく7号住居跡からも6点の出土がある。

石材は多くは安山岩であり、次に砂岩（花崗質砂岩）、花崗岩もある。

○石皿（第80図・81図）

石皿類の出土量が多いことは、既に本遺跡の特徴として知られている。完形の石皿はないものの、縁辺部をもつ破片が35点、縁辺部以外の石皿と思われる破片が20点ある。ある程度形を残している6点を図示した。いずれも敲打等により整形したものと思われる。162は5号住居跡から出土。163は5号住居跡のvi土坑からの出土で、いずれも浅い機能面を有している。164は15号土坑からの出土で、稜に沿ってススが付着している。165は諸磯式期の57号土坑のもので、窪みはほとんどない。166はデイサイト製で、深い機能面を形成し、ところどころ凹部をもつ。167は攪乱からの出土だが最も形を残すもので、側辺上面に溝状の浅い掘り込みを有している。166以外は安山岩で作られている。

○礫石皿・台石（第81～83図）

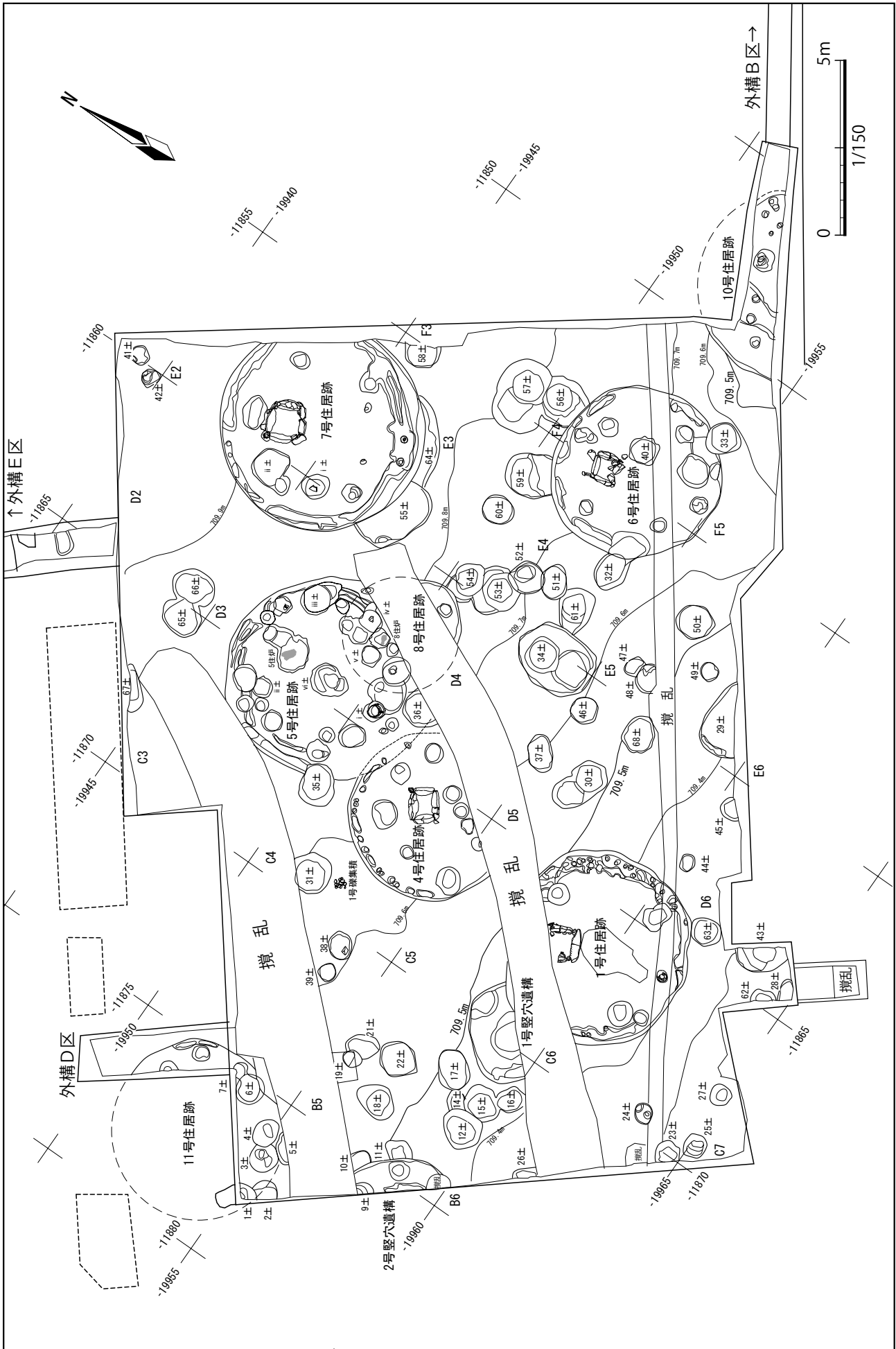
自然礫平坦面をスリ面とするものを礫石皿とした。破片を含め57点の出土があり、うち7点を図示した。168～170は4号住居跡から出土したもので、168はやや窪んだスリ面をもち、169は凹痕が表裏面に認められる。170は30kgを超える大型のもので、住居跡床面に置かれていた。表面をスリ面とし、凹痕もまばらに残されている。171は5号住居跡からの出土で、凸凹の一切ないスリ面を形成する。172は7号住居跡出土で板状のもの、173は同じく7号出土で表裏面に多数の凹痕が残るいわゆる多孔石とされるものである。外構B区出土の174は表裏面にスリ面をもつ。図示したものはすべて安山岩を使用している。

○大型磨石類（第83図）

大型の棒状礫を素材とするもので、175、176は1号住居跡の炉石として再利用されていた。石棒状の断面をもち、175には明瞭な凹痕が表面に認められる。いずれも小口面には敲き痕が残され、ハンマーとして使用していたことも容易に想像がつく。177は外構B区出土で、小口面に敲き痕が残る。

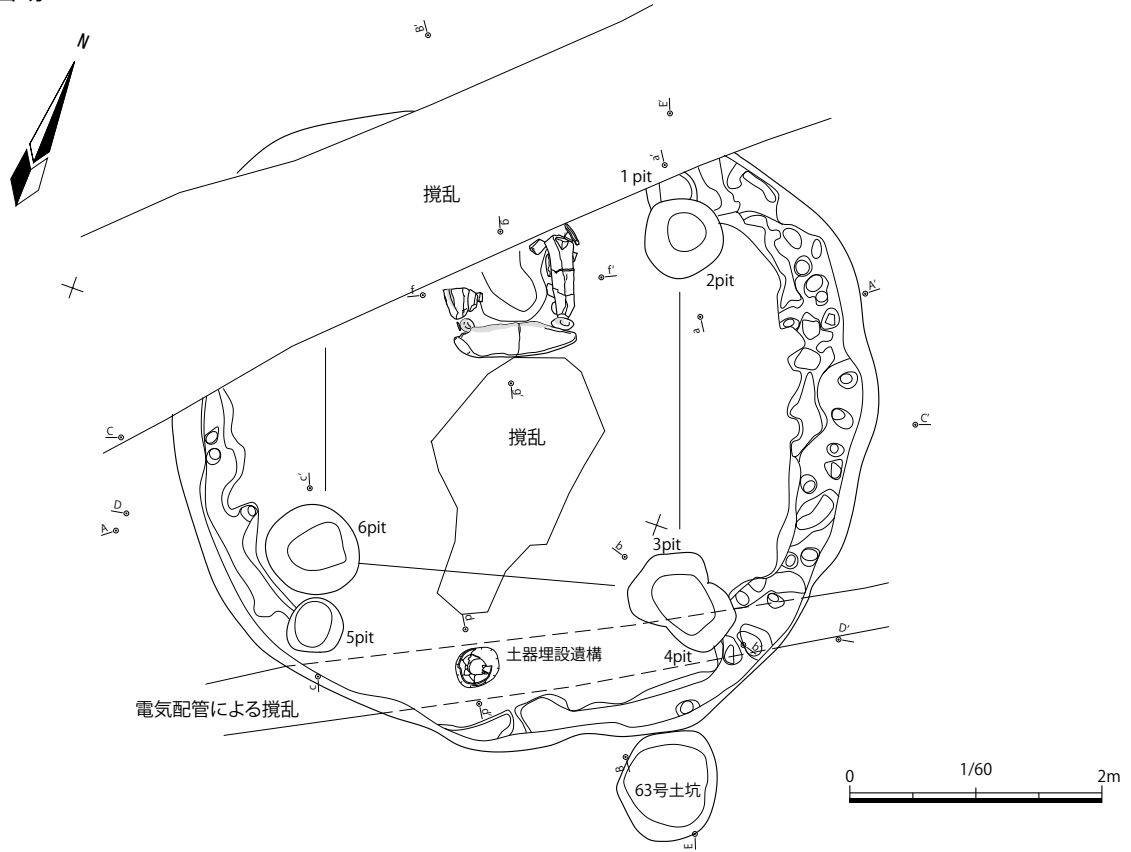
（3）石製品（第84図）

5点の石製品が出土した。1、2は諸磯b式期の30号土坑から出土した有孔石製品で、滑石を素材に2つの小孔があけられている。類例は県内ではあまり知られていない。3はけつ状耳飾りと思われるもので、諸磯b式期の31号土坑から出土。4はけつ状耳飾りで、黒色の滑石製。孔は両方向からあけられた形跡があり、片面ではもう一つ未貫通の孔が認められる。3/5程度残存し、勾玉状を呈している。5はヒスイ（硬玉）製の垂飾で、7号住居跡上層から出土している。



第7図 本調査区遺構分布図

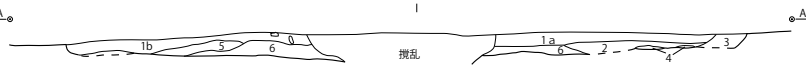
1号住居跡



1号住居東西セクション

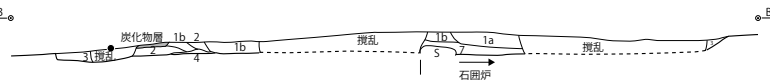
709.6m Δ_a

B-B'

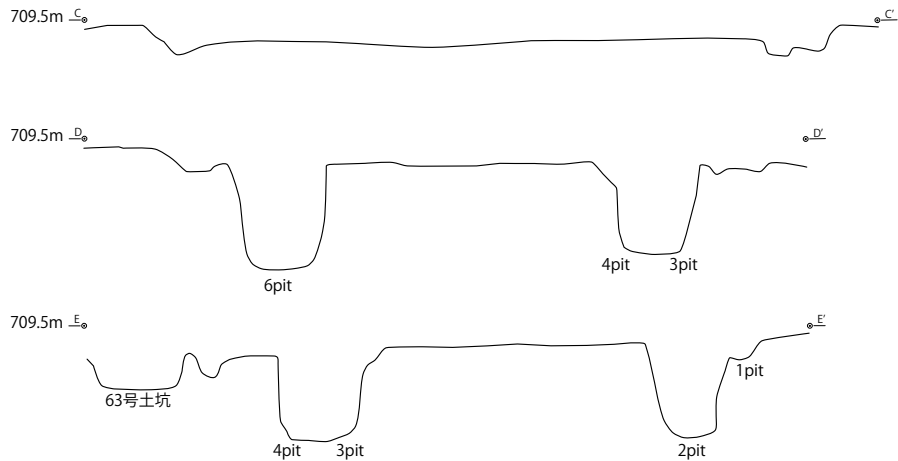


1号住居南北セクション

709.6m Δ_a

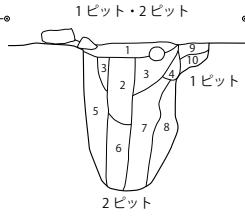


- 1 a. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 締まりなし。黄褐色土ブロック ($\phi 2 \sim 10\text{mm}$) を 5% 含む。炭化物 ($\sim 1\text{cm}$ 長) を 3%、焼土粒子 ($\phi 2 \sim 5\text{mm}$) を 10% 含む。
- 1 b. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 締まりなし。黄褐色土ブロック ($\phi 2 \sim 10\text{mm}$) を 5% 含む。炭化物 ($\phi \sim 3\text{cm}$ 長) を 5%、焼土粒子 ($\phi 2 \sim 5\text{mm}$) を 10% 含む。
2. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 締まり弱い。黄褐色土ブロック ($\phi 5 \sim 30\text{mm}$) を 10% 含む。炭化物 ($\phi \sim 1\text{cm}$ 長) を 3%、焼土粒子 ($\phi 2 \sim 5\text{mm}$) を 3% 含む。
3. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 土層 締まり弱い。黄褐色土ブロック ($\phi 2 \sim 4\text{mm}$) を 5% 含む。炭化物、焼土粒子をわずかに含む。
4. 橙色 (5YR6/8) 土層 締まり強い。焼土ブロックを含む。
5. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 締まりなし。黄褐色土ブロック ($\phi 2 \sim 5\text{mm}$) を 5% 含む。炭化物 ($\phi \sim 1\text{cm}$ 長) を 5%、焼土粒子 ($\phi 2 \sim 15\text{mm}$) を 5% 含む。
6. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 土層 締まり弱い。黄褐色土ブロック ($\phi 5 \sim 50\text{mm}$ 大) を 30% 含む。炭化物粒子 3% 含む。
7. 黒褐色 (10YR3/2) 土層 締まりなし。黄褐色土ブロック ($\phi 2 \sim 5\text{mm}$) を 10% 含む。炭化物 ($\phi \sim 1\text{cm}$ 長) を 15%、焼土粒子 ($\phi \sim 15\text{mm}$) を 5% 含む。



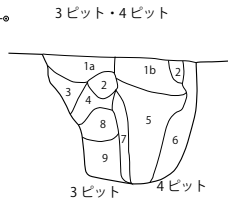
第8図 1号住居跡

709.5m a.



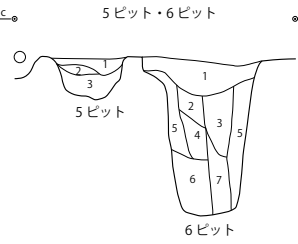
1. 黒褐色 (10YR3/1) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を10%含む。
炭化物粒子 (~5mm長) 3%、焼土ブロック (φ2~5mm) を5%含む。
2. 黒褐色 (10YR3/2) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~20mm) を20%含む。
炭化物粒子 (~5mm長) 3%、焼土土ブロック (φ2~10mm) を10%含む。柱痕。
3. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~10mm) を5%含む。
炭化物粒子 (~5mm長) 5%、焼土粒子 3%含む。
4. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 土層 黄褐色土混じる。
5. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~20mm) を20%含む。
炭化物粒子、焼土粒子 1%含む。
6. 黒褐色 (10YR3/2) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を5%含む。
炭化物粒子、焼土粒子 1%含む。
7. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を3%含む。
炭化物粒子 1%含む。
8. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 土層 明黄褐色土ブロック (φ2~50mm) を50%含む。
9. 黒褐色 (10YR3/2) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を10%含む。
炭化物粒子を3%、焼土粒子を5%含む。
10. 明黄褐色 (10YR6/6) 土層 暗褐色土混じる。

709.5m b.

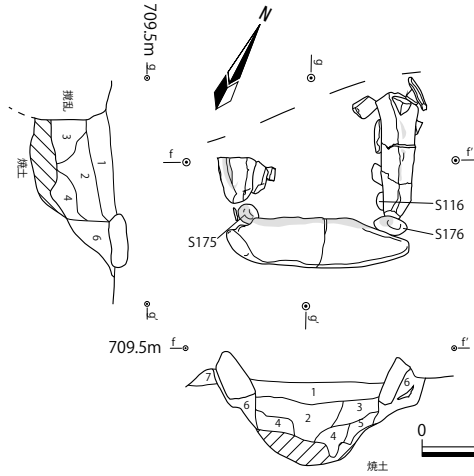


- 1 a. 黒褐色 (10YR3/2) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~7mm) を10%。
炭化物粒子 (φ~1cm大) 3%、焼土粒子 5%含む。
- 1 b. 1 aより黄褐色土ブロックがやや大きい。
2. 明黄褐色 (2.5Y6/6) 土層 地山ブロック。
3. 黄褐色 (2.5Y5/3) 土層 ボソボソしている。黒色土混じる。
4. 灰黄褐色 (10YR4/2) 土層 ボソボソしている。
5. 黒褐色 (10YR3/2) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~20mm) を5%
炭化物粒子を3%、焼土ブロック (φ~10mm) を3%含む。
6. にぶい黄褐色 (10YR5/4) 土層 黄褐色土ブロック (~こぶし大) 混じる。
炭化物粒子 3%含む。
7. 鈍い黄褐色 (10YR5/4) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を20%含む。
炭化物 1%含む。
8. 明黄褐色 (2.5Y6/6) 土層 地山ローム主体。散らかい。埋めた?
9. にぶい黄褐色 (10YR5/4) 土層 明黄褐色土ブロック (φ2~10mm) を3%含む。

709.5m c.

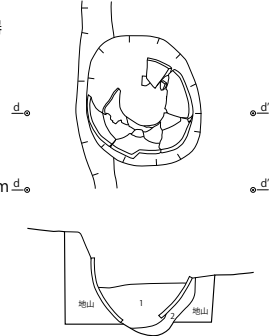


- 5pit
1. 灰黄褐色 (10YR4/2) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~20mm) を10%含む。
炭化物粒子を1%、焼土粒子を5%含む。
2. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~20mm) を30%含む。
炭化物、焼土粒子 1%含む。
3. 暗褐色 (10YR3/2) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を5%含む。
炭化物、焼土粒子 1%含む。
- 6pit
1. 黒褐色 (10YR3/2) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~10mm) を10%含む。
炭化物粒子 (~1cm長) を5%、焼土粒子 5%含む。
2. 灰黄褐色 (10YR4/2) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を5%含む。
炭化物粒子 3%、焼土粒子 1%含む。
3. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~10mm) を15%含む。
炭化物粒子 5%、焼土粒子 3%含む。柱痕か?
4. 2層より黄褐色土ブロックを多く含む。(5%)
5. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~20mm) を10%含む。
炭化物粒子 3%、焼土粒子 3%含む。
6. にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 土層 明黄褐色土 (φ5~30mm) を20%含む。
7. 黒褐色 (10YR3/2) 土層 明黄褐色土ブロック (φ2~10mm) を5%含む。柱痕か?



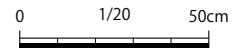
1. 黒褐色 (10YR3/2) 土層 締まりなし。
明褐色土ブロック (φ2~10mm) を5%含む。
炭化物 (~2cm長) を10%含む。
焼土ブロック (φ2~5mm) を3%含む。
2. 黒褐色 (10YR3/2) 土層 締まりなし。
明黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を3%含む。
炭化物 (~5mm長) を7%含む。
焼土ブロック (φ2~5mm) を5%含む。
3. 黒褐色 (10YR3/2) 土層 締まりなし。
明黄褐色土ブロック (φ2mm) を7%含む。
炭化物 (~1cm長) を10%、焼土ブロック (φ2~5mm) を3%含む。
4. 黒褐色 (10YR2/2) 土層 締まりなし。
明黄褐色土ブロック (φ2mm) を10%含む。
炭化物粒子を3%、焼土ブロック (φ2mm) を5%含む。
5. 黒褐色 (10YR3/2) 土層 締まり弱い。
明黄褐色土ブロック (φ2~30mm) を20%含む。
焼土ブロック (φ2~5mm) を5%含む。
6. 褐色土、握りかたに堆積
7. 黒褐色土

埋設土器



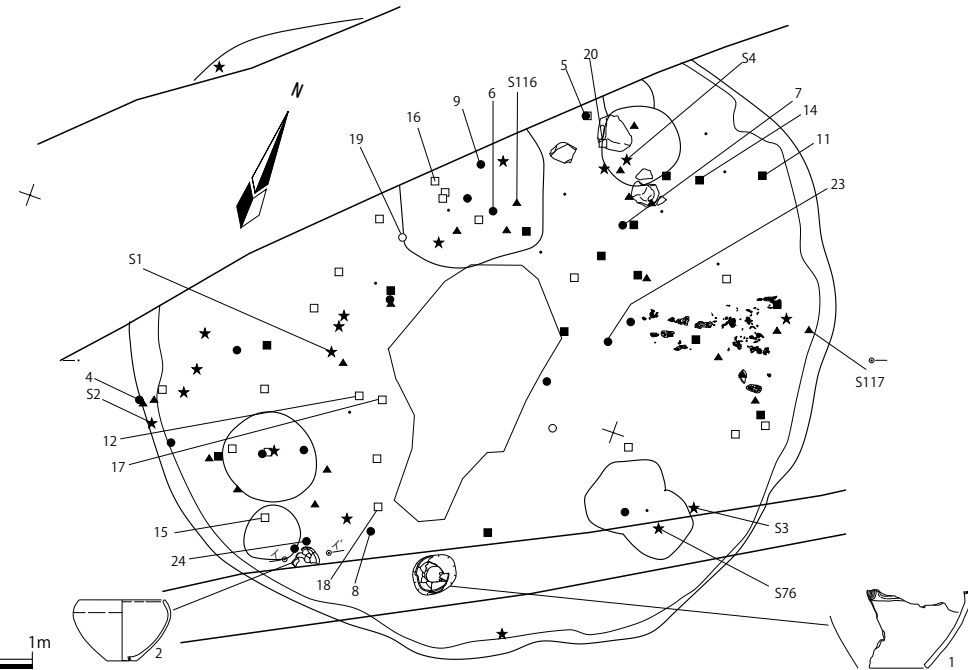
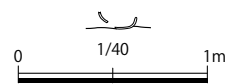
709.4m d.

1. 黒褐色 (10YR3/2) 土層 黄色土ブロック (~φ10cm大) 混じる。
炭化物 1%含む。ボソボソしている。攪乱の土がそのまま入ったか?
2. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 土層 黒色土ブロック含む。握りかた。

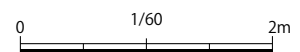
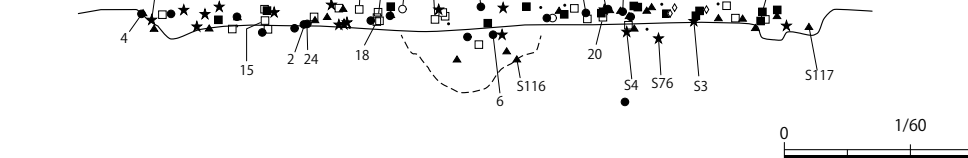


- 諸磯
- 五領ヶ台
- 中期中葉
- 中期後葉
- ▲ 礫・石器
- ★ 黒曜石
- ◇ サンプルその他

709.5m e.

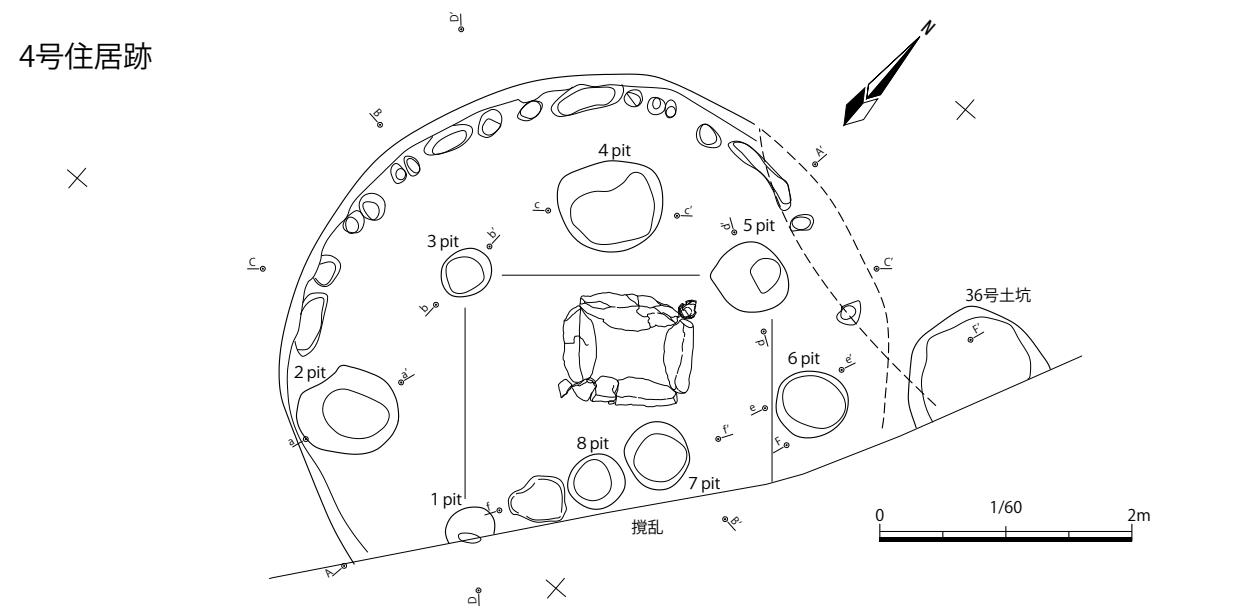


709.6m f.

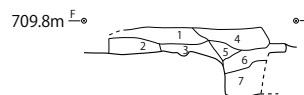


第9図 1号住居跡(2)

4号住居跡



4号住居南北セクション

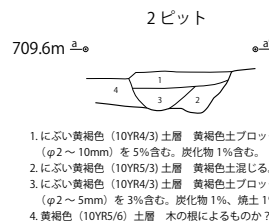
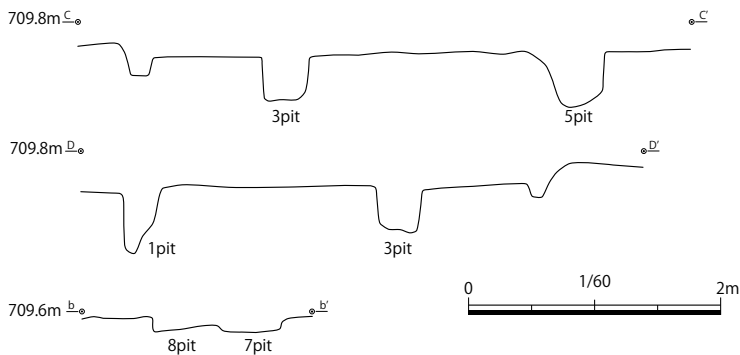


4号住居東西セクション

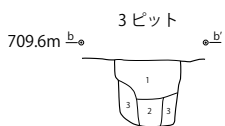


1. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を5%含む。炭化物、焼土を1%含む。
2. 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 土層 締まりなし。黄褐色土ブロック (φ2~20mm) を7%含む。炭化物5%、焼土粒子3%含む。
3. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 土層 締まりなし。黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を10%含む。炭化物、焼土粒子をわずかに含む。
4. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 土層 締まりなし。黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を3%含む。炭化物をわずかに含む。
5. にぶい黄褐色 (10YR5/3) 土層 締まり弱い。黄褐色土と混じる層、貼り床か？
6. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 締まりなし。黄褐色土ブロック (φ2mm) を3%含む。炭化物、焼土粒子をわずかに含む。

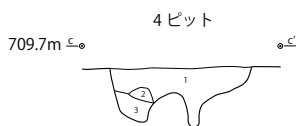
1. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~20mm) を5%含む。炭化物、焼土を1%含む。
2. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黒褐色土混じる。黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を5%含む。炭化物、焼土を1%含む。
3. 黄褐色 (10YR5/6) 土層 地山ブロック主体。炭化物、焼土を1%含む。
4. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2mm) を7%含む。炭化物3%、焼土粒子1%含む。
5. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2mm) を1%含む。炭化物を1%含む。
6. 黒褐色 (10YR2/2) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を10%含む。炭化物、焼土を1%含む。
7. 黒褐色 (10YR2/2) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を7%含む。炭化物、焼土を1%含む。



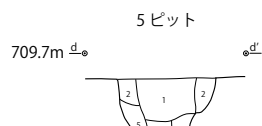
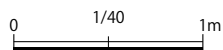
1. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~10mm) を5%含む。炭化物1%含む。
2. にぶい黄褐色 (10YR5/3) 土層 黄褐色土混じる。炭化物3%含む。
3. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を3%含む。炭化物1%、焼土1%含む。
4. 黄褐色 (10YR5/6) 土層 木の根によるものか？



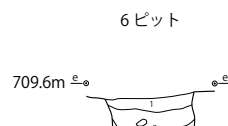
1. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~10mm) を7%含む。炭化物を3%含む。
2. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2mm) を3%含む。
3. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2mm) を1%含む。



1. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~10mm) を5%含む。炭化物を1%含む。
2. 明黄褐色 (10YR6/8) 土層 地山ブロック。
3. 黄褐色 (10YR5/8) 土層 地山に暗褐色土混じる。

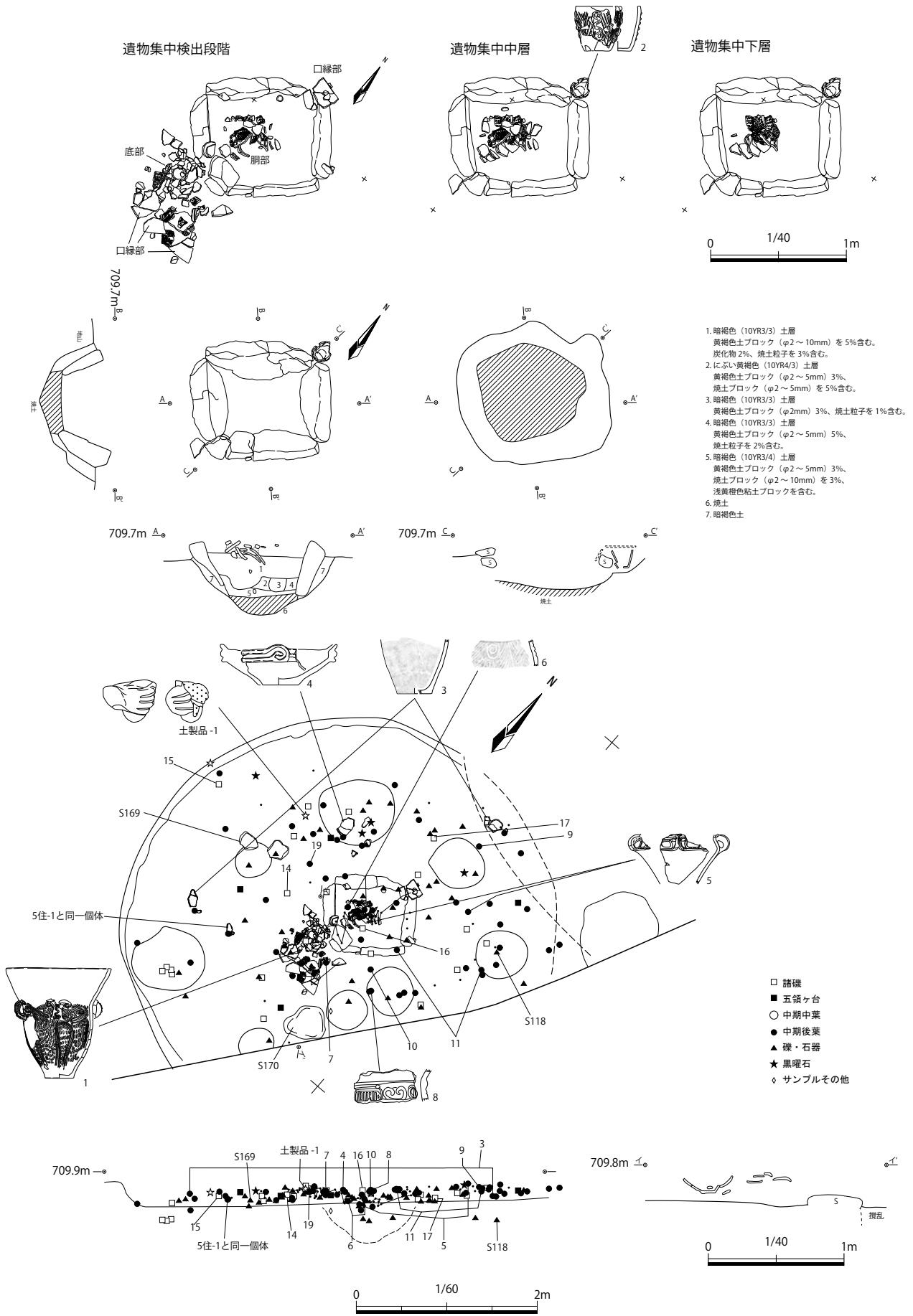


1. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~10mm) を3%含む。炭化物、焼土粒子を1%含む。
2. にぶい黄褐色 (10YR6/4) 土層 地山の崩落。
3. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 土層 明黄褐色土ブロックが混じる。
4. 明黄褐色 (10YR6/6) 土層 締まりなし。地山土に黒褐色土ブロック少量混じる。
5. 明黄褐色 (10YR6/8) 土層 地山 (掘りすぎ)。



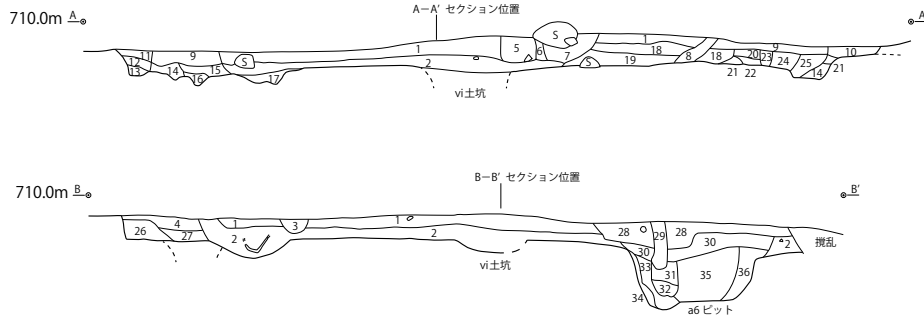
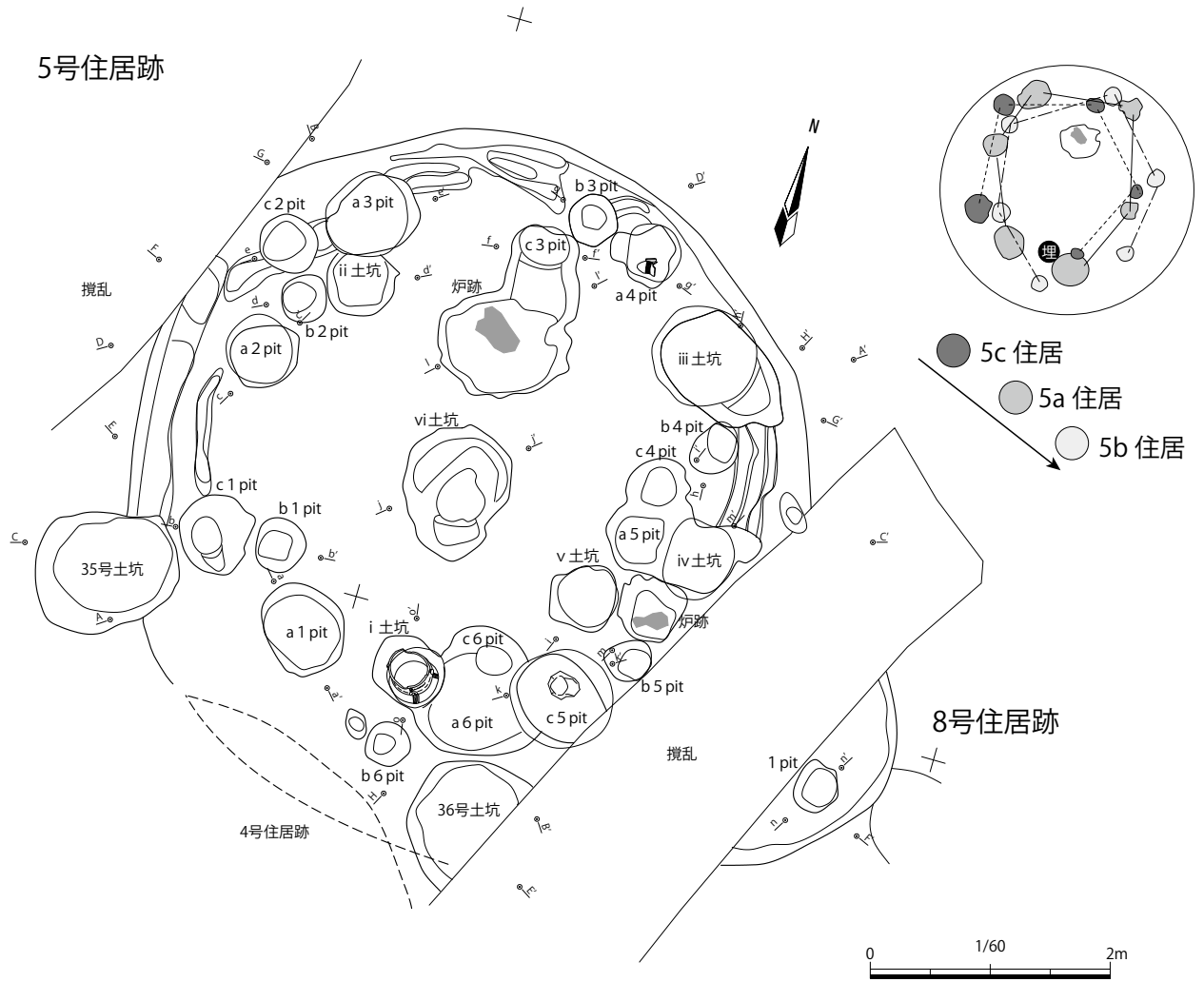
1. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 土層 暗褐色土主体で黄褐色土ブロック (φ5~20mm) 混じる。炭化物粒子1%含む。
2. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~10mm) を5%含む。
3. にぶい黄褐色 (10YR5/3) 土層 暗褐色土混じる。

第10図 4号住居跡



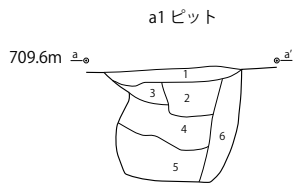
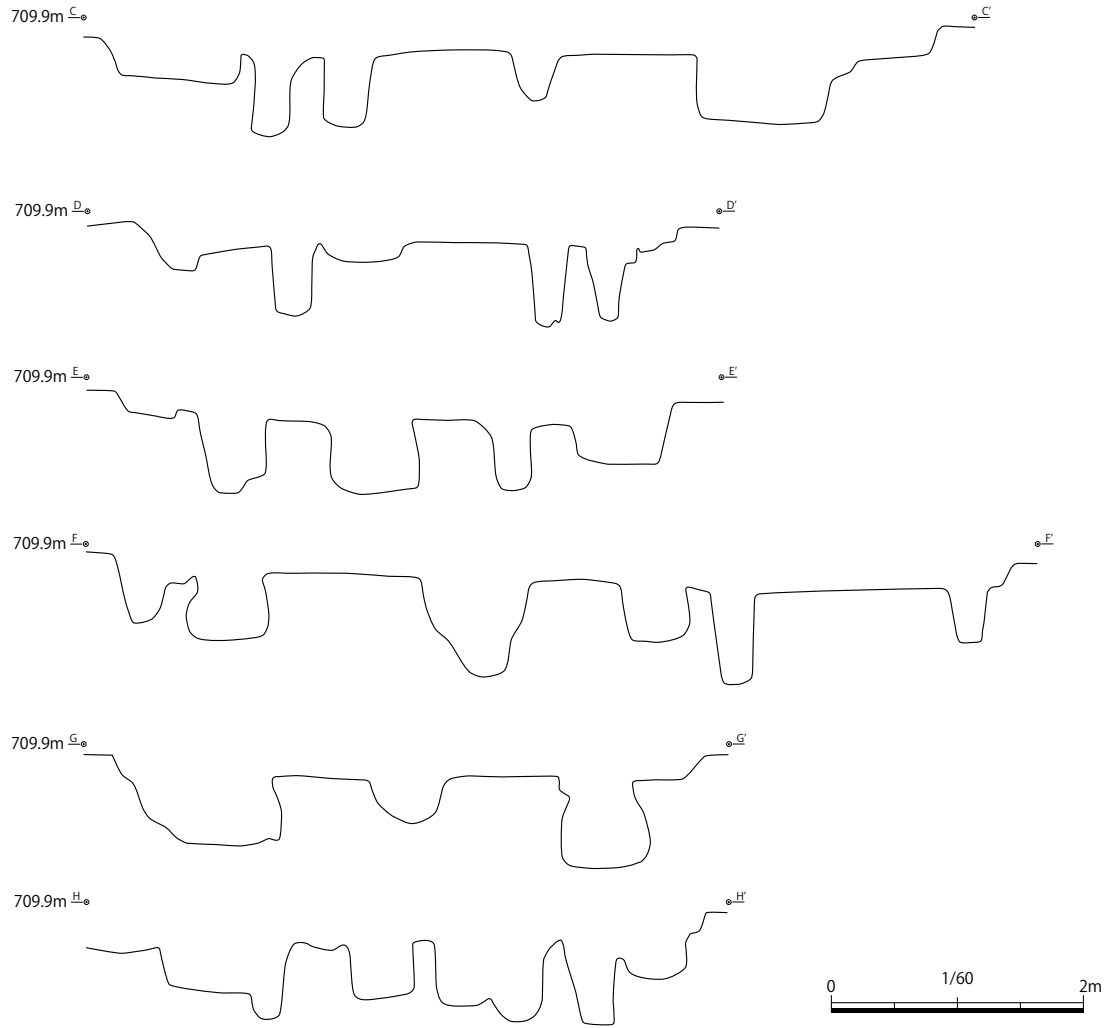
第11図 4号住居跡(2)

5号住居跡

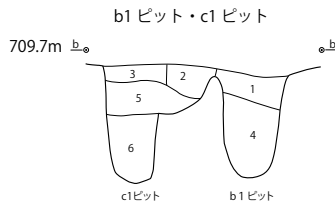


1. 黒褐色 (10YR3/2) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を7%含む。炭化物粒子3%、焼土粒子を5%含む。
2. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2mm以下主体) を10%、黄褐色土ブロック (φ5mm大) を3%含む。炭化物、焼土粒子を1%含む。
3. 黒褐色 (10YR3/2) 土層 黄褐色土ブロック (φ2mm) を3%含む。炭化物粒子1%含む。木の根か?
4. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 土層 こぶし大の黄褐色土ブロック混じる。同ブロック (φ2mm大) を5%含む。炭化物、焼土を1%含む。
5. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を5%含む。炭化物、焼土を1%含む。
6. にぶい黄褐色 (10YR5/4) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を1%含む。
7. 黒褐色 (10YR3/2) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を1%含む。炭化物、焼土粒子を1%含む。上層の新しい時期の土坑の可能性あり。
8. 黄褐色 (10YR5/6) 土層 φ10mm以下の黄褐色土ブロック主体で、暗褐色土が混じる。
9. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を10%含む。炭化物粒子1%、焼土粒子を3%含む。
10. にぶい黄褐色 (10YR5/4) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~30mm) を20%含む。
11. 褐色 (10YR4/4) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~10mm) を5%含む。炭化物、焼土を1%含む。
12. 黒褐色 (10YR3/2) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を3%含む。
13. にぶい黄褐色 (10YR5/4) 土層 黄褐色混じる。炭化物1%含む。
14. にぶい黄褐色 (10YR5/4) 土層 明黄褐色土ブロック (φ2~50mm) を30%含む。炭化物1%含む。
15. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~10mm) を3%含む。
16. にぶい黄褐色 (10YR5/3) 土層 黄褐色土混じる。炭化物1%含む。
17. 灰黄褐色 (10YR4/2) 土層 黄褐色土ブロック (φ2mm) を2%含む。炭化物、焼土粒子を1%含む。
18. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を5%含む。炭化物、焼土粒子を1%含む。
19. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~30mm) を20%含む。炭化物粒子を1%含む。
20. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2mm以下) を1%含む。炭化物1%含む。
21. 明黄褐色 (10YR6/8) 土層 地山ブロック。
22. 黒褐色 (10YR3/2) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を3%含む。炭化物1%含む。
23. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 木の根による攪乱。
24. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2mm以下) を5%含む。炭化物3%含む。
25. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~10mm) を7%含む。炭化物を1%含む。
26. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~30mm) を15%含む。
27. 黒褐色 (10YR3/2) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~7mm) を5%含む。焼土粒子を1%含む。
28. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2mm大) を7%、同 (φ5~20mm) を3%含む。炭化物、焼土を1%含む。
29. にぶい黄褐色 (10YR5/4) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~15mm) を10%含む。
30. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を5%含む。炭化物を1%含む。
31. 黒褐色 (10YR3/2) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を5%含む。炭化物粒子を1%含む。
32. 明黄褐色 (10YR6/6) 土層 こぶし大の黄褐色土ブロック主体。
33. 黒褐色 (10YR3/1) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を2%含む。炭化物粒子を1%含む。
34. にぶい黄褐色 (10YR5/3) 土層 地山ブロックの混じる層。
35. 黒褐色 (10YR3/2) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~15mm) を7%含む。炭化物を1%含む。
36. 灰黄褐色 (10YR4/2) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を5%含む。

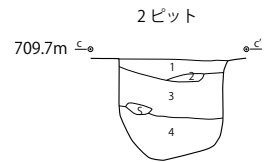
第12図 5号住居跡・8号住居跡



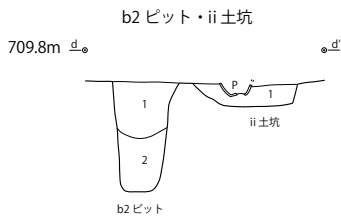
1. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を10%含む。炭化物1%含む。
2. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~20mm) を15%含む。
3. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を3%含む。炭化物1%含む。
4. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を5%含む。炭化物1%含む。
5. にぶい黄褐色 (10YR5/4) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~10mm) を3%含む。
6. にぶい黄褐色 (10YR5/4) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~30mm) を15%含む。



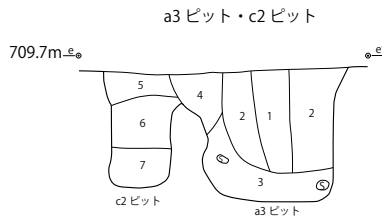
1. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~30mm) を7%含む。
2. にぶい黄褐色 (10YR5/4) 土層 黄褐色土ブロック (φ5~30mm) を15%含む。
3. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を10%含む。炭化物1%含む。
4. 黒褐色 (10YR2/2) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~10mm) を5%含む。
5. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~7mm) を7%含む。炭化物1%含む。
6. 黒褐色 (10YR2/2) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を3%含む。



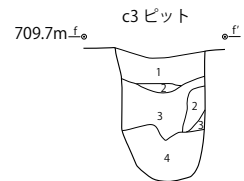
1. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を15%含む。炭化物1%含む。
2. 明黄褐色 (10YR6/6) 土層 地山ブロック。
3. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を10%含む。炭化物1%含む。
4. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~20mm) を7%含む。



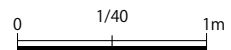
1. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~10mm) を10%含む。炭化物1%含む。
2. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を3%含む。



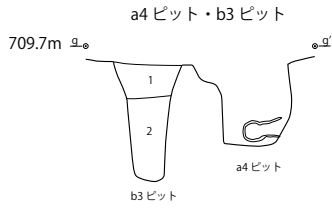
1. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~10mm) を3%含む。炭化物1%含む。
2. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を7%含む。炭化物1%含む。
3. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~20mm) を15%含む。ボンボソしている。
4. にぶい黄褐色 (10YR5/4) 土層 明黄褐色土 (地山) ブロック混じる。
5. にぶい黄褐色 (10YR5/4) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~30mm) を20%含む。炭化物1%含む。
6. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~20mm) を7%含む。
7. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を3%含む。



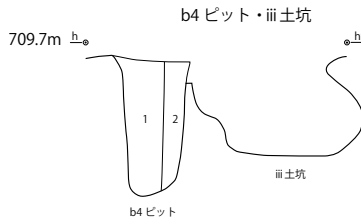
1. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を2%含む。炭化物粒子1%含む。
2. 明黄褐色 (10YR6/6) 土層 地山のブロック。
3. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~10mm) を5%含む。
4. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~50mm) を20%含む。



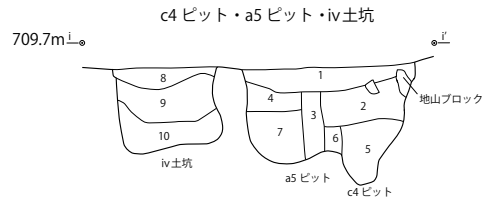
第13図 5号住居跡・8号住居跡(2)



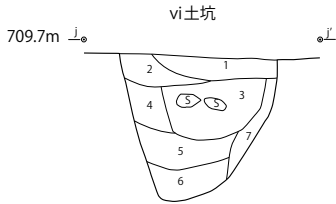
1. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を5%含む。炭化物1%含む。
2. 黒褐色 (10YR3/2) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を3%含む。



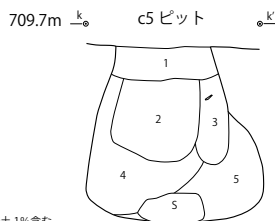
1. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を7%含む。炭化物1%含む。
2. にふい黄褐色 (10YR4/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~20mm) を15%含む。



1. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を5%含む。炭化物、焼土1%含む。
2. 黒褐色 (10YR3/2) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~10mm) を3%含む。炭化物1%含む。
3. 黒褐色 (10YR3/2) 土層 黄褐色粒子1%含む。
4. 黒褐色 (10YR3/2) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~7mm) を10%含む。炭化物1%、焼土1%含む。
5. 黒褐色 (10YR3/1) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を1%含む。
6. 黒褐色 (10YR3/2) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~10mm) を5%含む。
7. 黒褐色 (10YR3/1) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を2%含む。炭化物1%含む。
8. にふい黄褐色 (10YR4/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~15mm) を10%含む。炭化物、焼土粒子を1%含む。
9. 黒褐色 (10YR3/2) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~10mm) を1%含む。炭化物1%含む。
10. 黒褐色 (10YR3/2) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を1%含む。



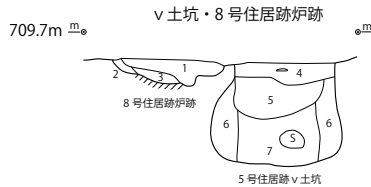
1. にふい黄褐色 (10YR4/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~30mm) を15%含む。炭化物3%、焼土1%含む。
2. にふい黄褐色 (10YR4/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~7mm) を5%含む。炭化物1%、焼土1%含む。
3. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~20mm) を10%含む。炭化物1%、焼土1%含む。
4. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を10%含む。炭化物1%、焼土1%含む。
5. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~10mm) を7%含む。炭化物1%含む。
6. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~20mm) を10%含む。炭化物1%含む。
7. にふい黄褐色 (10YR4/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を5%含む。黄褐色砂混じる。



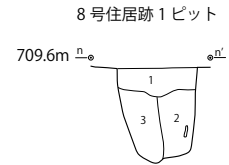
1. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 褐色土ブロック混じる。黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を10%含む。炭化物1%、焼土1%含む。
2. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~10mm) を20%含む。炭化物1%、焼土1%含む。
3. にふい黄褐色 (10YR4/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~20mm) を15%含む。炭化物2%含む。
4. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~10mm) を10%含む。炭化物1%含む。
5. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2mm大) を5%含む。炭化物粒子1%含む。



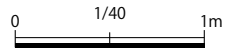
1. 灰褐色 (7.5YR4/2) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~20mm) を5%含む。炭化物を1%、焼土ブロック (φ2~20mm) を5%含む。
2. にふい黄褐色 (10YR4/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~10mm) を20%含む。炭化物1%、焼土ブロック (φ2~5mm) を1%含む。
3. 褐色 (7.5YR4/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を5%含む。焼土ブロック (φ2~10mm) を10%含む。
4. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ5mm) を1%含む。焼土1%含む。
5. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 褐色土混じる。黄褐色土ブロック (φ2~10mm) を2%含む。炭化物1%、焼土粒子を1%含む。



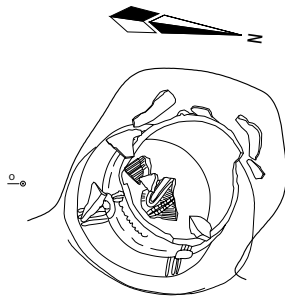
1. 暗褐色 (7.5YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を10%含む。炭化物3%、焼土ブロック (φ2~10mm) を5%含む。
2. 明黄褐色 (10YR6/6) 土層 地山の掘りすぎ。
3. 暗褐色 (7.5YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を1%含む。炭化物1%、焼土ブロック (φ2~20mm) を20%含む。
4. にふい黄褐色 (10YR4/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~10mm) を5%含む。炭化物1%、焼土1%含む。
5. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を3%含む。炭化物1%含む。
6. にふい黄褐色 (10YR4/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を1%含む。
7. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色砂微量混じる。



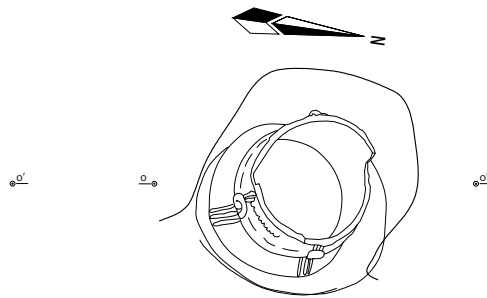
1. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を5%含む。炭化物1%含む。
2. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~10mm) を10%含む。
3. 黒褐色 (10YR3/2) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~10mm) を7%含む。炭化物1%含む。



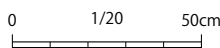
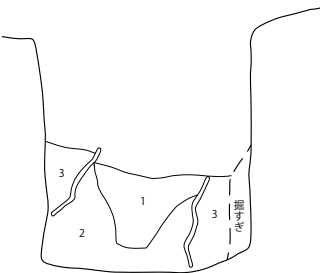
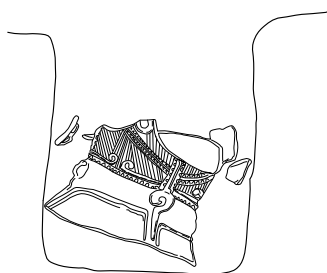
5号住居跡埋甕 (i土坑)



709.7m

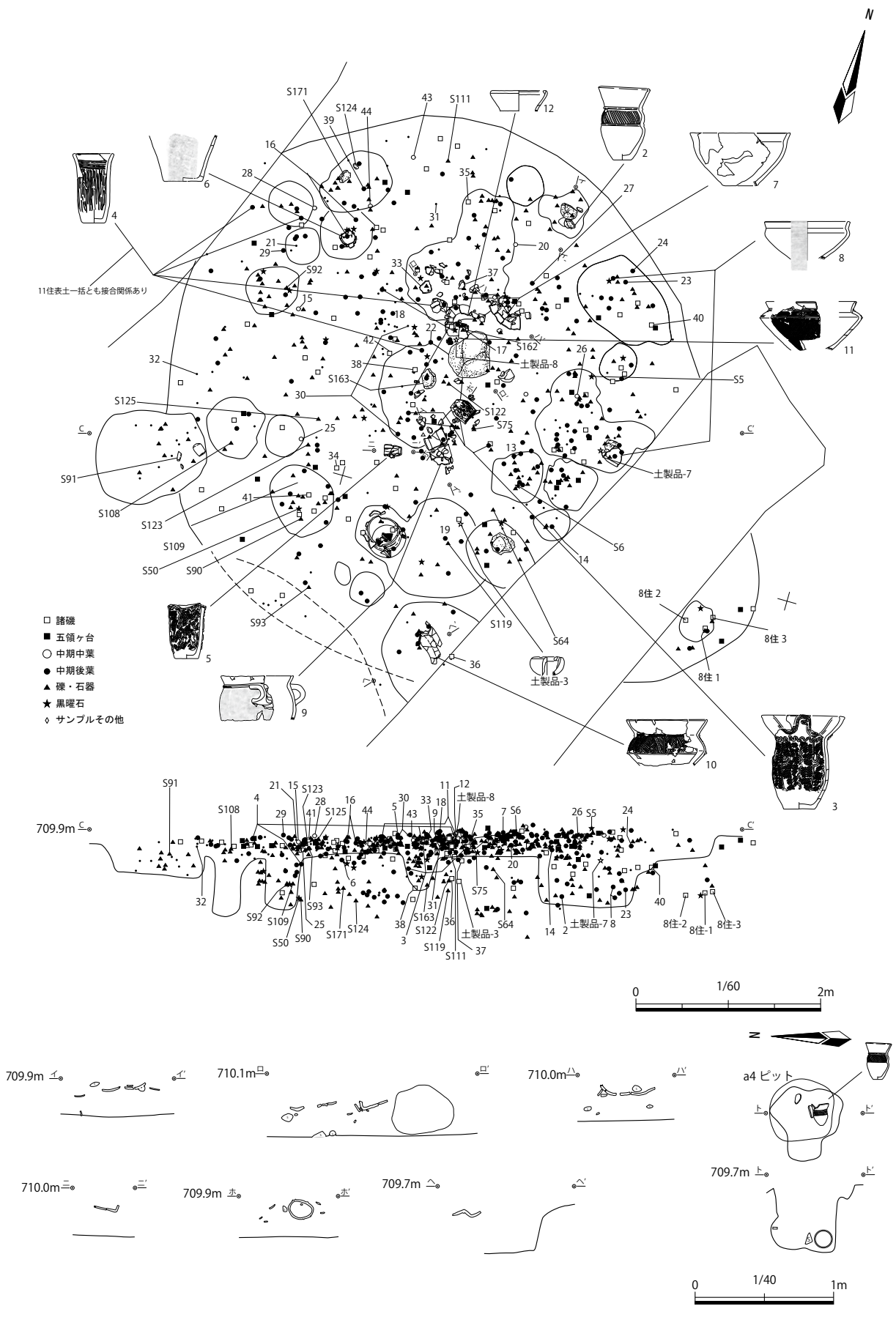


709.7m



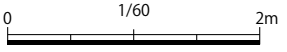
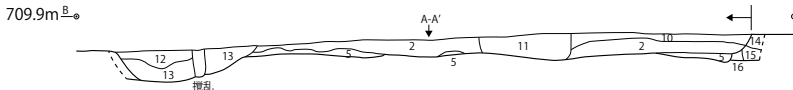
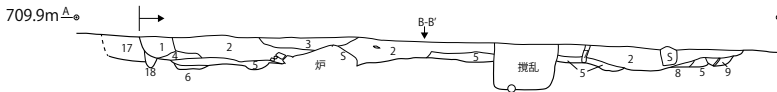
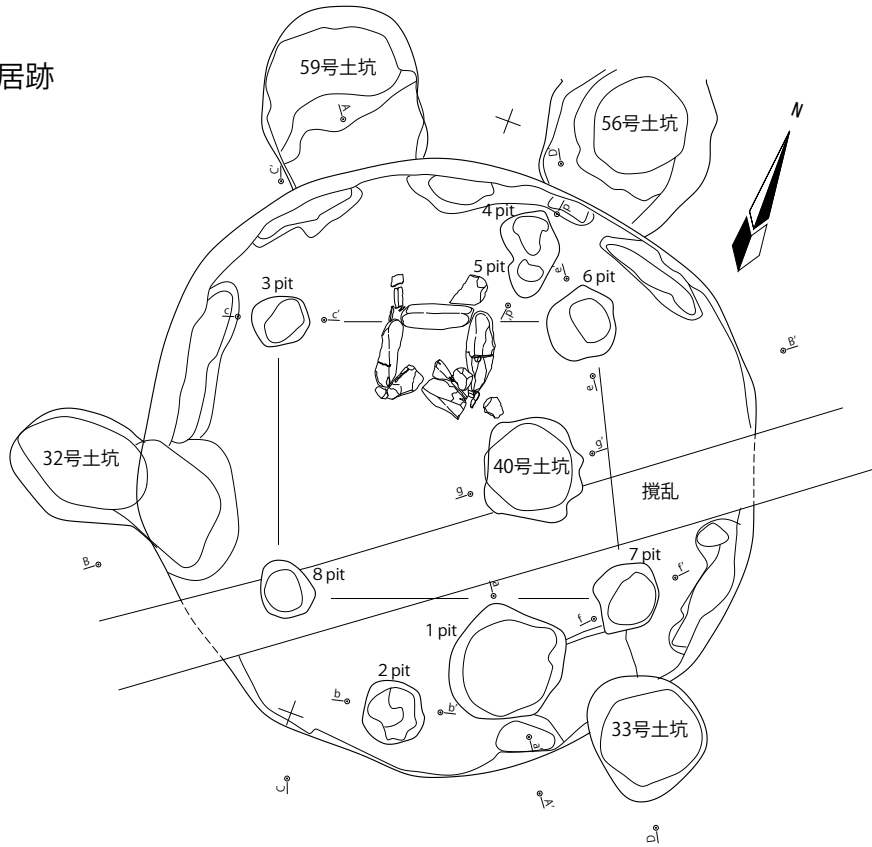
1. 暗褐色 (10YR3/2) 土層、黄褐色土ブロック (φ2~5mm) 5%含む。
2. 暗褐色 (10YR3/2) 土層、黄褐色土ブロック (φ10mm以下) 3%含む。しまりがある。
3. にふい黄褐色 (10YR4/3) 土層、黄褐色土ブロック (φ2~5mm) 7%含む。

第14図 5号住居跡・8号住居跡(3)

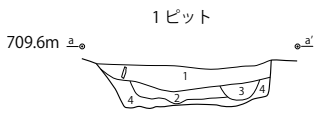


第15図 5号住居跡・8号住居跡(4)

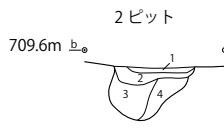
6号住居跡



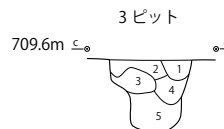
1. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~10mm) を3%含む。炭化物1%、焼土1%含む。
2. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を5%含む。炭化物3%、焼土1%含む。
3. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2mm) を3%含む。炭化物5%、焼土2%含む。
4. 明黄褐色 (10YR6/6) 土層 炭化物1%含む。地山ブロック。
5. にぶい黄褐色 (10YR5/3) 土層 暗褐色土と混じる層。
6. 明黄褐色 (10YR6/6) 土層 ポソポソしている。地山の堆積。
7. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 ポソポソしている。木の根。
8. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~10mm) を3%含む。炭化物3%、焼土1%含む。
9. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を3%含む。炭化物1%含む。
10. 暗褐色 (7.5YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を3%含む。炭化物3%、焼土1%含む。
11. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2mm) を7%含む。炭化物5%、焼土2%含む。
12. 黒褐色 (10YR3/2) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を3%含む。炭化2%、焼土1%含む。
13. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~20mm) を10%含む。炭化物1%含む。
- *1~13層は住居の覆土
14. 暗褐色 (7.5YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を1%含む。炭化物1%含む。褐色土ブロック混じる。
15. 黒褐色 (10YR3/2) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を1%含む。
16. にぶい黄褐色 (10YR5/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~10mm) を5%含む。
17. にぶい黄褐色 (10YR5/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~10mm) を3%含む。炭化物1%含む。
18. にぶい黄褐色 (10YR5/4) 土層 黄褐色土が混じる層。
- *14~18層は住居外の土層。



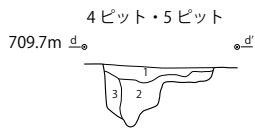
1. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を7%含む。炭化物1%、焼土1%含む。
2. にぶい黄褐色 (10YR5/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~10mm) を5%含む。炭化物1%含む。
3. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2mm) を3%含む。炭化物3%、焼土1%含む。
4. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~30mm) を30%含む。



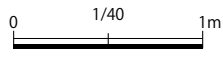
1. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) 10%含む。炭化物1%含む。
2. にぶい黄褐色 (10YR5/3) 土層 暗褐色土混じる。
3. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~30mm) を30%含む。
4. 明黄褐色 (10YR6/6) 土層 締まりのない地山の土。埋め戻しているか？



1. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~10mm) を10%含む。炭化物1%、焼土1%含む。
2. にぶい黄褐色 (10YR5/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~30mm) を40%含む。炭化物1%含む。
3. 明黄褐色 (10YR6/6) 土層 地山のブロック。
4. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を7%含む。炭化物1%含む。
5. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 土層

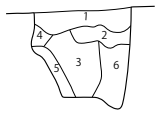


1. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を5%含む。炭化物2%、焼土1%含む。
2. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を3%含む。炭化物1%含む。
3. 明黄褐色 (10YR6/6) 土層 暗褐色土混じる。



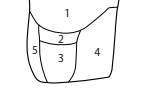
第16図 6号住居跡

709.7m ㉔ 6ピット



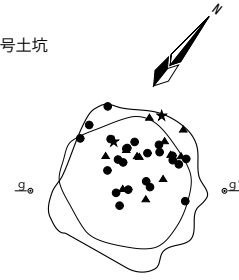
1. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~10mm) を10%含む。炭化物1%含む。
2. にふい黄褐色 (10YR5/3) 土層 地山ブロック主体。暗褐色土混じる。
3. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を5%含む。炭化物1%含む。
4. 黒褐色 (10YR3/2) 土層 黄褐色土ブロック (φ2mm) を1%含む。
5. にふい黄褐色 (10YR5/3) 土層
6. にふい黄褐色 (10YR4/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~30mm) を20%含む。炭化物1%含む。

709.6m ㉕ 7ピット

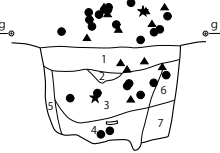


1. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を5%含む。炭化物1%、焼土1%含む。
2. にふい黄褐色 (10YR5/3) 土層 黄褐色砂主体。黄褐色土ブロック (φ5mm) を10%含む。焼土1%含む。
3. 黒褐色 (10YR3/2) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を5%含む。炭化物1%、焼土1%含む。
4. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~10mm) を10%含む。炭化物1%、焼土1%含む。
5. 明黄褐色 (10YR6/6) 土層 暗褐色土混じる。

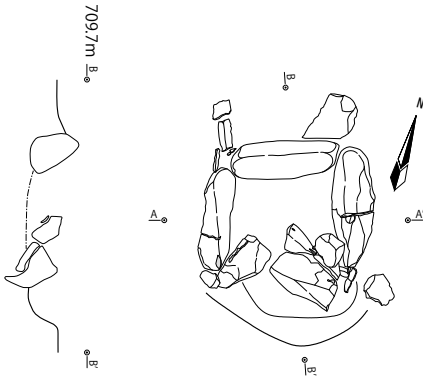
40号土坑



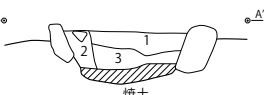
709.6m ㉖



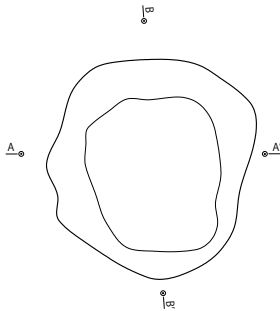
1. 暗褐色 (10YR3/2) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~10mm) を7%含む。炭化物3%、焼土3%含む。
2. にふい赤褐色 (5YR4/4) 土層 焼土が30%混じる。
3. 黒褐色 (7.5YR3/2) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~15mm) を15%含む。炭化物3%、焼土2%含む。
4. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~10mm) を5%含む。炭化物1%含む。
5. にふい黄褐色 (10YR4/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を3%含む。
6. にふい黄褐色 (10YR5/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2mm) を7%含む。
7. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を10%含む。焼土1%含む。



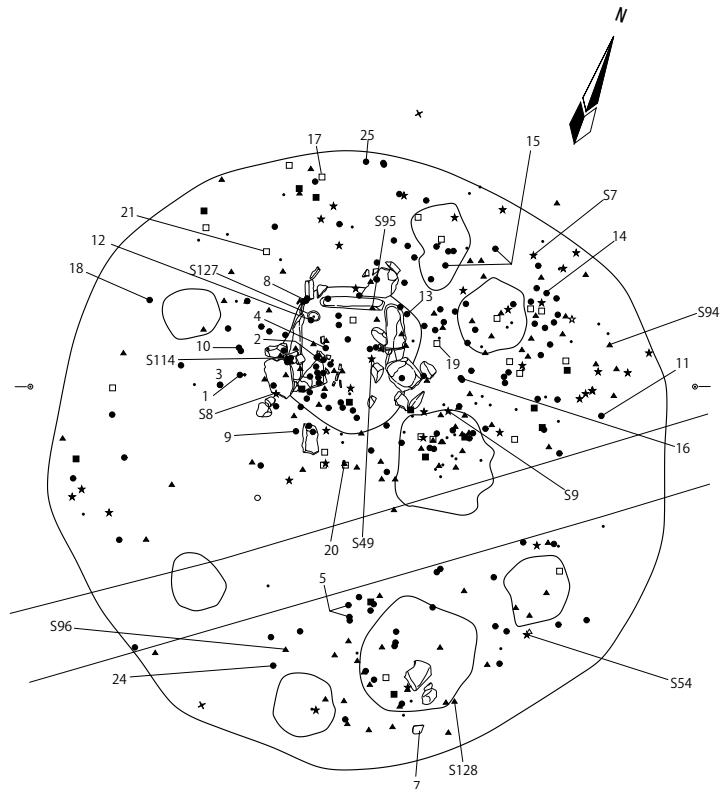
709.7m ㉗



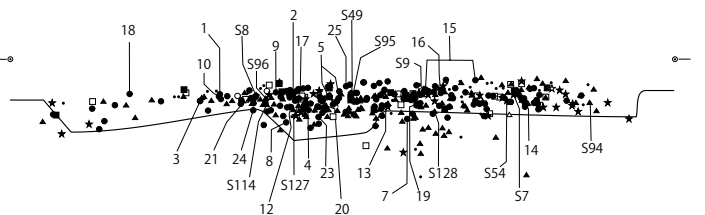
1. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を7%含む。炭化物3%、焼土ブロック (φ2~5mm) 5%含む。
2. にふい黄褐色 (10YR4/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を15%含む。焼土ブロック (φ2~5mm) 3%含む。
3. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~10mm) を10%含む。炭化物1%、焼土ブロック (φ2~10mm) を含む。



0 1/40 1m



710.0m ㉘

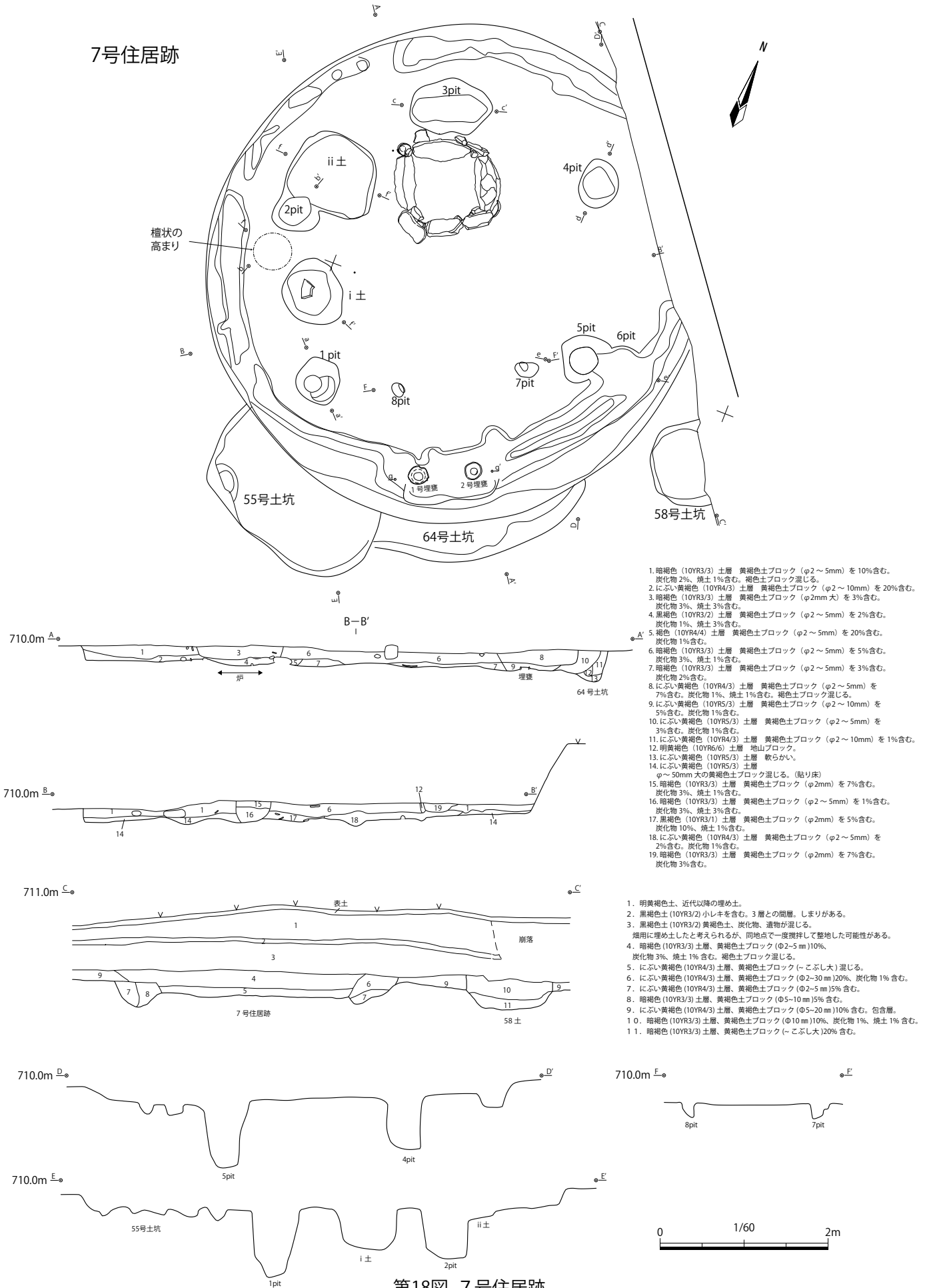


0 1/60 2m

- 諸礎
- 五領ヶ台
- 中期中葉
- 中期後葉
- ▲ 礫・石器
- ★ 黒曜石
- ◇ サンプルその他

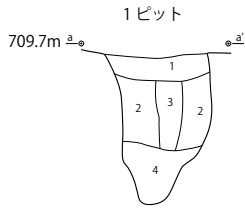
第17図 6号住居跡(2)

7号住居跡

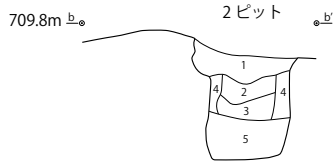


1. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を10%含む。炭化物2%、焼土1%含む。褐色土ブロック混じる。
 2. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~10mm) を20%含む。
 3. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2mm大) を3%含む。炭化物3%、焼土3%含む。
 4. 黒褐色 (10YR3/2) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を2%含む。炭化物1%、焼土3%含む。
 5. 褐色 (10YR4/4) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を20%含む。炭化物1%含む。
 6. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を5%含む。炭化物3%、焼土1%含む。
 7. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を3%含む。炭化物2%含む。
 8. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を7%含む。炭化物1%、焼土1%含む。褐色土ブロック混じる。
 9. にぶい黄褐色 (10YR5/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~10mm) を5%含む。炭化物1%含む。
 10. にぶい黄褐色 (10YR5/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を3%含む。炭化物1%含む。
 11. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~10mm) を1%含む。
 12. 明黄褐色 (10YR6/6) 土層 地山ブロック。
 13. にぶい黄褐色 (10YR5/3) 土層 軟らかい。
 14. にぶい黄褐色 (10YR5/3) 土層 φ~50mm大の黄褐色土ブロック混じる。(貼床)
 15. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2mm) を7%含む。炭化物3%、焼土1%含む。
 16. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を1%含む。炭化物3%、焼土3%含む。
 17. 黒褐色 (10YR3/1) 土層 黄褐色土ブロック (φ2mm) を5%含む。炭化物10%、焼土1%含む。
 18. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を2%含む。炭化物1%含む。
 19. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2mm) を7%含む。炭化物3%含む。
-
1. 明黄褐色土、近代以降の埋め土。
 2. 黒褐色土 (10YR3/2) 小石を含む。3層との間層。しまりがある。
 3. 黒褐色土 (10YR3/2) 黄褐色土、炭化物、遺物が混じる。畑用に埋め土したと考えられるが、同地点で一度掘削して整地した可能性がある。
 4. 暗褐色 (10YR3/3) 土層、黄褐色土ブロック (φ2-5mm) 10%、炭化物3%、焼土1%含む。褐色土ブロック混じる。
 5. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 土層、黄褐色土ブロック (~こぶし大) 混じる。
 6. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 土層、黄褐色土ブロック (φ2-30mm) 20%、炭化物1%含む。
 7. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 土層、黄褐色土ブロック (φ2-5mm) 5%含む。
 8. 暗褐色 (10YR3/3) 土層、黄褐色土ブロック (φ5-10mm) 5%含む。
 9. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 土層、黄褐色土ブロック (φ5-20mm) 10%含む。包含層。
 10. 暗褐色 (10YR3/3) 土層、黄褐色土ブロック (φ10mm) 10%、炭化物1%、焼土1%含む。
 11. 暗褐色 (10YR3/3) 土層、黄褐色土ブロック (~こぶし大) 20%含む。

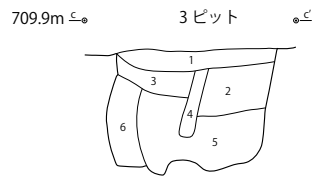
第18図 7号住居跡



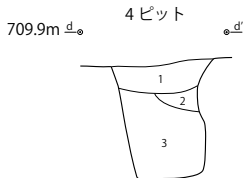
1. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2-5mm) を 10%含む。炭化物 3%、焼土 1%含む。
2. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ5-20mm) を 15%含む。炭化物 1%、焼土 1%含む。
3. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2-5mm) を 7%含む。炭化物 3%含む。
4. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ5-20mm) を 20%含む。埋め戻したような土。



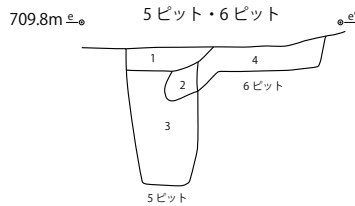
1. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2-5mm) を 10%含む。炭化物 1%含む。
2. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2mm) を 5%含む。炭化物 1%含む。
3. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2mm) を 3%含む。
4. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ5-10mm) を 10%含む。
5. 黒褐色 (10YR3/2) 土層 黄褐色土ブロック (φ10-20mm) を 5%含む。



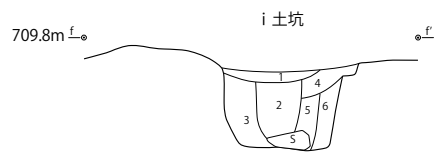
1. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ5~10mm) を 10%含む。炭化物 2%、焼土 1%含む。
2. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ5mm) を 15%含む。炭化物 2%、焼土 2%含む。
3. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~10mm) を 20%含む。炭化物 3%、焼土 1%含む。
4. 黒褐色 (10YR3/2) 土層 黄褐色土ブロック (φ2mm) を 2%含む。炭化物 1%含む。
5. 黒褐色 (10YR3/2) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~10mm) を 3%含む。炭化物 2%含む。
6. 黒褐色 (10YR3/2) 土層 黄褐色土ブロック (φ5~10mm) を 5%含む。炭化物 1%含む。



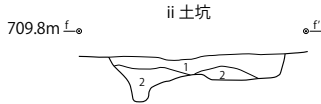
1. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ5mm) を 5%含む。炭化物 3%、焼土 1%含む。
2. にぶい黄褐色 (10YR5/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ10mm) を 50%含む。
3. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を 7%含む。炭化物 1%含む。



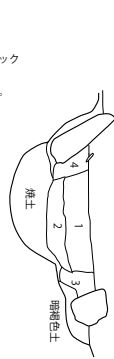
1. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2-5mm) を 5%含む。炭化物 1%含む。
2. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ10-20mm) を 30%含む。炭化物 1%含む。
3. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2-5mm) を 10%含む。炭化物 1%含む。
4. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2-10mm) を 5%含む。



1. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2-5mm) を 20%含む。炭化物 10%、焼土 1%含む。
2. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ5mm) を 5%含む。炭化物 2%、焼土 1%含む。
3. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2-20mm) を 10%含む。炭化物 1%、焼土 1%含む。
4. にぶい黄褐色 (10YR5/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2-5mm) を 20%含む。炭化物 1%、焼土 1%含む。
5. にぶい黄褐色 (10YR5/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2-5mm) を 10%含む。
6. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2-10mm) を 7%含む。炭化物 1%、焼土 1%含む。

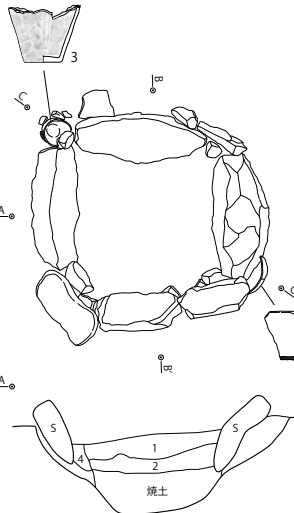


1. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ5-10mm) を 5%含む。炭化物 1%含む。
2. にぶい黄褐色 (10YR5/3) 土層 地山土混じる。

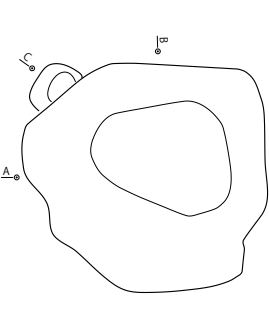


709.9m B₀

709.9m A₀



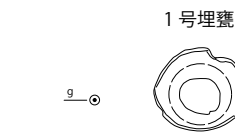
709.9m C₀



710.0m D₀

709.9m B₁

709.9m A₁

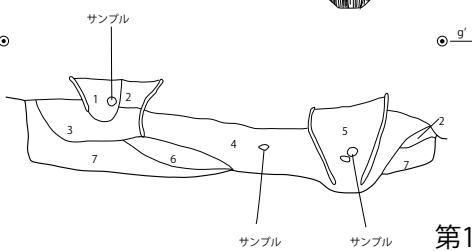


709.8m B₀



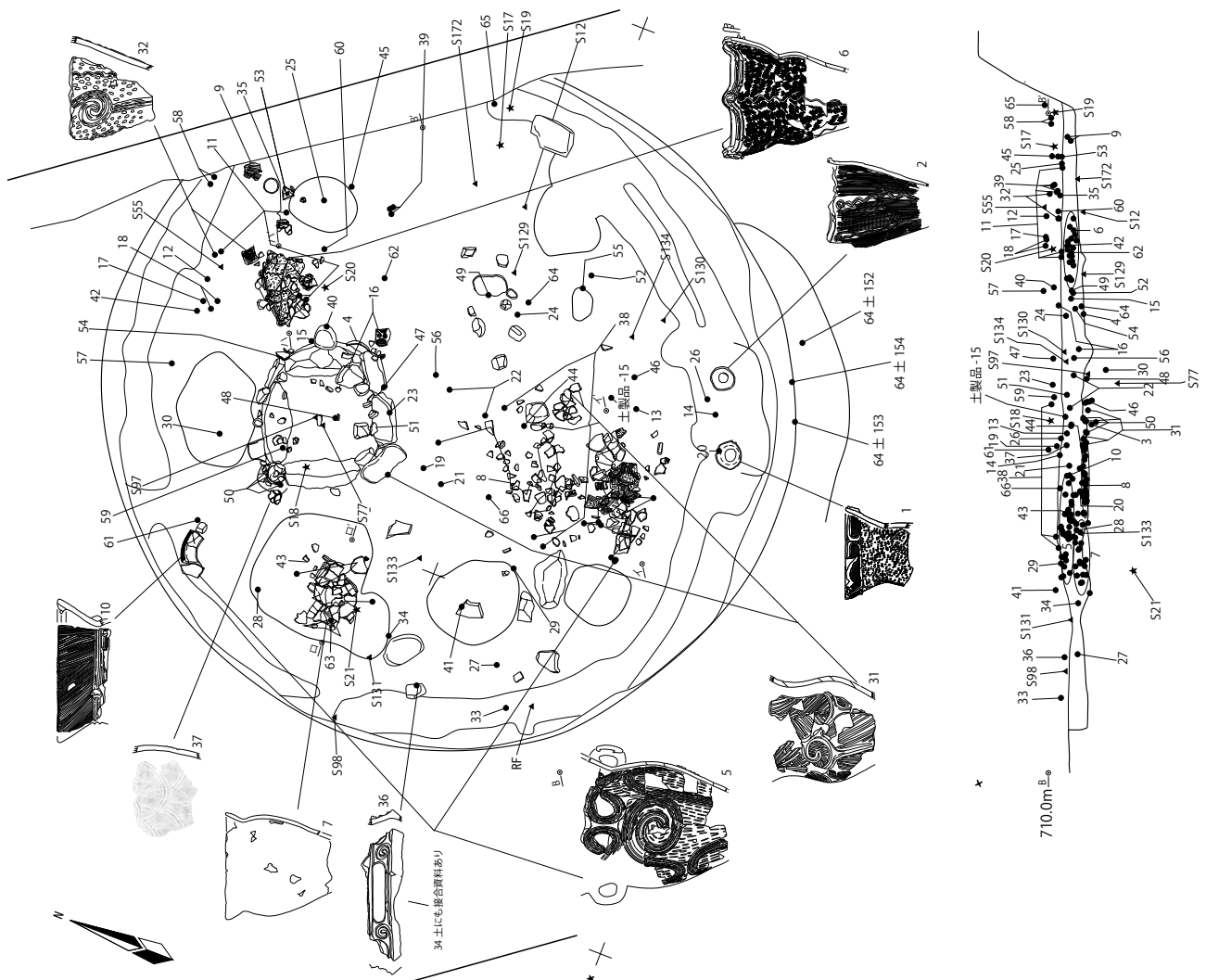
709.8m B₀

709.8m B₀

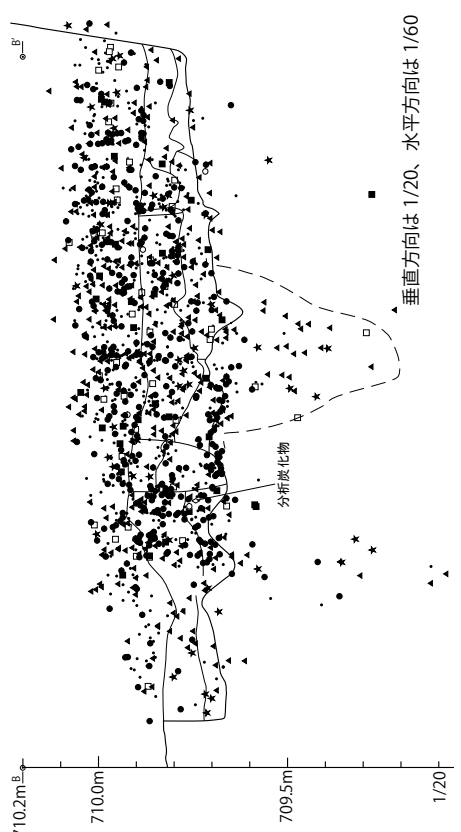
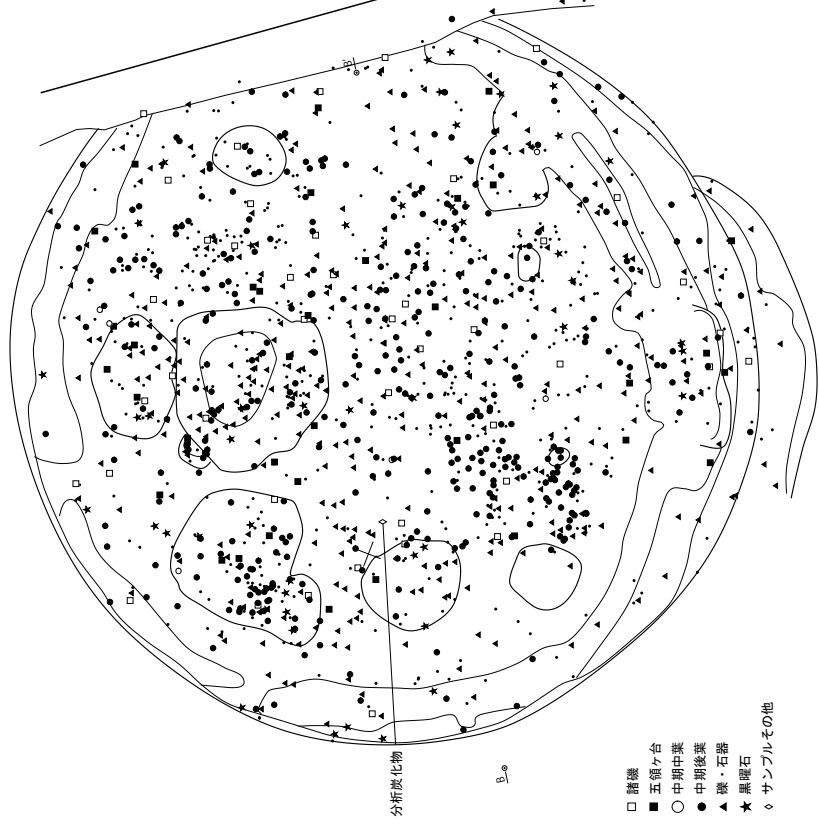


0 1/20 50cm

第19図 7号住居跡(2)

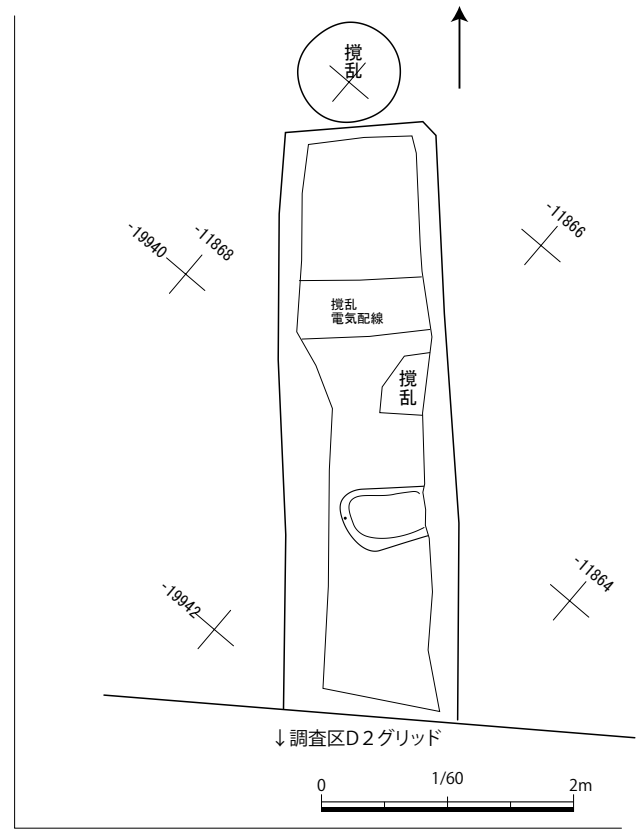
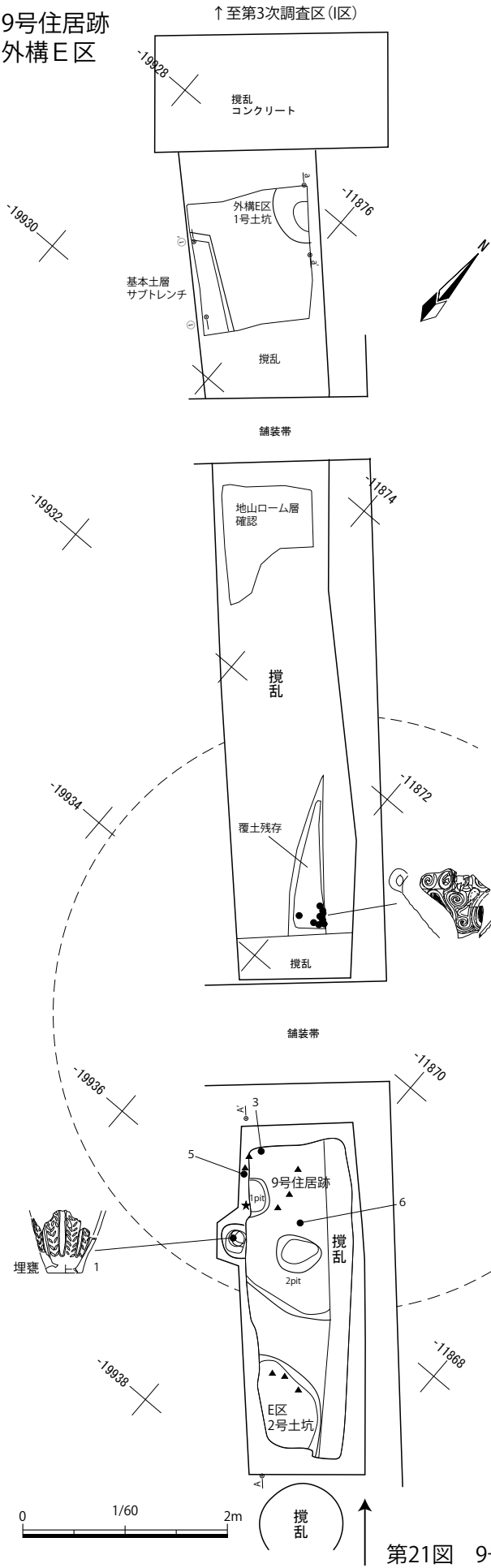


第20図 7号住居跡(3)

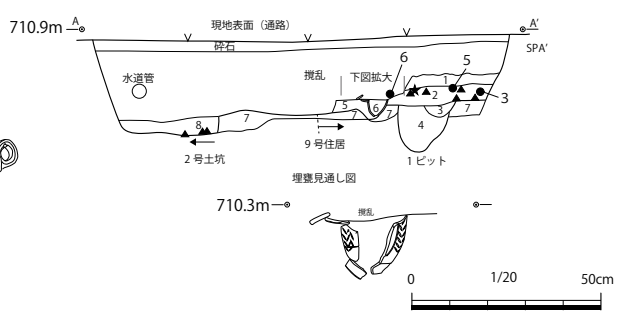


垂直方向は1/20、水平方向は1/60

9号住居跡
外構E区

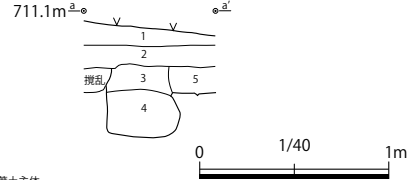


外構E区西壁セクション



1. 暗褐色 (10YR3/4) 土層 褐色土ブロック混じる。黄褐色土ブロック (φ2-10mm) を5%含む。炭化物3%含む。
2. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2-5mm) を10%含む。炭化物1%、焼土1%含む。
3. 黒褐色 (10YR3/2) 土層 黄褐色土ブロック (φ2-20mm) を20%含む。炭化物1%含む。
4. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2-5mm) を5%含む。炭化物1%含む。
5. にぶい黄褐色 (10YR5/4) 土層
6. 灰黄褐色 (10YR4/2) 土層 黄褐色土ブロック (φ2-5mm) を7%含む。炭化物1%含む。
7. 明黄褐色 (10YR6/6) 土層 地山層
8. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2-5mm) を7%含む。炭化物1%、焼土1%含む。

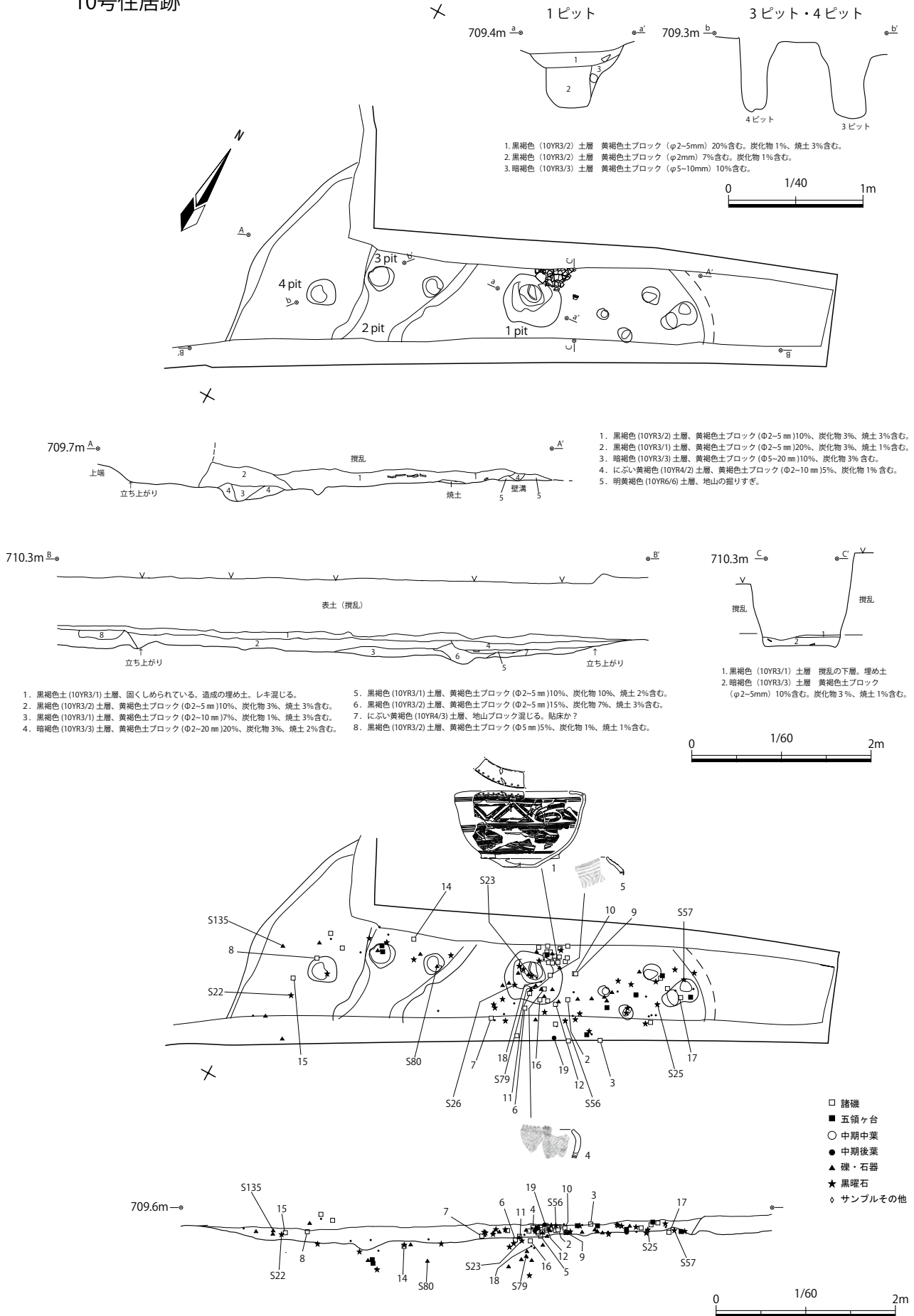
外構E区1号土坑



1. 表土 腐葉土主体
2. 砕石層
3. 暗褐色土層 (10YR3/3) 黄褐色土ブロック (φ2-10mm) を10%含む。炭化物1%含む。
4. 黒褐色土層 (10YR3/2) 黄褐色土ブロック (φ2-5mm) を5%含む。
5. 明黄褐色 (10YR6/6) 土層。地山層。

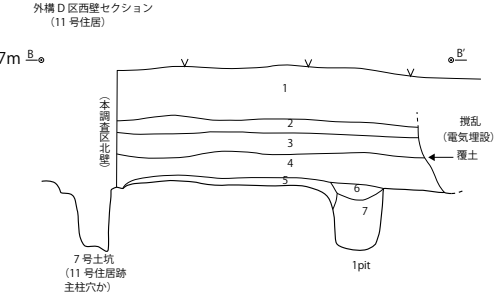
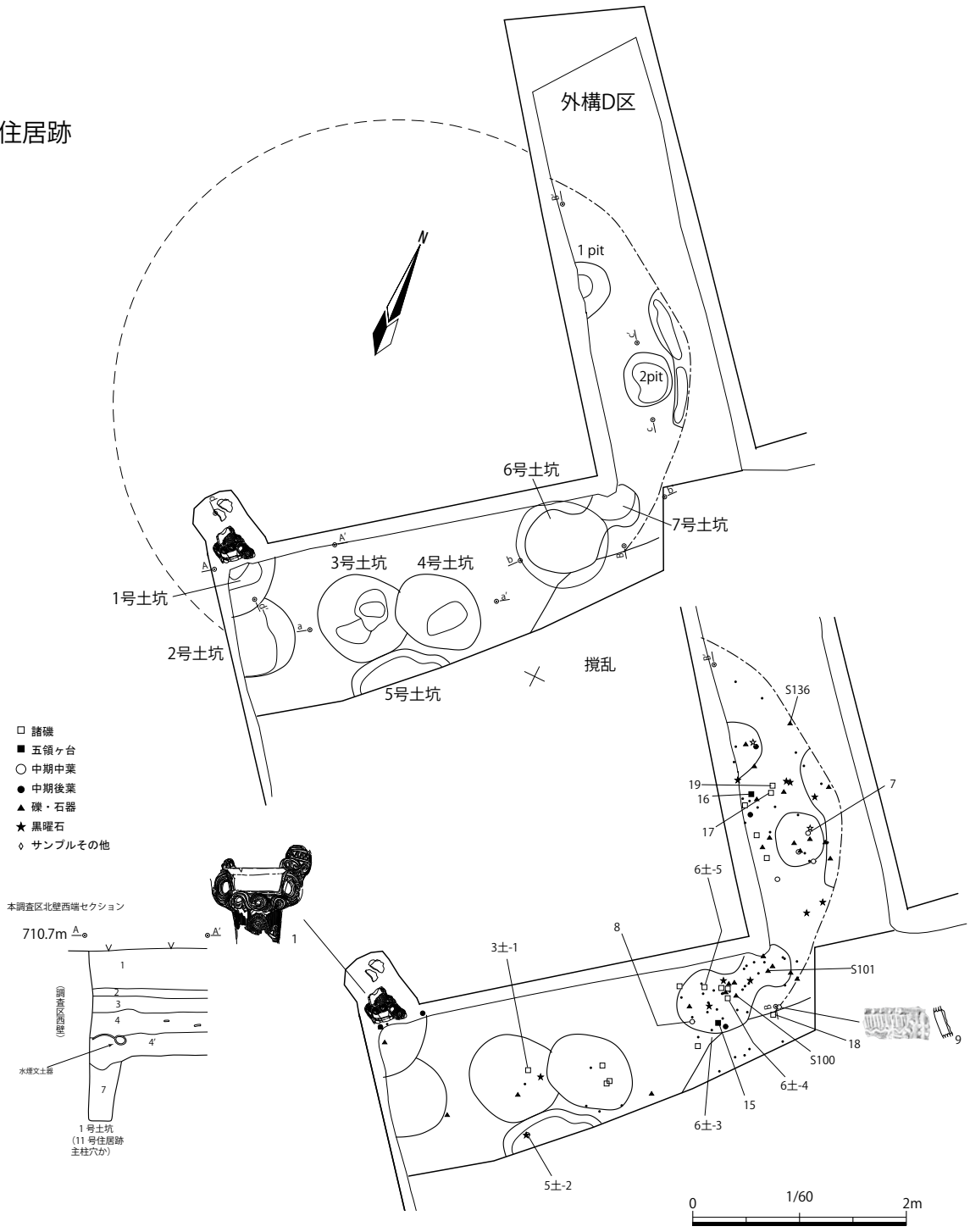
第21図 9号住居跡・外構E区

10号住居跡

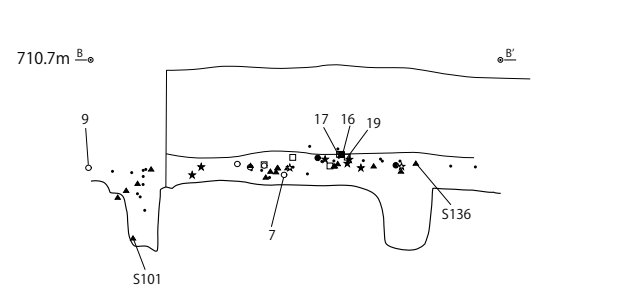


第 22 図 10号住居跡

11号住居跡

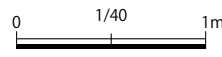
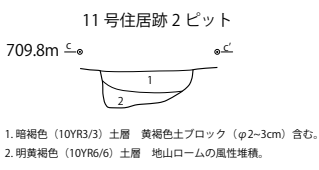
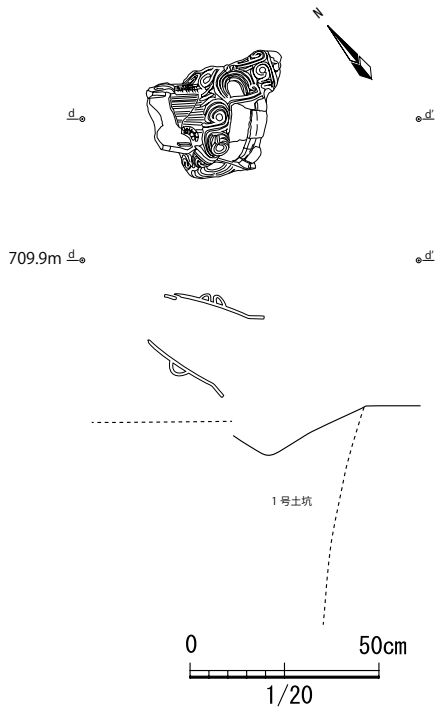
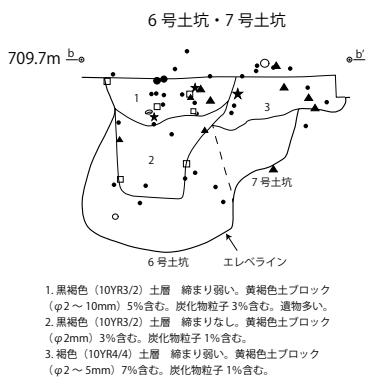
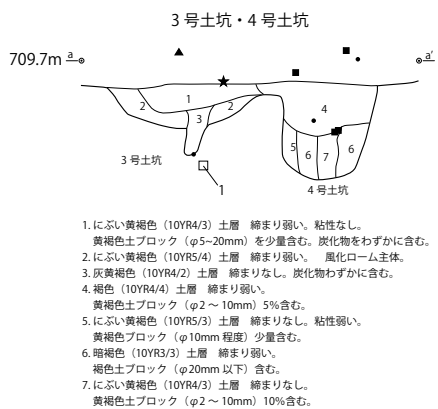


1. 明黄褐色 (10YR6/6) 土層 黄色土 (地山? ローム?) の埋め土。
 2. 黒褐色土 (10YR3/1) 土層 礫を含む耕作用の埋め土。
 3. 黒褐色土 (10YR3/2) 土層 黄褐色土ブロックを多く含む。
 遺物が入る埋め土。ボンボンしている。
 4. 暗褐色土 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2-5mm) 10% 含む。
 褐色土ブロック混じる。炭化物含む。住居跡の覆土。

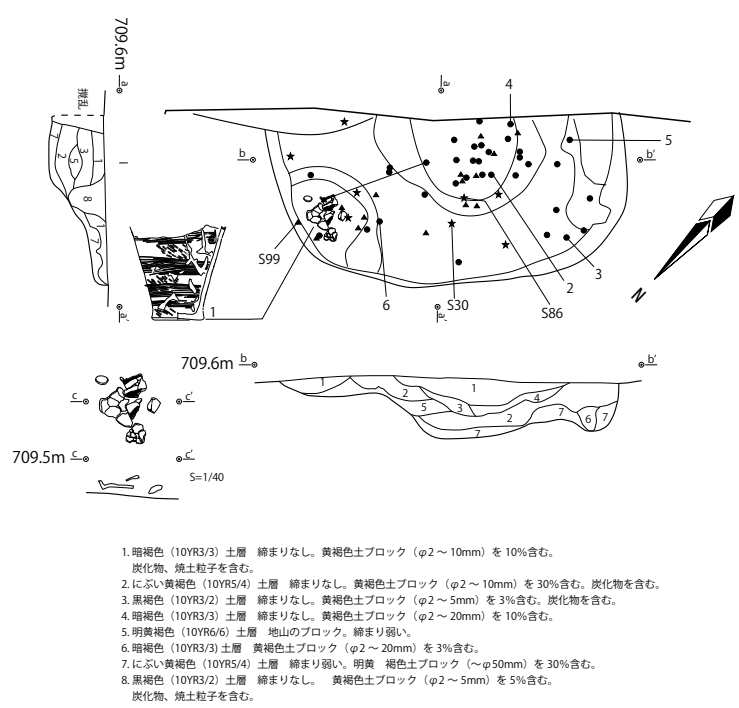


4. 暗褐色土 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2-5mm) 10% 含む。
 褐色土ブロック混じる。炭化物含む。
 5. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ-30mm) 15% 含む。
 6. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2mm) 5% 含む。
 7. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ10mm) 10% 含む。

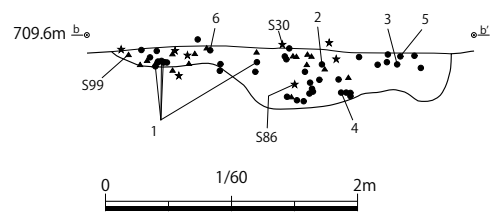
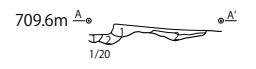
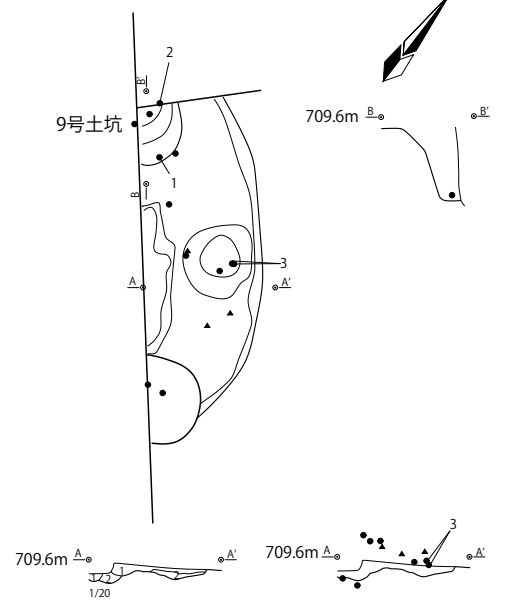
第23図 11号住居跡



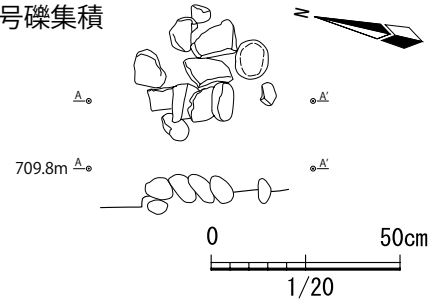
1号竪穴状遺構



2号竪穴状遺構

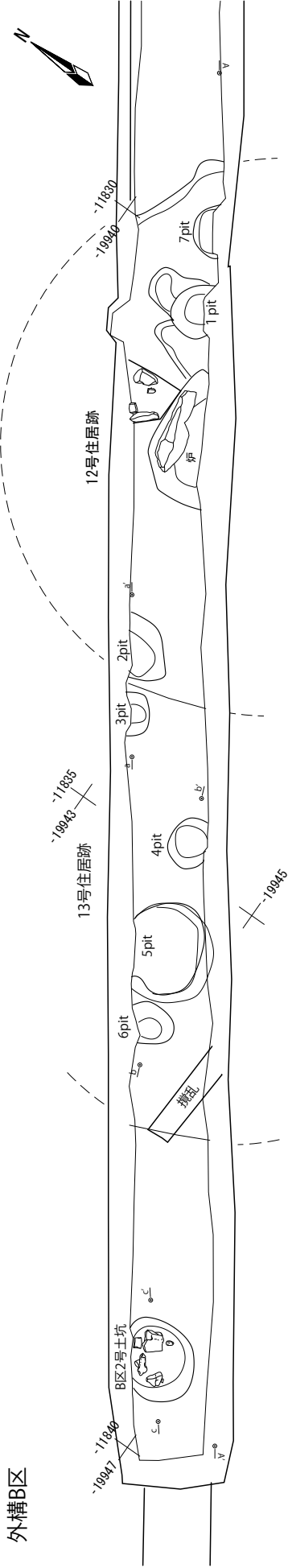


1号礫集積

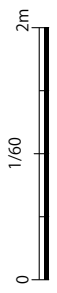
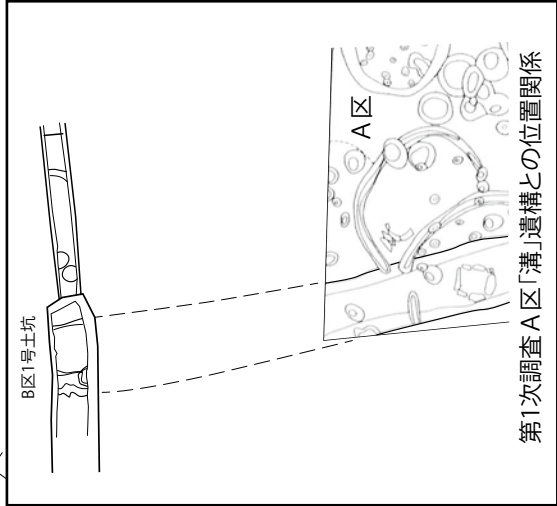
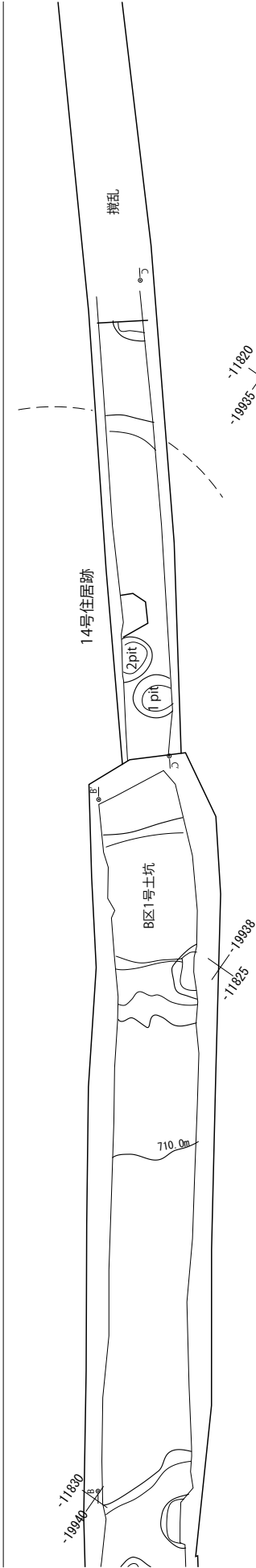


第24図 11号住居跡 1号・2号竪穴状遺構

外構B区

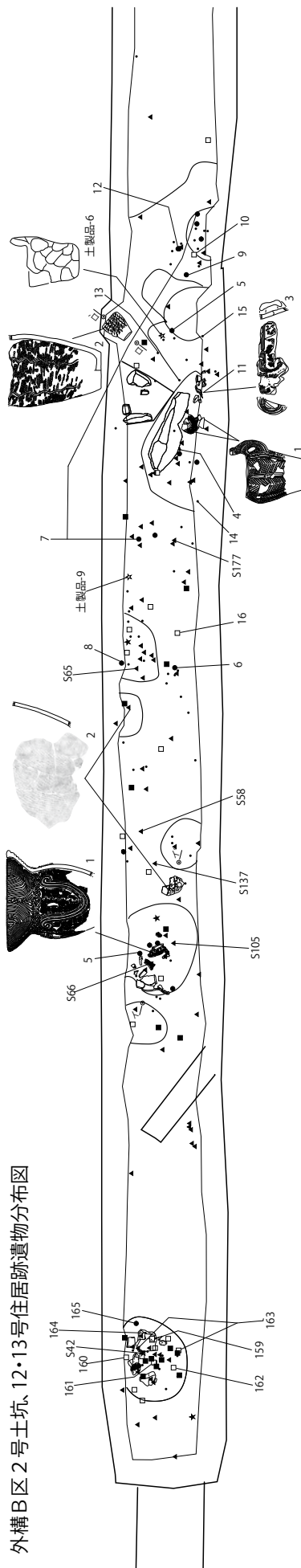


外構C区

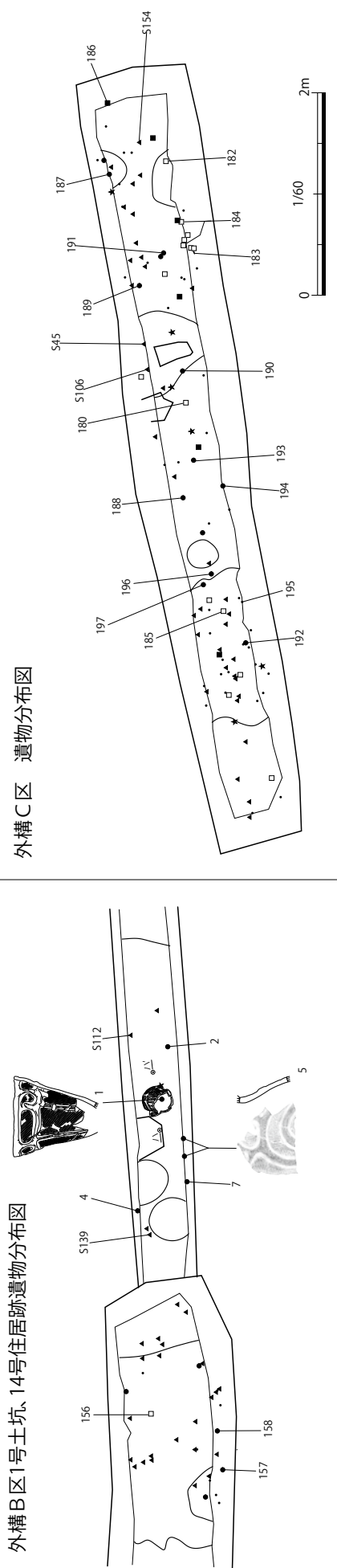


第25図 外構B区・C区遺構分布図

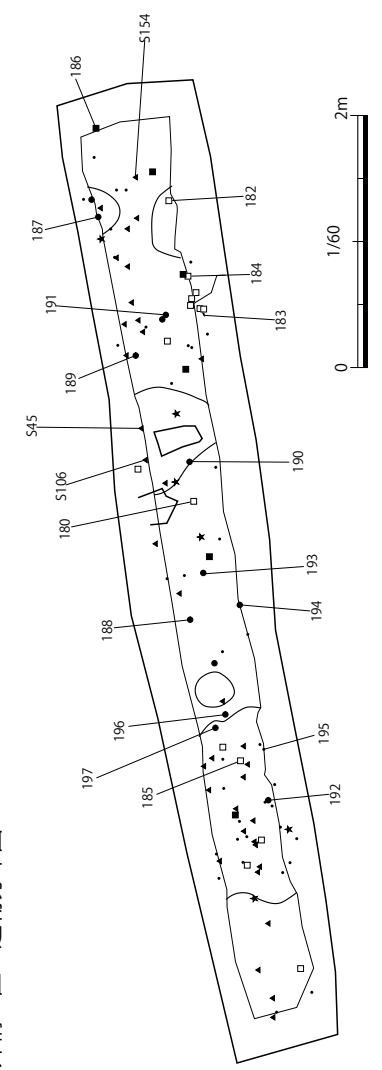
外構B区2号土坑、12・13号住居跡遺物分布図



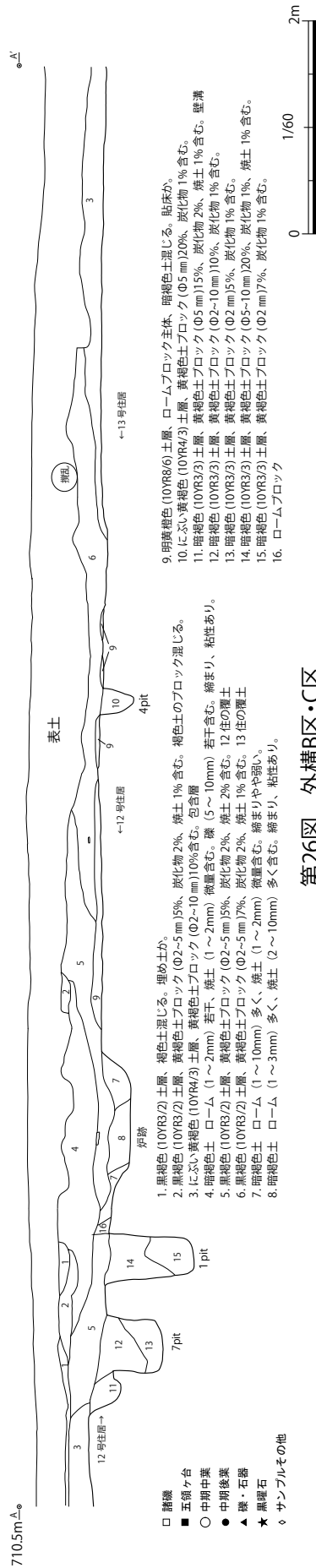
外構B区1号土坑、14号住居跡遺物分布図



外構C区 遺物分布図



外構B区 南壁セクション(12・13号住居跡)

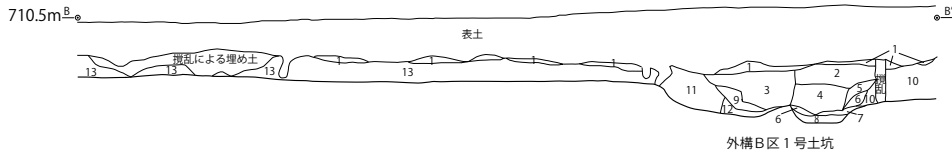


- 9. 暗褐色(10YR8/6)土層、ロームブロック主体、暗褐色土混じる。駄床か。
- 10. にぶい黄褐色(10YR4/3)土層、黄褐色ブロック(φ5mm)20%、炭化物1%含む。
- 11. 暗褐色(10YR3/3)土層、黄褐色ブロック(φ5mm)15%、炭化物2%、焼土1%含む。壁溝
- 12. 暗褐色(10YR3/3)土層、黄褐色ブロック(φ2-10mm)10%、炭化物1%含む。
- 13. 暗褐色(10YR3/3)土層、黄褐色ブロック(φ2mm)5%、炭化物1%含む。
- 14. 暗褐色(10YR3/3)土層、黄褐色ブロック(φ5-10mm)20%、炭化物1%含む、焼土1%含む。
- 15. 暗褐色(10YR3/3)土層、黄褐色ブロック(φ2mm)7%、炭化物1%含む。
- 16. ロームブロック

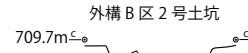
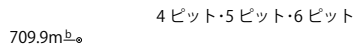
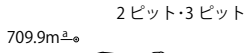
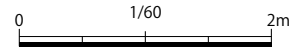
- 1. 黒褐色(10YR3/2)土層、褐色土混じる。埋め土か。
- 2. 黒褐色(10YR3/2)土層、黄褐色ブロック(φ2-5mm)5%、炭化物2%、焼土1%含む、褐色土のブロック混じる。
- 3. にぶい黄褐色(10YR4/3)土層、黄褐色ブロック(φ2-10mm)10%含む。包舎跡
- 4. 暗褐色土、ローム(1~2mm)若干、焼土(1~2mm)微量含む。溝(5~10mm)若干含む。締まり、粘性あり。
- 5. 黒褐色(10YR3/2)土層、黄褐色ブロック(φ2-5mm)5%、炭化物2%、焼土2%含む。12住の覆土
- 6. 黒褐色(10YR3/2)土層、黄褐色ブロック(φ2-5mm)7%、炭化物2%、焼土1%含む。13住の覆土
- 7. 暗褐色土、ローム(1~10mm)多く、焼土(1~2mm)微量含む。締まりやや弱い。
- 8. 暗褐色土、ローム(1~3mm)多く、焼土(2~10mm)多く含む。締まり、粘性あり。

- 薪織
- 五箇ヶ台
- 中階中葉
- 中階後葉
- ▲ 礫・石器
- ★ 黒曜石
- ◇ サンプルその他

外構B区北壁セクション



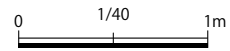
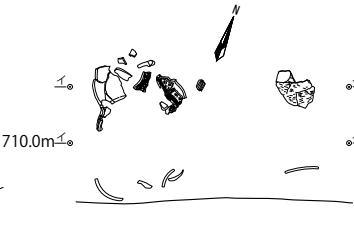
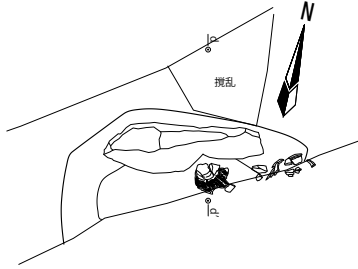
1. 黒褐色 (10YR3/2) 土層、褐色土混じる。埋め土か。
2. 黒褐色 (10YR3/1) 土層、黄褐色土ブロック (Φ2mm)10%、褐色土ブロック含む。
3. 黒褐色 (10YR3/1) 土層、黄褐色土ブロック (Φ5mm)5%、褐色土ブロック含む。
4. 黒褐色 (10YR3/1) 土層、黄褐色土ブロック (Φ2mm)7%
5. 黒褐色 (10YR3/2) 土層、黄褐色土ブロック (Φ2-5mm)15%
6. 黒褐色 (10YR3/1) 土層、黄褐色土ブロック (Φ2mm)5%
7. にふい黄褐色 (10YR4/3) 土層、黄褐色土ブロック (Φ5-10mm)20%
8. にふい黄褐色 (10YR5/4) 土層、黄褐色土ブロック混じる。
9. 暗褐色 (10YR3/3) 土層、黄褐色土 (Φ10mm)20%含む。
10. 暗褐色 (10YR3/3) 土層、黄褐色土ブロック (Φ2-10mm)10%、炭化物1%含む。
11. にふい黄褐色 (10YR4/3) 土層、黄褐色土ブロック (Φ5-20mm)10%、黒色土ブロック混じる。
12. にふい黄褐色 (10YR5/4) 土層、黄褐色土ブロック (Φ20-50mm)混じる。
13. にふい黄褐色 (10YR4/3) 土層、黄褐色土ブロック (Φ2-10mm)10%含む。包含層



1. 黒褐色 (10YR3/2) 土層、黄褐色土ブロック (Φ2-5mm)15%、炭化物1%、焼土1%含む。
2. 暗褐色 (10YR3/3) 土層、黄褐色土ブロック (Φ5-20mm)20%、炭化物1%含む。
3. 黒褐色 (10YR3/2) 土層、黄褐色土ブロック (Φ2-5mm)5%、炭化物1%含む。

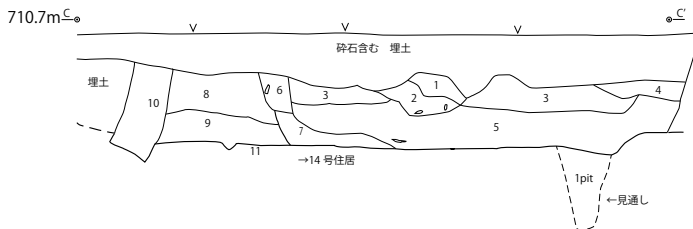


12号住居跡 炉跡



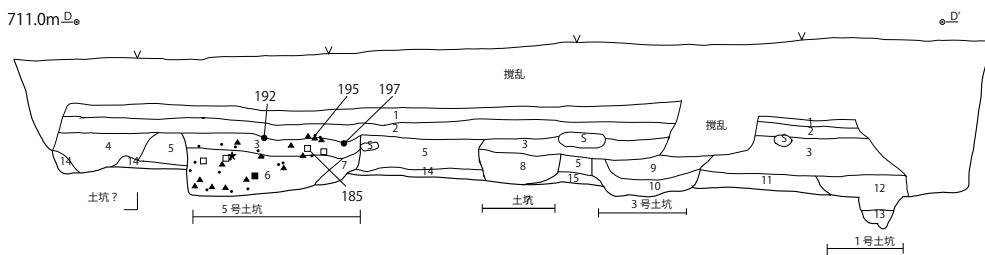
1. 褐色土 ローム粒子 (1~10mm) 少量含む。締まりあり。粘性あり

14号住居跡 南壁セクション

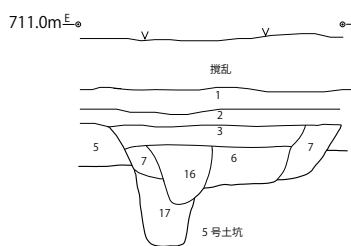


1. 褐色 (7.5YR4/3) 土層、黄褐色土ブロック (Φ2mm)5%、炭化物3%、焼土10%含む。
2. 黒褐色 (10YR3/3) 土層、黄褐色土ブロック (Φ2mm)3%、炭化物1%、焼土5%含む。(新しい時期の土坑か?)
3. にふい黄褐色 (10YR4/3) 土層、黄褐色土ブロック (Φ2mm)3%、炭化物1%、焼土1%含む。褐色土ブロック混じる。
4. にふい黄褐色 (10YR4/3) 土層、黄褐色土ブロック (Φ2mm)5%、炭化物3%、焼土1%含む。黒色土ブロック、褐色土ブロック混じる。
5. 暗褐色 (10YR3/3) 土層、黄褐色土ブロック (Φ2-10mm)5%、炭化物1%、焼土1%含む。遺物多く含む。
6. 暗褐色 (10YR3/3) 土層、黄褐色土ブロック (Φ2mm)7%、炭化物1% 褐色土ブロック混じる。
7. 暗褐色 (10YR3/3) 土層、黄褐色土ブロック (Φ5-10mm)5%、炭化物10%、焼土1%含む。
8. にふい黄褐色 (10YR4/3) 土層、黄褐色土ブロック (Φ2-5mm)10%、炭化物1%含む。陶磁土器出土、褐色土ブロックまばらに多く含む。包含層。
9. にふい黄褐色 (10YR4/3) 土層、黄褐色土ブロック (Φ5mm)5%、炭化物1%含む。包含層。
10. 暗褐色 (10YR3/3) 土層、黄褐色土ブロック (Φ2-5mm)3%、炭化物1%含む。土坑状の落ち込み、根のあとか?
11. 地山ローム層

外構C区 北壁セクション



外構C区 南壁セクション

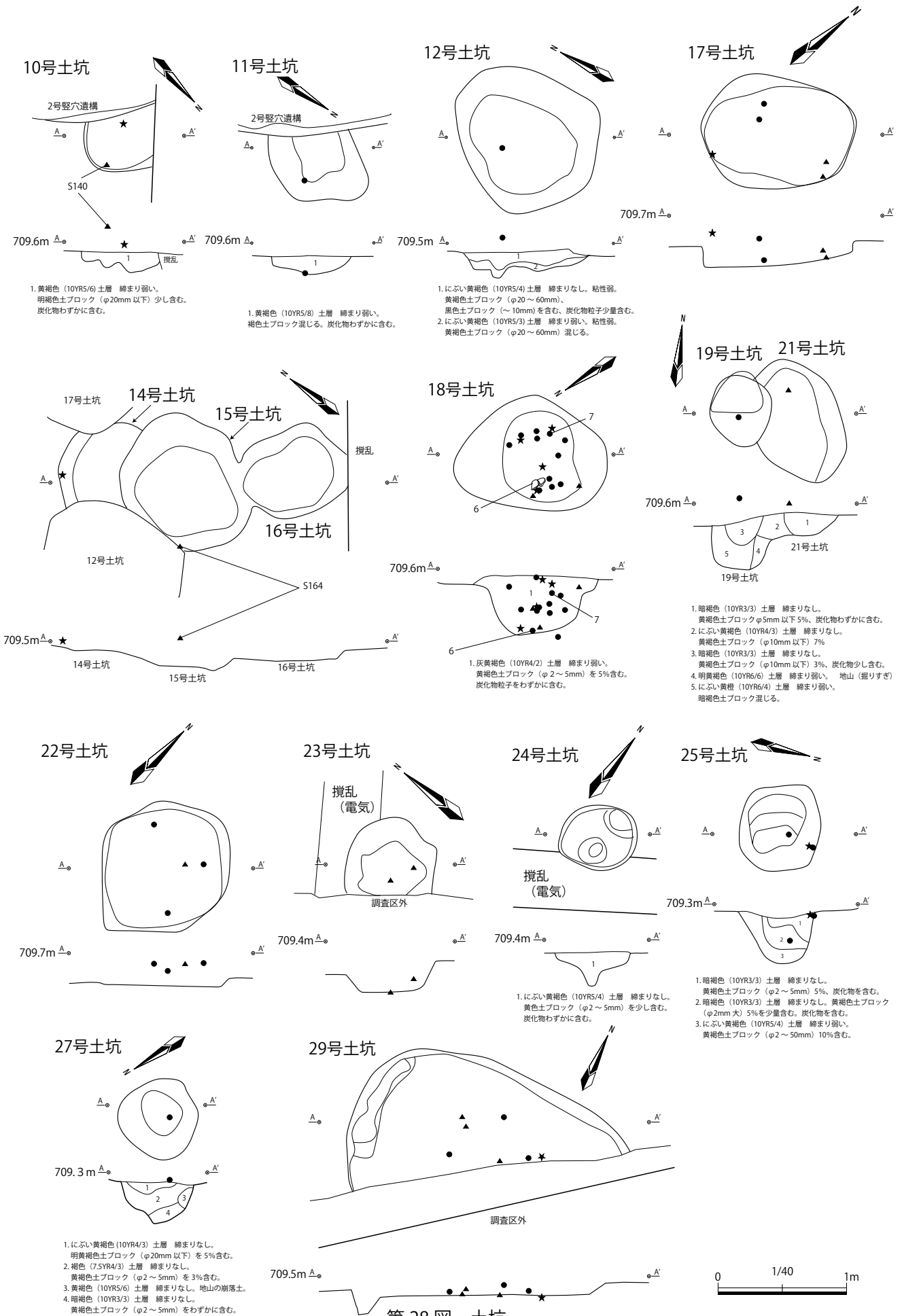


1. 明黄褐色土層 ローム層による埋土
2. 黒褐色 (10YR3/1) 土層、黄褐色土ブロック (Φ2mm)10%、炭化物3% 包含層1
3. 暗褐色 (10YR3/3) 土層、黄褐色土ブロック (Φ5mm)3%、炭化物2%、焼土1% 褐色土ブロック混じる。
4. にふい黄褐色 (10YR4/3) 土層、黄褐色土ブロック (Φ2mm)3%、炭化物1%、焼土1%
5. にふい黄褐色 (10YR5/3) 土層、黄褐色土ブロック (Φ5-10mm)7%、炭化物1% 包含層2
6. 黒褐色 (10YR3/2) 土層、黄褐色土ブロック (Φ2-5mm)5%、炭化物2%、焼土3% 5号土坑の覆土。
7. 暗褐色 (10YR3/3) 土層、黄褐色土ブロック (Φ2-10mm)5%、炭化物1%
8. 黒褐色 (10YR3/2) 土層、黄褐色土ブロック (Φ10-20mm)3%、炭化物3%、焼土2% 褐色土ブロック少し混じる。
9. 黒褐色 (10YR3/1) 土層、黄褐色土ブロック (Φ2-10mm)5%、炭化物1%、焼土3%
10. 暗褐色 (10YR3/3) 土層、黄褐色土ブロック (Φ5-20mm)10%
11. にふい黄褐色 (10YR3/4) 土層、黄褐色土ブロック (Φ10mm)15%
12. 黒褐色 (10YR3/1) 土層、黄褐色土ブロック (Φ2-10mm)7%、炭化物1%、焼土1%
13. 明黄褐色 暗褐色土混じる。
14. にふい黄褐色 暗褐色土混じる。
15. 明黄褐色 地山
16. 黒褐色 (10YR3/2) 土層、黄褐色土ブロック (Φ10mm)10%、炭化物1%
17. 黒褐色 (10YR3/1) 土層、黄褐色土ブロック (Φ5mm)5%、炭化物1%

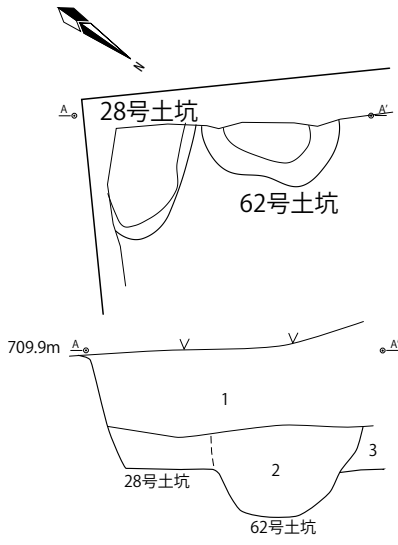
第27図 外構B区・C区(2)

第2表 土坑一覧表

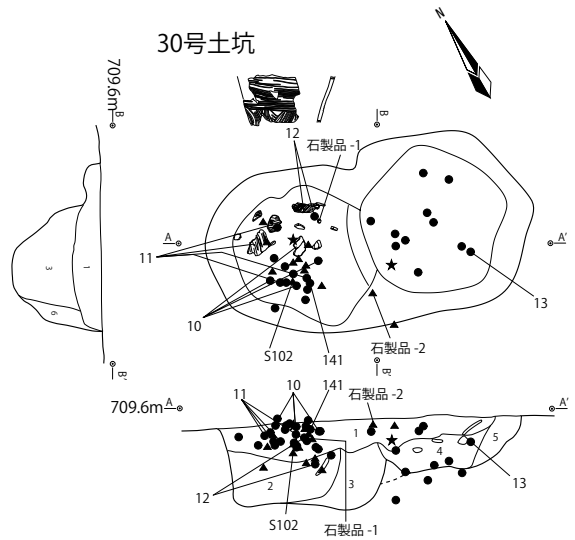
遺構名	遺構図版	遺物(土器)図版	位置	法量 (cm)			備考
				長径	短径	深さ	
9号土坑	第24図	—	A5グリッド	残47	残31	57	
10号土坑	第28図	—	A5・B5グリッド	残52	残46	11	
11号土坑	第28図	—	B5グリッド	(87)	(63)	15	
12号土坑	第28図	—	B5グリッド	121	108	15	諸磯
14号土坑	第28図	—	B5グリッド	(73)	(55)	3	
15号土坑	第28図	—	B5グリッド	113.	97	19	
16号土坑	第28図	—	B5・B6グリッド	70	69	5	
17号土坑	第28図	—	B5グリッド	121	88	22	諸磯b
18号土坑	第28図	第50図	B5グリッド	119	89	45	諸磯b
19号土坑	第28図	—	B5グリッド	55	48	43	諸磯
21号土坑	第28図	—	B5グリッド	104	70	18	
22号土坑	第28図	—	B5グリッド	121	99	16	
23号土坑	第28図	—	B6グリッド	77	残56	34	諸磯
24号土坑	第28図	—	C6グリッド	63	52	25	
25号土坑	第28図	—	C6・C7グリッド	72	62	35	諸磯
26号土坑	—	—	B6グリッド	74	残28	16	
27号土坑	第28図	—	C6・C7グリッド	63	58	32	
28号土坑	第29図	—	D6グリッド	残61	残41	12	諸磯
29号土坑	第28図	第50図	E5グリッド	(219)	残93	35	諸磯
30号土坑	第29図	第50図	D5グリッド	173	94	50	諸磯b 有孔石製品出土
31号土坑	第29図	第50・51図	C4グリッド	(121)	115	116	諸磯b 土坑中間に集石。土壌分析あり
32号土坑	第29図	第51図	E4グリッド	(185)	86	32	諸磯b
33号土坑	第29図	第51図	F4グリッド	99	86	70	曾利V
34号土坑	第30図	第52・53図	D4・E4グリッド	235	178	100	諸磯b、曾利II 北側に諸磯b式期の土坑、南側に曾利II式期の土坑が重複
35号土坑	第29図	第53図	C4グリッド	127	108	37	井戸尻・諸磯
37号土坑	第30図	第53図	D4・D5グリッド	109	70	23	諸磯b
38号土坑	第30図	—	B4グリッド	82	65	15	
39号土坑	第30図	—	B4グリッド	54	50	18	
41号土坑	第30図	第53図	D1・E1グリッド	55	48	15	諸磯b 有孔浅鉢
42号土坑	第31図	—	D1グリッド	54	50	39	諸磯b
43号土坑	第30図	第54図	D6グリッド	残142	残67	74	諸磯b
44号土坑	第31図	—	D6グリッド	50	43	16	
45号土坑	第31図	第54図	D6グリッド	(71)	残41	21	諸磯b
46号土坑	第31図	—	D5グリッド	80	75	15	諸磯
47号土坑	第31図	—	E5グリッド	63	52	18	
48号土坑	第31図	—	E5グリッド	85	残62.2	17	
49号土坑	第31図	—	E5グリッド	54	49	27	諸磯
50号土坑	第31図	第54図	E5グリッド	113	98	45	曾利II
51号土坑	第31図	—	E4グリッド	100	74	20	
52号土坑	第31図	第54図	E4グリッド	106	92	36	諸磯b・c
53号土坑	第31図	第54・55図	E4グリッド	(142)	131	80	諸磯b
54号土坑	第31図	第55図	E4グリッド	(123)	(108)	50	諸磯b
55号土坑	第31図	第55図	E3グリッド	225	残110	20	諸磯b主体で混在
56号土坑	第32図	第55・56図	F3グリッド	146	138	54	曾利V 土器3個体を埋納、土壌分析あり
57号土坑	第32図	第57図	E3・F3グリッド	215	142	101	諸磯b
58号土坑	第31図	第58図	E3グリッド	(99)	残62	29	諸磯、曾利の混在
59号土坑	第32図	第58図	E3・E4グリッド	残130	123	40	諸磯b
60号土坑	第32図	—	E3・E4グリッド	92	80	18	
61号土坑	第32図	第58図	E4グリッド	(138)	96	40	諸磯b
62号土坑	第29図	—	D6グリッド	(71)	残38	24	
63号土坑	第32図	第58図	D6グリッド	93	77	30	諸磯b けつ状耳飾り出土
64号土坑	第18図	第58図	E3グリッド	(262)	残48	36	諸磯b
65号土坑	第32図	第58図	C2グリッド	121	102	27	諸磯b
66号土坑	第32図	—	D2グリッド	128	99	32	
67号土坑	—	—	C2グリッド	(135)	残32	27	
68号土坑	—	—	D5グリッド	110	91	17	
2号土坑	第23図	—	11号住居跡内	(65)	残51	11	諸磯
3号土坑	第23・24図	第50図		85	80	38	諸磯
4号土坑	第23・24図	—		85	67	54	諸磯b
5号土坑	第23図	第50図		(94)	残27	13	諸磯b・藤内
6号土坑	第23・24図	第50図		65	64	92	諸磯b
7号土坑	第23・24図	—		53	39	56	諸磯b
i土坑	第12図	—		61	53	63	
ii土坑	第12・13図	—	64	50	12		
iii土坑	第12・14図	—	119	75	48		
iv土坑	第12・14	—	(65)	(60)	54		
v土坑	第12・14図	—	61	56	42		
vi土坑	第12・14図	—	114	89	74		
36号土坑	第12図	—	112	残73	32		
40号土坑	第17図	—	6号住居跡内	91	84	53	
i土坑	第18・19図	—	7号住居跡内	81	68	51	
ii土坑	第18・19図	—		98	90	21	
B区1号土坑	第25・27図	第59図	外構B区	197	(86)	53	諸磯・曾利混在、第1次調査A区の「溝」の続きか
B区2号土坑	第25・27図	第59図		85	残64	28	諸磯b主体
C区1号土坑	第25・27図	—	外構C区	(39)	残19	22	
C区2号土坑	第25図	—		(57)	残21	21	
C区3号土坑	第25・27図	—		(85)	残65	7	
C区4号土坑	第25図	—		31	24	14	
C区5号土坑	第25・27図	—		(158)	残54	77	
E区1号土坑	第21図	—	外構E区	(59)	残31	27	
E区2号土坑	第21図	—		残107	残60	16	



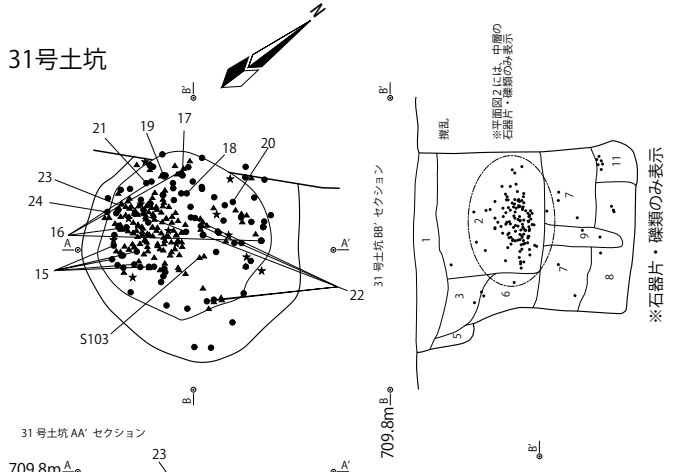
第 28 図 土坑



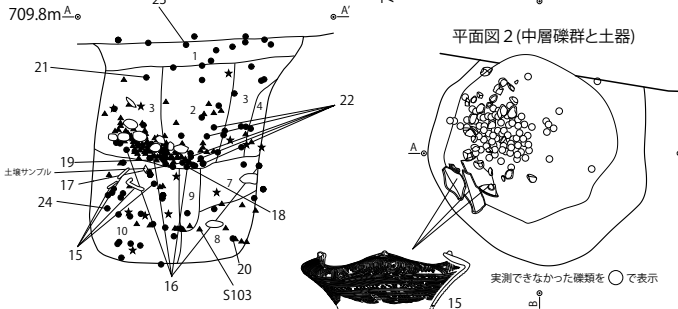
1. 黒褐色 (10YR3/2) 土 調査区の埋土、道路あるいは立木を植える際に攪乱されたか。
2. 暗褐色 (10YR3/4) 土 黄褐色土ブロック (φ2mm) 5%、炭化物 1% 含む。
3. 明黄褐色 (10YR6/6) 土 地山ローム層



1. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 締まり弱い。黄褐色土ブロック (φ2~20mm) を 7% 含む。炭化物粒子 3%、焼土粒子 1% 含む。
2. 黒褐色 (10YR3/2) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を 5% 含む。炭化物粒子 1%、焼土粒子 1% 含む。
3. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 締まり弱い。黄褐色土ブロック (φ2~20mm) を 5% 含む。炭化物、焼土粒子わずかに含む。
4. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~10mm) を 7% 含む。炭化物粒子 1% 含む。
5. にぶい黄褐色 (10YR5/3) 土層 黄褐色土混じる層。
6. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 土層 黄褐色土ブロック (こぶし大) が混じる。

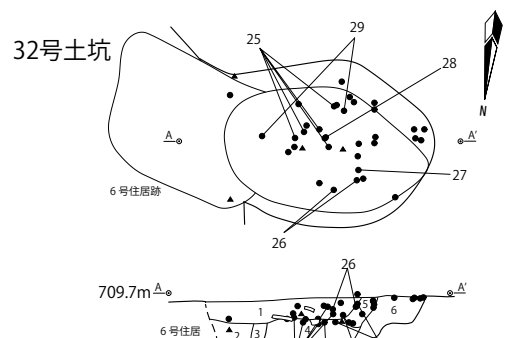


31号土坑AA' セクション



平面図2 (中層礫群と土器)

※石器片・礫石のみ表示

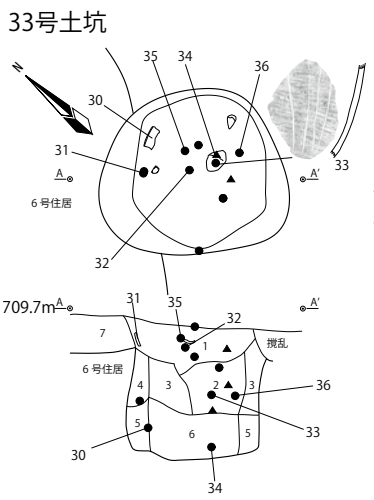


32号土坑

1. 黒褐色 (10YR3/2) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を 3% 含む。炭化物粒子 2%、焼土粒子 1% 含む。
2. 黒褐色 (10YR3/1) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~10mm) を 7% 含む。炭化物 1% 含む。
3. 黒褐色 (10YR3/2) 土層 黄褐色土ブロック (φ2mm) を 1% 含む。
4. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~10mm) を 10% 含む。炭化物 1% 含む。
5. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を 3% 含む。ボンボンしている。
6. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~30mm) を 10% 含む。

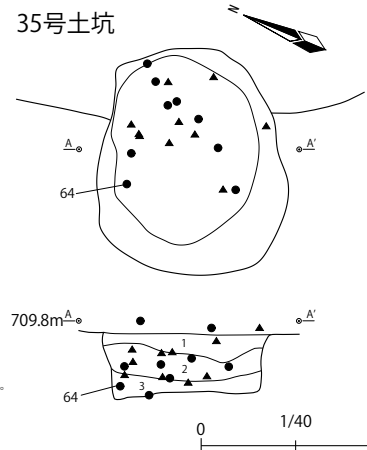
31号土坑

1. にぶい黄褐色 (10YR5/4) 土層 褐色土ブロック (こぶし大) 主体。小ブロック混じる。黒褐色土混じる。炭化物粒子、焼土粒子 1% ずつ含む。
2. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を 5% 含む。炭化物粒子 3%、焼土粒子 1% 含む。
3. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~30mm) を 10% 含む。炭化物、焼土粒子を 1% 含む。
4. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 土層 明黄褐色土ブロック (φ5~20mm) を 20% 含む。
5. 明黄褐色 (10YR6/8) 土層 地山 (握りすぎ)。
6. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を 3% 含む。炭化物、焼土粒子を 1% 含む。
7. 暗褐色 (10YR3/2) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を 15% 含む。炭化物、焼土粒子を 1% 含む。
8. 黒褐色 (10YR3/2) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~10mm) を 7% 含む。炭化物を 1% 含む。
9. 黒褐色 (10YR3/2) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~20mm) を 10% 含む。ボンボンしている。
10. 黒褐色 (10YR3/2) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~20mm) を 15% 含む。炭化物を 3% 含む。
11. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~20mm) を 10% 含む。



33号土坑

1. 褐色 (7.5YR4/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2mm) を 10% 含む。炭化物粒子を 1%、焼土粒子を 5% 含む。
2. 褐色 (10YR4/4) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~20mm) を 20% 含む。炭化物 1%、焼土 3% 含む。
3. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を 3% 含む。焼土を 1% 含む。
4. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~10mm) を 5% 含む。
5. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~20mm) を 3% 含む。締まりなし。
6. にぶい黄褐色 (10YR5/4) 土層 暗褐色土に黄褐色土ブロック (~こぶし大) が混じる。全体的にボンボンしている。埋め戻しか?
7. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を 5% 含む。炭化物 1%、焼土 1% を含む。

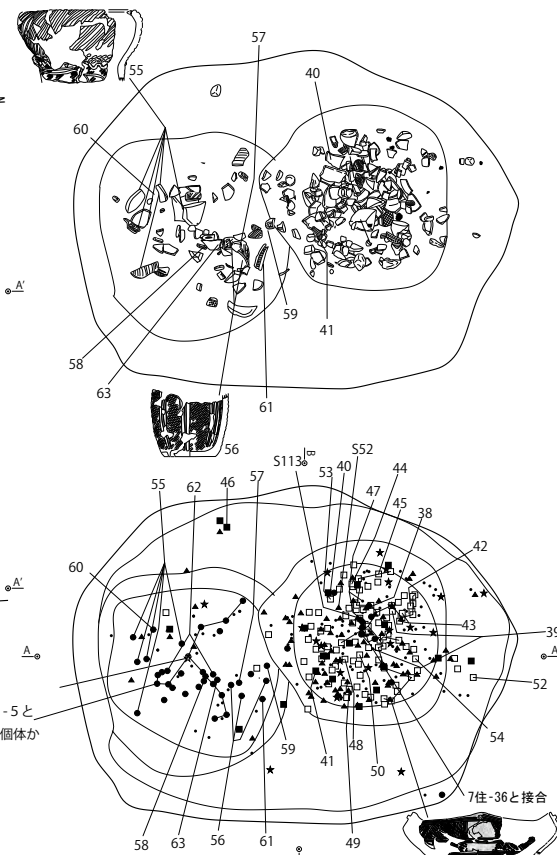
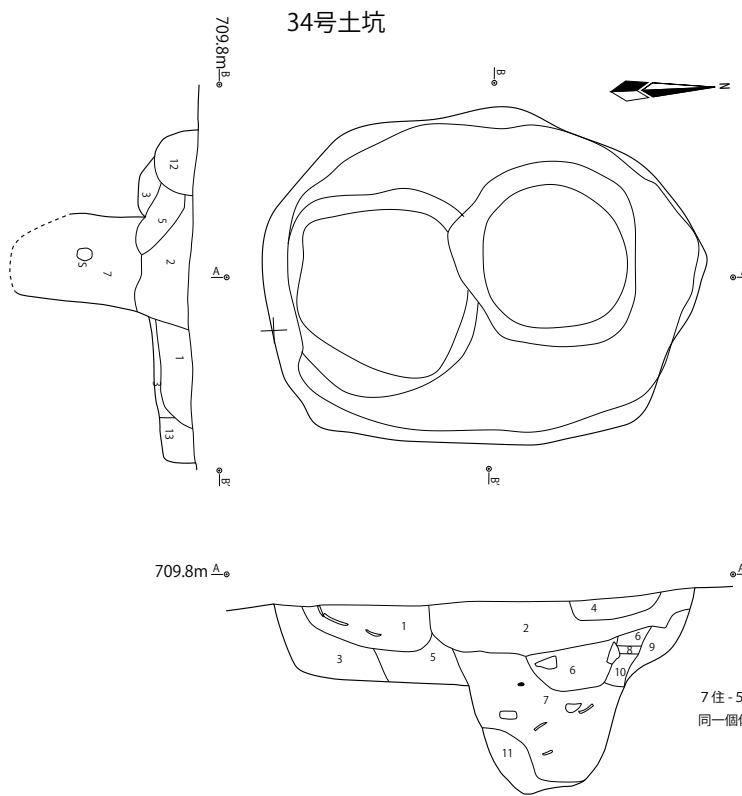


35号土坑

35号土坑

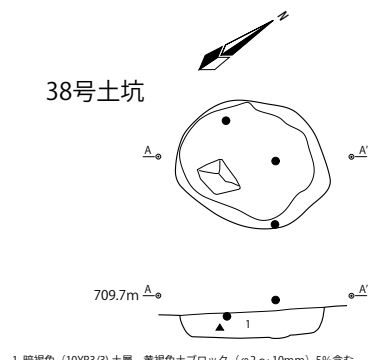
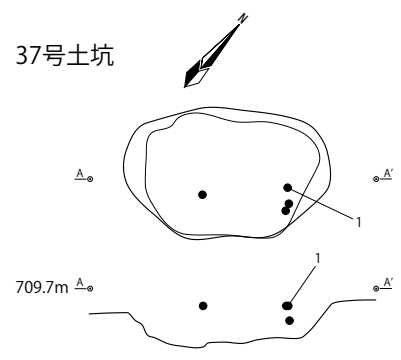
1. 暗褐色 (10YR3/4) 土層 褐色ブロック (~こぶし大) 混じる。黄褐色土ブロック (φ2~5mm) を 5% 含む。炭化物・焼土 1% 含む。
2. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~10mm) を 15% 含む。炭化物・焼土 1% 含む。
3. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~30mm) を 10% 含む。炭化物を 1% 含む。

第29図 土坑(2)

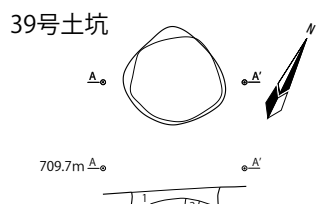


1. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2mm) を5%含む。炭化物2%、焼土1%含む
2. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2-5mm) を7%含む。炭化物1%、焼土1%含む
3. にふい黄褐色 (10YR4/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ5-50m) を30%含む。
4. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2-10mm) を3%含む。炭化物1%、焼土1%含む。褐色土ブロック混じる。
5. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2-5mm) を10%含む。炭化物1%含む。
6. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2-5mm) を3%含む。炭化物1%、焼土1%含む。
7. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2mm) を10%含む。炭化物3%、焼土1%含む。
8. 明黄褐色 (10YR6/6) 土層 地山ブロック
9. にふい黄褐色 (10YR5/4) 土層 暗褐色土混じる。
10. にふい黄褐色 (10YR4/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2-10m) を20%含む。炭化物1%含む。
11. にふい黄褐色 (10YR5/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2-20m) を30%含む。ボンボンしている。埋土か。
12. にふい黄褐色 (10YR4/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2-50m) を20%含む。炭化物1%含む。
13. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2-5mm) を15%含む。炭化物1%含む。

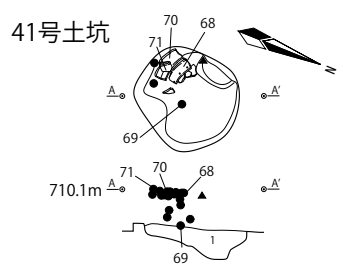
- 諸磁
- 五領ヶ台
- 中期中葉
- 中期後葉
- ▲ 礫・石器
- ★ 黒曜石
- ◇ サンプルその他



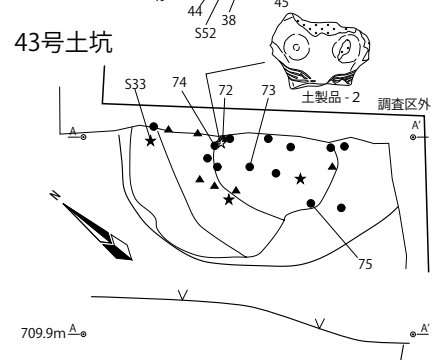
1. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~10mm) 5%含む。炭化物1%含む。



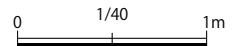
1. にふい黄褐色 (10YR4/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ2~30mm) を10%含む。
2. 明黄褐色 (10YR6/6) 土層 地山ブロック。
3. にふい黄褐色 (10YR5/4) 土層 暗褐色土混じる。



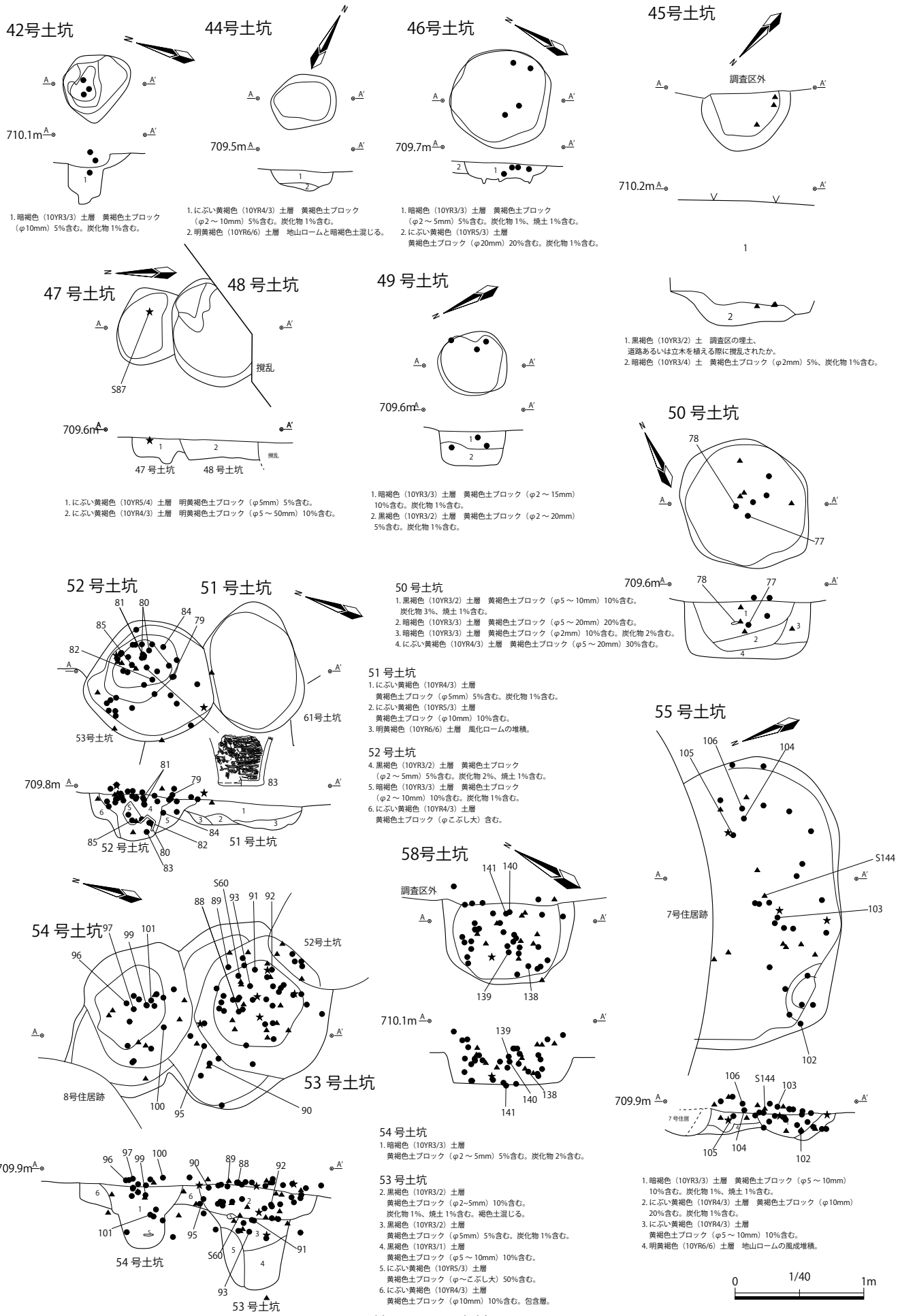
1. にふい黄褐色 (10YR4/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ5mm) 5%含む。炭化物2%含む。



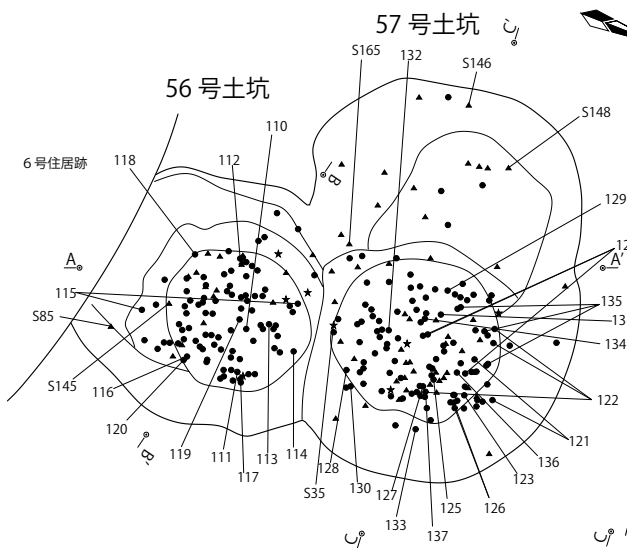
1. 黒褐色 (10YR3/2) 土 調査区の埋土。道路あるいは立木を補える際に攪乱されたか。
2. 赤褐色 (10YR4/6) 土 黄褐色土ブロック (φ2mm) 5%、焼土ブロック (φ~5mm) 10% 炭化物2%含む。焼土が多い。
3. 暗褐色 (10YR3/4) 土 黄褐色土ブロック (φ2~10mm) 10%、焼土粒子2%、炭化物3%含む。



第30図 土坑(3)

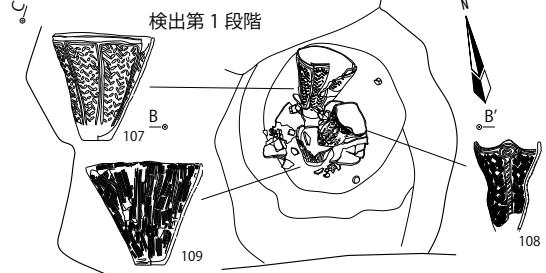


第31図 土坑(4)

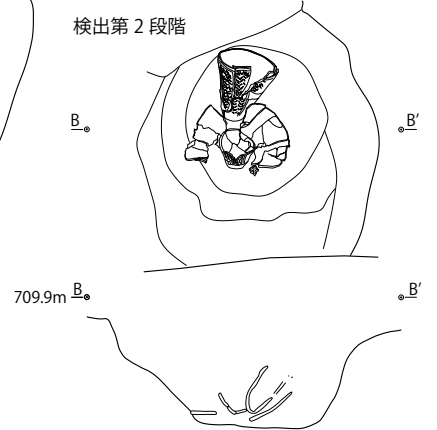


56号土坑遺物検出状況

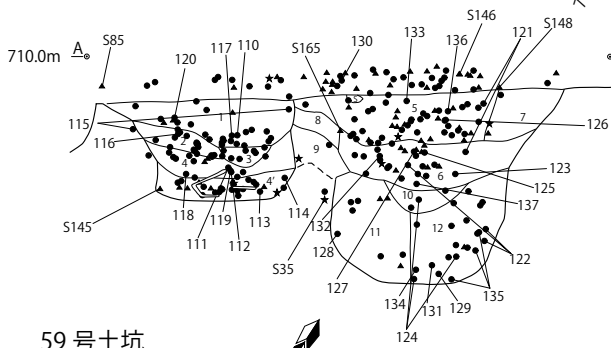
検出第1段階



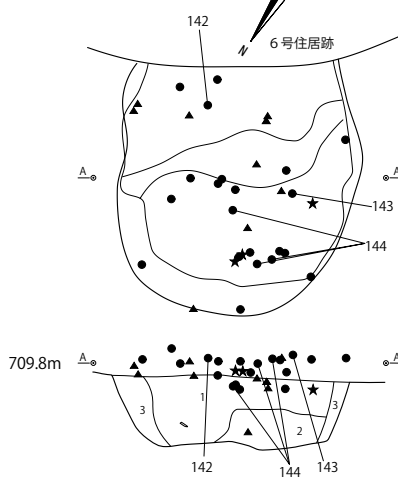
検出第2段階



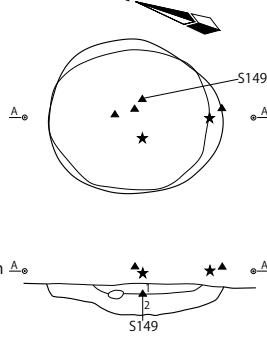
1. 暗褐色 (10YR3/3) 土層、黄褐色土ブロック (φ5-10mm) 10%、炭化物 2%、焼土 2% 含む。
2. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 土層、黄褐色土ブロック (φ2mm) 20%、炭化物 1%、焼土 1% 含む。
3. 暗褐色 (10YR3/3) 土層、黄褐色土ブロック (φ2mm) 10%、炭化物 1%、焼土 5% 含む。
4. 暗褐色 (10YR3/2) 土層、黄褐色土ブロック (φ2-10mm) 10%、炭化物 1%、焼土 3% 含む。4' にぶい黄褐色。
5. 黒褐色 (10YR3/2) 土層、黄褐色土ブロック (φ2-10mm) 10%、炭化物 1%、焼土 1% 含む。褐色土ブロック混じる。
6. 黒褐色 (10YR3/2) 土層、黄褐色土ブロック (φ2-10mm) 15%、炭化物 1%、焼土 1% 含む。
7. 暗褐色 (10YR3/3) 土層、黄褐色土ブロック (φ10mm) 15%、炭化物 1% 含む。褐色土ブロック混じる。
8. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 土層、黄褐色土ブロック (φ2-5mm) 10%、炭化物 1% 含む。
9. 明黄褐色 (10YR6/6) 土層、地山ロームブロック (〜こぶし大) 主体で暗褐色土混じる。
10. 暗褐色 (10YR3/3) 土層、黄褐色土ブロック (φ1-3mm) 30%、炭化物 1% 含む。
11. 暗褐色 (10YR3/3) 土層、黄褐色土ブロック (φ2-10mm) 20%、炭化物 1% 含む。
12. 暗褐色 (10YR3/3) 土層、黄褐色土ブロック (φ2-10mm) 10%、炭化物 1% 含む。



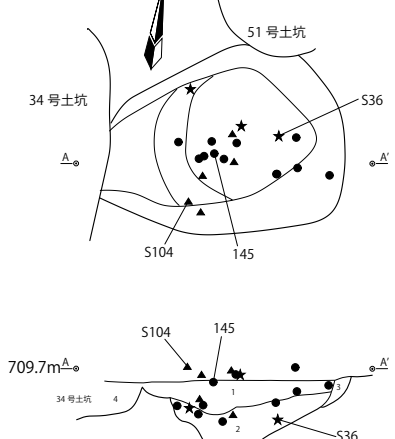
59号土坑



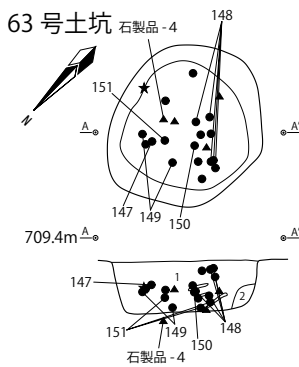
60号土坑



61号土坑

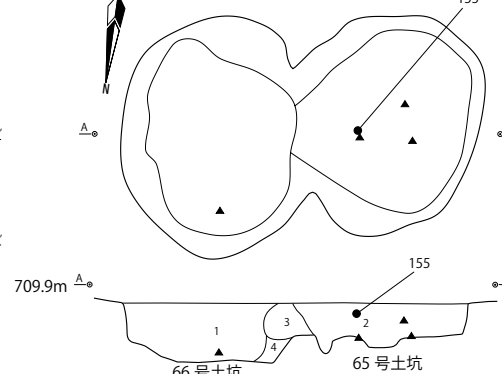


1. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 褐色土ブロック混じる。黄褐色土ブロック (φ5mm) 3% 含む。
2. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ5~10mm) 15% 含む。



63号土坑

66号土坑 65号土坑



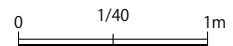
1. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ5~10mm) 5% 含む。炭化物 3% 含む。褐色土ブロック (φ20mm 大) 混じる。
2. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ10~20mm) 3% 含む。炭化物 1% 含む。
3. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ20mm) 30% 含む。炭化物 1% 含む。
4. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ5~10mm) 10% 含む。

63号土坑

1. 黒褐色 (10YR3/2) 土層、黄褐色土ブロック (φ5mm) 5%、炭化物 1% 含む。
2. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 土層、黄褐色土ブロック (φ2cm 大) 混じる。

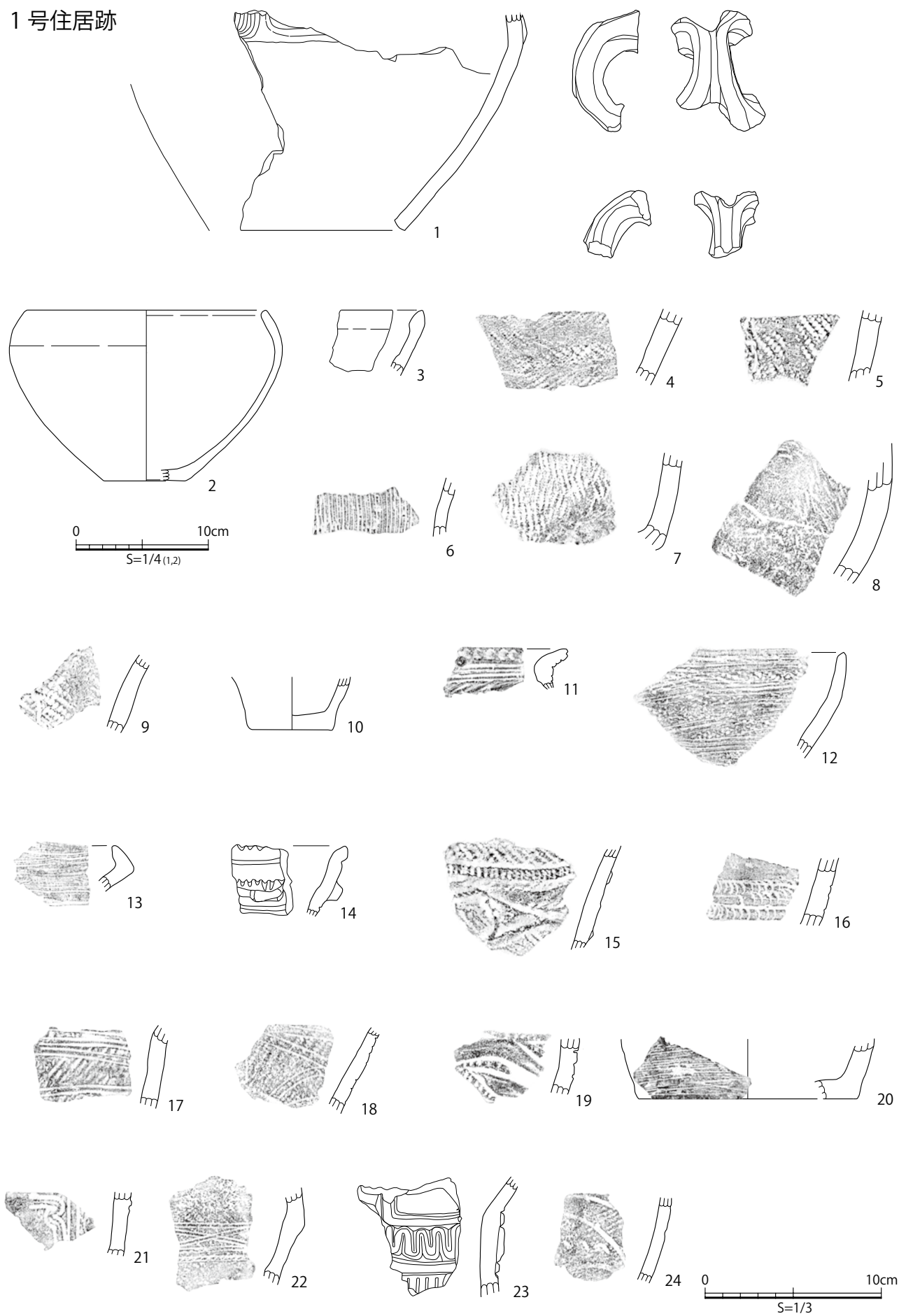
65・66号土坑

1. 黒褐色 (10YR3/2) 土層 黄褐色土ブロック (φ2-5mm) 5% 含む。炭化物 1%、焼土 1% 含む。
2. 暗褐色 (10YR3/3) 土層 黄褐色土ブロック (φ10mm) 3% 含む。炭化物 1% 含む。
3. 明黄褐色 (10YR6/6) 土層 地山ブロック。
4. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 土層 地山ブロックを含む。



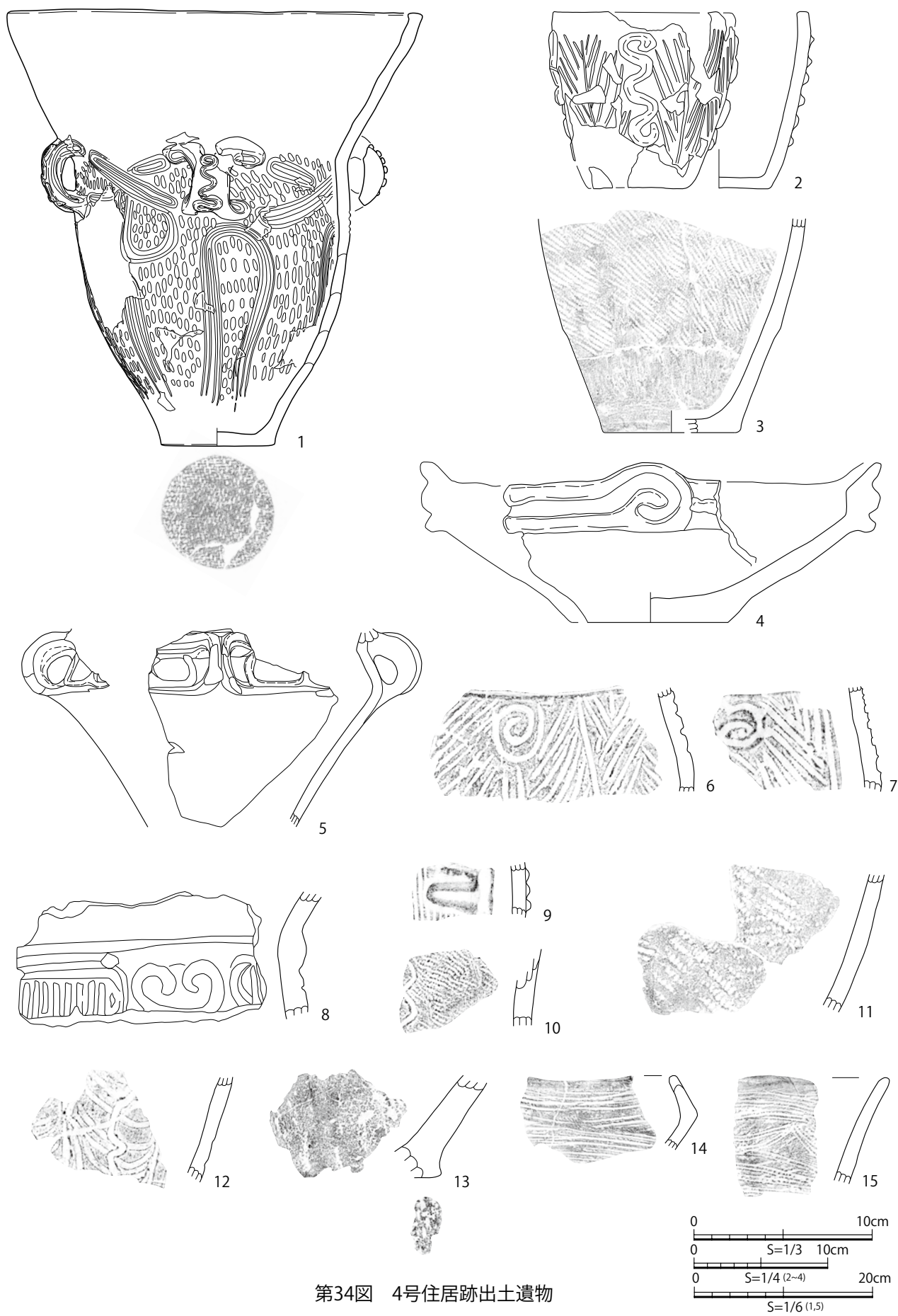
第32図 土坑(5)

1号住居跡



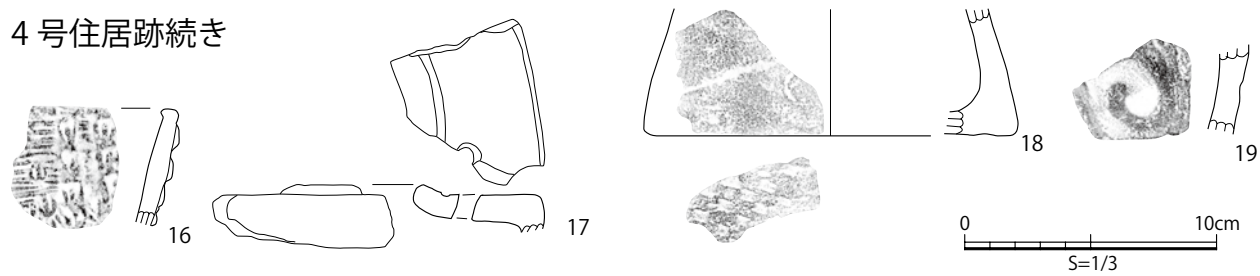
第33图 1号住居跡出土遺物

4号住居跡

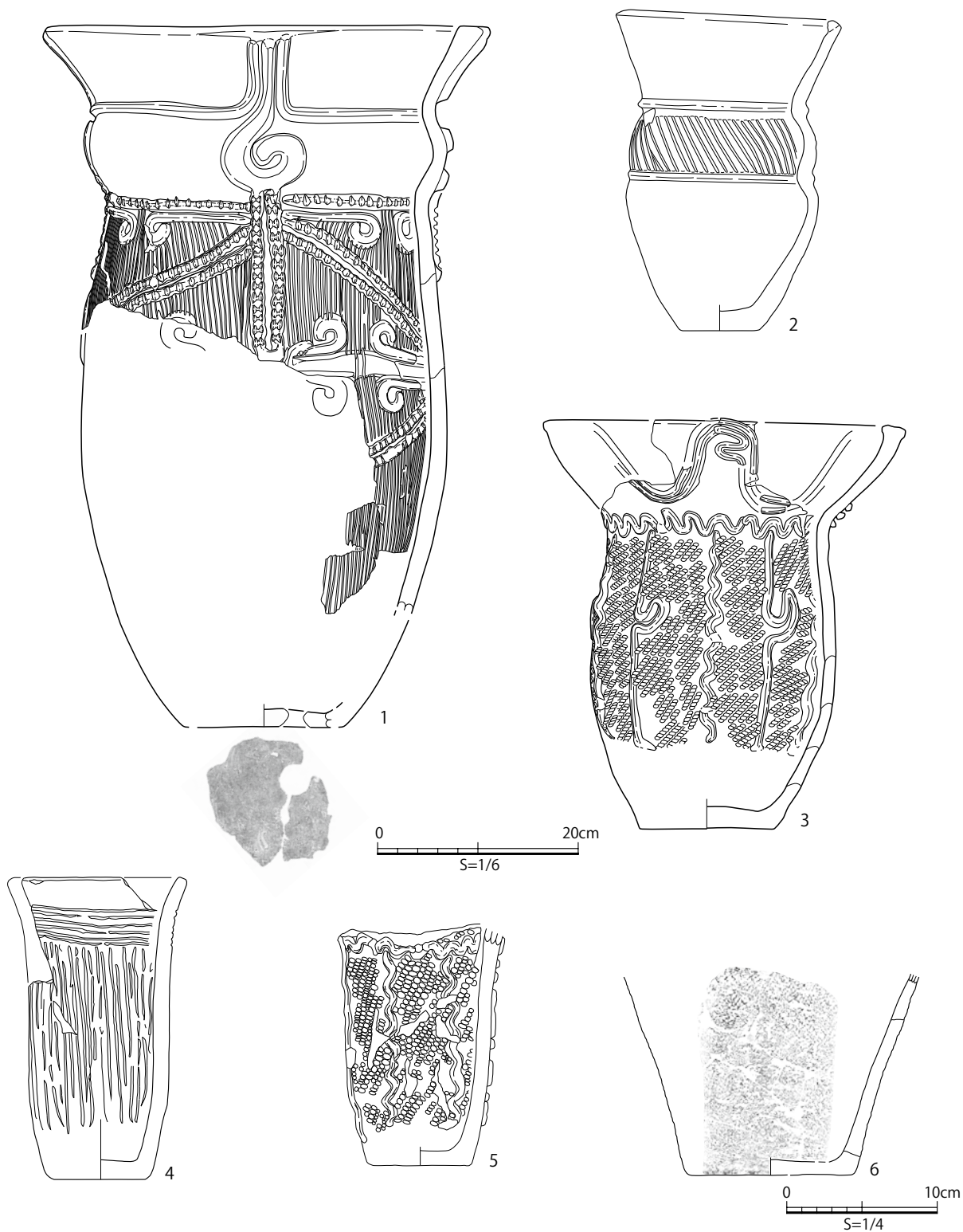


第34图 4号住居跡出土遺物

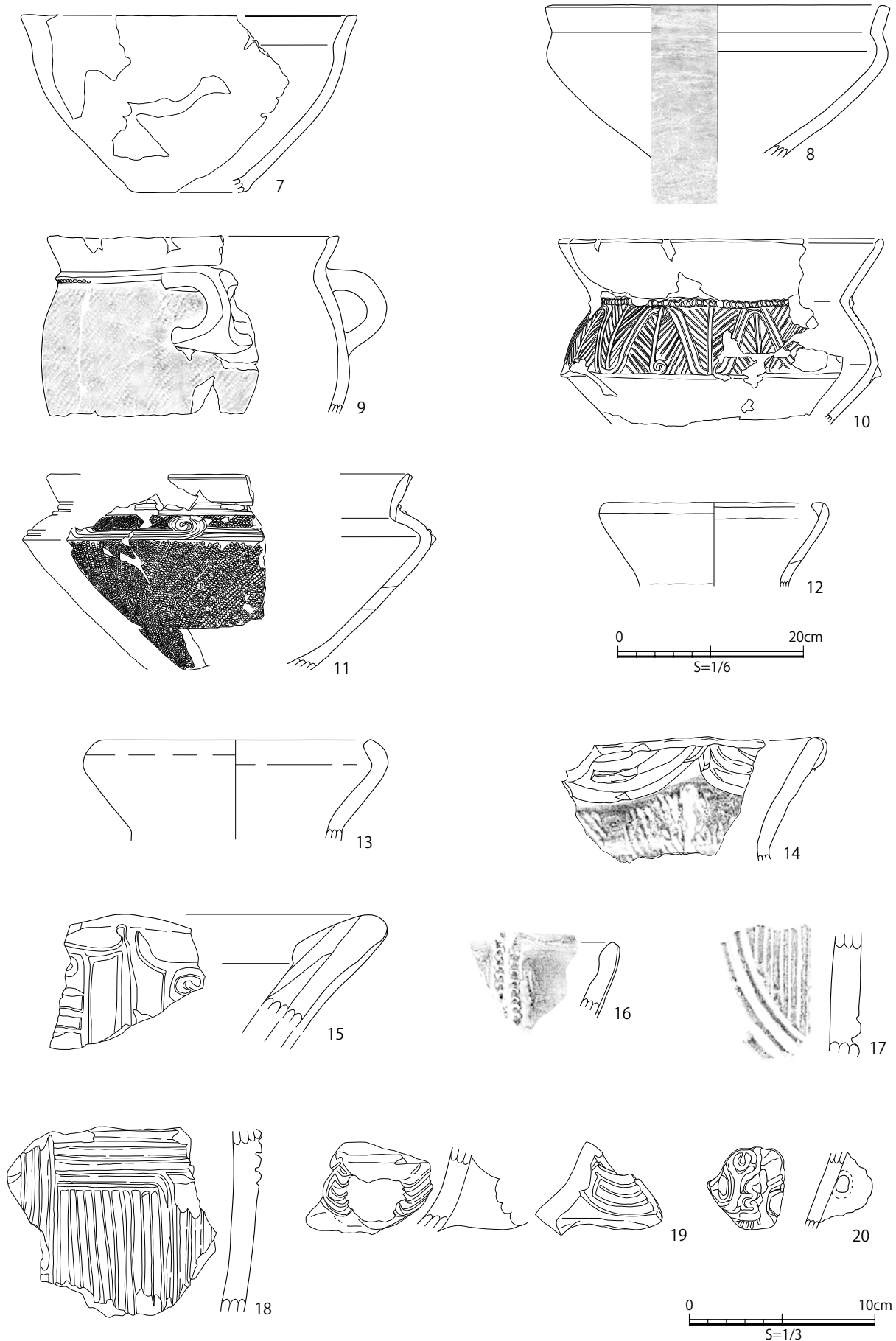
4号住居跡続き



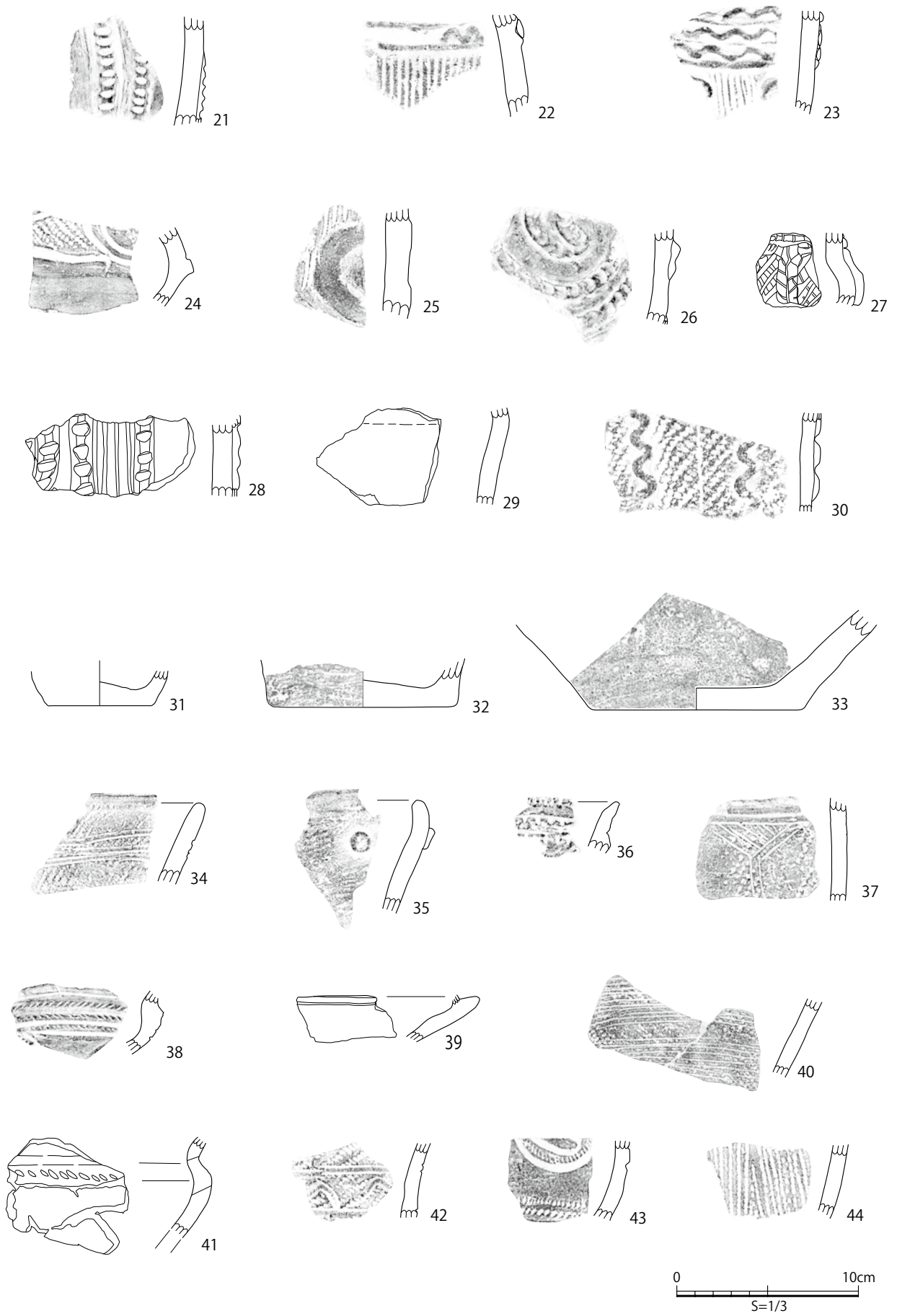
5号住居跡



第35図 4号住居跡出土遺物(2)・5号住居跡出土遺物

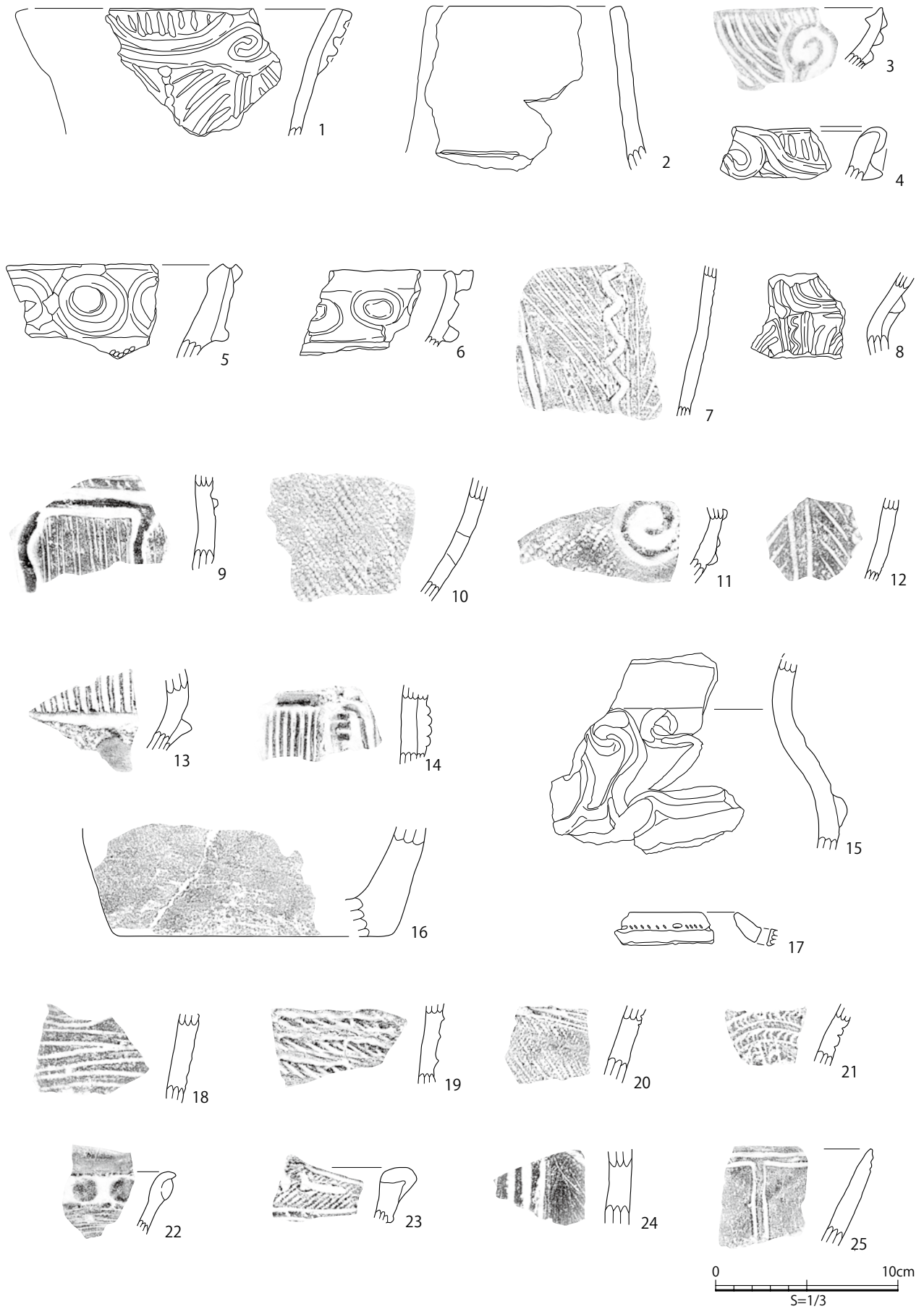


第36图 5号住居跡出土遺物(2)



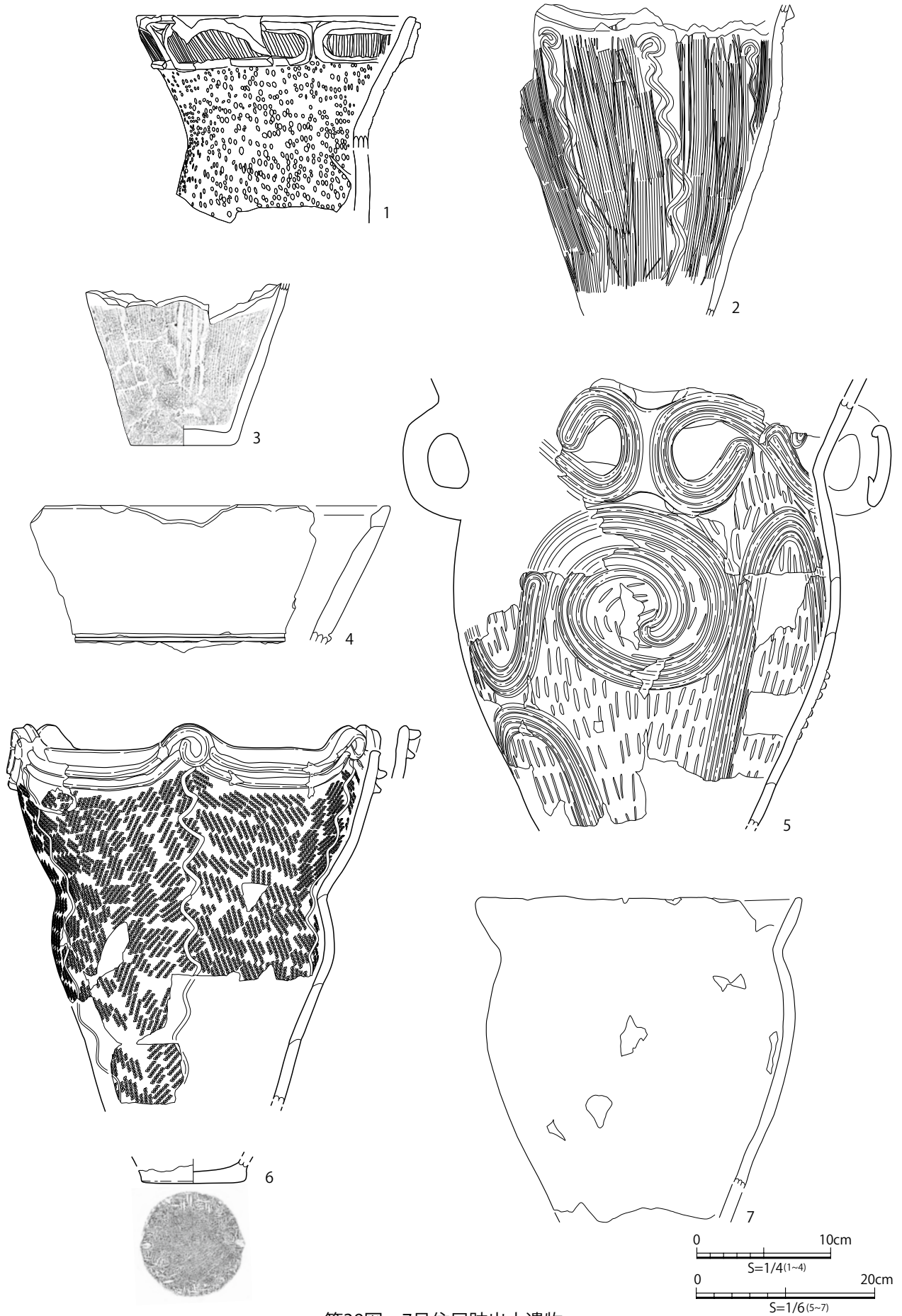
第37图 5号住居跡出土遺物(3)

6号住居跡



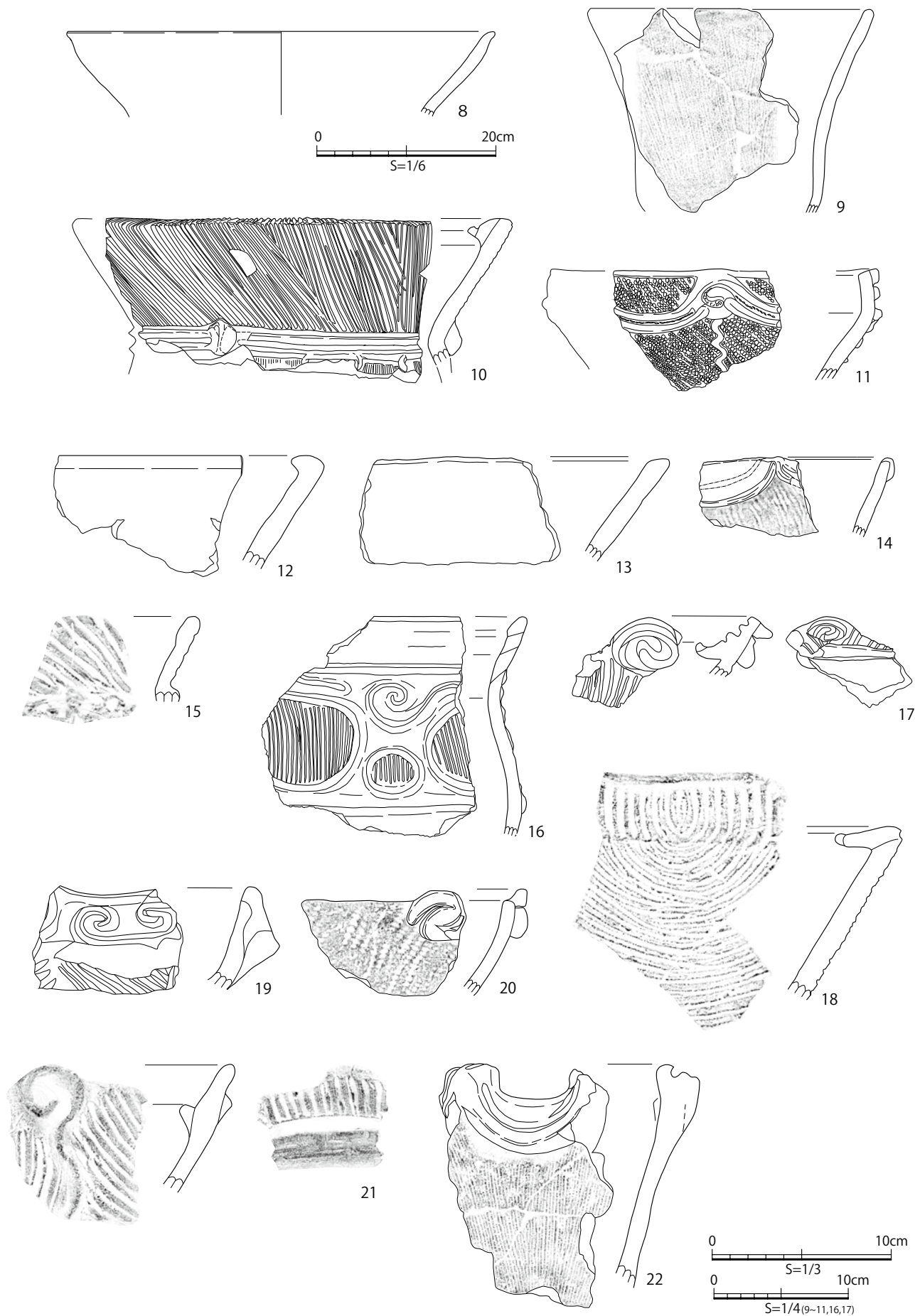
第38图 6号住居跡出土遺物

7号住居跡



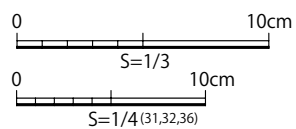
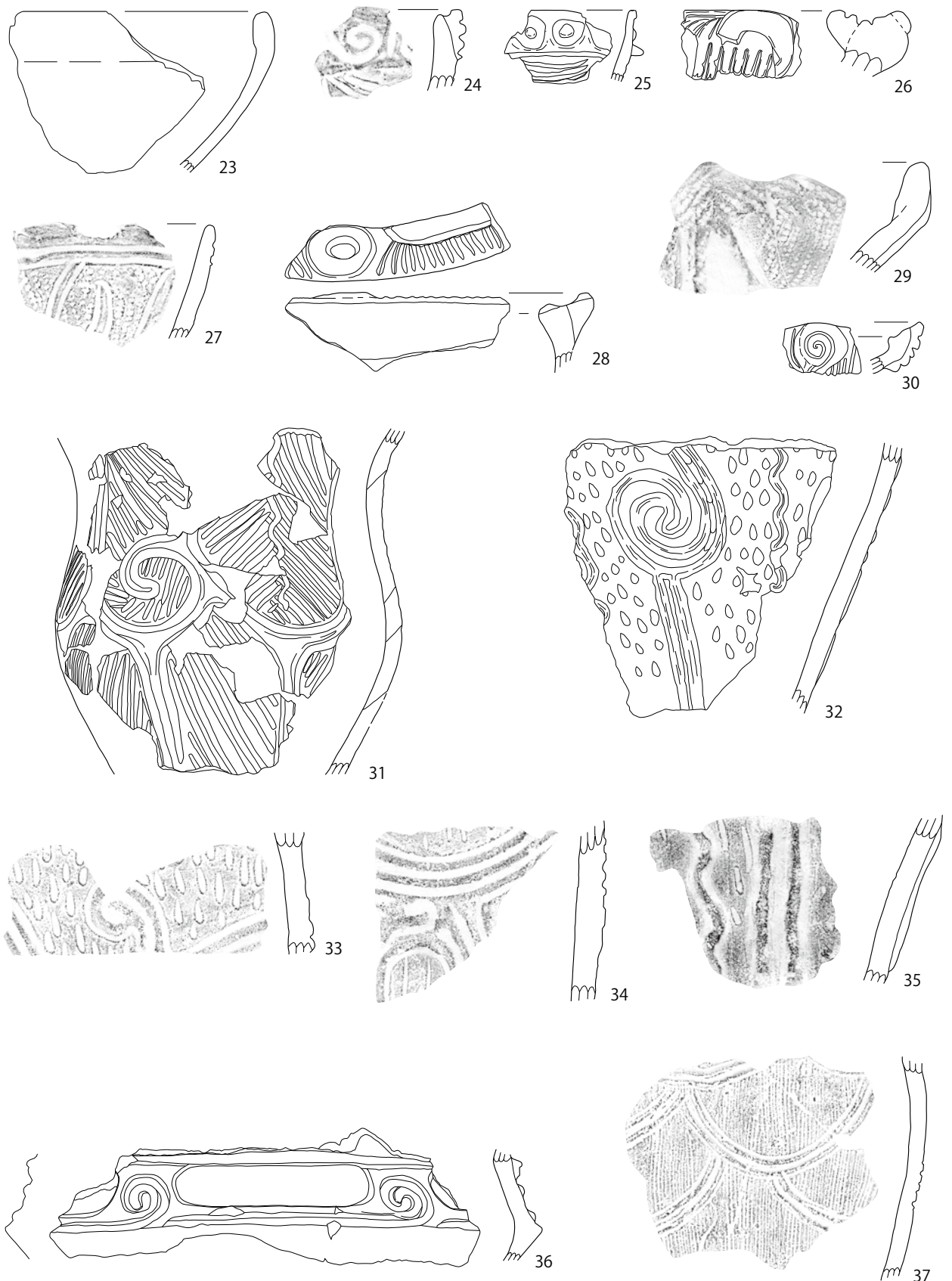
第39图 7号住居跡出土遺物

7号住居跡



第40图 7号住居跡出土遺物(2)

7号住居跡



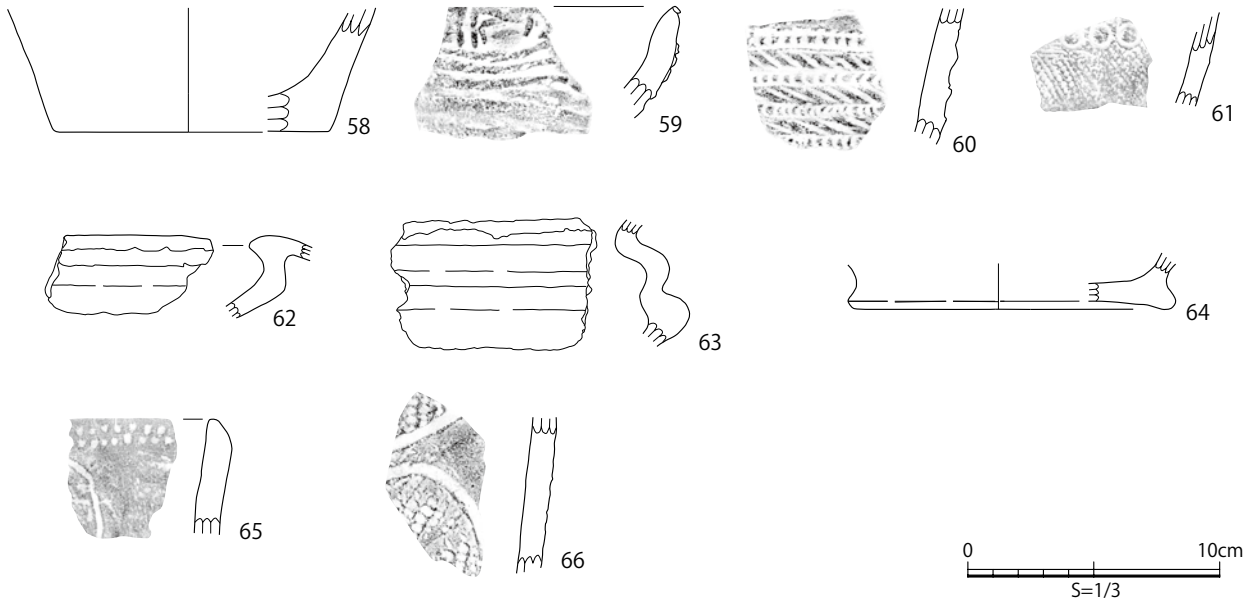
第41图 7号住居跡出土遺物(3)

7号住居跡



第42图 7号住居跡出土遺物(4)

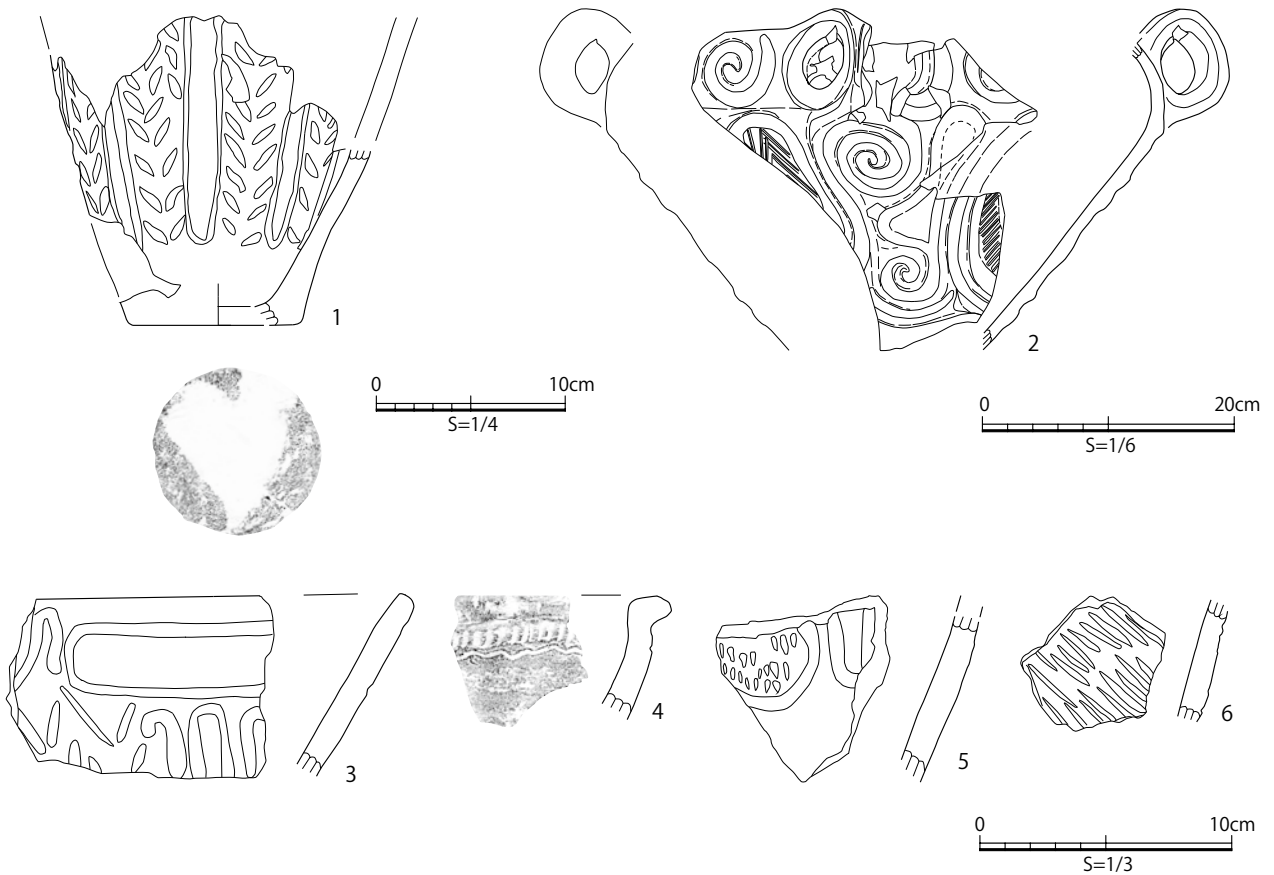
7号住居跡



8号住居跡

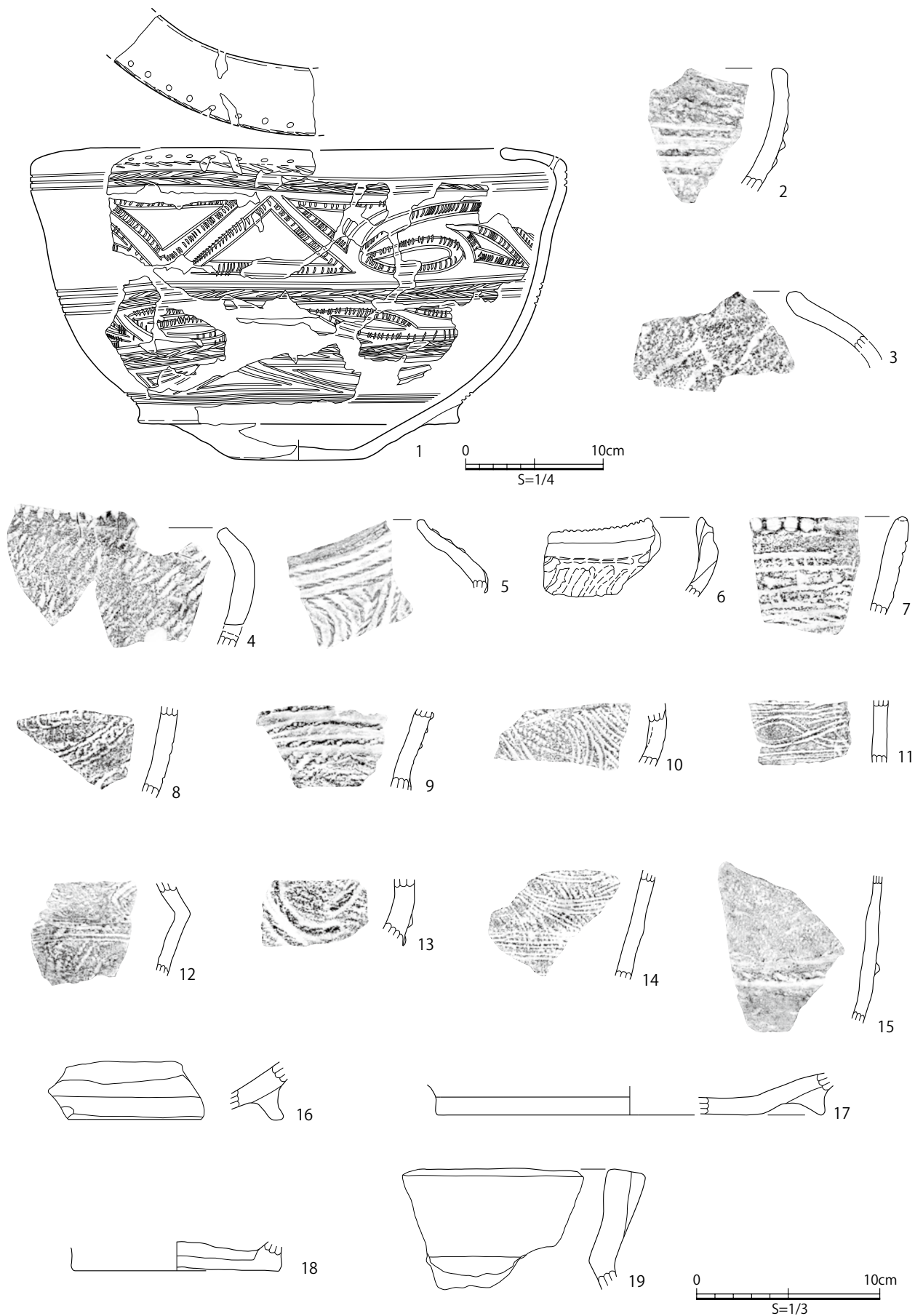


9号住居跡



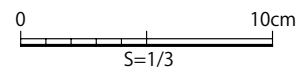
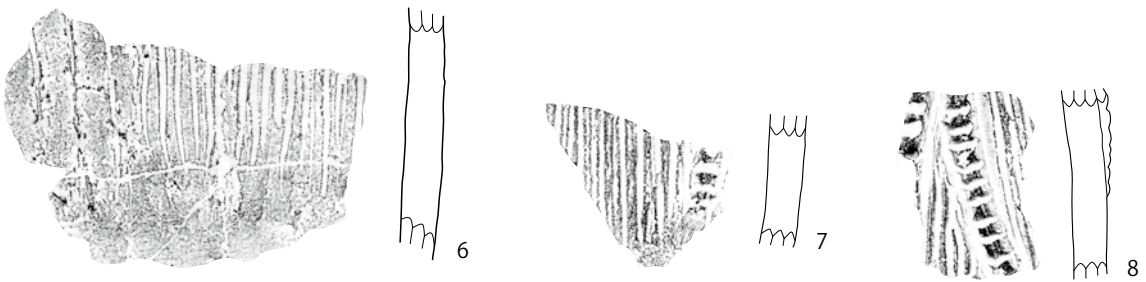
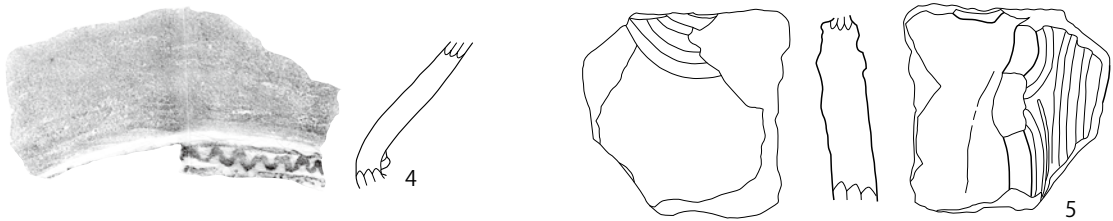
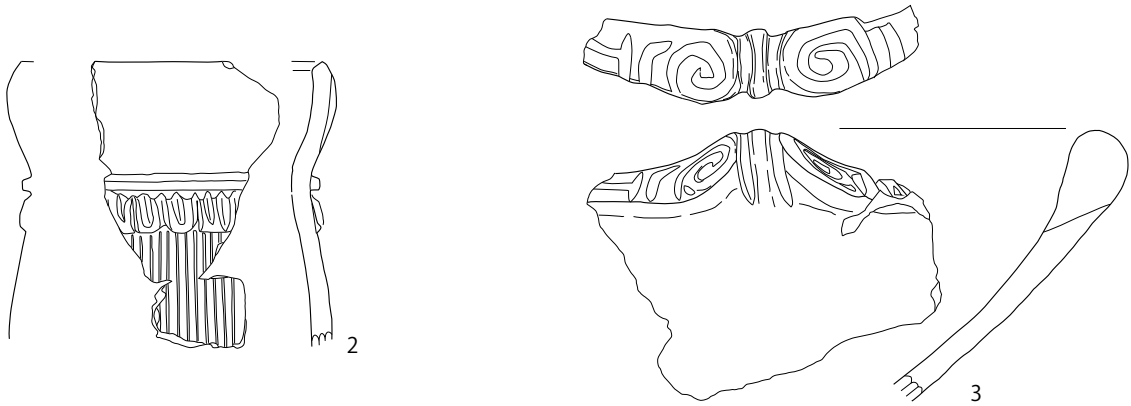
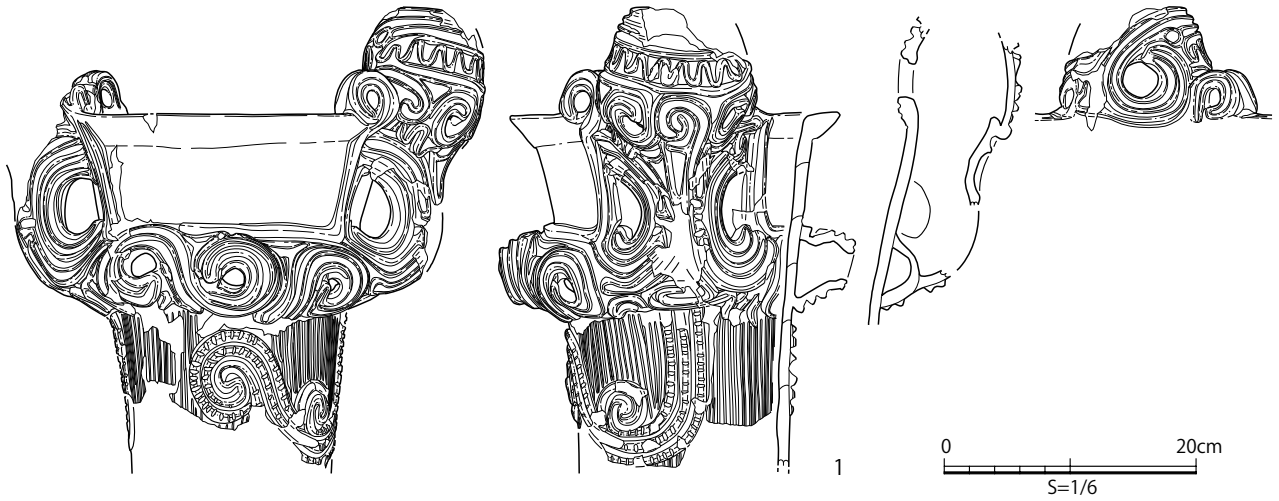
第43图 7号住居跡出土遺物(5)・8号住居跡・9号住居跡出土遺物

10号住居跡



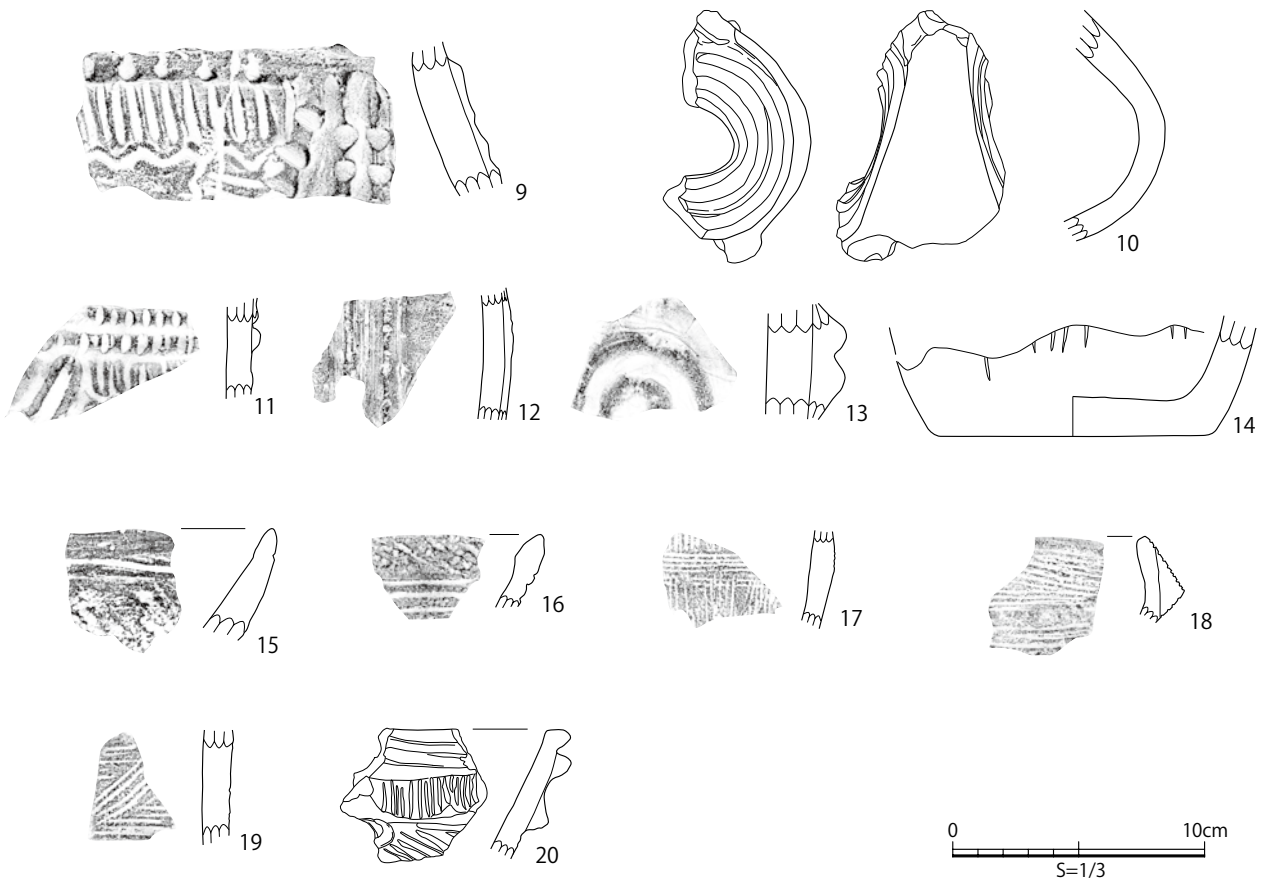
第44图 10号住居跡出土遺物

11号住居跡

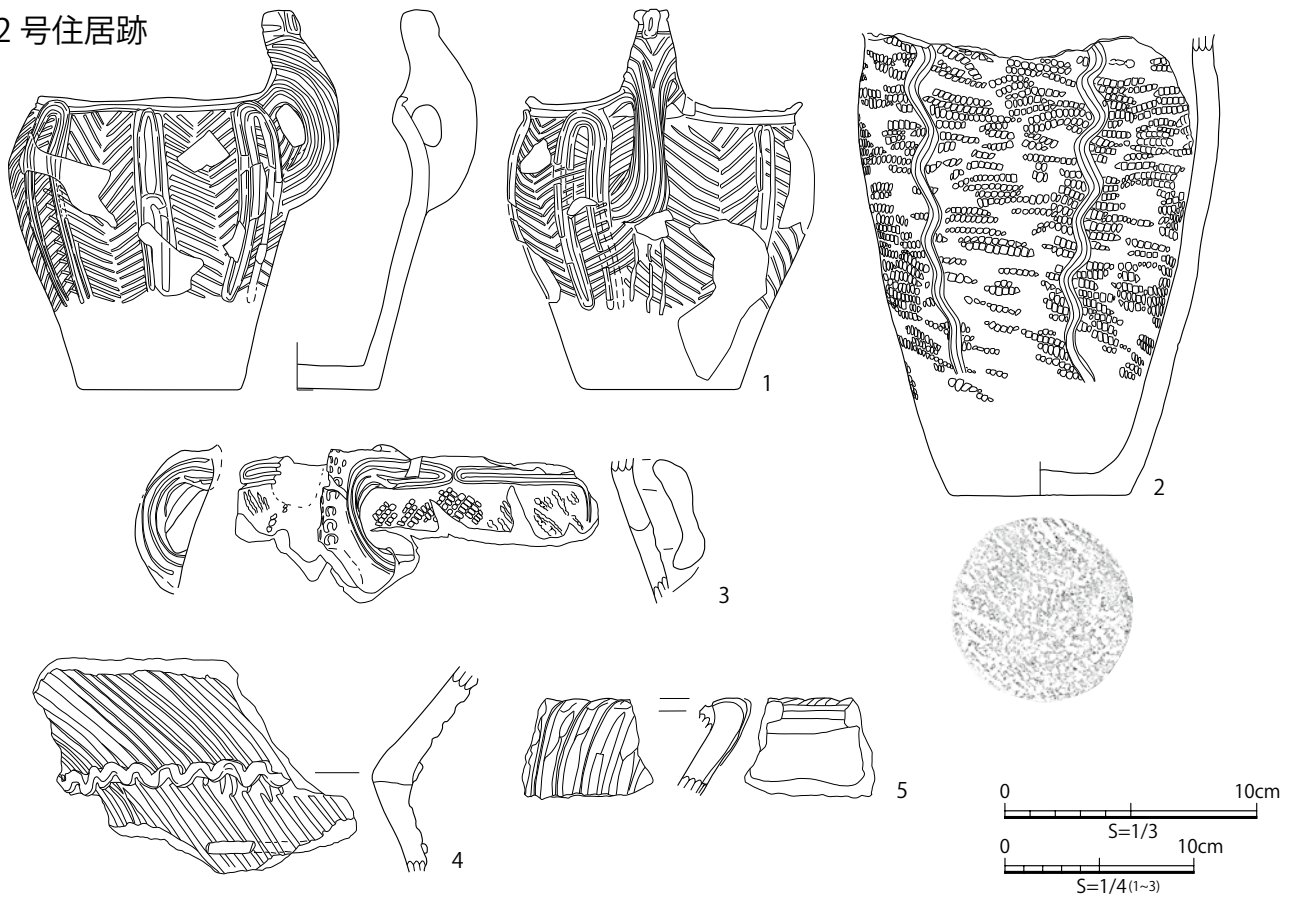


第45图 11号住居跡出土遺物

11 号住居跡

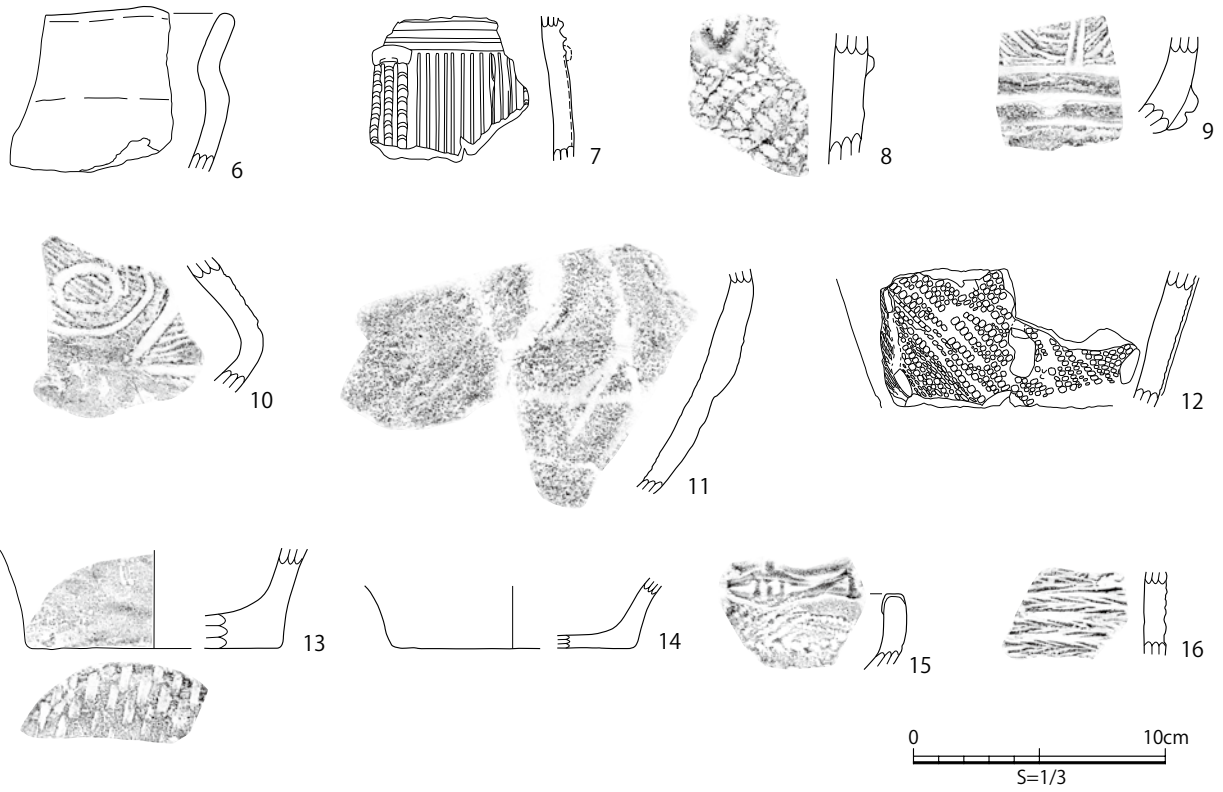


12 号住居跡

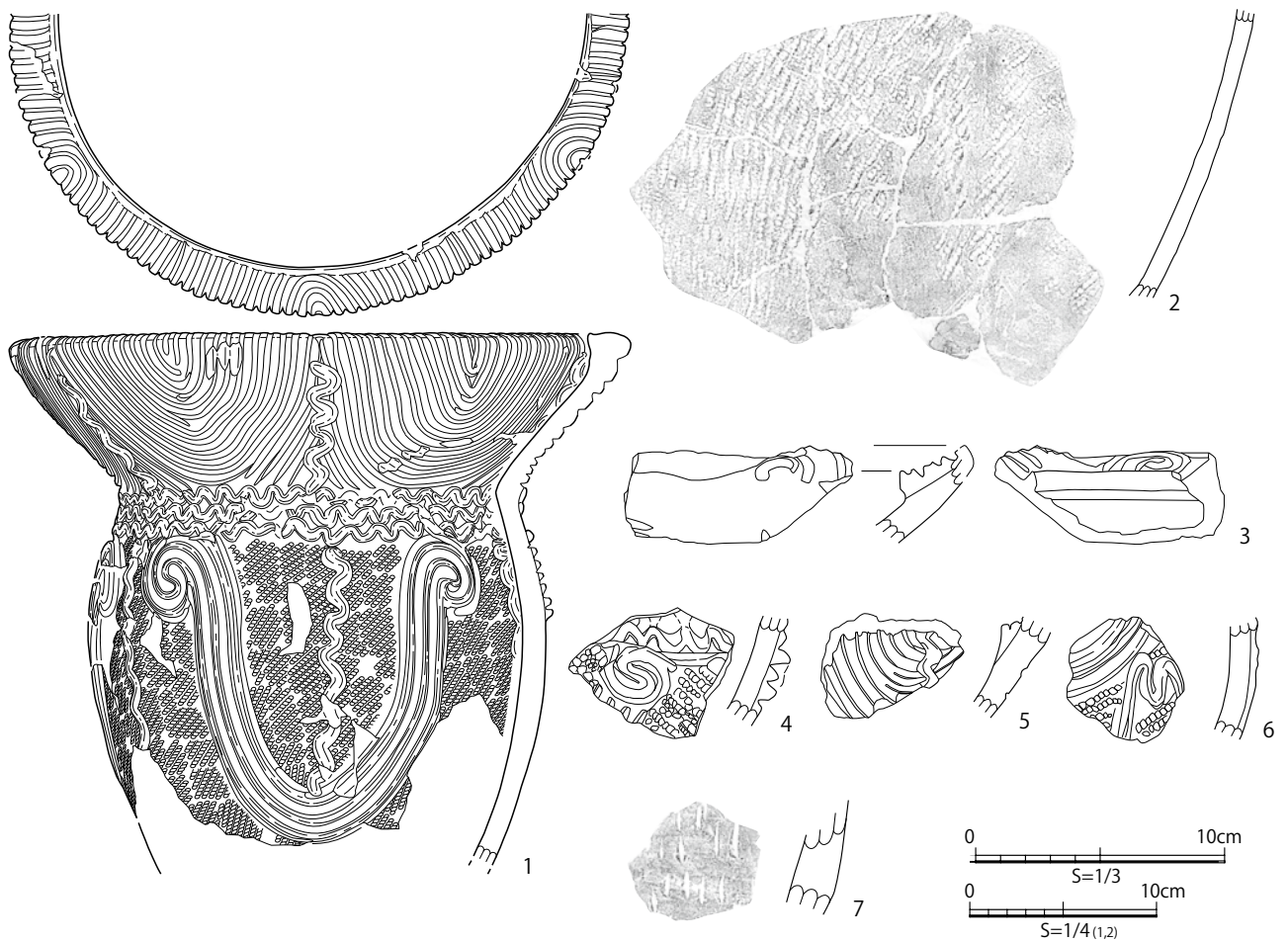


第46图 11号住居跡出土遺物(2)・12号住居跡出土遺物

12号住居跡

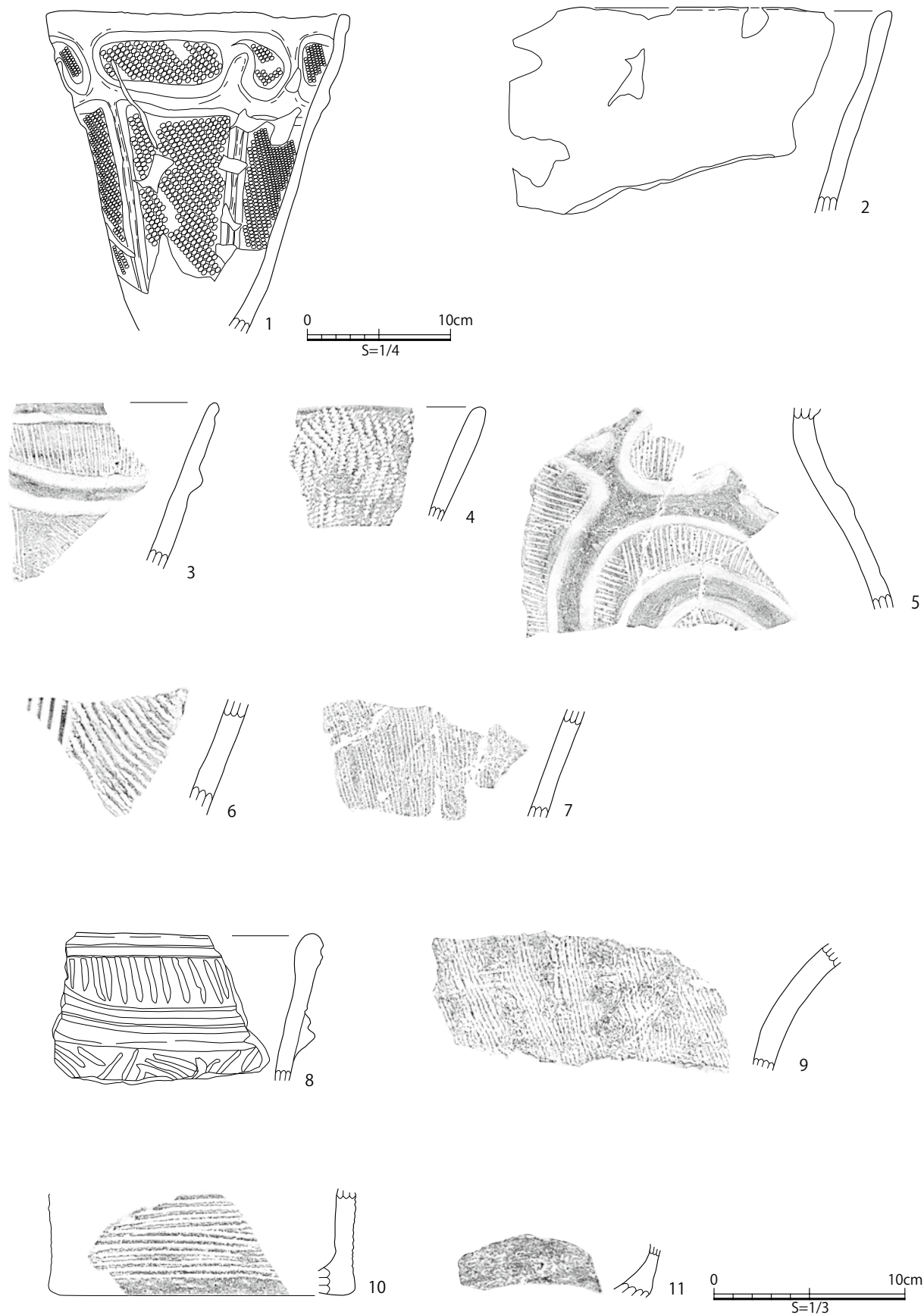


13号住居跡



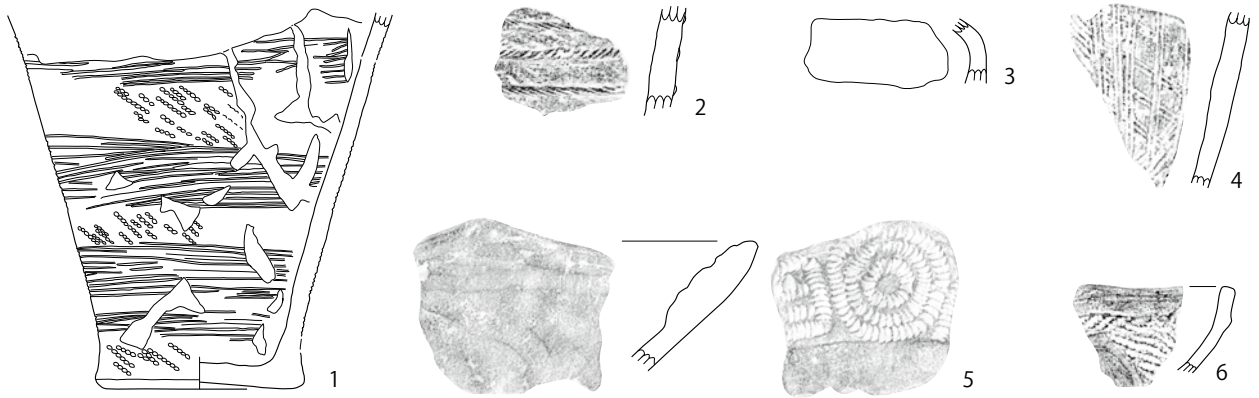
第47图 12号住居跡出土遺物(2)・13号住居跡出土遺物

14号住居跡

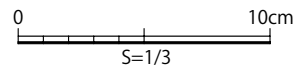
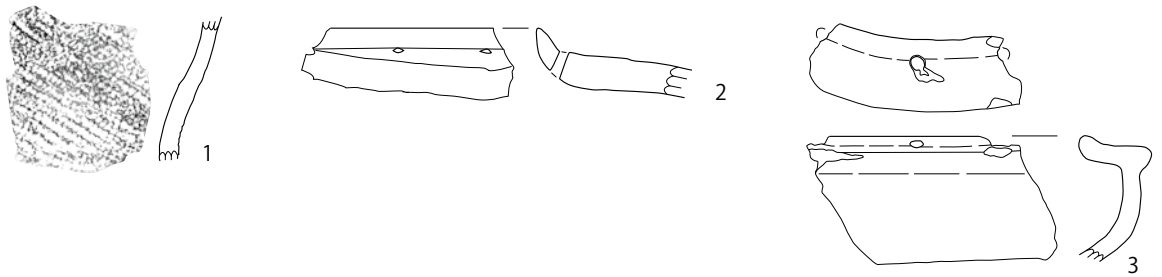


第48图 14号住居跡出土遺物

1号竖穴状遺構

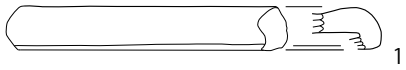


2号竖穴状遺構

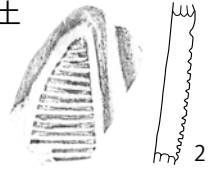


第49图 1号竖穴・2号竖穴出土遺物

3 ±



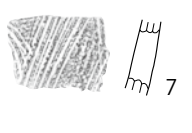
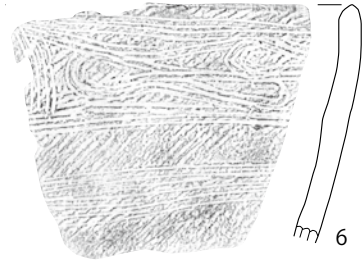
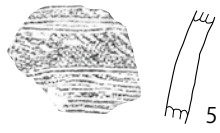
5 ±



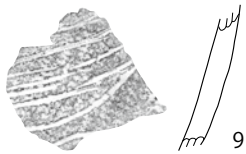
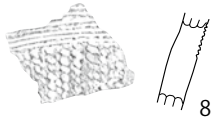
6 ±



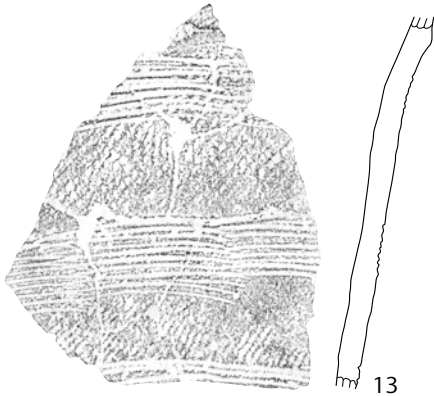
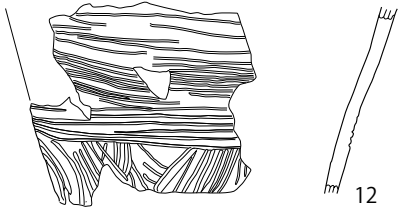
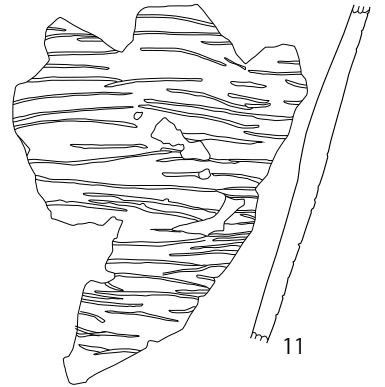
18 ±



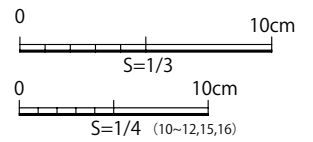
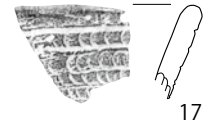
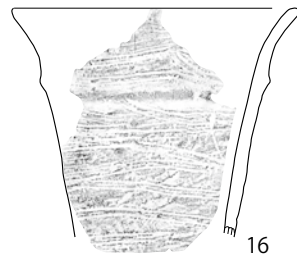
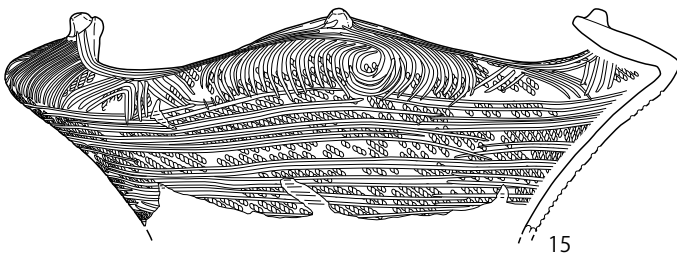
29 ±



30 ±

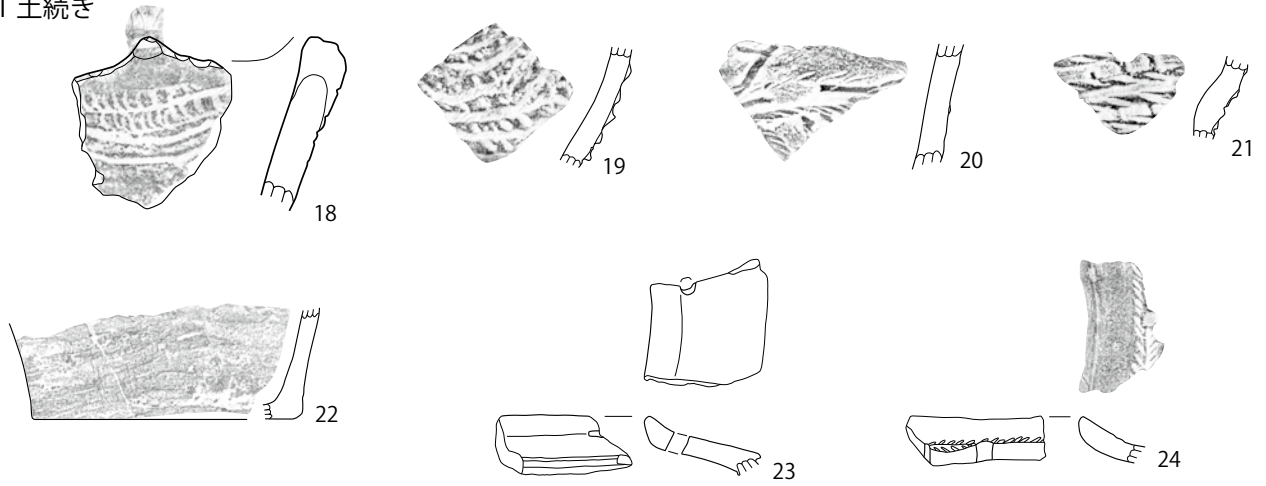


31 ±



第50图 土坑出土遺物 (3±~31±)

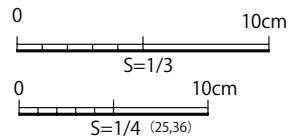
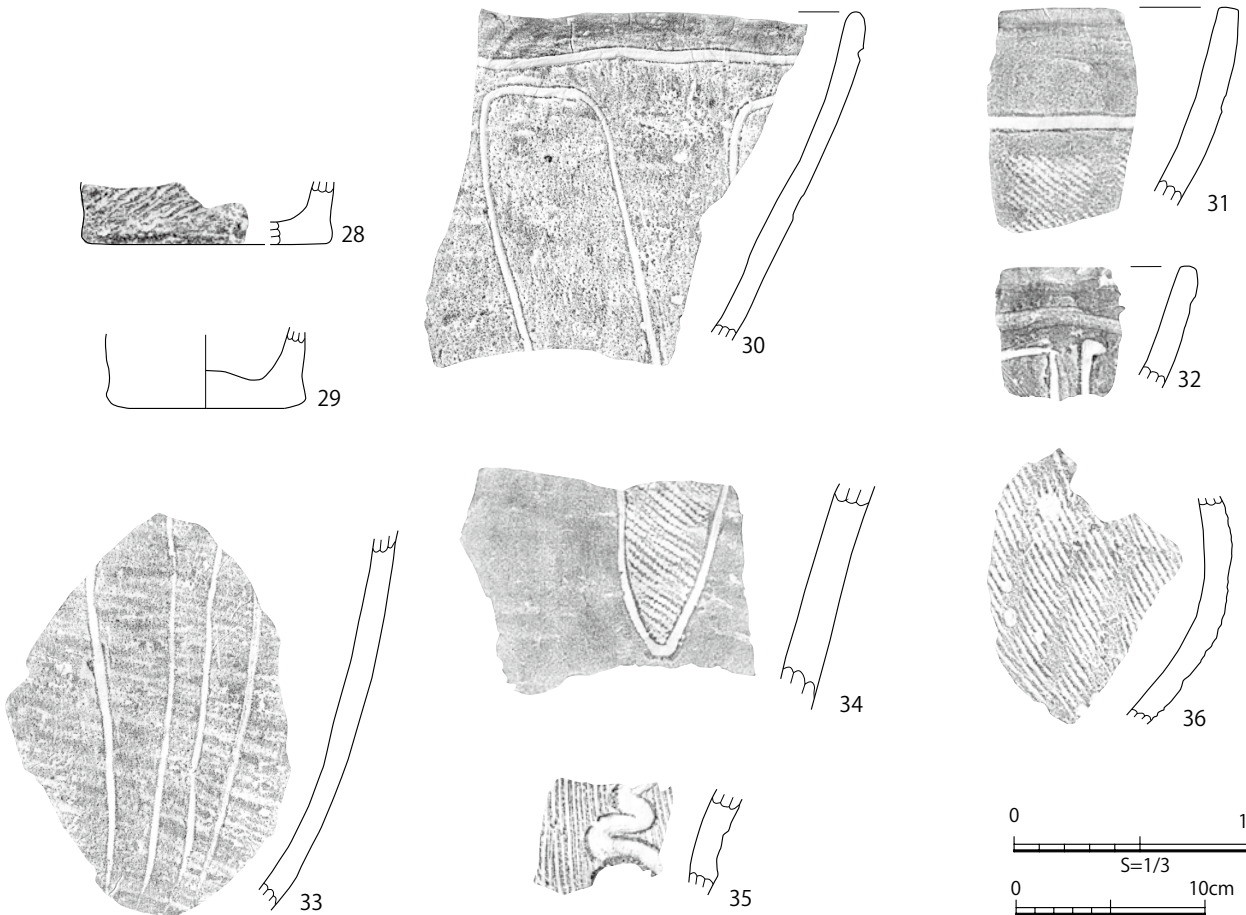
31 土続き



32 土

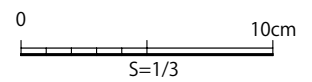
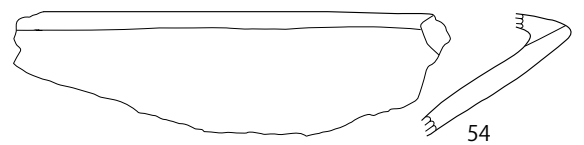
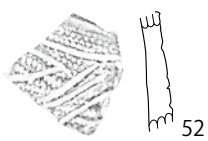
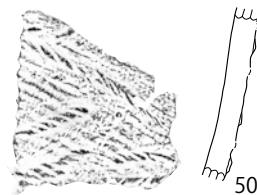
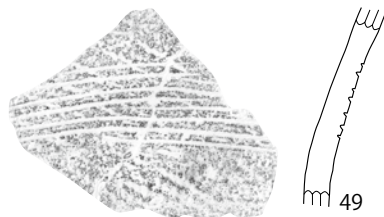
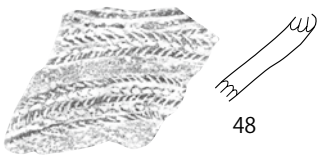
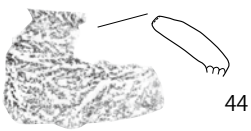
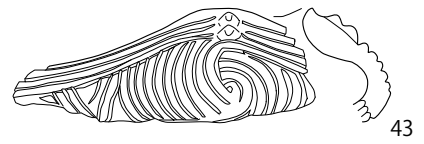
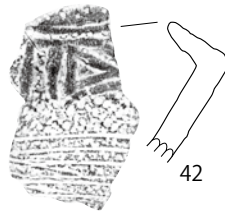
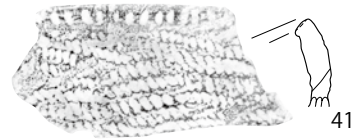
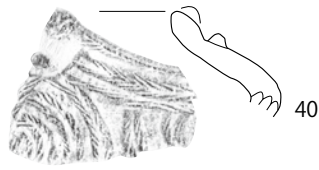
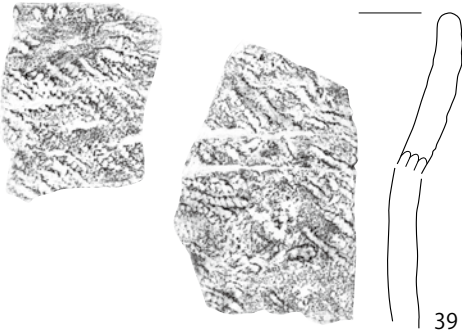
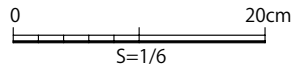
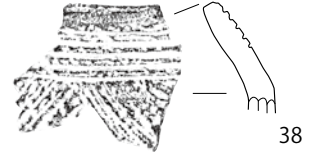
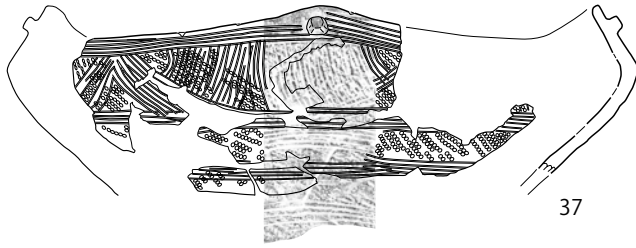


33 土



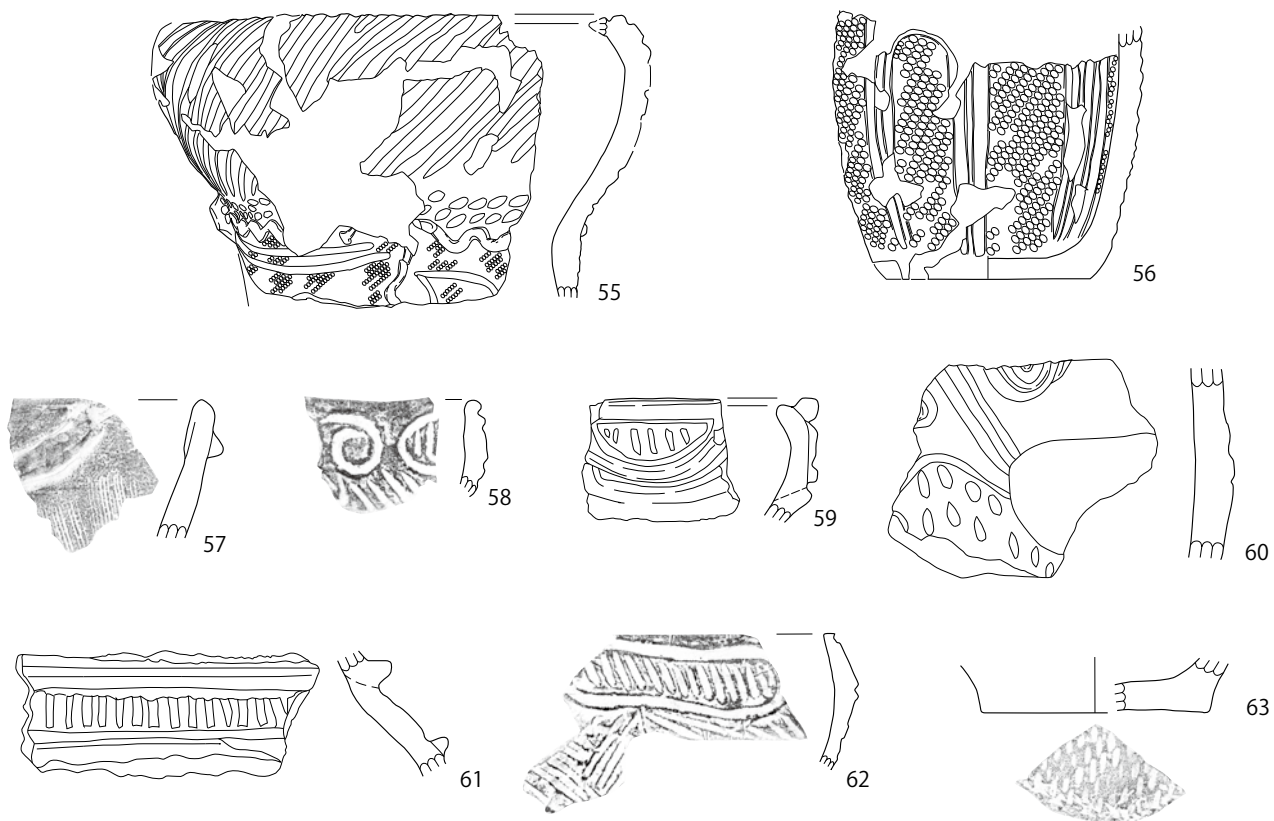
第51図 土坑出土遺物2 (31土~33土)

34 土

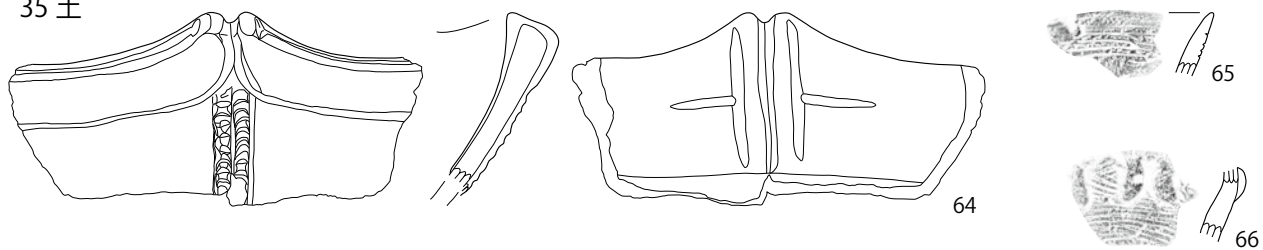


第52图 土坑出土遺物3 (34土)

34 土続き

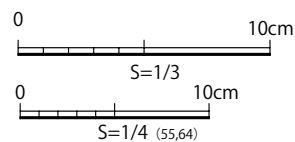
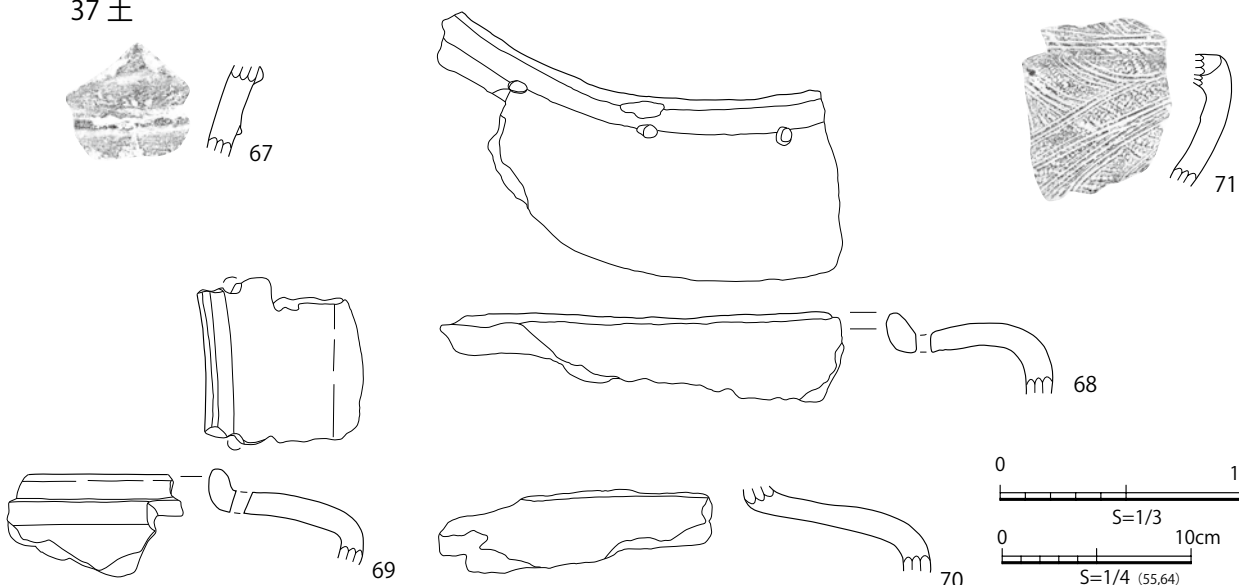


35 土



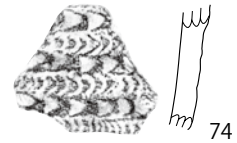
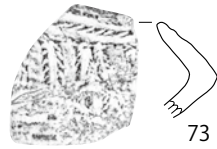
41 土

37 土

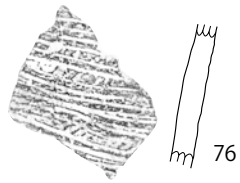


第53図 土坑出土遺物4 (34土~41土)

43 ±



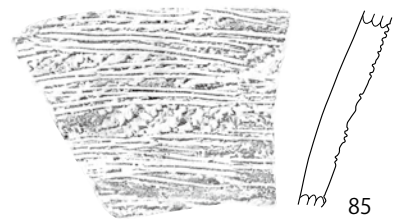
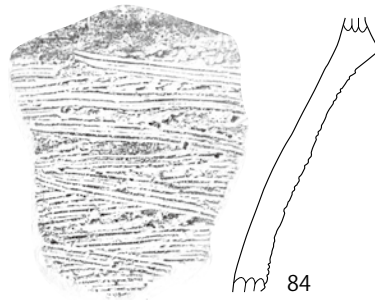
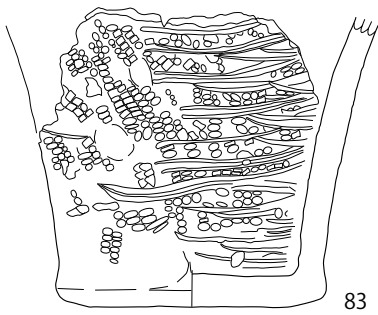
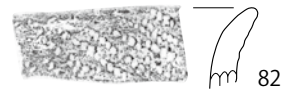
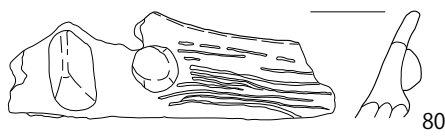
45 ±



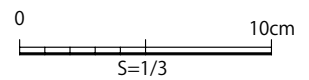
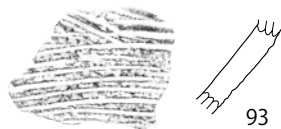
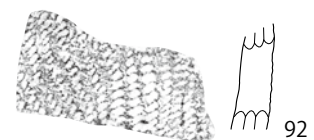
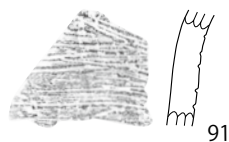
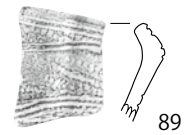
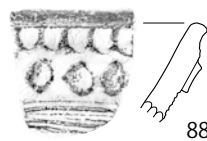
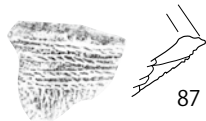
50 ±



52 ±

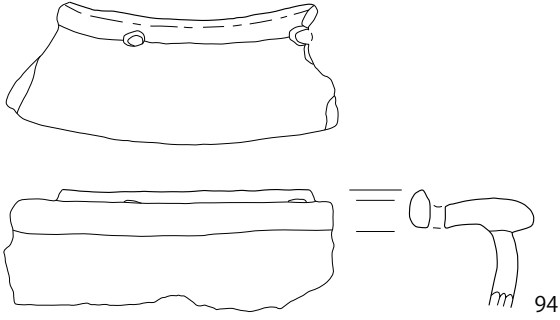


53 ±

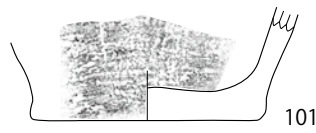
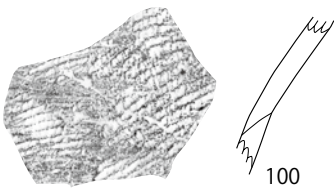
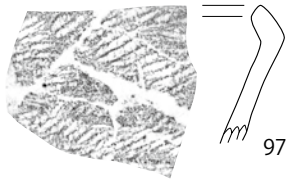
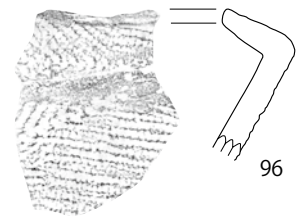


第54图 土坑出土遺物5 (43±~53±)

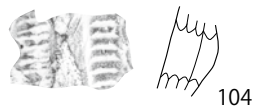
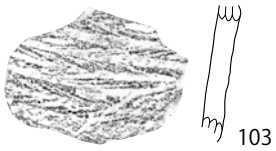
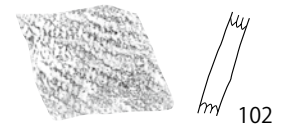
53 土続き



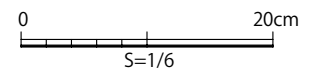
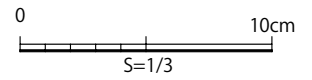
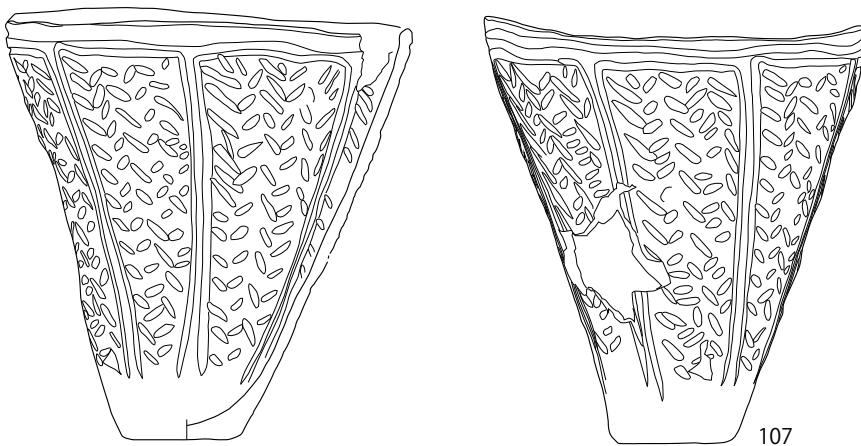
54 土



55 土

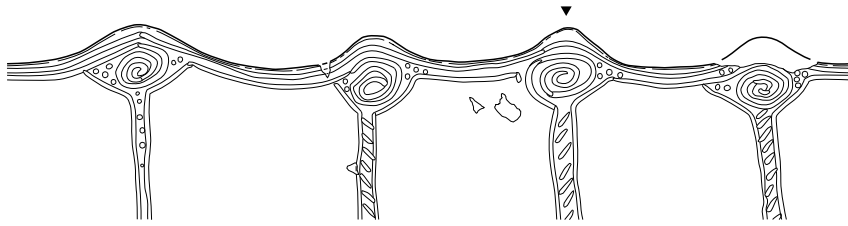


56 土

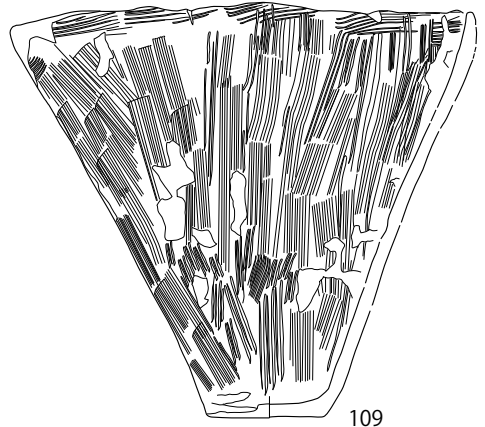


第55図 土坑出土遺物6 (53~56土)

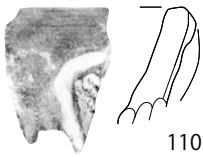
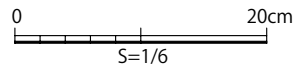
56 土続き



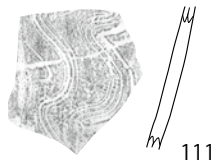
108



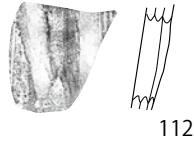
109



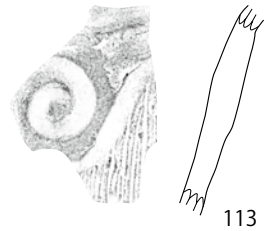
110



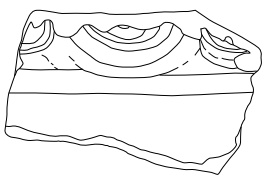
111



112



113



114



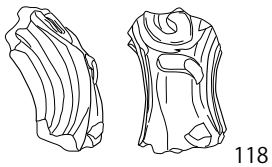
115



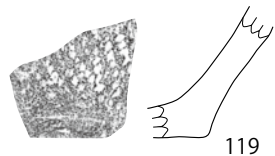
116



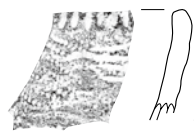
117



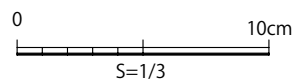
118



119

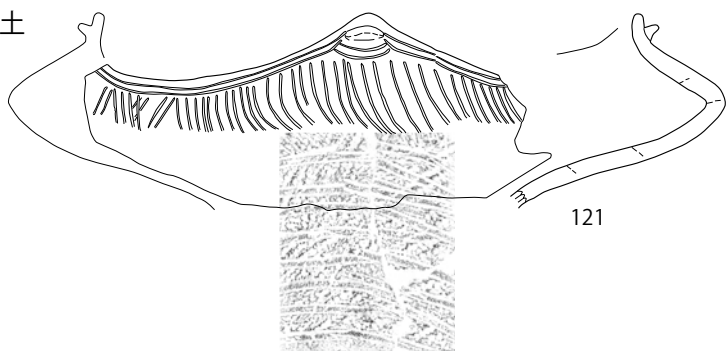


120



第56図 土坑出土遺物7 (56土)

57 土



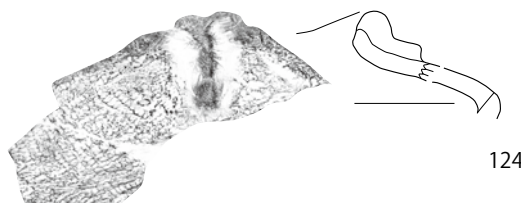
121



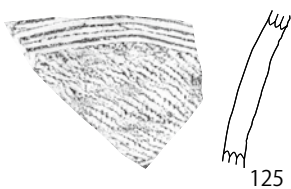
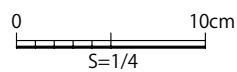
122



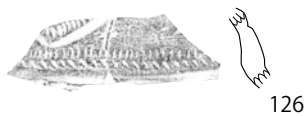
123



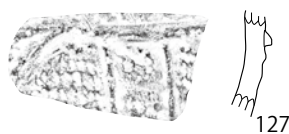
124



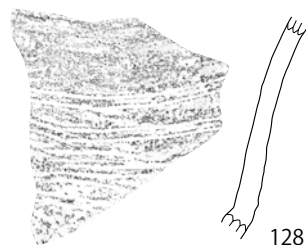
125



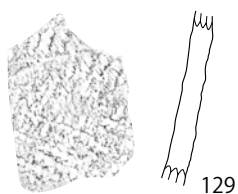
126



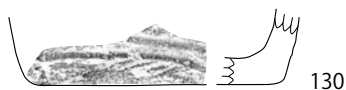
127



128



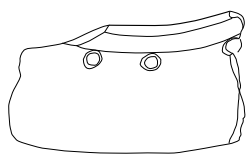
129



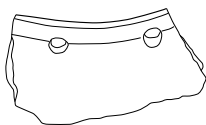
130



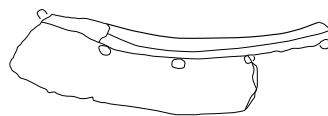
131



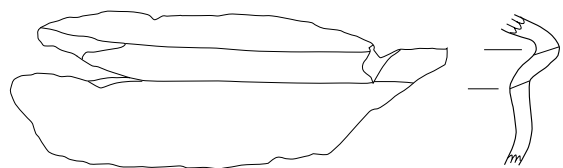
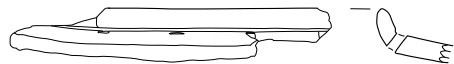
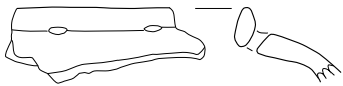
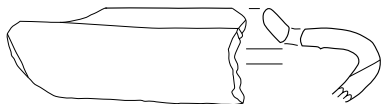
132



133



134



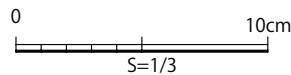
135



136

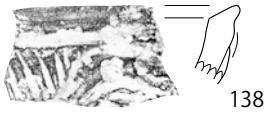


137

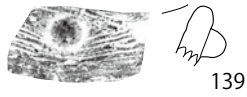


第57图 土坑出土遺物8 (57土)

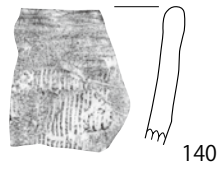
58 ±



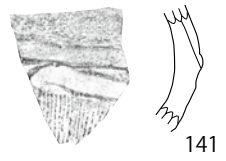
138



139

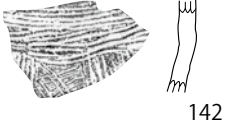


140



141

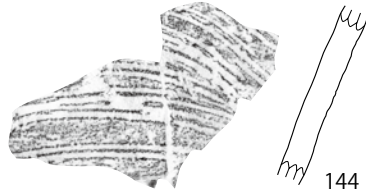
59 ±



142

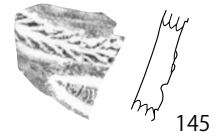


143



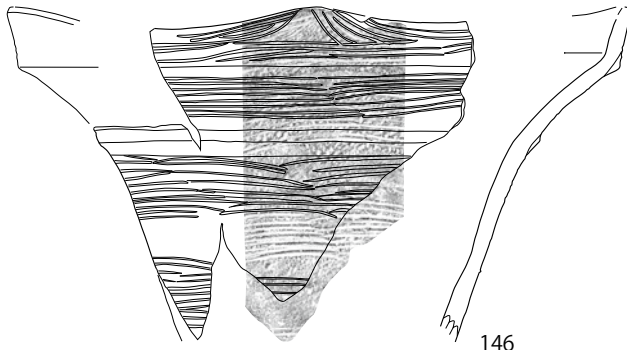
144

61 ±

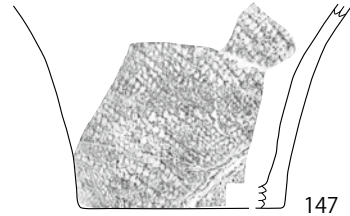


145

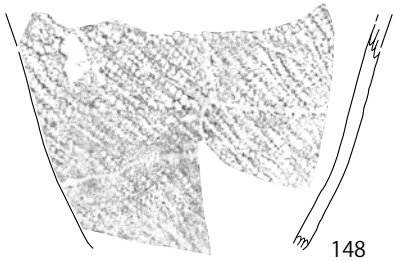
63 ±



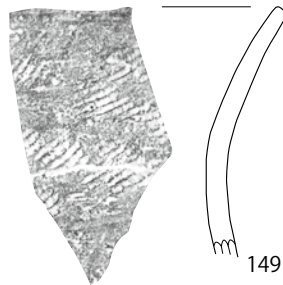
146



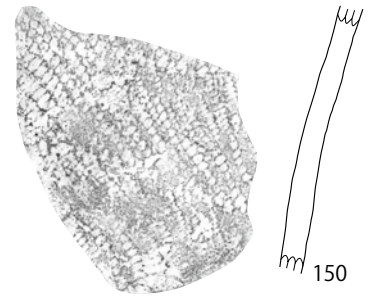
147



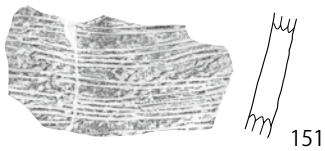
148



149

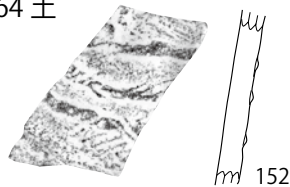


150

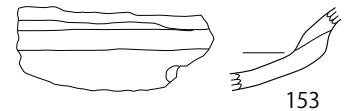


151

64 ±



152



153

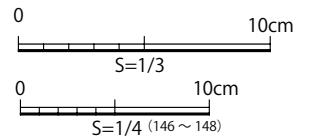
65 ±



154

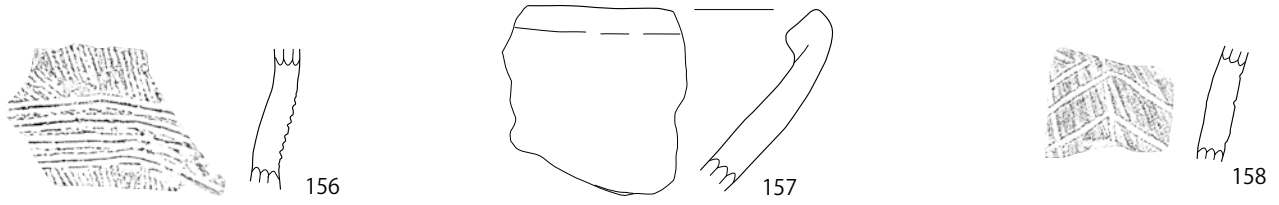


155

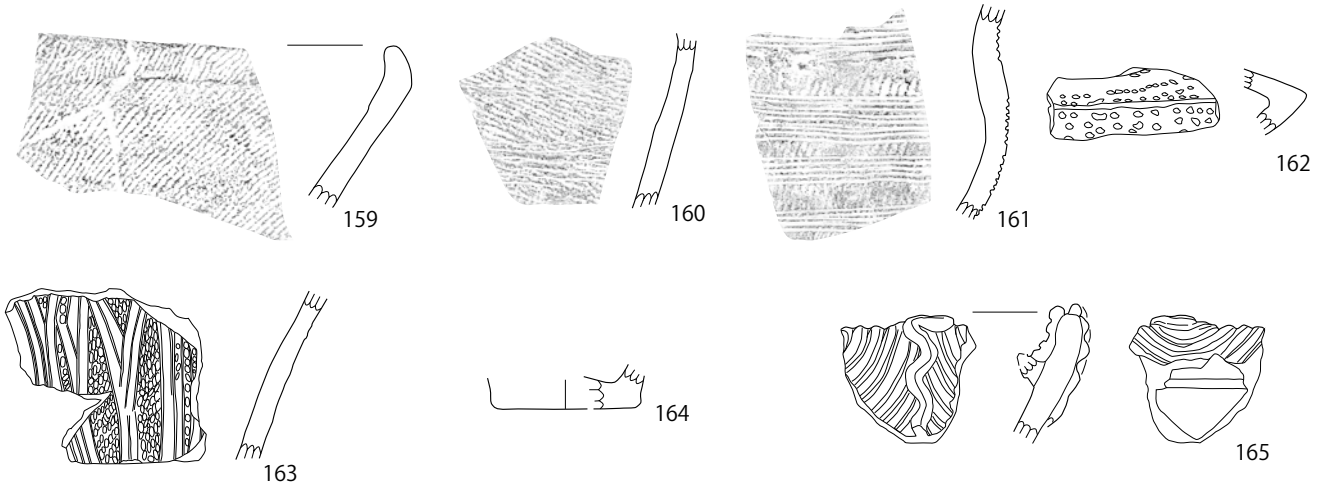


第58図 土坑出土遺物9 (58±~65±)

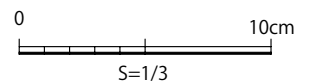
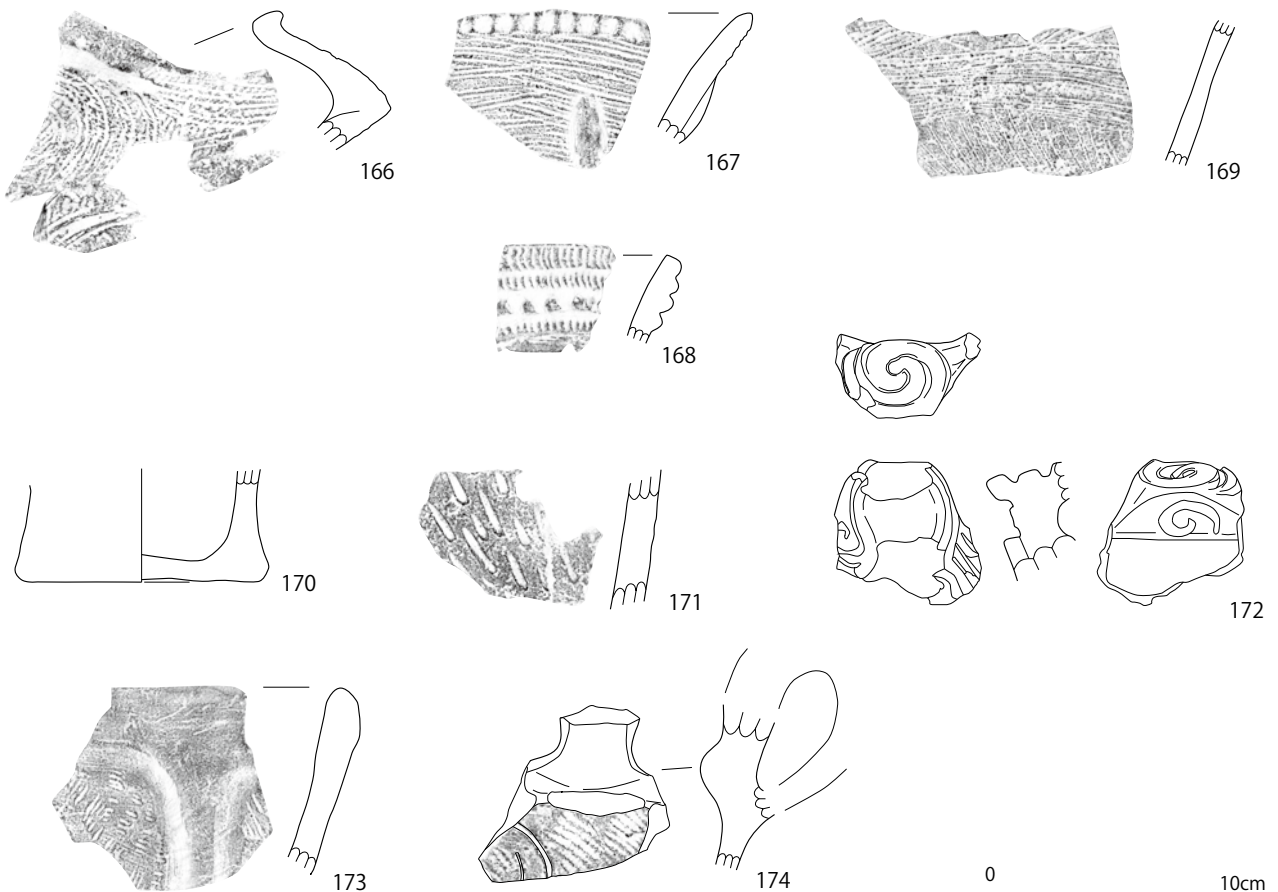
外構B区1土



外構B区2土

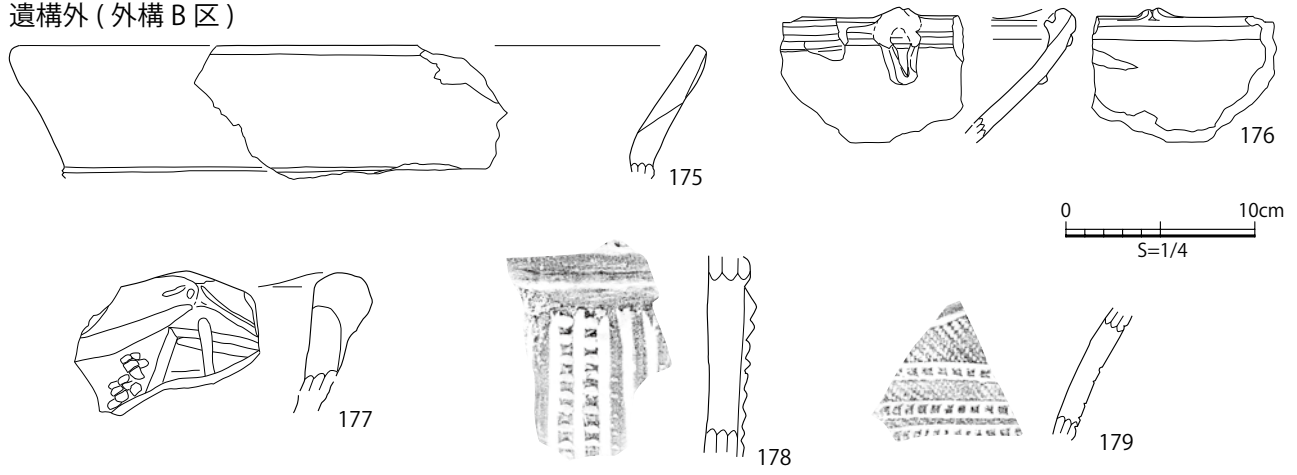


遺構外出土遺物

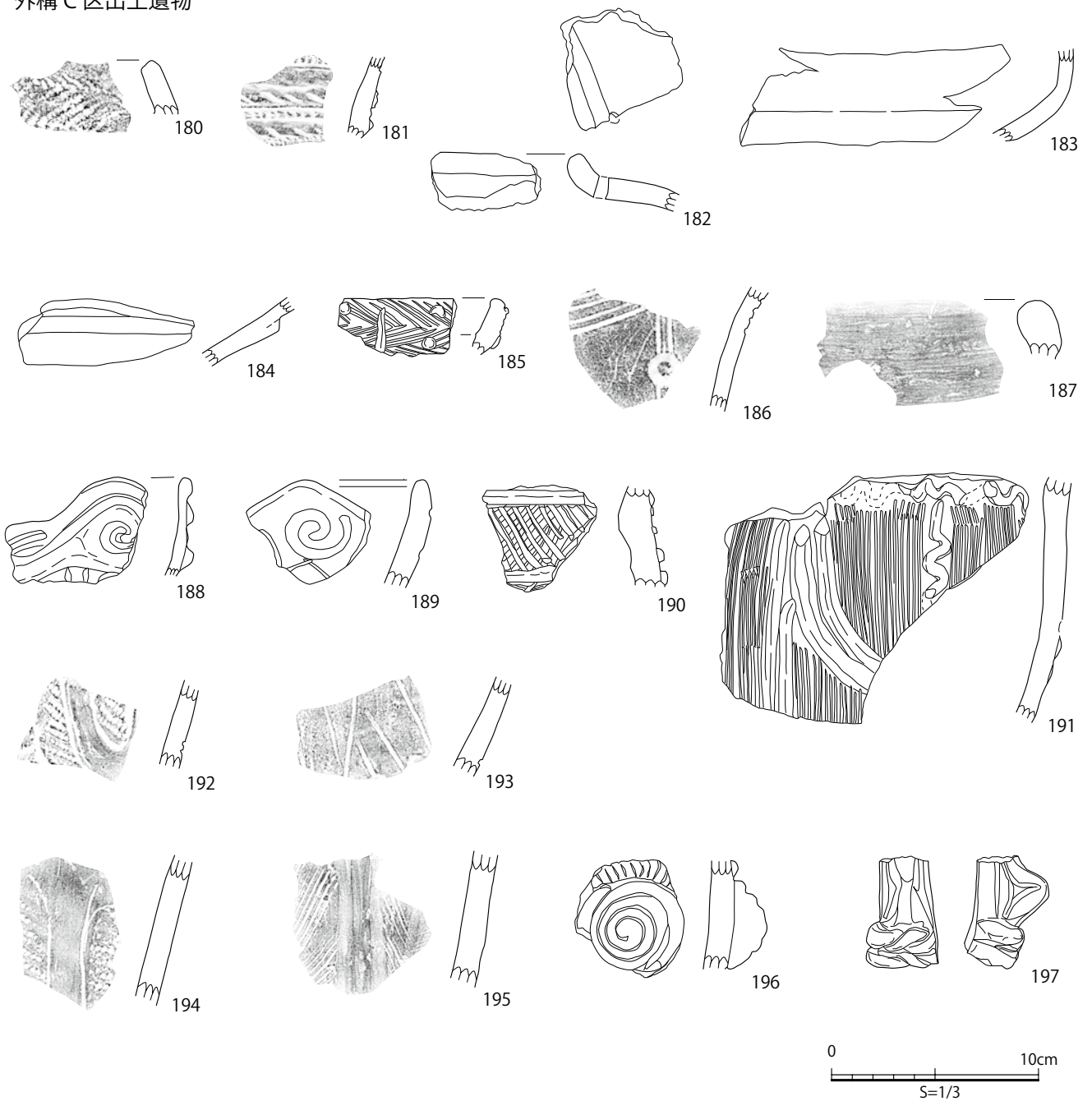


第59図 土坑出土遺物10・遺構外出土遺物

遺構外(外構B区)

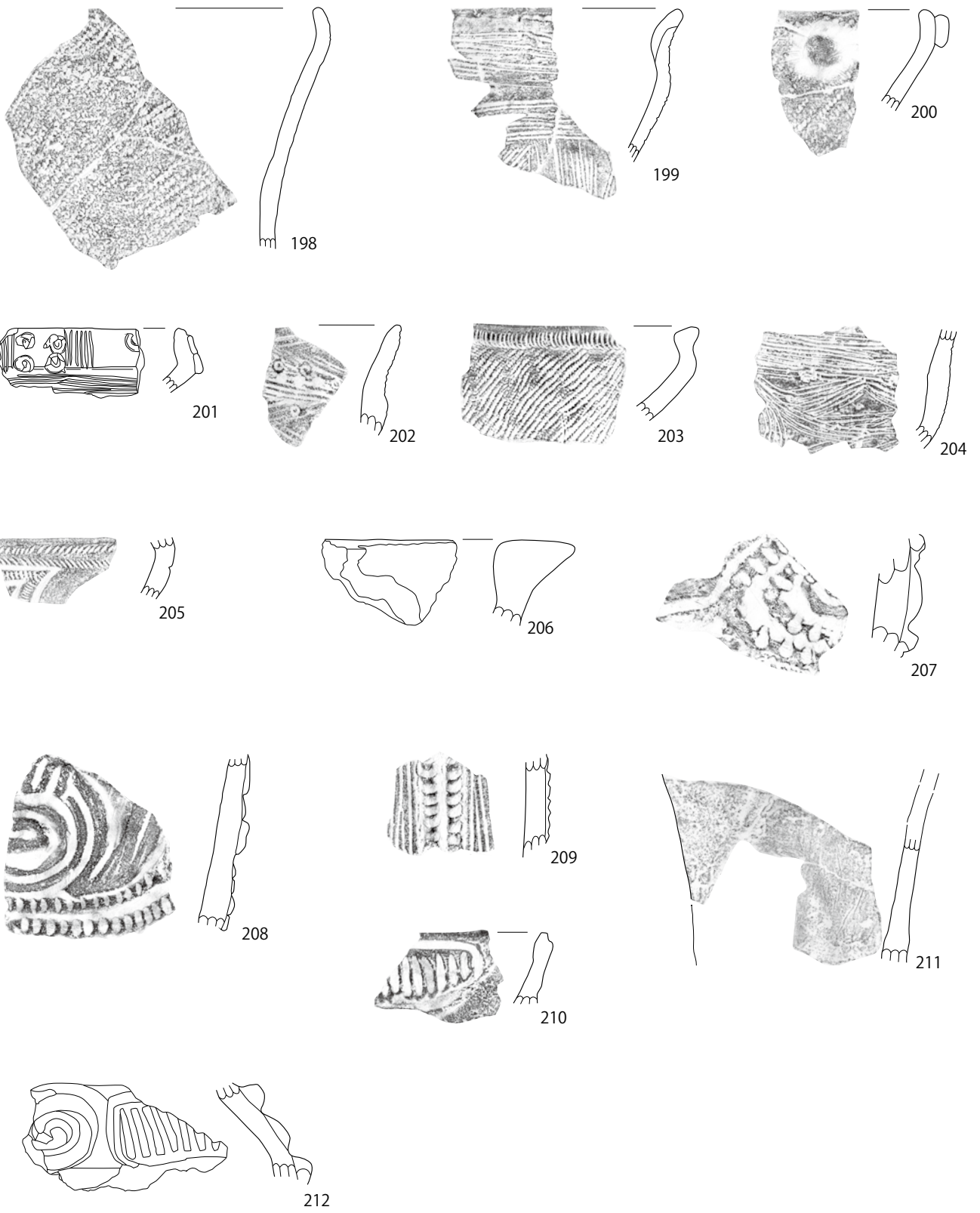


外構C区出土遺物



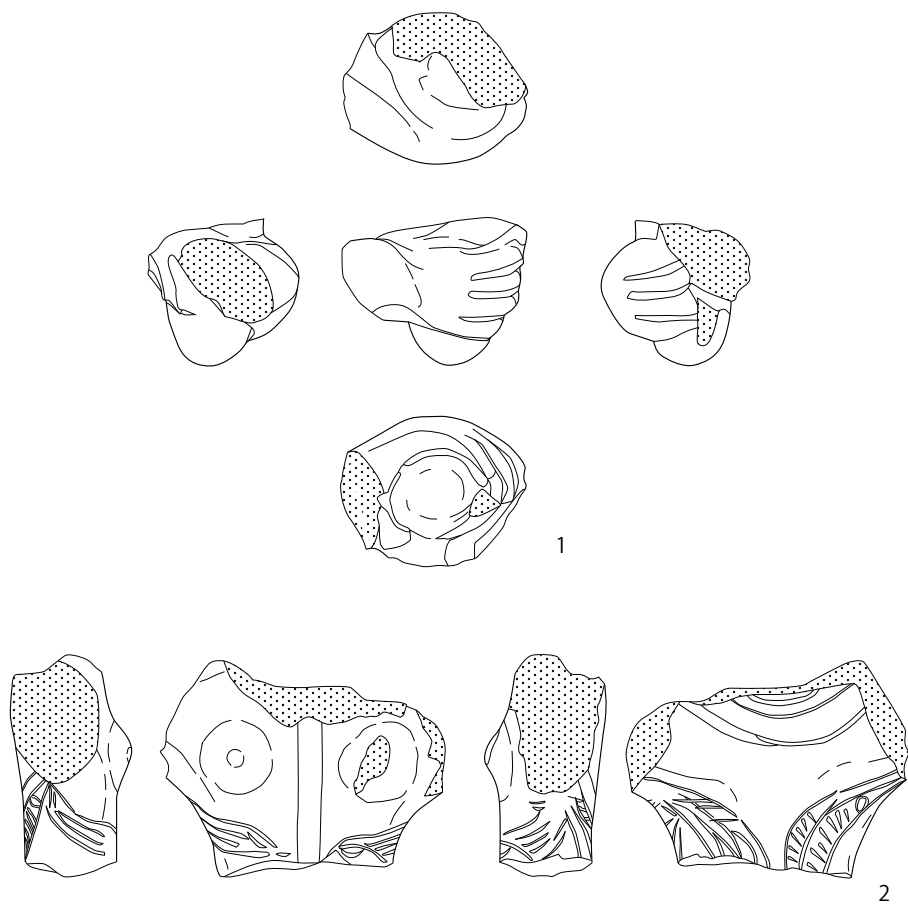
第60図 遺構外出土遺物・外構C区出土遺物

調査区一括

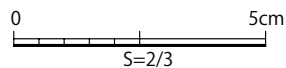
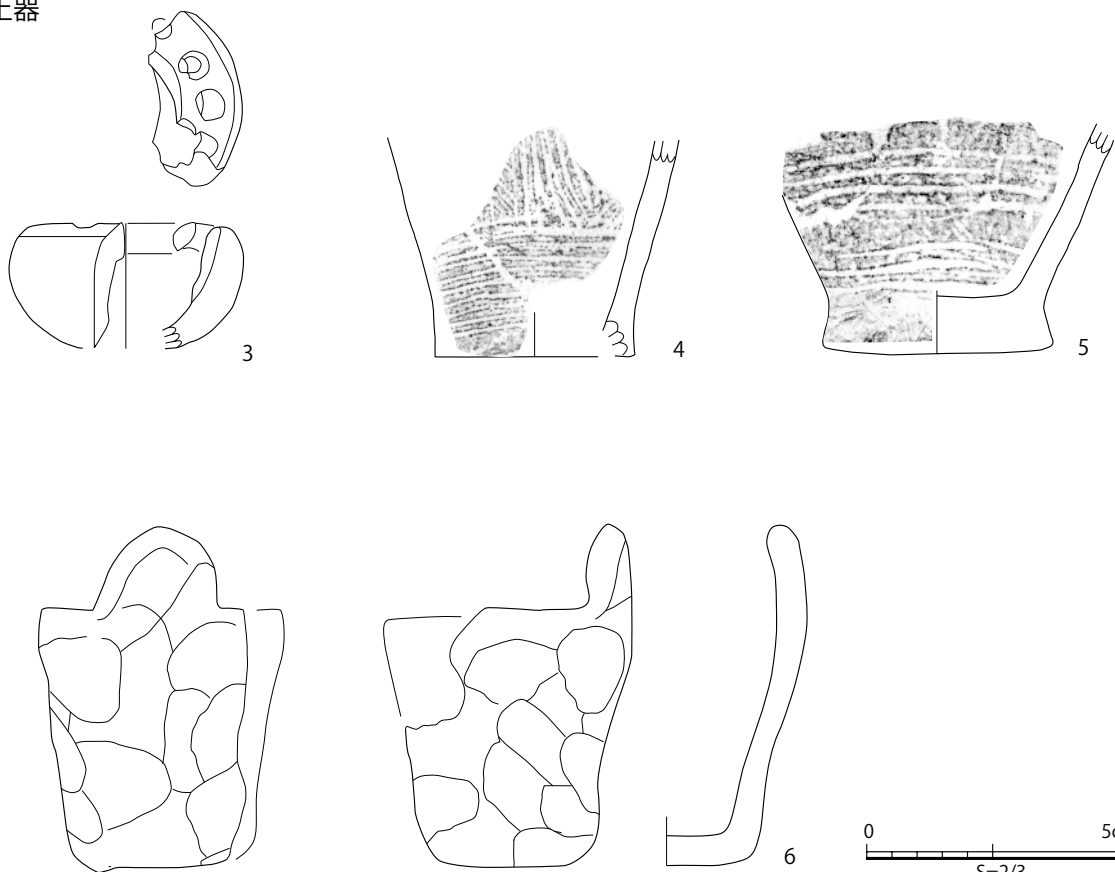


第61図 調査区一括出土遺物

土偶

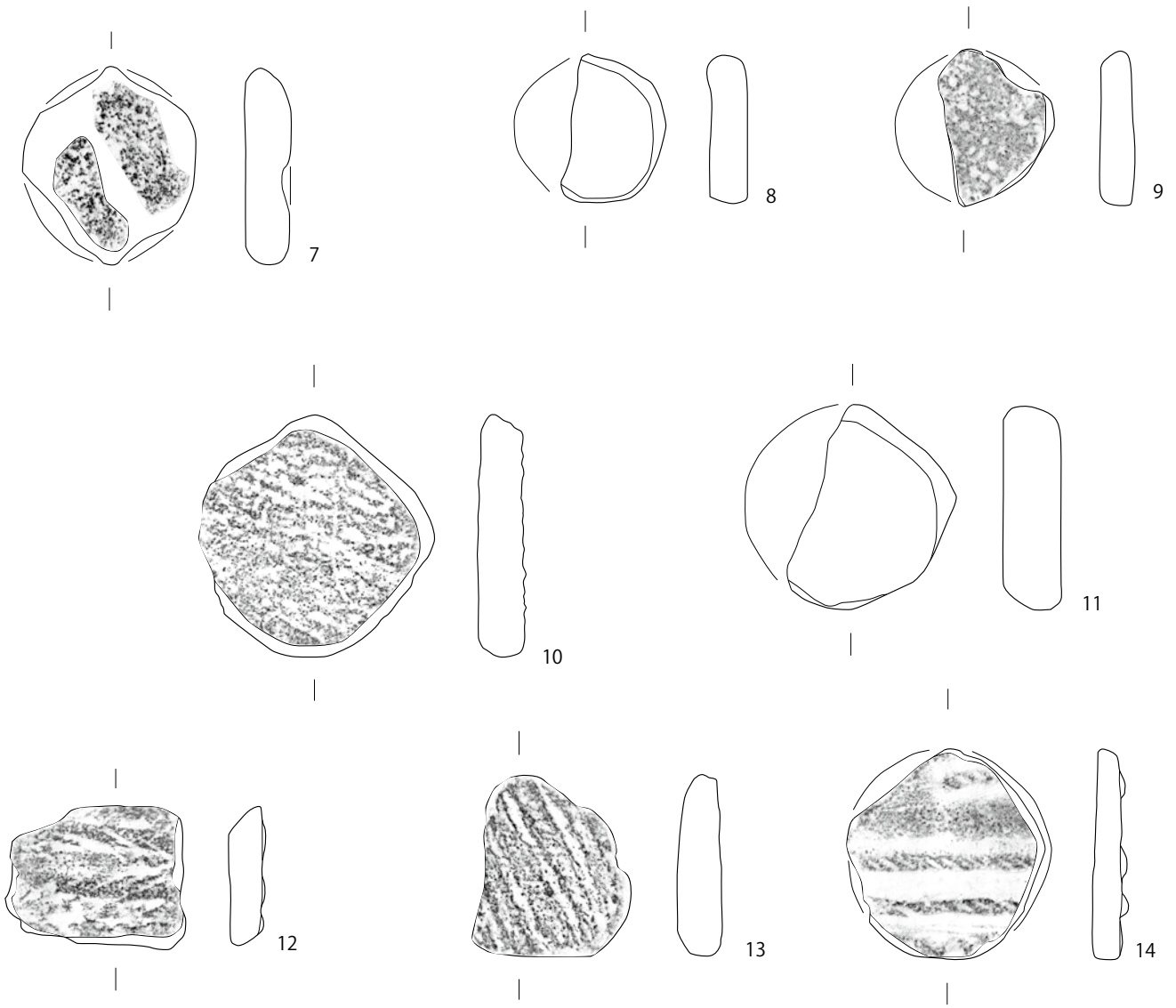


ミニチュア土器

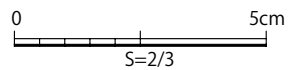
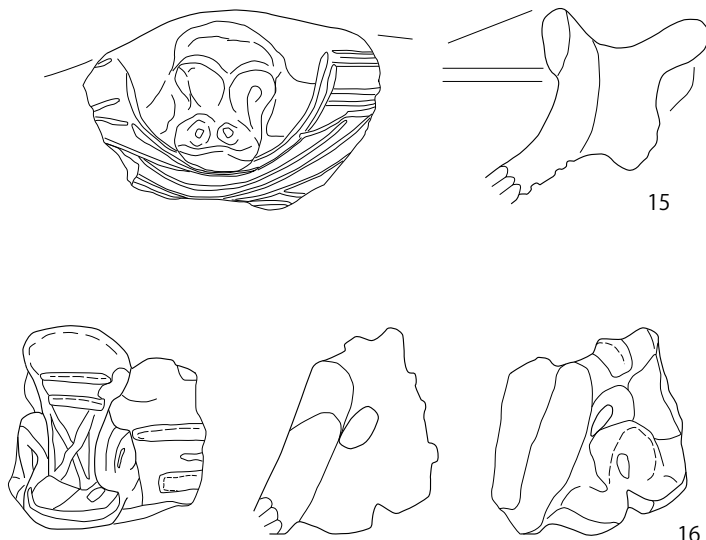


第62図 土製品(土偶・ミニチュア土器)

土製円盤

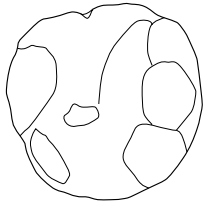
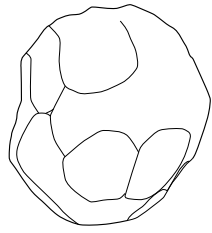
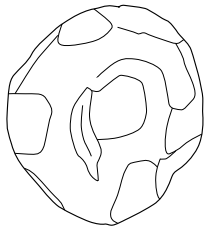


土製品 (獣面把手)

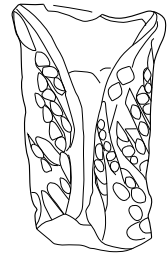
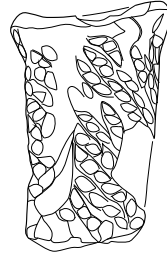


第63図 土製品(土製円盤・獣面把手)

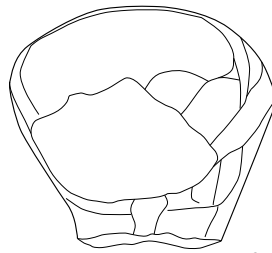
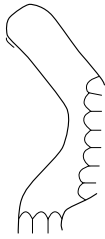
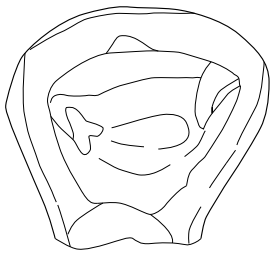
土製品



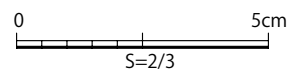
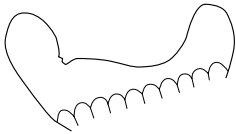
17



18

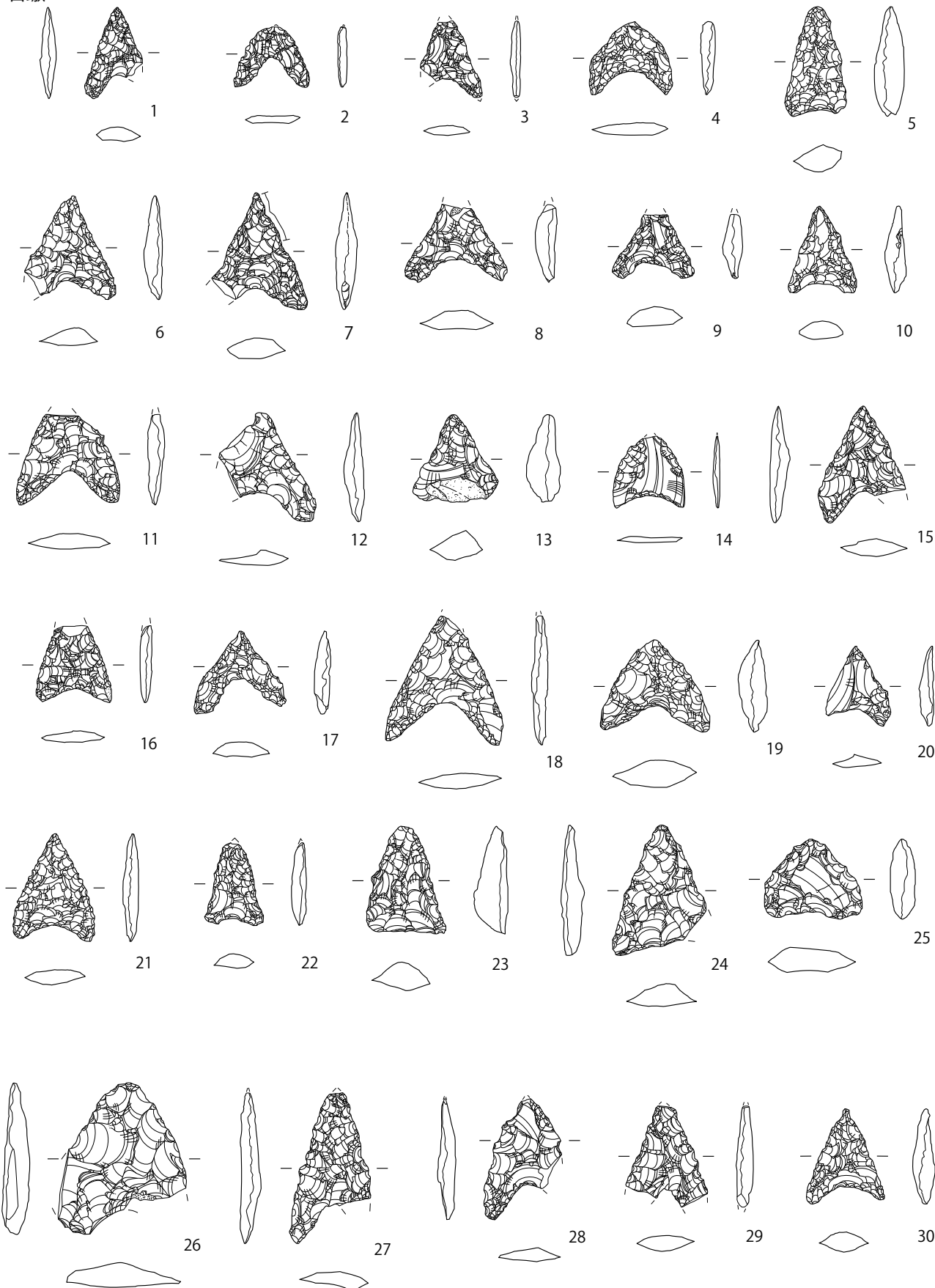


19

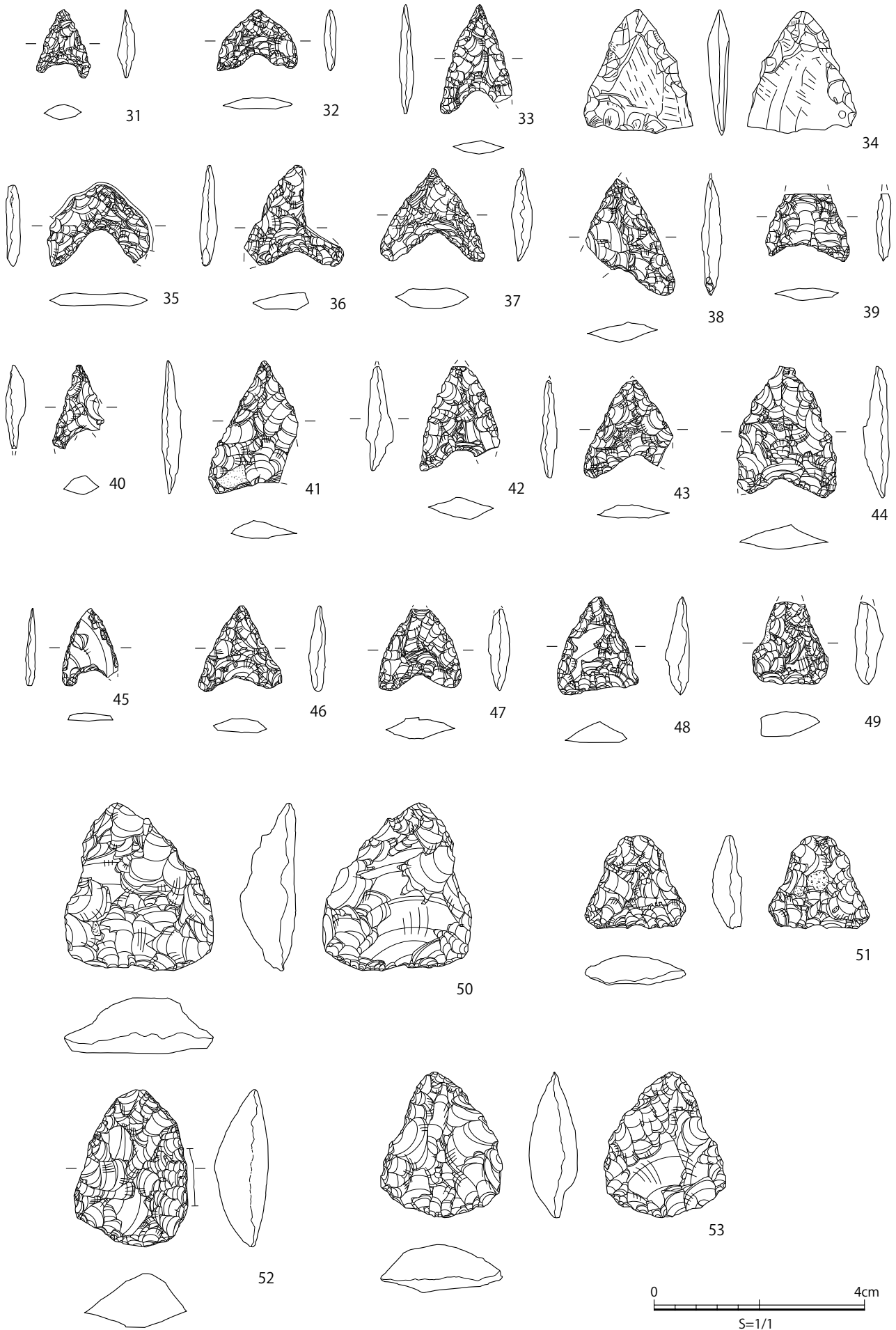


第64図 土製品(その他)

石鏃

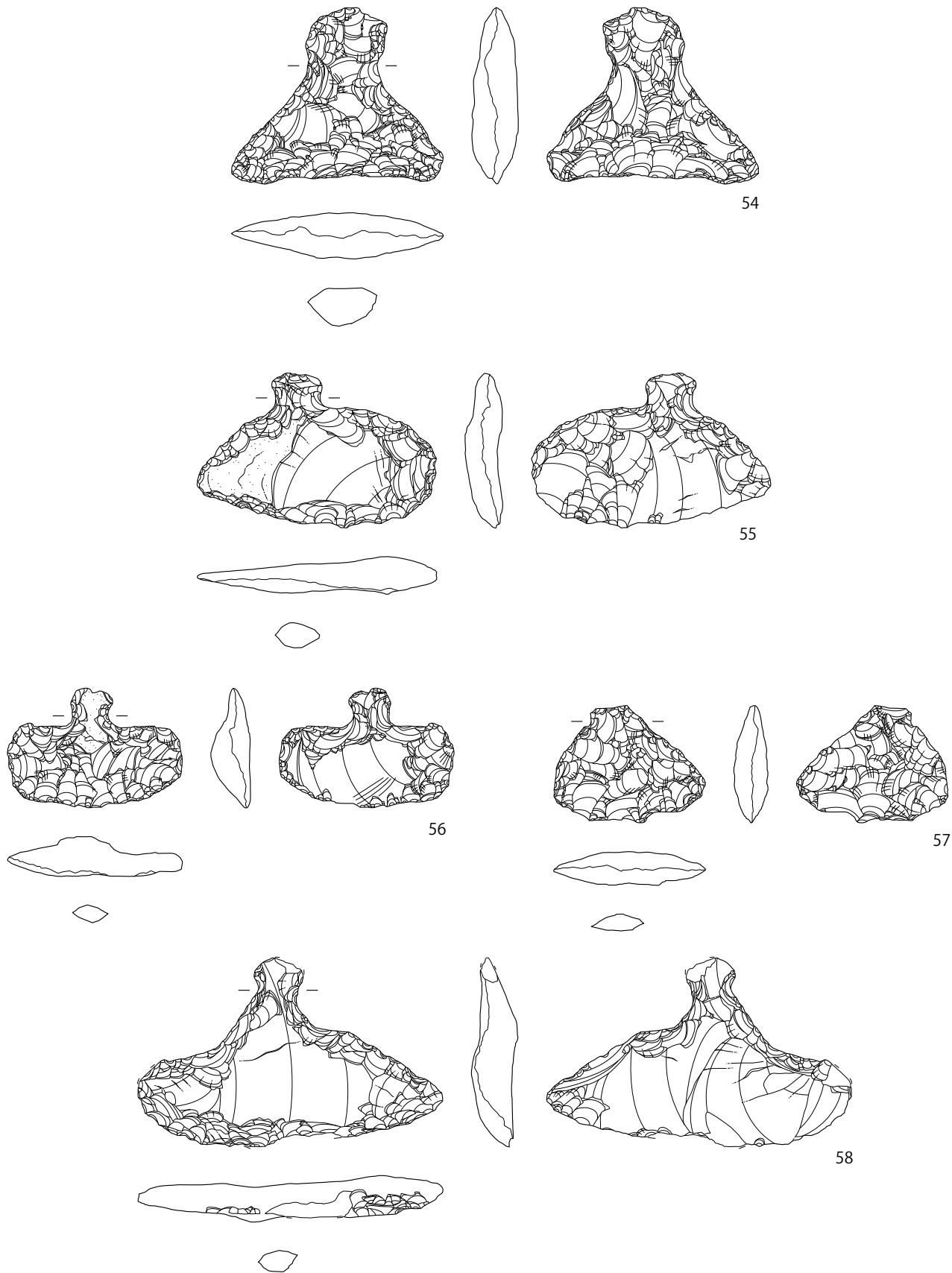


第65図 石器1(石鏃)

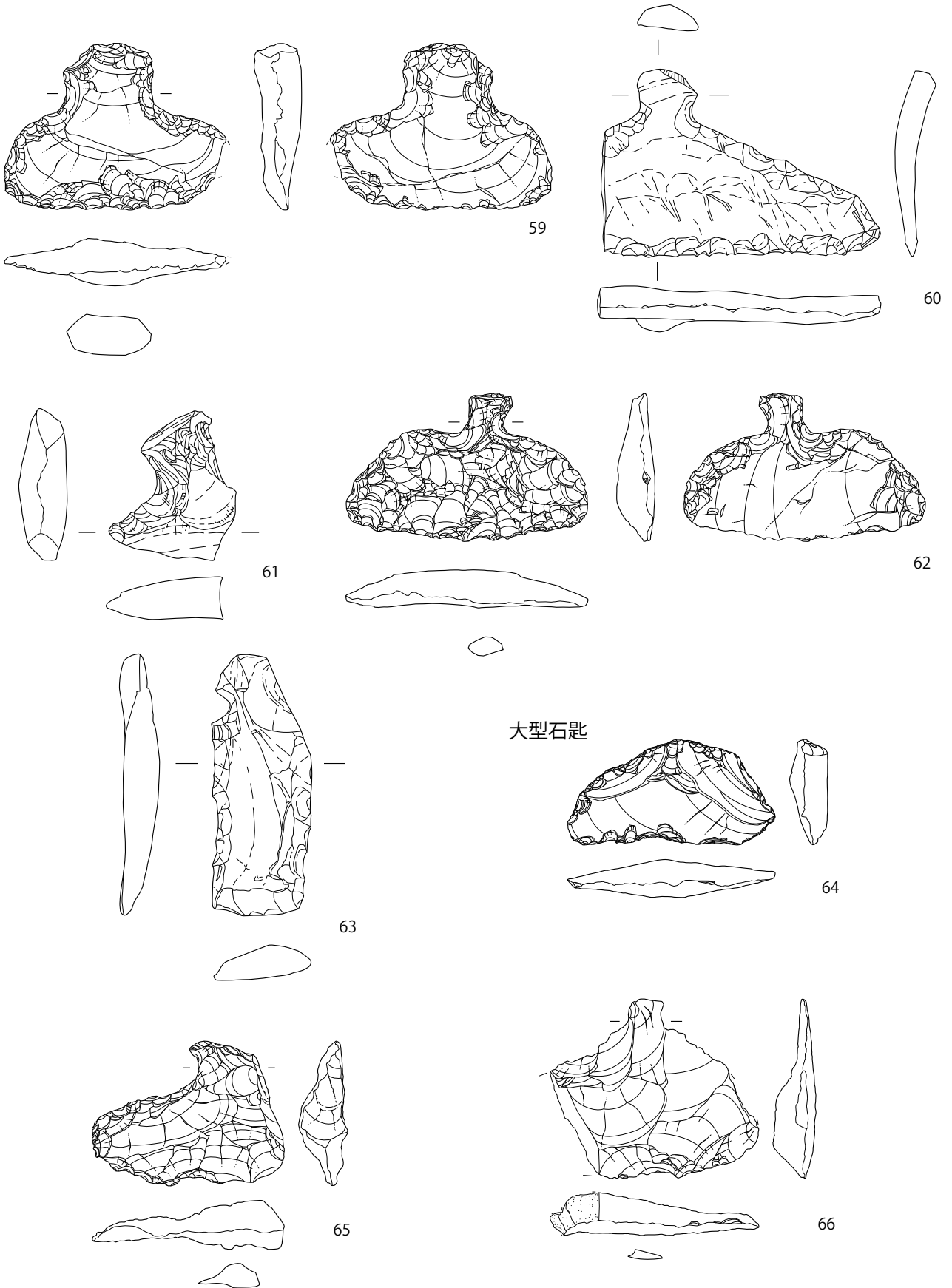


第66图 石器2(石鏃)

石匙



第67图 石器3(石匙)

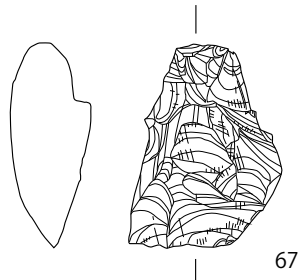


大型石匙

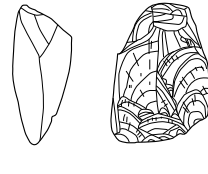
0 5cm 0 4cm
 S=1/2 (64~66) S=1/1

第68図 石器4(石匙)

楔形石器

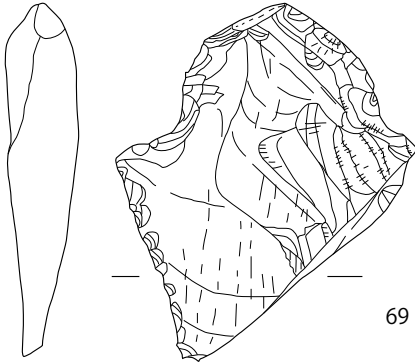


67

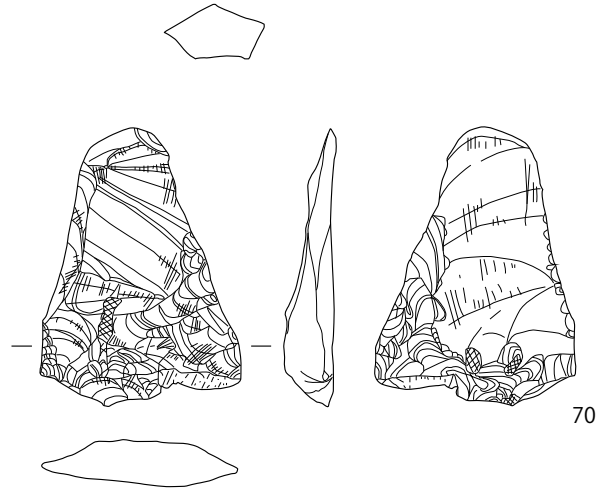


68

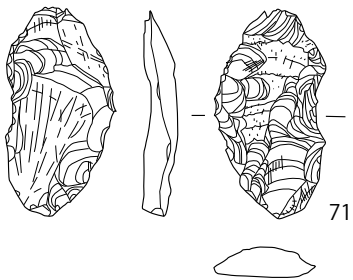
二次加工剥片



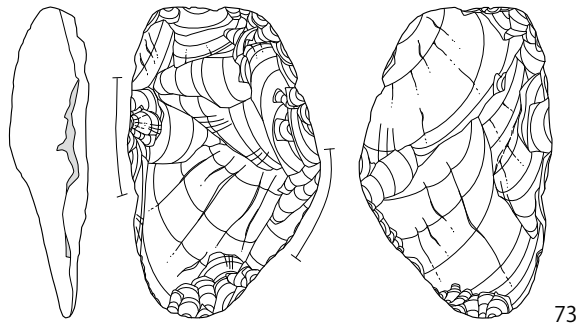
69



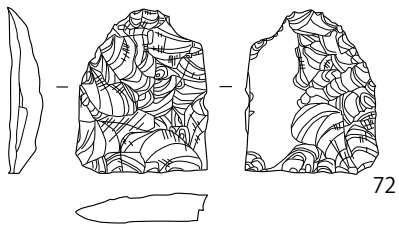
70



71

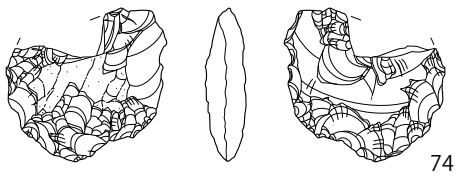


73

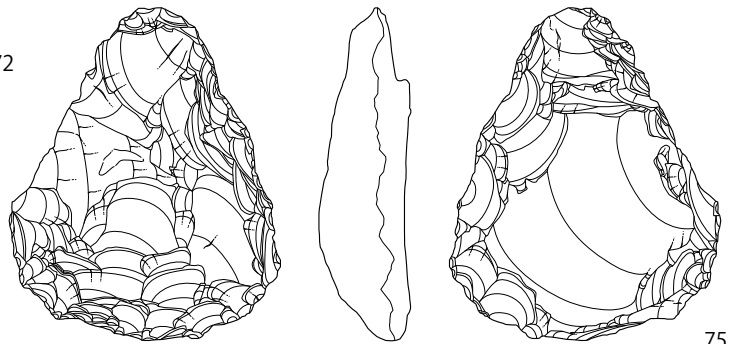


72

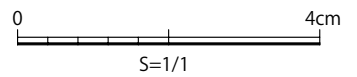
搔器



74

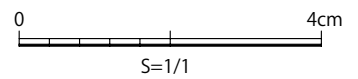
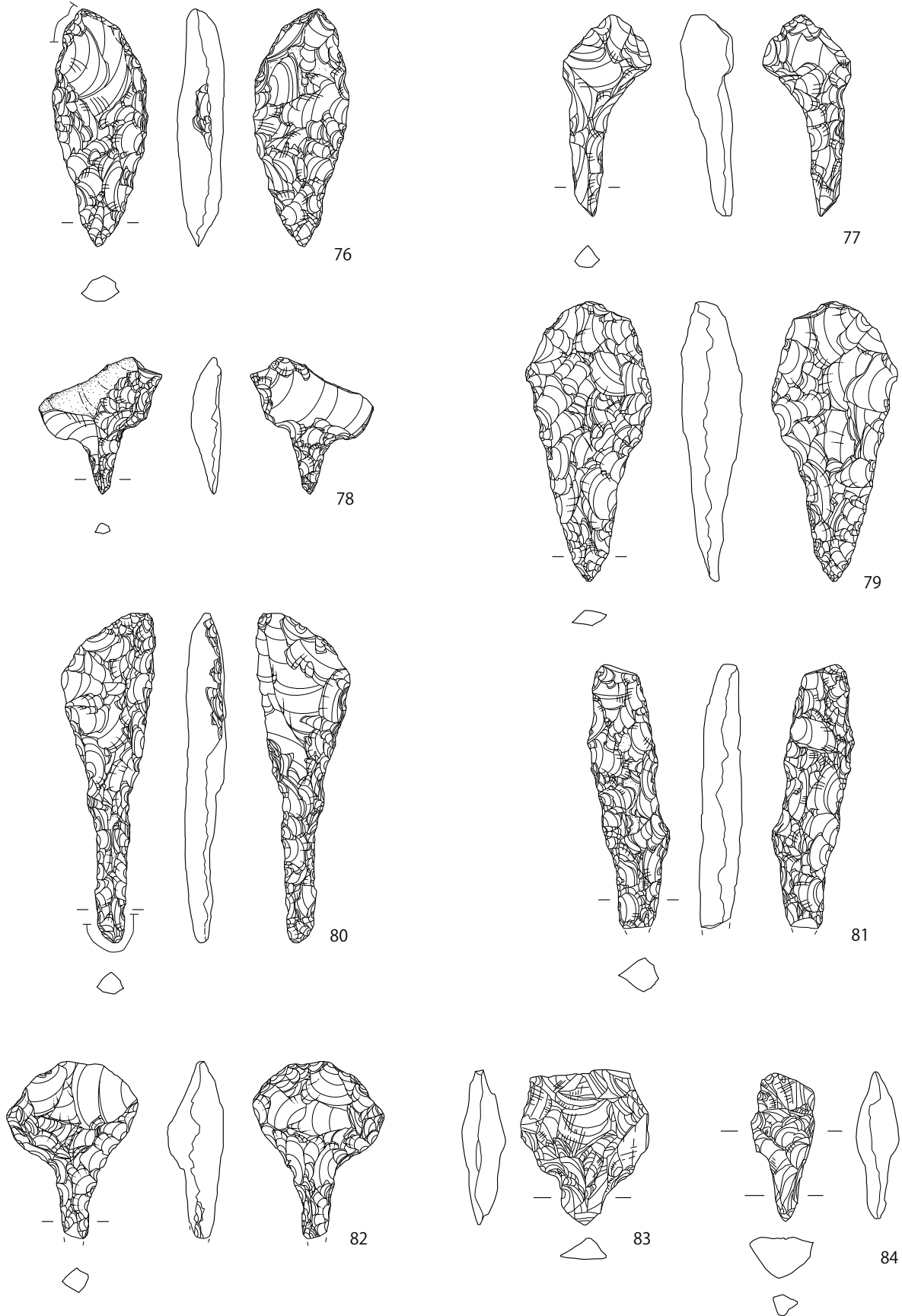


75



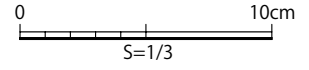
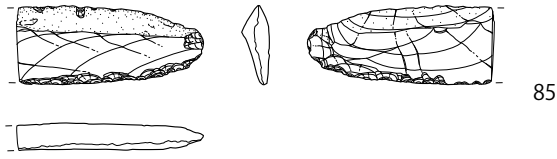
第69图 石器5 (楔形石器·二次加工剥片·搔器)

石錐

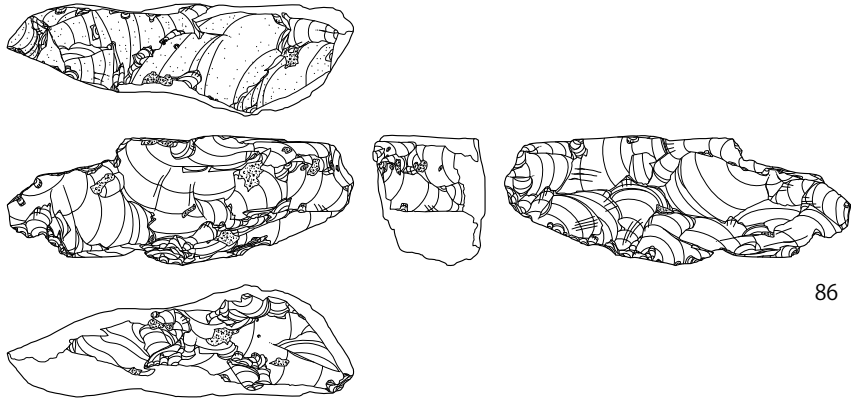


第70図 石器6 (石錐)

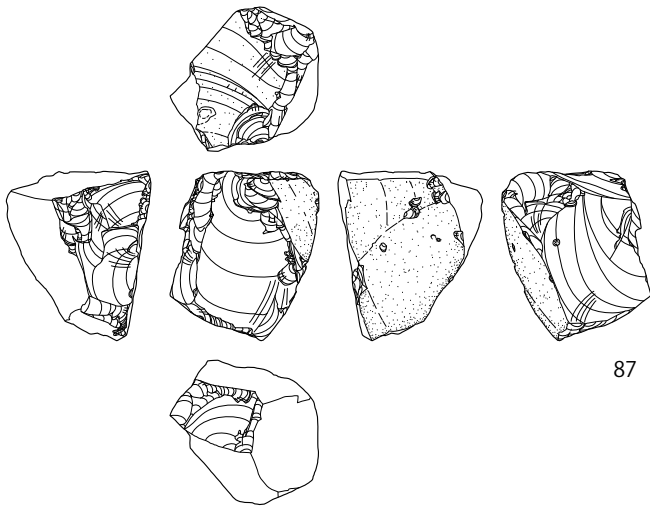
横刃型石器



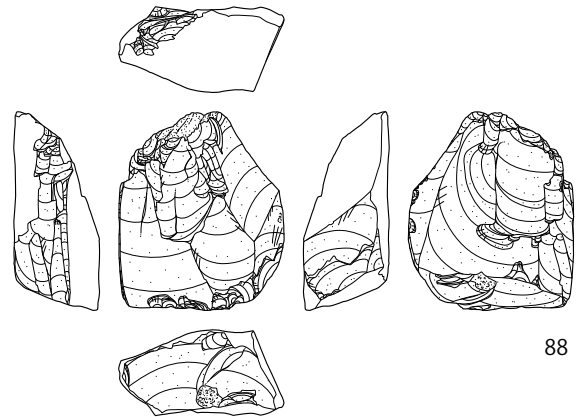
原石・石核



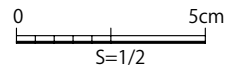
86



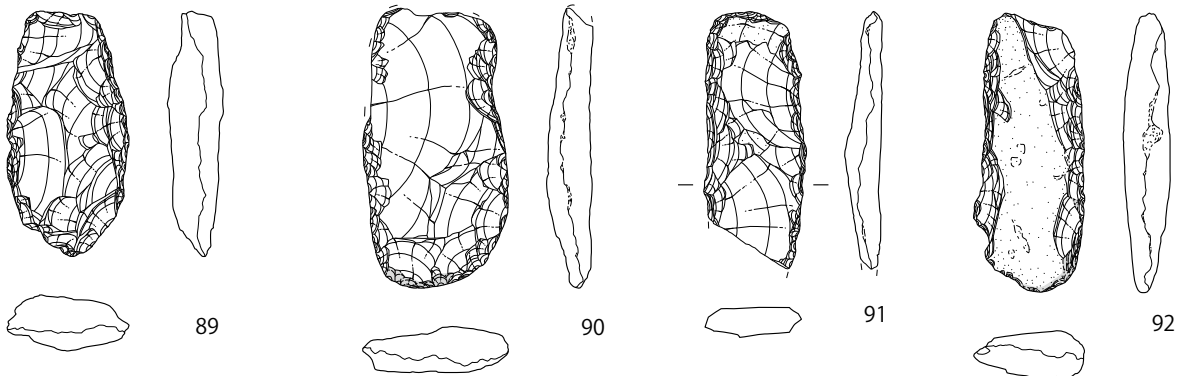
87



88



打製石斧

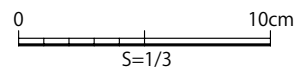


89

90

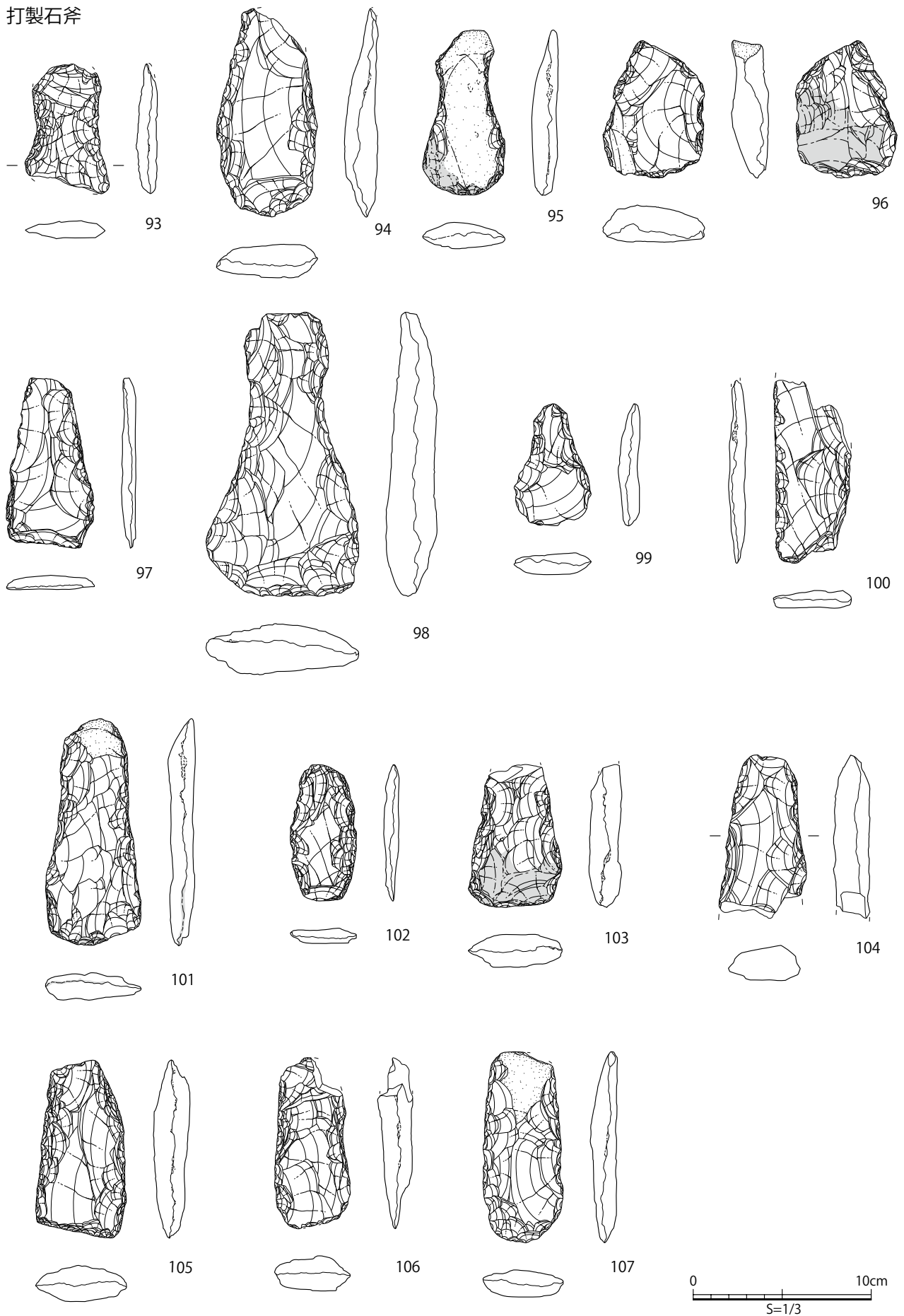
91

92



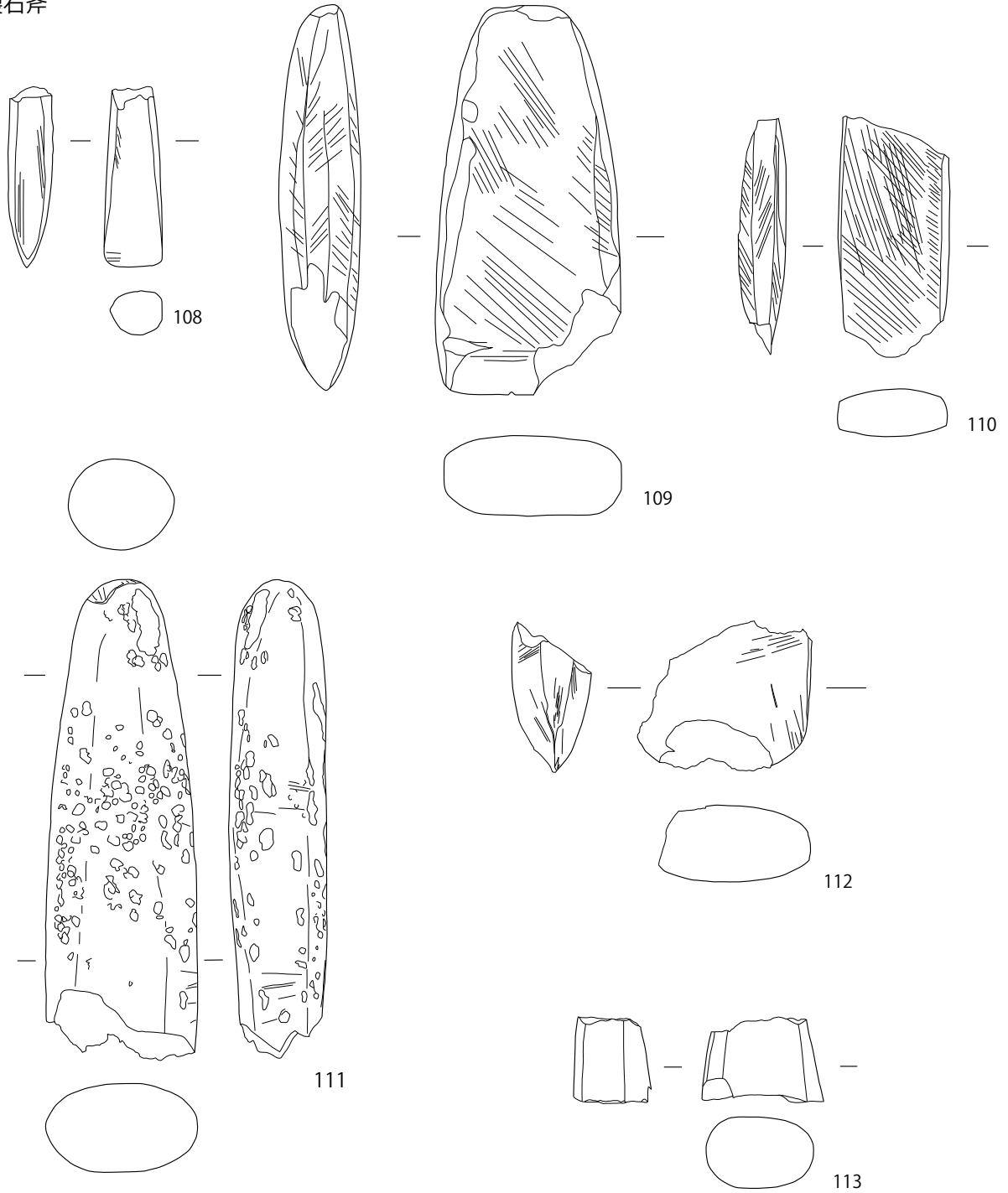
第71図 石器7 (横刃型石器・原石・石核・打製石斧)

打製石斧

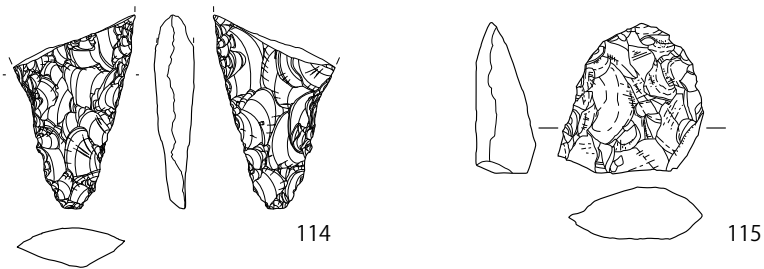


第72図 石器8 (打製石斧)

磨製石斧



尖頭器

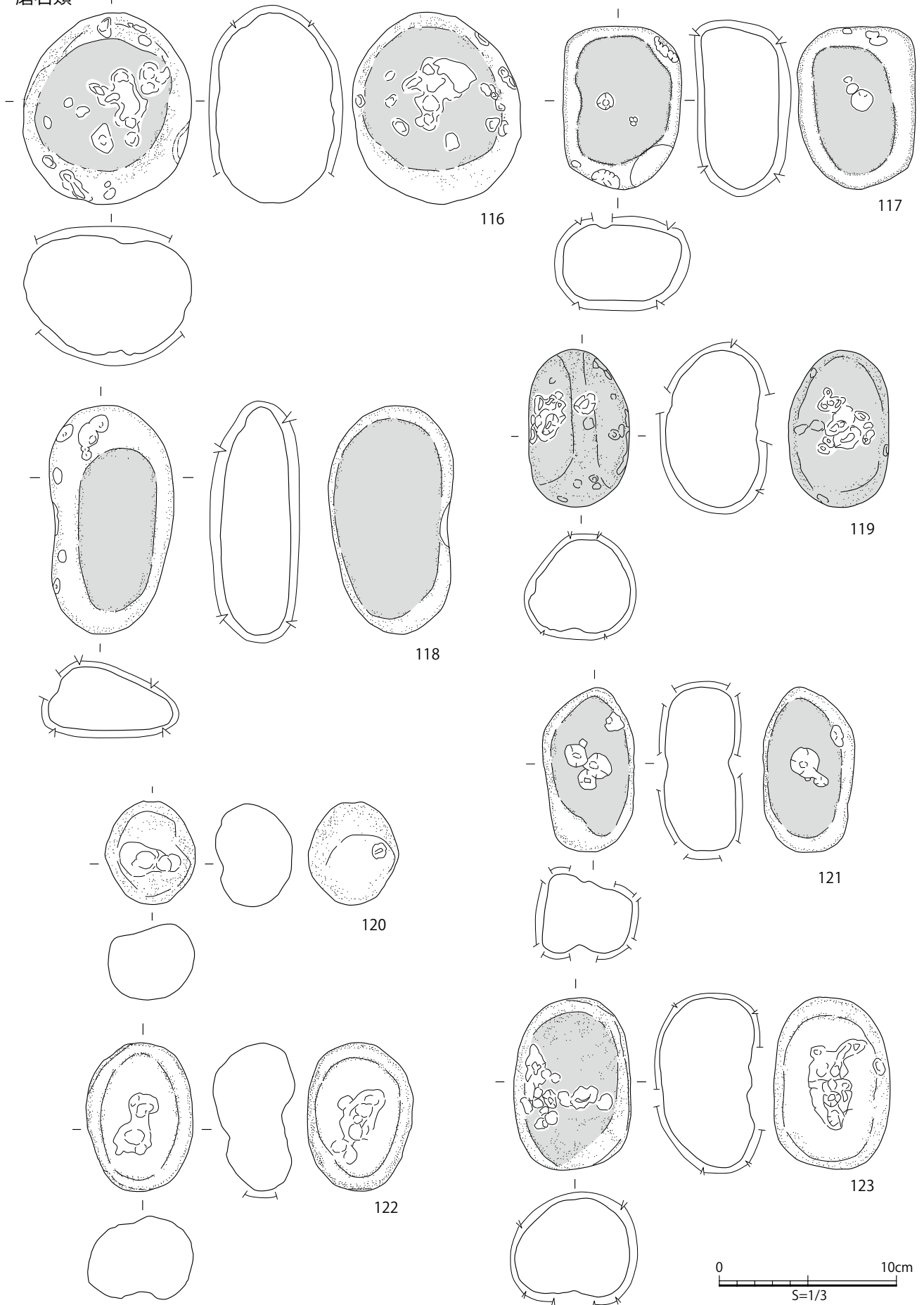


0 5cm
S=1/2 (111~115)

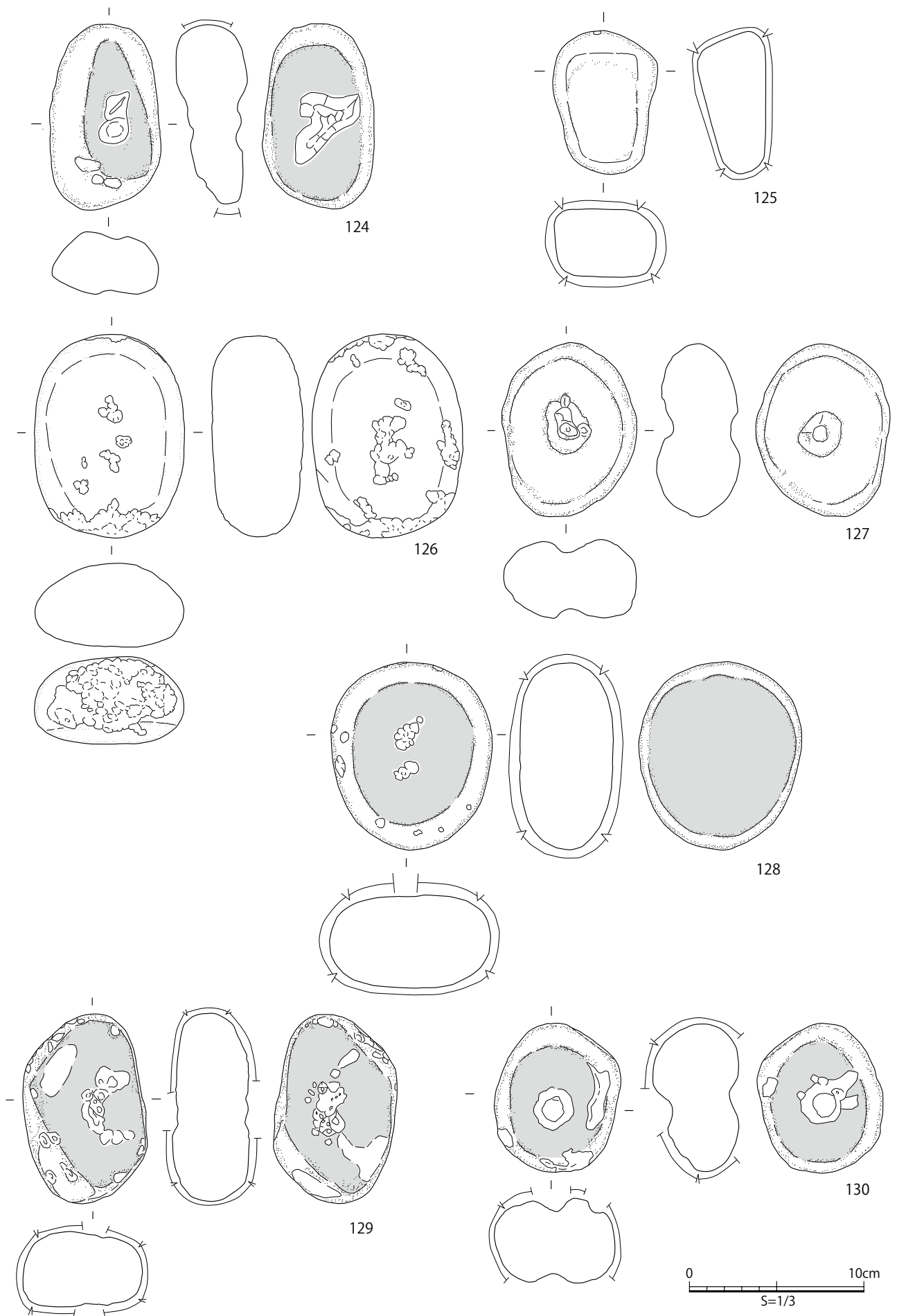
0 4cm
S=1/1 (108~110)

第73図 石器9(磨製石斧・尖頭器)

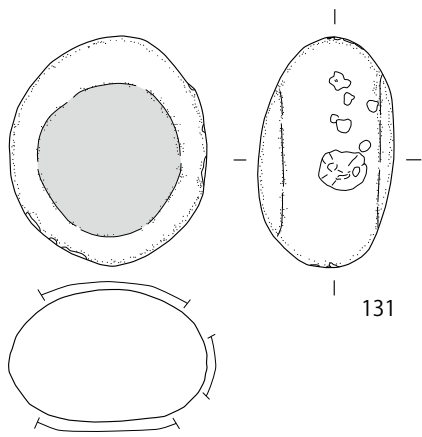
磨石類



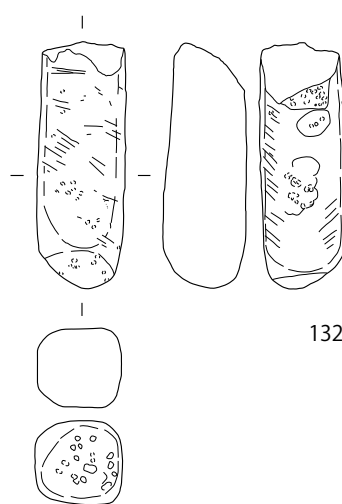
第74図 石器10(磨石類)



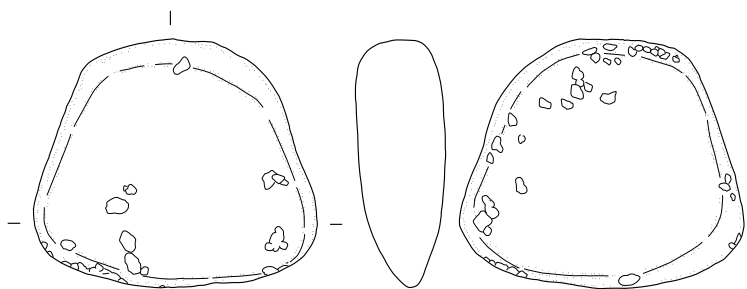
第75図 石器11(磨石類)



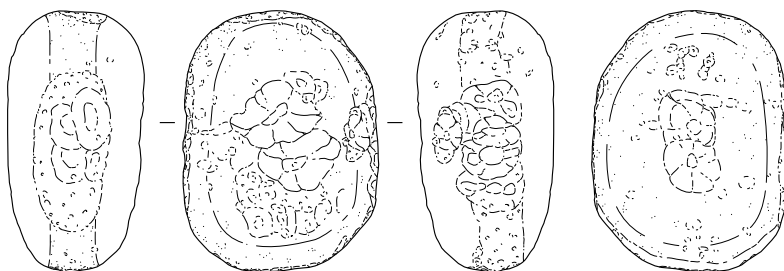
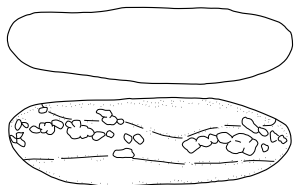
131



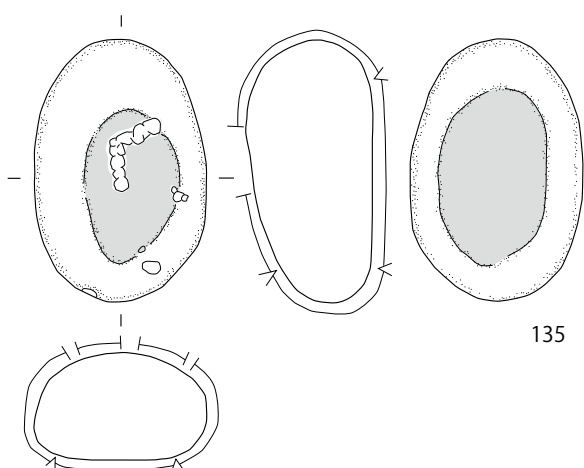
132



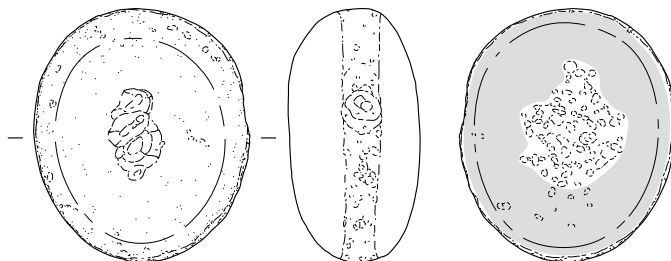
133



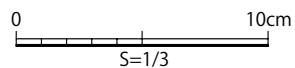
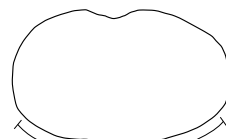
134



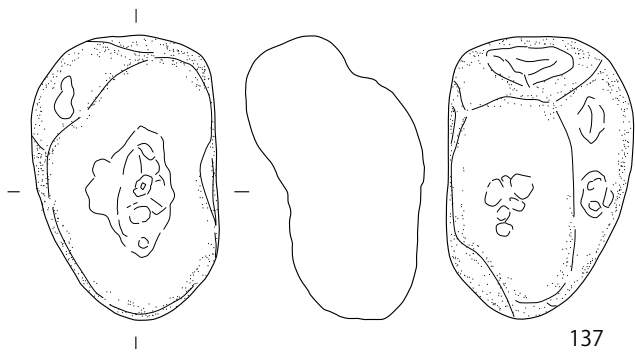
135



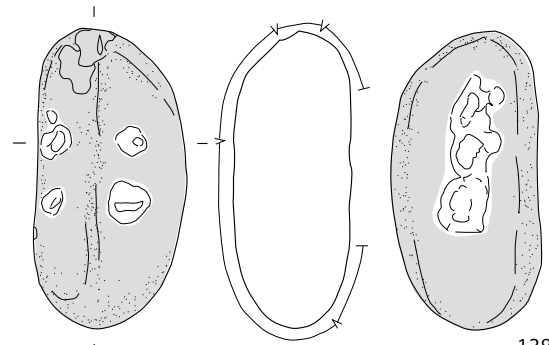
136



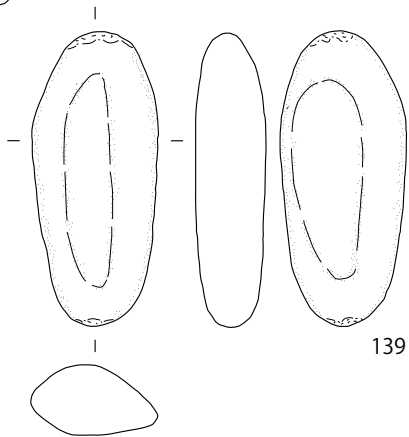
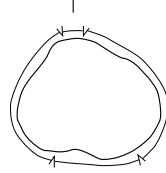
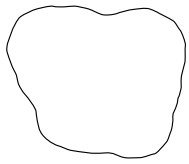
第76图 石器12(磨石類)



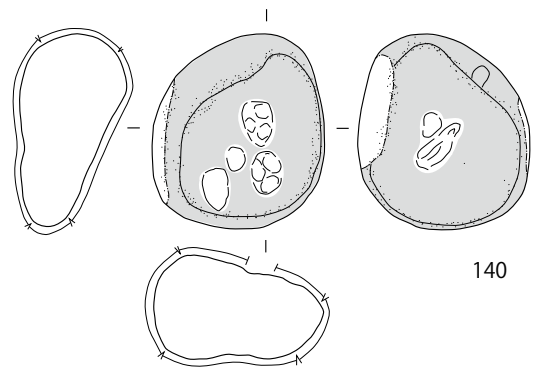
137



138



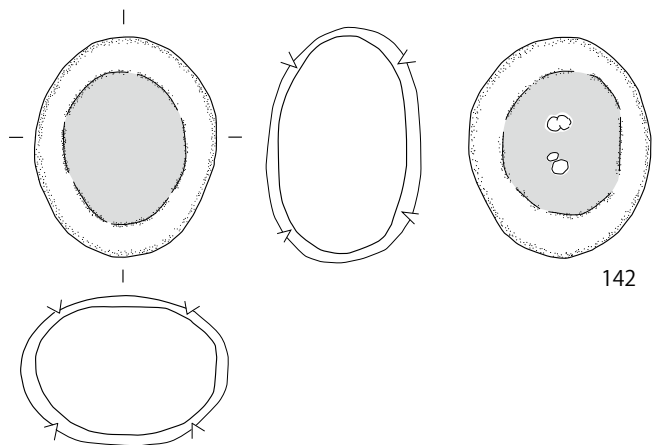
139



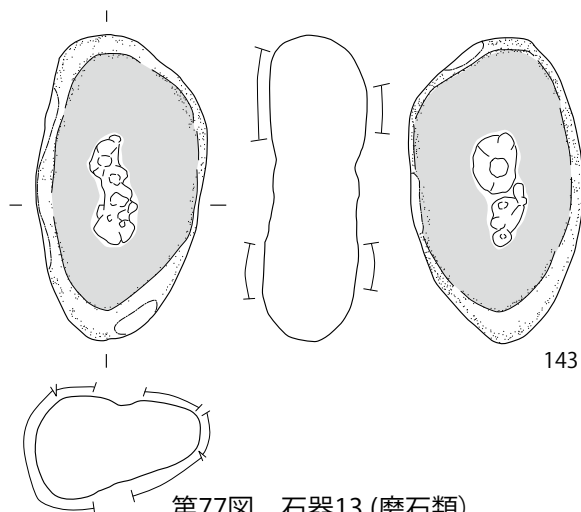
140



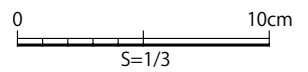
141



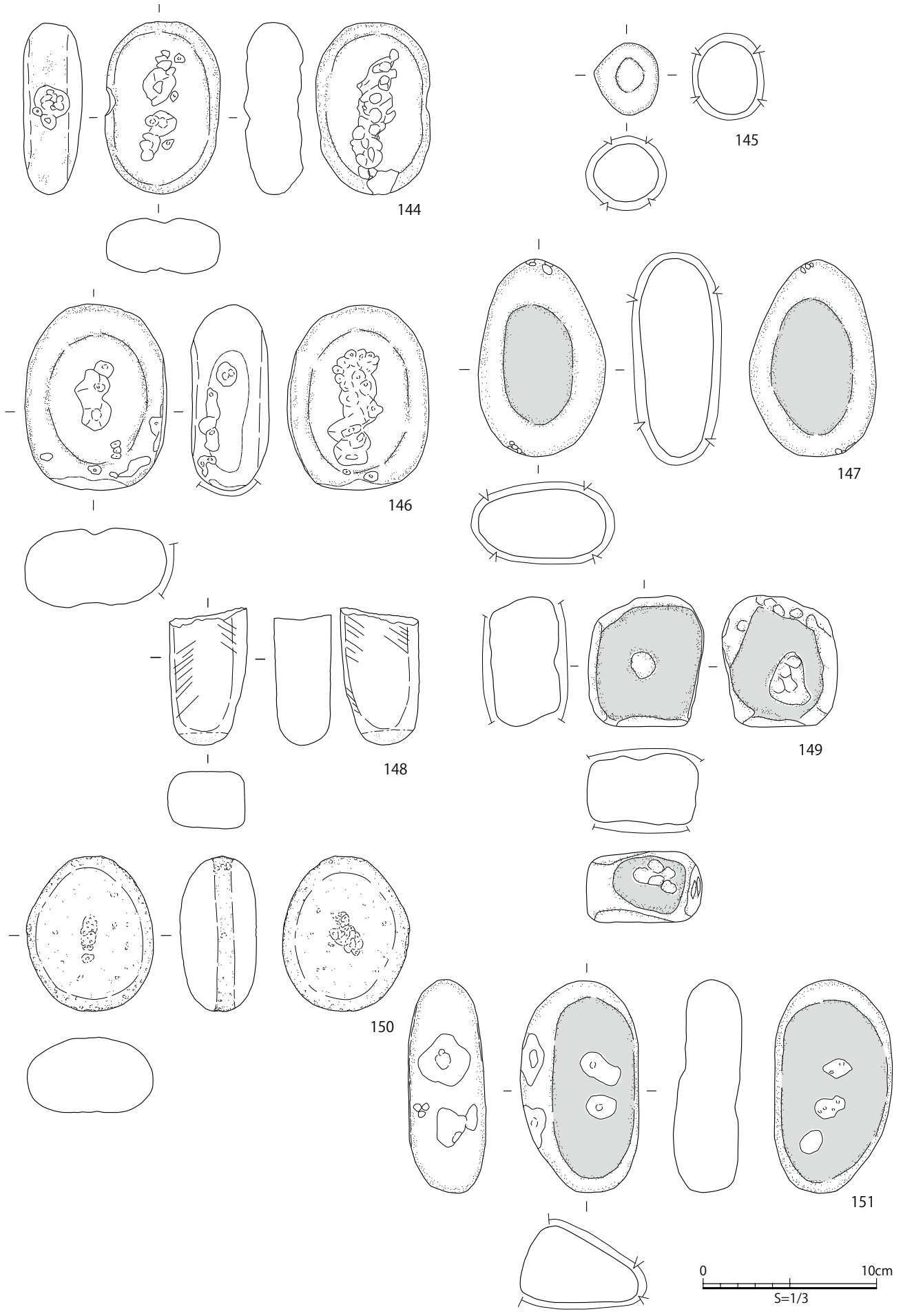
142



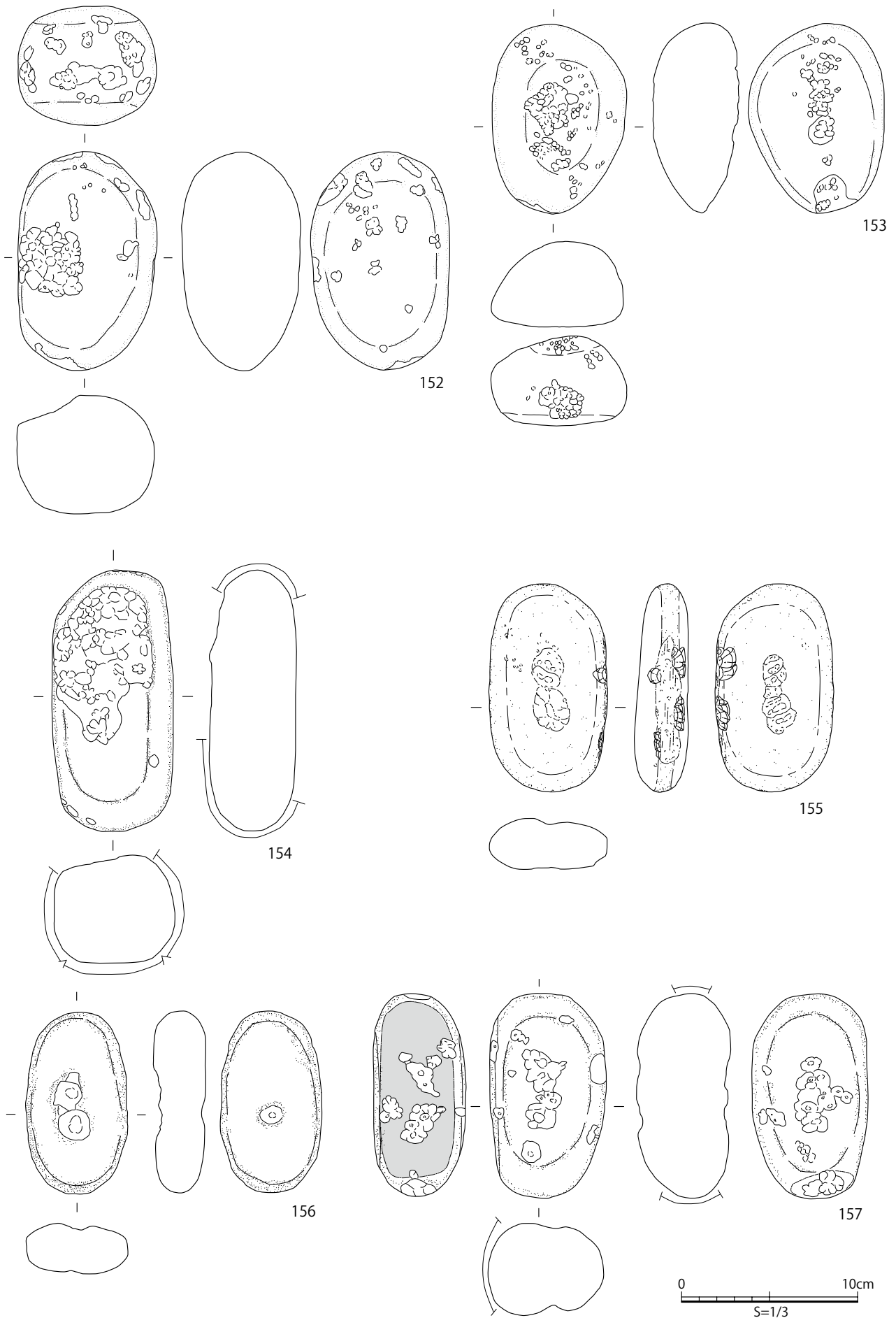
143



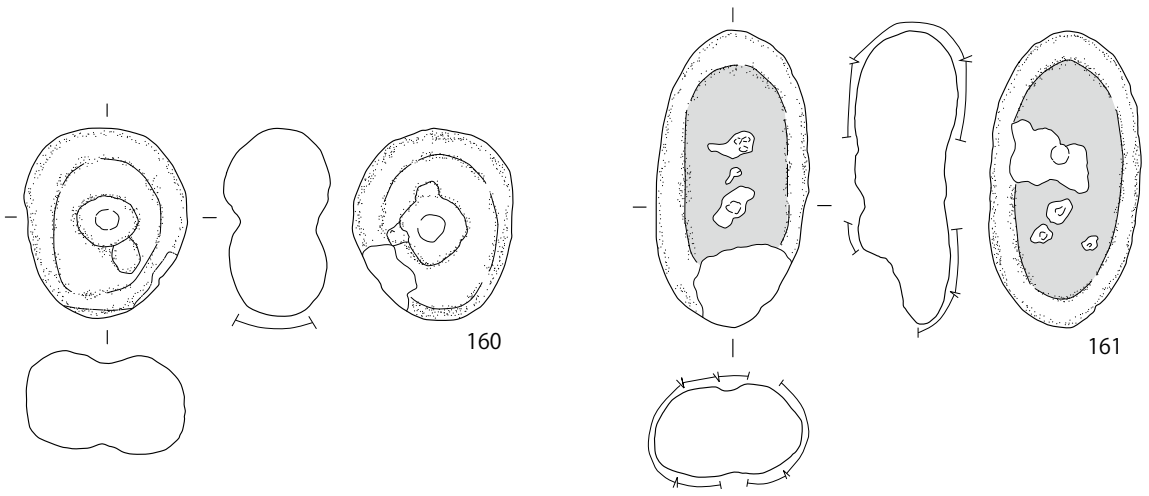
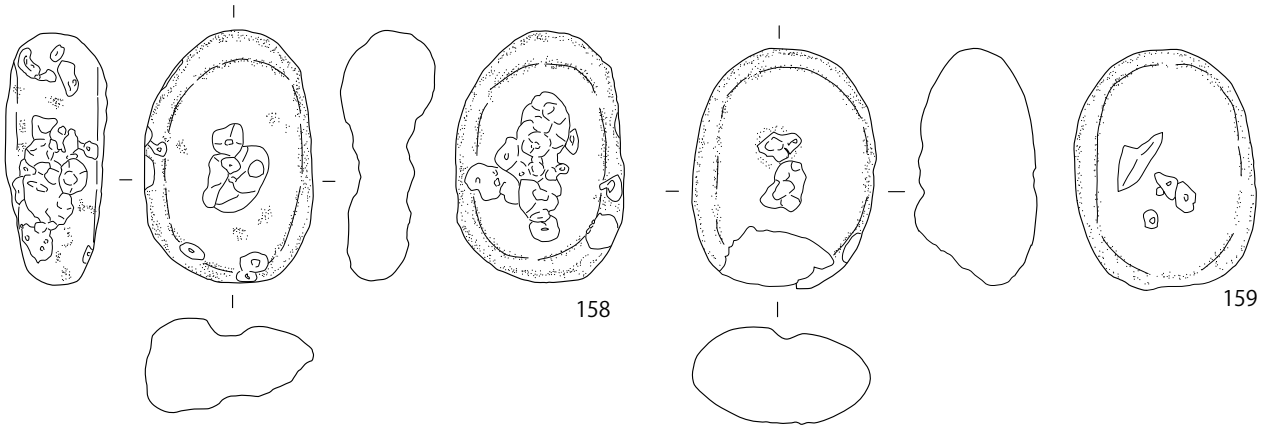
第77図 石器13(磨石類)



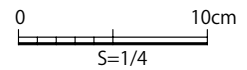
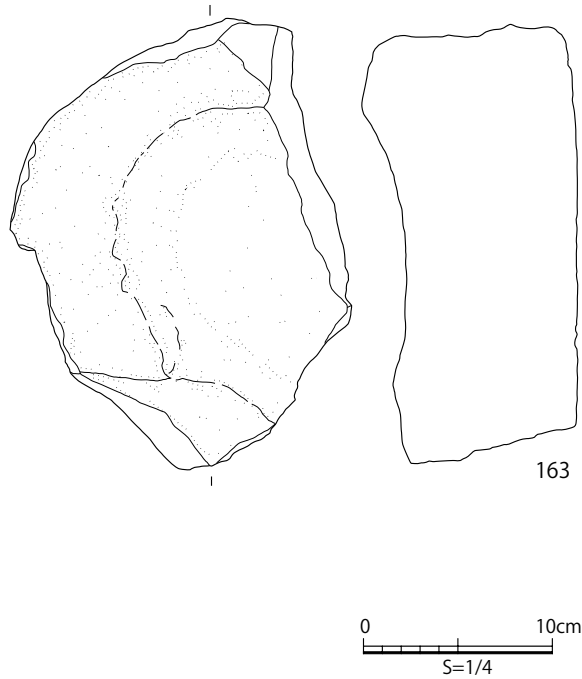
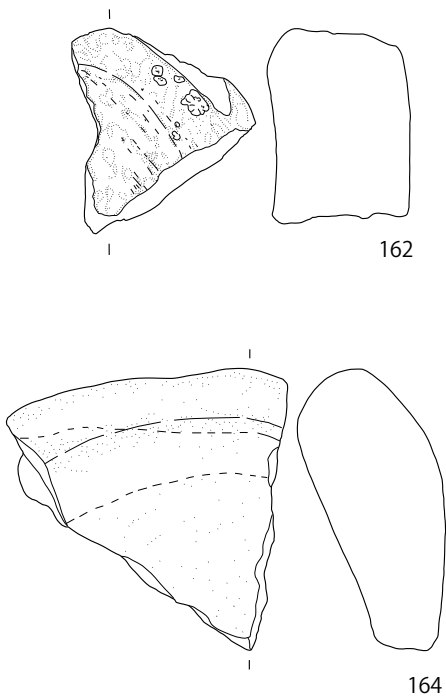
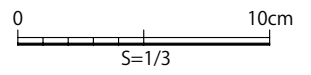
第78図 石器14 (磨石類)



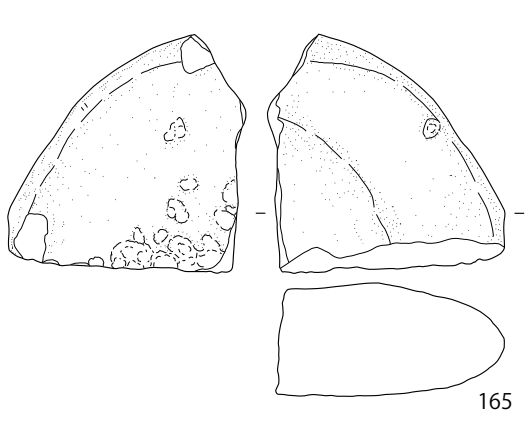
第79図 石器15 (磨石類)



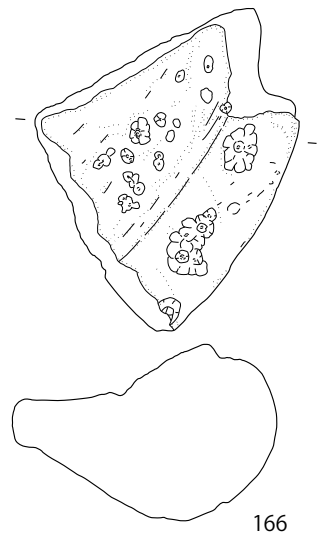
石皿類



第80図 石器16(磨石類・石皿)

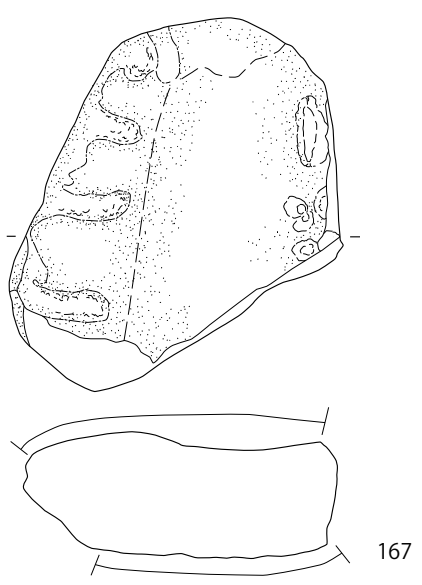


165

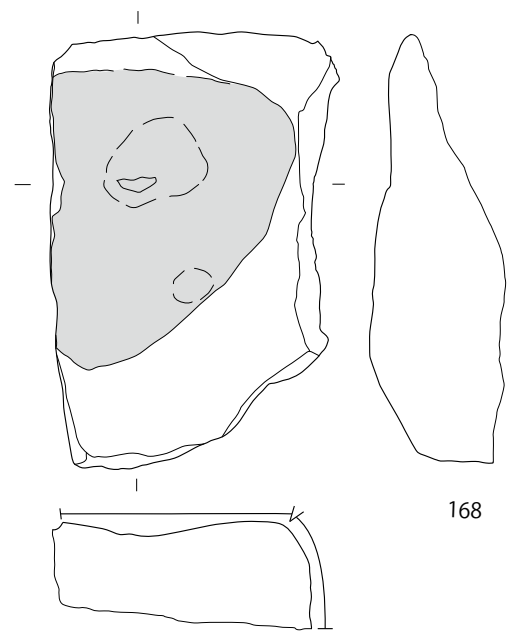


166

礫石皿



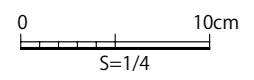
167



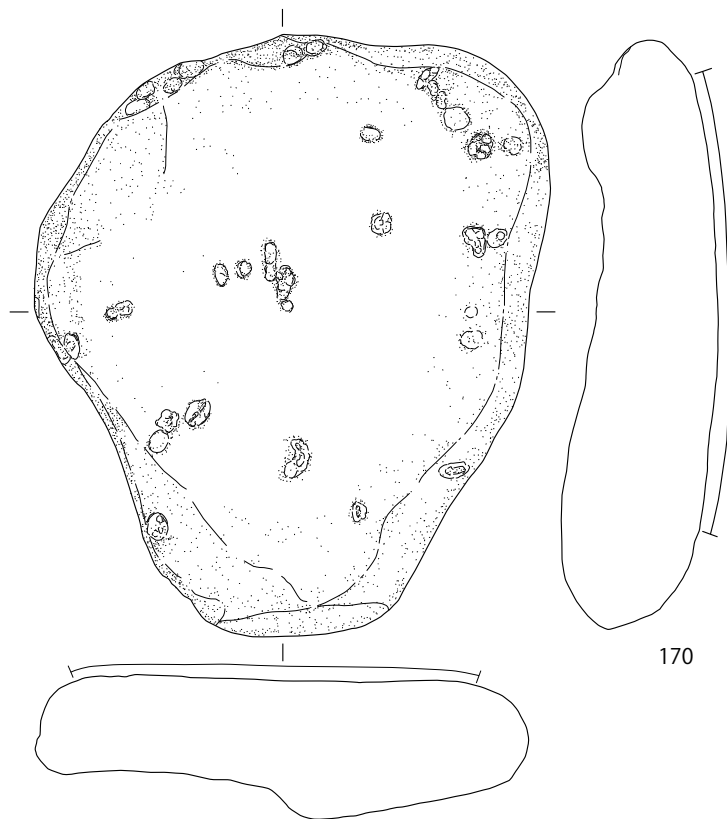
168



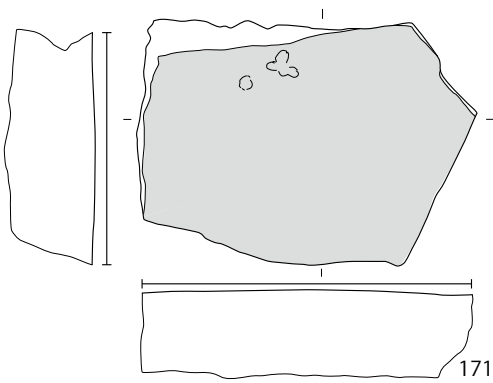
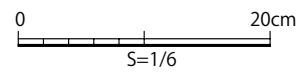
169



第81図 石器17(石皿・礫石皿)



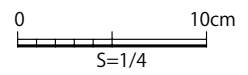
170



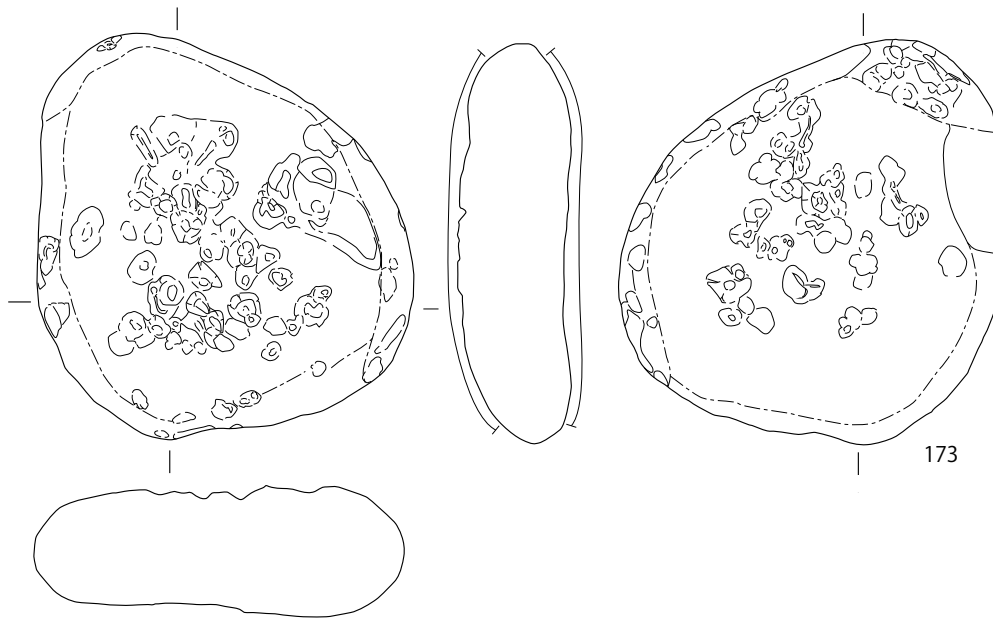
171



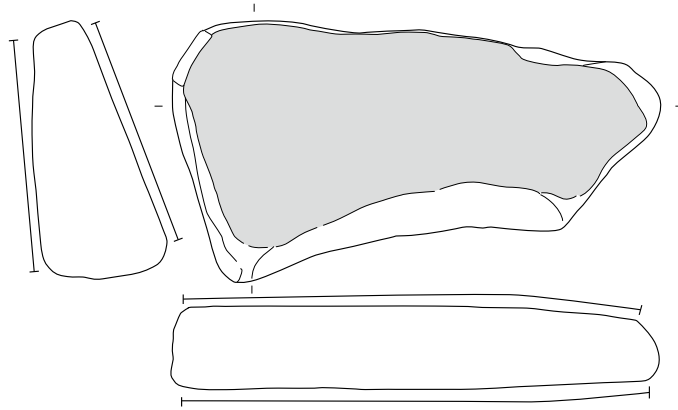
172



第82図 石器18(礫石皿)



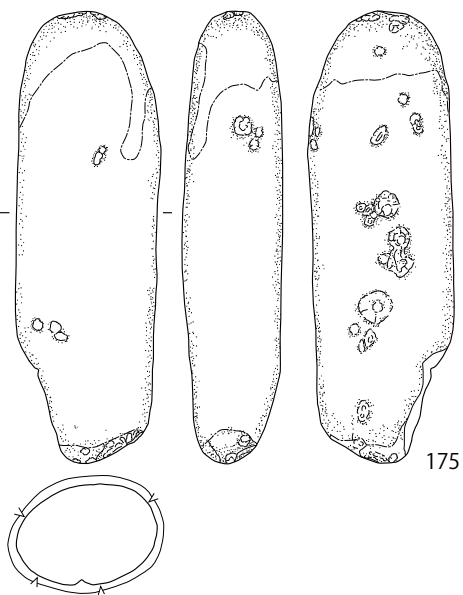
173



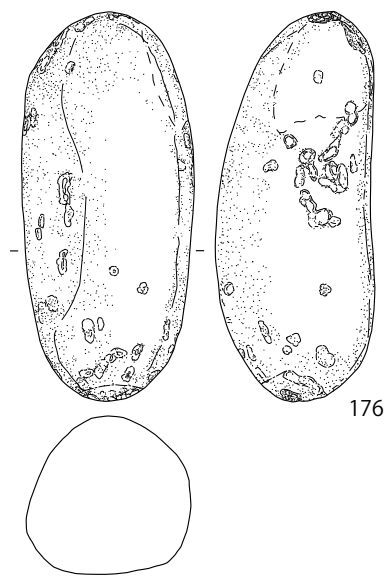
174

0 10cm
S=1/4 (173,174)

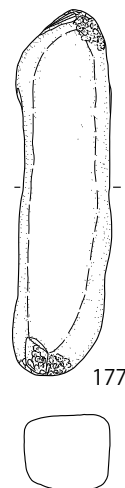
大型磨石



175



176

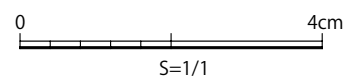
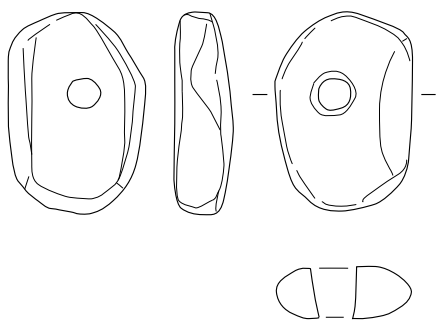
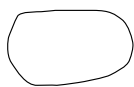
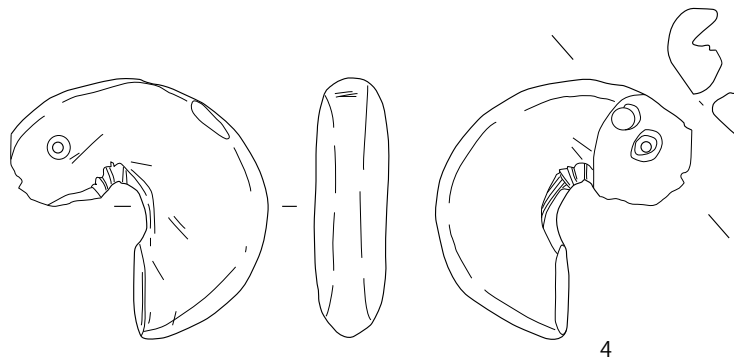
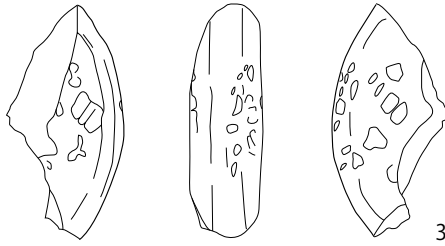


177

0 20cm
S=1/6 (175~177)

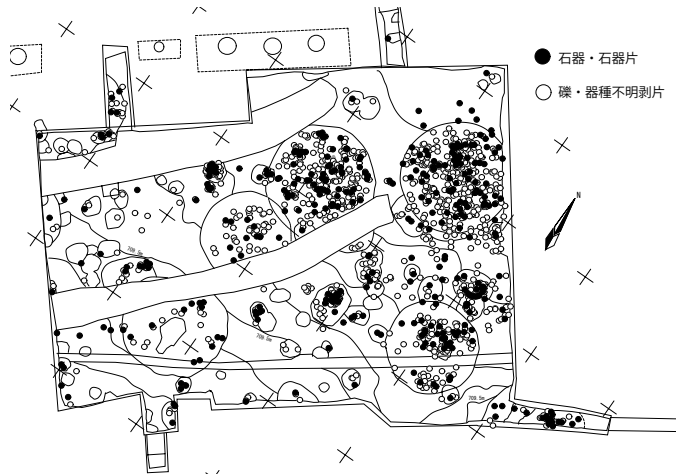
第83図 石器19 (礫石皿・大型磨石)

石製品

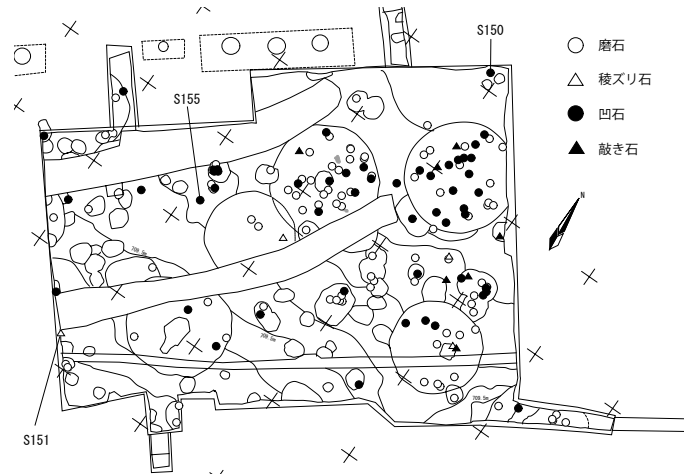


第84図 石製品

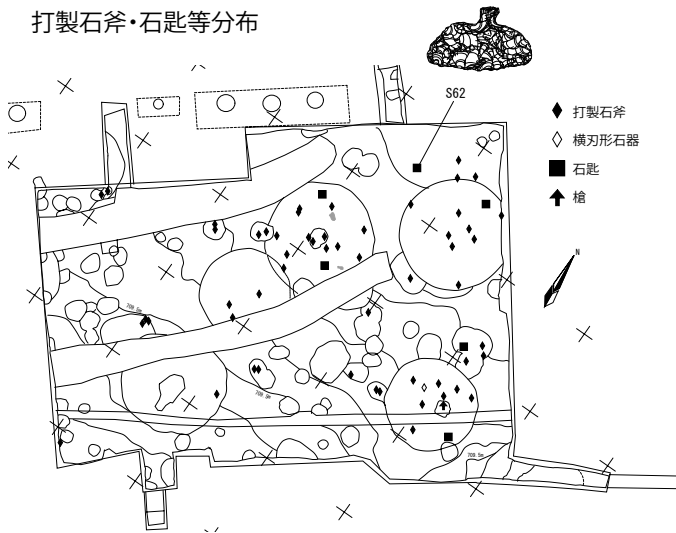
石器・礫分布



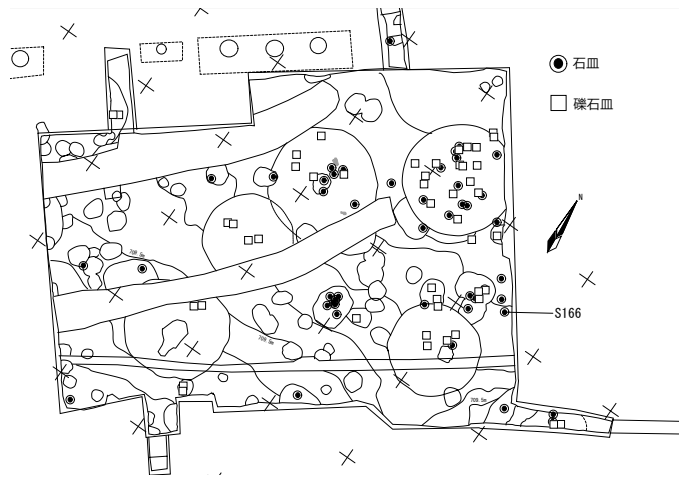
磨石類分布図



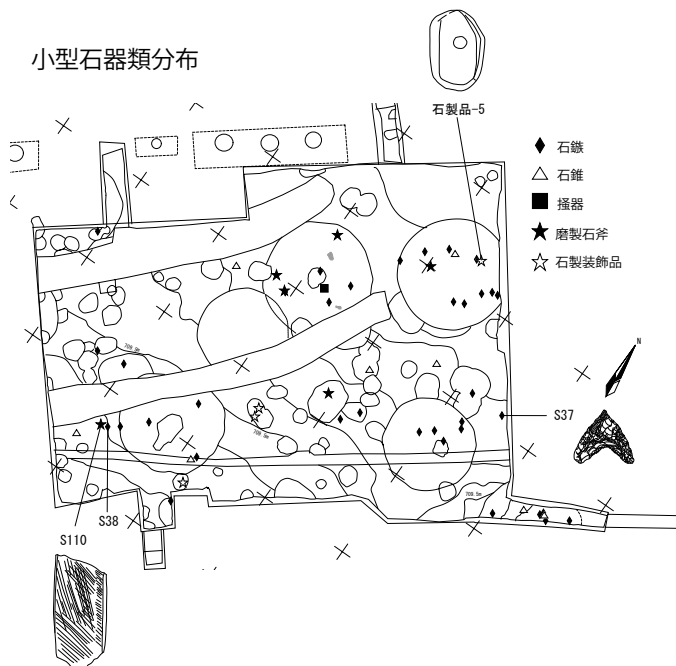
打製石斧・石匙等分布



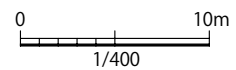
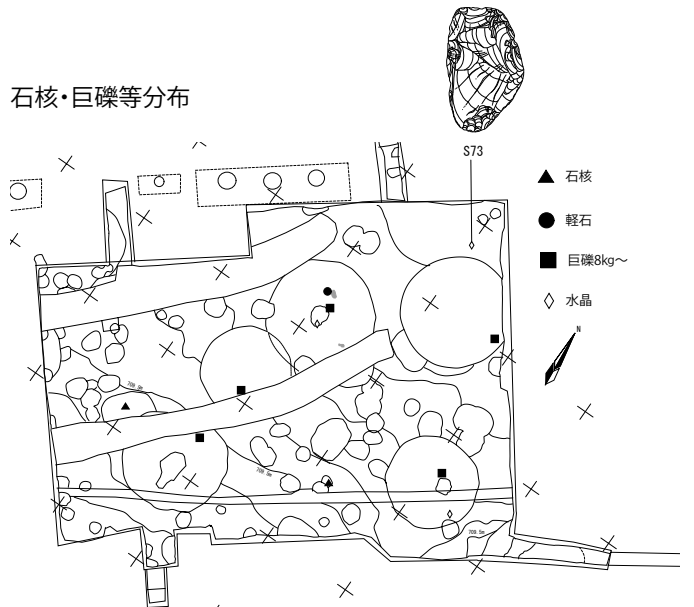
石皿・礫石皿分布



小型石器類分布



石核・巨礫等分布



第85図 石器・礫平面分布

第3表 出土遺物一覽表 (土器)

図版番号	図内番号	出土地点	器種	口径・底径・器高	整形・施文技法	色調	胎土	時期	備考
第33図	1	1号住居跡	両耳鉢	-/(15.0)/16.5	隆帯により区画。第2文様帯は棒状工具により縦位の条線を施す。X字状の把手がつく。	10YR7/4にぶい黄褐色	粗・白色粒・石英・金雲母	曾利IV	埋設土器 底部は割り貫き
第33図	2	1号住居跡	浅鉢	(18.0)/(6.4)/12.9	無文、口縁は内湾する	7.5YR6/8 橙色	白色粒・金雲母	曾利IV~V	
第33図	3	1号住居跡炉跡	深鉢	-/-/3.3	口縁は三角形の断面となる	7.5YR6/6 橙色	精・白色粒・金雲母	曾利III~IV	
第33図	4	1号住居跡	深鉢	-/-/4.4	縄文地文・一部磨り消し	10YR5/3にぶい黄褐色	白色粒・砂粒	曾利	
第33図	5	1号住居跡	深鉢	-/-/4.0	縄文地文・結節縄文	10YR2/1 黒色	白色粒・雲母	曾利II	
第33図	6	1号住居跡炉跡	深鉢	-/-/3.4	条線地文	10YR5/3にぶい黄褐色	均一・白色粒・雲母	曾利	
第33図	7	1号住居跡	深鉢	-/-/5.5	縄文地文	7.5YR5/2 灰褐色	粗・砂粒・白色粒	曾利	
第33図	8	1号住居跡	深鉢	-/-/8.6	縄文地文・結節縄文あり	5YR5/4にぶい赤褐色	粗・砂粒・白色粒・石英	曾利	
第33図	9	1号住居跡	深鉢	-/-/4.4	結節縄文	7.5YR6/3にぶい褐色	粗	曾利II	
第33図	10	1号住居跡	小型の鉢類	-/4.6/3.0	-	10YR6/4にぶい黄褐色	粗・白色粒・金雲母		
第33図	11	1号住居跡	深鉢	-/-/2.4	口唇部刻み・横位沈線。頸部は矢羽状の沈線を施す	7.5YR3/1 黒褐色	粗・砂粒・白色粒	五領ヶ台	
第33図	12	1号住居跡	深鉢	-/-/5.9	縄文地文に集合沈線	2.5YR5/6 明赤褐色	精・白色粒・金雲母	諸磯b 3	
第33図	13	1号住居跡炉跡	深鉢	-/-/2.6	集合沈線	5YR4/3にぶい赤褐色	精・赤色粒	諸磯b	
第33図	14	1号住居跡	深鉢	-/-/3.8	口唇部刻み・沈線区画・突起あり	10YR3/1 黒褐色	粗・白色粒・石英多	五領ヶ台	
第33図	15	1号住居跡	深鉢	-/-/5.8	縄文地文に浮線文	5YR5/2 灰褐色	粗・白色粒・石英	諸磯b 2	
第33図	16	1号住居跡	深鉢	-/-/3.8	連続爪形文	7.5YR6/4にぶい褐色	粗・砂粒・石英	諸磯a	
第33図	17	1号住居跡	深鉢	-/-/5.4	縄文地文に集合沈線	10YR4/3にぶい黄褐色	精・白色粒・赤色粒	諸磯b 3	
第33図	18	1号住居跡	深鉢	-/-/4.8	-	7.5YR5/4にぶい褐色	粗・砂粒・石英・雲母	諸磯b	
第33図	19	1号住居跡	浅鉢	-/-/3.0	入組木葉文	7.5YR5/6 明褐色	粗・白色粒・雲母	諸磯b	
第33図	20	1号住居跡	深鉢	-/(12.6)/3.4	集合沈線	10YR6/4にぶい黄褐色	精・白色粒・金雲母	諸磯b	
第33図	21	1号住居跡	深鉢	-/-/3.4	半截竹管による沈線文	7.5YR5/6 明褐色	粗・石英・金雲母	五領ヶ台II	
第33図	22	1号住居跡	深鉢	-/-/5.7	縄文地文・半截竹管による沈線文	10YR6/3にぶい黄褐色	精・石英・金雲母	諸磯	
第33図	23	1号住居跡	条線小甕	-/-/6.5	波長の高い波状隆帯・胴部条線	7.5YR5/2 灰褐色	粗・白色粒	曾利I	
第33図	24	1号住居跡	深鉢	-/-/3.8	縄文地文に沈線による弧線文	5YR4/2 灰褐色	粗・白色粒・金雲母	曾利II	
第34図	1	4号住居跡	深鉢	46.6~48.0/12.5 ~12.9/49.0	4単位のX字把手。把手に液状粘土紐貼付。胴部は沈線区画施文後に、竹管状工具による列点文。底部網代痕有り。	10YR4/2 灰黄褐色	砂粒・白色粒・赤色粒	曾利II	実測委託 内面才コゴあり 炭化物分析
第34図	2	4号住居跡炉跡	小甕	13.4/7.4/13.2	4単位の蛇行隆帯による区画・区画内織形文	5YR4/8 赤褐色	粗・φ2mm程度の砂レキ・白色粒・金雲母	曾利II	炉付設土器
第34図	3	4号住居跡	深鉢	-/(10.4)/-	単節縄文地文	5YR5/6 明赤褐色	砂粒・白色粒・石英	曾利II	
第34図	4	4号住居跡	浅鉢	(25.6)/9.0/8.9	口縁部：隆帯によるつなぎ弧文	7.5YR5/6 明褐色	粗・白色粒・赤色粒	曾利II	
第34図	5	4号住居跡炉跡	両耳鉢	-/-/22.5	頸部に隆帯で楕円状の区画、そのまま隆帯からX字状の把手へ。把手は2単位の両耳鉢か	10YR6/4にぶい黄褐色	粗・白色粒・石英・雲母	曾利II	
第34図	6	4号住居跡炉跡	小甕	-/-/5.8	唐草文系・沈線で渦巻文と唐草文	10YR5/4にぶい黄褐色	粗・石英・赤色粒	曾利II	
第34図	7	4号住居跡	深鉢	-/-/5.8	唐草文系・沈線で渦巻文と唐草文	7.5YR5/3にぶい褐色	精・砂粒	曾利II	
第34図	8	4号住居跡	浅鉢	-/-/7.2	沈線区画・区画内縦位条線	10YR6/6 明黄褐色	砂粒・白色粒	曾利II~IV	
第34図	9	4号住居跡	深鉢	-/-/3.2	条線地文に蛇行隆帯貼付	10YR4/3にぶい黄褐色	精・白色粒・雲母	曾利I	
第34図	10	4号住居跡	深鉢	-/-/4.3	縄文地文・蛇行沈線	7.5YR6/6 橙色	粗・白色粒・黒雲母	曾利II~III	
第34図	11	4号住居跡	深鉢	-/-/7.7	縄文地文、尖底になるか	5YR5/6 明赤褐色	精・白色粒・雲母	早期か	
第34図	12	4号住居跡	深鉢	-/-/5.7	沈線で区画内に弧文、その後蛇行沈線	7.5YR7/4にぶい褐色	粗・砂粒・雲母	曾利II~III	
第34図	13	4号住居跡	深鉢	-/-/5.8	-	5YR5/6 明赤褐色	粗・砂粒・白色粒	曾利?	底部網代痕
第34図	14	4号住居跡	深鉢	-/-/4.1	平行沈線	2.5Y3/2 黒褐色	精・白色粒・黒雲母	諸磯b 3	
第34図	15	4号住居跡	深鉢	-/-/5.9	半截竹管による沈線文	2.5Y3/1 黒褐色	精・白色粒・石英	諸磯b 3	
第35図	16	4号住居跡	深鉢	-/-/4.8	沈線地文に結節浮線文貼付	2.5YR4/4にぶい赤褐色	粗・砂粒・白色粒	諸磯c	
第35図	17	4号住居跡	有孔浅鉢	-/-/2.5	-	2.5Y5/4 黄褐色	やや精・白色粒	諸磯b	
第35図	18	4号住居跡	深鉢	-/(14.8)/5.0	結節縄文	5YR4/4にぶい赤褐色	砂粒・白色粒	五領ヶ台?	底部網代痕

図版番号	図内番号	出土地点	器種	口径・底径・器高	整形・施文技法	色調	胎土	時期	備考
第35図	19	4号住居跡	深鉢	-/-/3.6	低隆帯による渦巻文 口縁部に4単位の隆帯文。胴部隆帯貼付後に縦位沈線を施文。沈線施文後、隆帯上に中空工具による刻み(半截竹管状か?先端形状不明)。底部穿孔。	10YR4/3にぶい黄褐色	粗・白色粒・チャート	曾利IV	
第35図	1	5号住居跡	長胴壺	43.9/ <17.3> / (58.6) 図上合成 (89.9)	口縁部に2本1対の粘土紐(6単位の液状文か?)。胴部に横位液状粘土紐貼付。胴部に10本の粘土紐貼付。RL縦位回転施文後、胴部下半でナデ消し。	10YR6/3にぶい黄褐色	白色粒・赤色粒・黒色粒	曾利I	埋設土器 実測委託
第35図	2	5号住居跡	深鉢	14.4/5.2/21.2	頸部斜位沈線	5YR5/8明赤褐色	精・砂粒・赤色粒	曾利I	埋設土器
第35図	3	5号住居跡	深鉢	24.0/9.0/27.3	口縁部に2本1対の粘土紐(6単位の液状文か?)。胴部に横位液状粘土紐貼付。胴部に10本の粘土紐貼付。RL縦位回転施文後、胴部下半でナデ消し。	7.5YR5/3にぶい褐色	砂粒・白色粒	曾利II	実測委託
第35図	4	5号住居跡	条線小壺	11.1/6.2/20.0	集合沈線を頸部に横位、胴部に縦位で施す	7.5YR5/2灰褐色	粗・白色粒・赤色粒	曾利I	
第35図	5	5号住居跡	条線小壺	-/6.6/16.0	頸部に横位液状粘土紐貼付。蛇行隆帯の懸垂文・縄文地文	2.5YR4/4にぶい赤褐色	粗・砂粒・白色粒・石英	曾利II	
第35図	6	5号住居跡	深鉢	-/9.0/13.4	縄文地文	7.5YR6/4にぶい褐色	粗・白色粒・石英・雲母	曾利II	内面コゲあり
第36図	7	5号住居跡	浅鉢	36.0/11.0/19.1	内外面メガキ調整	7.5YR6/4にぶい褐色	精・石英・黒色粒	曾利I	
第36図	8	5号住居跡	浅鉢	35.2/-/16.8	外面メズリ痕明瞭・内面ミガキ	7.5YR5/8明褐色	白色粒多含	曾利I	
第36図	9	5号住居跡	両耳鉢	(31.2)/-/19.3	把手貼付後に縄文を施文。把手はX字状とはならない	7.5YR5/4にぶい褐色	粗・砂粒・白色粒・赤色粒	曾利II	
第36図	10	5号住居跡	両耳鉢	(34.2)/-/20.4	文様帯の区画に粘土紐貼付。口縁部と頸部の間の粘土紐には連続刻み。半截竹管の沈線による頸部文様	10YR7/4にぶい黄褐色	やや粗・白色粒・金雲母	曾利II	内外共に煤付着
第36図	11	5号住居跡	浅鉢	(38.4)/ (17.4) /21.1	文様帯区画による頸部文様帯、頸部・胴部は縄文地文	10YR3/2黒褐色	粗・白色粒・石英	曾利II	
第36図	12	5号住居跡	深鉢	(22.8)/-/9.0	-	10YR3/4暗褐色	やや粗・白色粒・赤色粒	曾利I	内外共に煤付着
第36図	13	5号住居跡	深鉢(小壺)	(14.0)/-/5.4	内外面メガキ良好 つなぎ弧文系、胴部縄文を地文としたのちに蛇行沈線	5YR4/3にぶい赤褐色	精・白色粒・赤色粒	曾利I	
第36図	14	5号住居跡	深鉢	-/-/6.8	棒状工具による施文	10YR7/3にぶい黄褐色	精・砂粒	曾利II	
第36図	15	5号住居跡	深鉢	-/-/6.3	棒状工具による施文	5YR5/4にぶい赤褐色	粗・白色粒・赤色粒	井戸尻	
第36図	16	5号住居跡	深鉢	-/-/4.0	口縁部に縦位の刻み隆帯	5YR4/1褐灰色	粗・赤色粒	曾利I	
第36図	17	5号住居跡	深鉢	-/-/6.9	三本隆帯による懸垂文、区画内条線	5YR5/3にぶい赤褐色	粗・白色粒・黒色粒	曾利II	
第36図	18	5号住居跡	深鉢	-/-/9.9	隆帯による区画と縦位沈線	10YR5/6黄褐色	精・白色粒	曾利I	
第36図	19	5号住居跡	鉢	-/-/4.3	把手部破片、把手側面に、半截竹管による沈線を施す	7.5YR6/4にぶい褐色	粗・白色粒・雲母	井戸尻～曾利I	
第36図	20	5号住居跡	把手部分	-/-/4.5	水煙把手付土器の一部か、棒状工具による沈線で施文	2.5Y3/2黒褐色	粗・白色粒・雲母	井戸尻～曾利I	
第37図	21	5号住居跡	深鉢	-/-/6.0	刻み隆帯貼付	10YR3/2黒褐色	粗・砂粒・白色粒	井戸尻	
第37図	22	5号住居跡	深鉢	-/-/5.5	頸部は横位隆帯区画内に液状隆帯、胴部は縦位条線	5YR7/4にぶい褐色	粗・砂粒・赤色粒	曾利I	
第37図	23	5号住居跡	深鉢	-/-/5.6	頸部は横位隆帯区画内に液状隆帯、胴部は縦位条線	10YR7/4にぶい黄褐色	精・砂粒	曾利I	
第37図	24	5号住居跡	浅鉢	-/-/4.7	棒状工具による沈線区画、区画内縄文	7.5YR4/1褐灰色	粗・白色粒・金雲母	曾利I	
第37図	25	5号住居跡	深鉢	-/-/6.1	渦巻き隆帯貼付後に縦位条線	10YR6/4にぶい黄褐色	粗・白色粒・赤色粒	井戸尻	
第37図	26	5号住居跡	深鉢	-/-/5.4	刻みをもつ隆帯による渦巻文、渦巻外に条線地文か	5YR6/6褐色	砂粒・白色粒・赤色粒	井戸尻	
第37図	27	5号住居跡	深鉢	-/-/3.9	頸部、隆帯による斜格子	7.5YR3/3暗褐色	粗・砂粒	曾利I	
第37図	28	5号住居跡	深鉢	-/-/4.6	刻みをもつ一本隆帯の懸垂文。縦位の条線による地文	2.5Y4/3オリーブ褐色	精・白色粒	井戸尻	
第37図	29	5号住居跡	深鉢	-/-/5.0	-	10YR6/4にぶい黄褐色	精・白色粒	曾利	
第37図	30	5号住居跡	条線小壺	-/-/5.5	蛇行隆帯による懸垂文、縄文地文	7.5YR4/6褐色	粗・砂粒・白色粒・石英	曾利II	
第37図	31	5号住居跡	小壺	-/5.6/1.9	-	10YR6/3にぶい黄褐色	粗・白色粒多い	曾利か	内面こげあり

図版番号	図内番号	出土地点	器種	口径・底径・器高	整形・施文技法	色調	胎土	時期	備考
第37図	32	5号住居跡	深鉢	-/(17.6)/2.7	-	5YR5/8 明赤褐色	粗・白色粒		
第37図	33	5号住居跡	深鉢か	-/8.8/5.5	胴部縄文あり	10YR3/1 黒褐色	粗・白色粒・石英	曾利	
第37図	34	5号住居跡	深鉢	-/4.6	縄文地に半載竹管による沈線	10YR5/3 赤褐色	粗・砂粒・雲母	諸磯b	
第37図	35	5号住居跡	深鉢	-/16.5	縄文地にボタン状突起	5YR5/4 にぶい赤褐色	粗・白色粒・黒雲母	諸磯b	
第37図	36	5号住居跡	深鉢	-/2.9	唇部刻み、口縁部刺突文	2.5Y4/1 黄灰色	粗・白色粒・石英	諸磯b	
第37図	37	5号住居跡炉跡	深鉢	-/4.6	半載竹管による区画文、縄文地文	10YR5/3 にぶい黄褐色	粗・砂粒・白色粒	五箇ヶ台？	
第37図	38	5号住居跡vi土	浅鉢	-/3.5	刻みをもつ浮線文	7.5YR3/1 黒褐色	粗・白色粒・金雲母	諸磯？	
第37図	39	5号住居跡	浅鉢	-/2.5	-	5YR4/6 赤褐色	粗・砂粒・黒石粒	諸磯	
第37図	40	5号住居跡上層	深鉢	-/4.4	縄文地に集合沈線	5YR3/1 黒褐色	粗・白色粒・黒雲母多い	諸磯b	
第37図	41	5号住居跡上層	浅鉢	-/6.4	刺突による刻み	10YR4/4 褐色	粗・砂粒・白色粒	諸磯b	
第37図	42	5号住居跡	深鉢	-/4.2	縄文地に半載竹管による沈線	5YR5/4 にぶい赤褐色	粗・砂粒・金雲母	諸磯b	
第37図	43	5号住居跡	深鉢	-/4.4	沈線区画に交互刺突	10YR5/4 にぶい黄褐色	精・金雲母	井戸尻	
第37図	44	5号住居跡	深鉢	-/4.1	押しきによる条線	7.5YR6/6 褐色	粗・白色粒	井戸尻	
第38図	1	6号住居跡	深鉢	(10.7)/-/7.0	つなぎ弧文系土器 口縁部弧文区画内は縦位の条線。胴部は蛇行沈線に綾杉文	10YR7/3 にぶい黄褐色	やや粗・砂粒・白色粒	曾利IV	
第38図	2	6号住居跡	有孔罎付土器	(10.6)/-/9.0	内外面、丁寧なミガキ	7.5YR6/6 褐色	精・白色粒・金雲母	曾利	
第38図	3	6号住居跡	深鉢	-/3.3	口縁部斜行条線に隆帯渦巻文	7.5YR3/3 暗褐色	粗・白色粒・金雲母	曾利IV	
第38図	4	6号住居跡	深鉢	-/3.0	つなぎ弧文、区画内条線	7.5YR6/4 にぶい褐色	精・砂粒	曾利III	
第38図	5	6号住居跡上層	深鉢	-/(5.0)	肥厚帯口縁、円形凹部、胴部縄文	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂粒・白色粒	曾利IV	
第38図	6	6号住居跡	深鉢	-/(4.2)	肥厚帯口縁	10YR4/3 にぶい黄褐色	精	曾利IV	
第38図	7	6号住居跡	深鉢	-/8.6	蛇行沈線と綾杉文	10YR5/8 黄褐色	粗・白色粒・石英・金雲母	曾利IV	
第38図	8	6号住居跡炉跡	深鉢	-/4.5	唐草文系土器のくびれ部、隆帯貼付による区画、胴部綾杉文か	10YR5/4 にぶい黄褐色	粗・白色粒・金雲母	唐草文3	
第38図	9	6号住居跡上層	深鉢	-/5.2	隆帯による区画、区画内条線	10YR4/3 にぶい黄褐色	精・白色粒・砂粒・雲母	曾利	
第38図	10	6号住居跡	深鉢	-/6.2	縄文地文	5YR4/3 にぶい赤褐色	粗・砂粒・白色粒・雲母	曾利II	
第38図	11	6号住居跡	深鉢	-/4.3	隆帯による渦巻文、縄文地文	7.5YR4/2 灰褐色	粗・白色粒・金雲母	曾利IV	
第38図	12	6号住居跡炉跡	深鉢	-/4.6	沈線区画に綾杉文	10YR6/4 にぶい黄褐色	粗・砂粒・白色粒・金雲母	曾利IV	
第38図	13	6号住居跡	両耳鉢か	-/3.9	胴部縦位条線	7.5YR7/4 にぶい褐色	粗・白色粒・雲母	曾利III~IV	
第38図	14	6号住居跡	条線小罎	-/3.1	隆帯区画、刻みをもつ隆帯の懸垂文。区画内条線	7.5YR2/2 黒褐色	粗・砂粒	曾利I	
第38図	15	6号住居跡上層	浅鉢(両耳鉢か)	-/11.0	貼付隆帯による文様	10YR7/4 にぶい黄褐色	やや粗・砂粒・赤色粒	曾利IV	
第38図	16	6号住居跡	深鉢	-/(15.0)/5.9	-	7.5YR4/6 褐色	粗・砂粒・白色粒・金雲母	曾利	
第38図	17	6号住居跡	有孔浅鉢	-/1.9	穴を結ぶように刻み刺突あり	2.5YR5/6 明赤褐色	粗・白色粒・金雲母	諸磯b	
第38図	18	6号住居跡	深鉢	-/4.9	集合沈線	7.5YR4/4 褐色	粗・砂粒・小礫(白色・黒色)	諸磯b	
第38図	19	6号住居跡	深鉢	-/4.1	縄文地に刻み浮線文	5YR5/4 にぶい赤褐色	砂粒・白色粒・金雲母	諸磯b	
第38図	20	6号住居跡	深鉢	-/4.0	半載竹管施文後縄文	7.5YR4/1 褐灰色	粗・砂粒・黒雲母	諸磯b	
第38図	21	6号住居跡	深鉢	-/2.8	連続爪形文	5YR5/4 にぶい赤褐色	粗・黒色粒・黒雲母	諸磯a	
第38図	22	6号住居跡	深鉢	-/3.5	沈線地文にボタン状突起貼付	2.5YR4/4 にぶい赤褐色	精・白色粒	諸磯b3	
第38図	23	6号住居跡	深鉢	-/3.2	縄文地文、口縁玉抱き三叉文	10R4/4 赤褐色	粗・石英・金雲母	五箇ヶ台	
第38図	24	6号住居跡	深鉢	-/4.2	棒状工具で隆帯整形	10YR3/4 暗褐色	粗・白色粒・チャート・金雲母	曾利II	
第38図	25	6号住居跡	深鉢	-/5.3	沈線によるコの字区画	10YR8/3 浅黄褐色	粗・砂粒・白色粒	曾利IV？	
第39図	1	7号住居跡	深鉢	19.6~21.0/-/15.5	下半部は割り貫いている。口縁：隆帯による構円状区画、区画内条線、胴部に刺突状の列点文	5YR5/6 明赤褐色	白色粒・砂粒・金雲母	曾利II	埋設土器1
第39図	2	7号住居跡	深鉢	-/23.4	底部は焼成後に穿孔、「底抜け」状態にしている。口縁つなぎ弧文か、胴部櫛形条線地文に半載竹管による蛇行沈線を施す。	7.5YR5/6 明褐色	白色粒・砂粒・金雲母	曾利II	埋設土器2

図版番号	図内番号	出土地点	器種	口径・底径・器高	整形・施文技法	色調	胎土	時期	備考
第39図	3	7号住居跡炉跡	深鉢	-7.3/12.1	楯描条線の地文、棒状工具による3条の沈線懸垂文(4単位)	7.5YR5/6 明褐色	粗・砂粒・白色粒・金雲母	曾利II~III	炉付設土器
第39図	4	7号住居跡	深鉢	(30.4)/-/10.3	-	10YR5/4 にぶい黄褐色	精・白色粒・黒色粒	曾利II~III	炉付設土器
第39図	5	7号住居跡	深鉢	-/-(50.2)	4単位のX字状把手。胴部隆帯文に沿って沈線施文。沈線施文後、竹管状工具による列点文を施文。	7.5YR6/4 にぶい橙褐色	粗・砂粒・白色粒・石英	曾利II	実測委託 34号土坑から同一個体と思われる破片出土
第39図	6	7号住居跡	深鉢	41.3~42.0/11.3 ~11.7/(42.6)	口縁部に6単位の突起。胴部にRLR回転施文(施文方向がばらばらしている)。縹文施文後、突起直下に縦位波状沈線を1条ずつ施文。沈線施文後、口縁部に6単位の隆帯文。底部網代痕有り。	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒	曾利II	実測委託
第39図	7	7号住居跡	深鉢	36.3/-/36.7	無文	7.5YR5/4 にぶい褐色	粗・砂粒・白色粒・赤色粒	曾利	外面スズあり
第40図	8	7号住居跡	深鉢	47.4/-/9.4	口縁ナ字整形	5YR5/6 明赤褐色	粗・白色粒・黒石粒・金雲母	曾利	床面より出土
第40図	9	7号住居跡	深鉢	(20.6)/-/15.1	楯描条線地文	7.5YR6/6 橙褐色	精・砂粒・白色粒・金雲母	曾利III	
第40図	10	7号住居跡	深鉢	(31.0)/-/10.8	口縁斜位の集合沈線。胴部楯描条線	10YR6/4 にぶい黄褐色	粗・赤色粒・黒色粒	曾利II~III	
第40図	11	7号住居跡	深鉢	(24.2)/-/9.0	隆帯によるつなぎ弧文。弧文区画内縹文。胴部、縹文地文、蛇行隆帯による懸垂文	10YR3/2 黒褐色	粗・砂粒・白色粒	曾利II	
第40図	12	7号住居跡上層	深鉢	-/-/6.4	-	5YR4/4 にぶい赤褐色	砂粒・白色粒	曾利I~II	
第40図	13	7号住居跡上層	深鉢	-/-/5.9	外面無文	7.5YR6/3 にぶい褐色	精・黒色粒	曾利	
第40図	14	7号住居跡上層	深鉢	-/-/5.9	口縁部つなぎ弧文、胴部縹文地文	7.5YR7/3 にぶい橙褐色	粗・砂粒	曾利II	
第40図	15	7号住居跡	深鉢	-/-/4.8	口縁斜位条線	10YR6/3 にぶい黄褐色	砂粒・白色粒・金雲母	曾利II	
第40図	16	7号住居跡	浅鉢	-/-/16.3	棒状工具による沈線区画、楯形区画内に縦位条線	5YR4/6 赤褐色	粗・砂粒・白色粒	曾利II	
第40図	17	7号住居跡上層	深鉢	-/-/6.8	口縁重弧文になるか?、外面には渦巻き隆帯、内面には沈線により渦巻き文を施す	5YR5/6 明赤褐色	精・砂粒・白色粒・黒色粒	曾利II	
第40図	18	7号住居跡上層	深鉢	(38.0)/-/9.7	重弧文	7.5YR4/2 灰褐色	精・砂粒・白色粒・赤色粒	曾利II~III	
第40図	19	7号住居跡	深鉢	-/-/5.8	肥厚帯口縁、胴部縹文	7.5YR5/3 にぶい褐色	粗・砂粒・白色粒・金雲母	曾利III	
第40図	20	7号住居跡	深鉢	-/-/6.0	縹文地文、S字隆帯貼付	7.5YR6/3 にぶい褐色	粗・白色粒・黒色粒	曾利II	
第40図	21	7号住居跡	深鉢	-/-/7.2	重弧文、口縁外面蛇行隆帯	5YR4/2 灰褐色	粗・白色粒・赤色粒・黒雲母	曾利II	
第40図	22	7号住居跡	深鉢(小壺)	-/-/13.0	つなぎ弧文系、胴部楯描条線	2.5YR6/6 橙褐色	粗・白色粒・赤色粒	曾利III	
第41図	23	7号住居跡上層	浅鉢	-/-/4.5	-	7.5YR5/4 にぶい褐色	粗・白色粒・赤色粒	曾利II	
第41図	24	7号住居跡	深鉢	-/-/4.3	肥厚帯口縁	7.5YR3/1 黒褐色	粗・白色粒・赤色粒	曾利II	
第41図	25	7号住居跡	深鉢	-/-/5.0	肥厚帯口縁、胴部縹文	5YR5/3 にぶい赤褐色	粗・白色粒・黒色粒	曾利III	
第41図	26	7号住居跡上層	深鉢	-/-/3.5	重弧文口縁か	7.5YR4/6 褐色	砂粒・白色粒・金雲母	曾利II	
第41図	27	7号住居跡	深鉢	-/-/5.9	縹文地文、沈線による施文	7.5YR6/6 橙褐色	粗・白色粒・赤色粒・金雲母	曾利II	
第41図	28	7号住居跡	深鉢	(44.0)/-/3.0	口唇部上面に円形の低隆帯、円周に沿って刻み状の沈線	7.5YR4/6 褐色	粗・砂粒・白色粒・赤色粒	井戸尻	赤彩
第41図	29	7号住居跡	深鉢	-/-/5.6	胴部2本隆帯の懸垂文、縹文施文	7.5YR7/3 にぶい橙褐色	粗・白色粒・赤色粒	曾利II	
第41図	30	7号住居跡	深鉢	-/-/2.7	隆帯による渦巻きから懸垂文が胴部へ伸びる。胴部縹文か	7.5YR7/6 橙褐色	精・白色粒・金雲母	曾利III	
第41図	31	7号住居跡	深鉢	-/-/24.2	棒状工具による区画、(渦巻き文など)区画内縹文、唐草文系の影響か	7.5YR7/4 にぶい橙褐色	粗・白色粒・金雲母	曾利III	
第41図	32	7号住居跡	深鉢	-/-/19.0	貼付隆帯による渦巻き文、列点文	5YR4/6 赤褐色	粗・白色粒・黒色粒・赤色粒	曾利II	
第41図	33	7号住居跡上層	深鉢	-/-/6.5	隆帯による施文、列点文	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂粒・白色粒・金雲母	曾利II	
第41図	34	7号住居跡	深鉢	-/-/9.5	半截竹管による隆帯整形、区画内長めの列点文	7.5YR6/4 にぶい橙褐色	粗・白色粒・金雲母	曾利II	
第41図	35	7号住居跡	深鉢	-/-/8.9	貼付隆帯、列点文	2.5YR4/4 にぶい赤褐色	粗・砂粒・黒色粒	曾利II	

図版番号	図内番号	出土地点	器種	口径・底径・器高	整形・施文技法	色調	胎土	時期	備考
第41図	36	7号住居跡上層	深鉢	-/-/9.5	頸部文様帯に、隆帯による区画と渦巻文、区画内無文	10YR5/3にぶい黄褐色	粗・白色粒・金雲母	曾利II～III	
第41図	37	7号住居跡	深鉢	-/-/11.7	連弧文系土器、胴部櫛描条線	7.5YR6/4にぶい橙色	砂粒・白色粒・金雲母	曾利II	
第42図	38	7号住居跡上層	水煙把手付土器	-/-/13.2	把手部。胴部縦位条線、棒状工具による隆帯整形	7.5YR6/4にぶい橙色	粗・白色粒・赤色粒・黒色粒	曾利I	
第42図	39	7号住居跡上層	深鉢	-/-/5.9	連弧文系、櫛描条線地文	10YR4/2 灰黄褐色	精・白色粒	曾利II	
第42図	40	7号住居跡上層	深鉢	-/-/5.8	隆帯による区画、棒状工具の刺突文、胴部縦位条線	7.5YR2/2 黒褐色	粗・白色粒・金雲母	曾利II～III	
第42図	41	7号住居跡	深鉢	-/-/10.2	内外面ヘラミガキ	7.5YR7/4にぶい橙色	粗・白色粒	曾利	
第42図	42	7号住居跡	深鉢	-/-/4.5	沈線による渦巻文	10YR5/2 灰黄褐色	粗・赤色粒・金雲母	曾利II～III	
第42図	43	7号住居跡	深鉢	-/-/7.0	縄文地文、蛇行隆帯	7.5YR5/4にぶい褐色	精・砂粒・白色粒・金雲母	曾利II	
第42図	44	7号住居跡	深鉢	-/-/4.6	微隆帯による渦巻文、綾杉条線	10YR5/4にぶい黄褐色	粗・砂粒・白色粒	曾利III	
第42図	45	7号住居跡上層	深鉢	-/-/5.2	縄文(複節)地文、半截竹管による隆帯	2.5YR5/6 明赤褐色	粗・砂粒・白色粒	曾利II	
第42図	46	7号住居跡	深鉢	-/-/7.0	縄文地区文に蛇行沈線	5YR5/6 明赤褐色	粗・白色粒・金雲母	曾利III～IV	
第42図	47	7号住居跡上層	深鉢	-/-/4.7	沈線区画、区画内縄文	7.5YR5/6 明褐色	粗・白色粒	曾利V	
第42図	48	7号住居跡	深鉢	-/-/5.1	連弧文系土器、頸部に交互刺突。胴部縄文地に隆帯の連弧文	7.5YR4/3 褐色	粗・白色粒・赤色粒	曾利II	
第42図	49	7号住居跡	X字把手付鉢	-/-/7.7	X字把手の貼付痕	5YR6/4にぶい橙色	粗・砂粒・白色粒・石英・金雲母	曾利II	
第42図	50	7号住居跡	深鉢	-/-/7.0	櫛描条線による地文、棒状工具による田の字区画文	10YR5/6 黄褐色	粗・砂粒・白色粒	曾利II～III	
第42図	51	7号住居跡	X字把手付鉢	-/-/7.5	把手側面に沈線文様。胴部列点文か	5YR7/3にぶい橙色	粗・白色粒・赤色粒	曾利II	
第42図	52	7号住居跡	X字把手	-/-/5.7	把手中央に蛇行隆帯	10YR6/6 明黄褐色	砂粒・白色粒	曾利II	
第42図	53	7号住居跡	X字把手	-/-/5.4	把手に沈線で文様	7.5YR5/8 明褐色	粗・白色粒・石英・金雲母	曾利II	
第42図	54	7号住居跡	深鉢	-/-/10.8	縄文地文	7.5YR6/3にぶい褐色	粗・砂粒・黒色粒	曾利II	
第42図	55	7号住居跡	深鉢	-/-/7.4	櫛描条線地文に蛇行沈線の懸垂文	2.5Y4/4 オリーブ褐色	粗・白色粒・金雲母	曾利II	
第42図	56	7号住居跡	深鉢	-/7.0/3.8	胴下半部無文	10YR5/2 灰黄褐色	白色粒・黒石粒・赤色粒	曾利	底部網代痕あり
第42図	57	7号住居跡上層	深鉢	-/7.0/6.2	胴部八字状文	5YR6/6 褐色	粗・砂粒・白色粒	曾利V	底部網代痕あり
第43図	58	7号住居跡上層	深鉢	-/(10.8)/4.9	胴下半部無文	10YR5/4にぶい黄褐色	粗・白色粒・赤色粒・金雲母	曾利	
第43図	59	7号住居跡	深鉢	-/-/4.5	浮線文	7.5YR3/2 黒褐色	粗・砂粒・白色粒・赤色粒	諸磯b	
第43図	60	7号住居跡上層	深鉢	-/-/5.4	連続爪形文と浮線文	5YR4/6 赤褐色	粗・白色粒・砂粒	諸磯b 1	
第43図	61	7号住居跡上層	深鉢	-/-/5.6	縄文地文、竹管による円形刺突	10YR5/3にぶい黄褐色	粗・白色粒	諸磯a	
第43図	62	7号住居跡	浅鉢	-/-/3.2	-	7.5YR3/2 黒褐色	精・白色粒	諸磯	外面赤彩
第43図	63	7号住居跡上層	浅鉢	-/-/5.0	-	7.5YR3/4 暗褐色	粗・砂粒・白色粒・赤色粒	諸磯	
第43図	64	7号住居跡	浅鉢	-/(13.6)/2.2	-	10YR3/1 黒褐色	粗・砂粒・金雲母	諸磯	
第43図	65	7号住居跡上層	深鉢	-/-/4.7	口唇部列点刺突、胴部沈線区画	5YR6/6 褐色	粗・砂粒・白色粒	曾利II	
第43図	66	7号住居跡上層	深鉢	-/-/6.2	浅い沈線区画、区画内縄文	2.5Y4/1 黄灰色	粗・白色粒・金雲母	曾利V	
第43図	1	8号住居跡	深鉢	-/-/3.5	縄文地文、横位沈線	7.5YR5/8 明褐色	粗・白色粒・金雲母	諸磯b	
第43図	2	8号住居跡	深鉢	-/-/3.1	集合沈線	7.5YR3/4 暗褐色	粗・砂粒・白色粒	諸磯b	
第43図	3	8号住居跡	深鉢	-/-/3.2	口唇部刻み、縄文地文	7.5YR2/1 黒色	精・白色粒・黒雲母	諸磯か	
第43図	1	9号住居跡	深鉢	-/12.6/16.4	沈線U字区画、八字状文、焼成後底部穿孔	5YR5/6 明赤褐色	砂粒・白色粒・金雲母	曾利V	埋設土器
第43図	2	9号住居跡	広口壺形土器	-/-/27.1	頸部にX字状の把手。胴部は低隆帯による渦巻文などの区画文、区画内斜位条線	7.5YR6/6 褐色	粗・白色粒・石英	曾利V	
第43図	3	9号住居跡	深鉢	-/-/7.2	口縁槽円状区画文、胴部は八字状文など	10YR7/4にぶい黄褐色	小石・雲母・白色粒・赤色粒	曾利V	
第43図	4	9号住居跡	深鉢	-/-/4.8	口縁連続刺突文、沈線による波状文	5YR6/4にぶい褐色	粗・赤色粒・黒色粒	藤内	
第43図	5	9号住居跡	深鉢	-/-/7.4	浅い沈線区画、区画内刺突文	5YR6/4にぶい褐色	やや粗・白色粒・赤色粒	曾利V	
第43図	6	9号住居跡	深鉢	-/-/5.3	長めの斜位刺突文	5YR6/4にぶい褐色	ほぼ均一・精・白色粒	曾利V	

図版番号	図内番号	出土地点	器種	口径・底径・器高	整形・施文技法	色調	胎土	時期	備考
第44図	1	10号住居跡	浅鉢	(30.1) / (9.8) / (22.7)	口縁部有孔。胴部沈線施文後に半截竹管状工具による刻みと矢羽相状の短沈線を施文。胴部下半は有段形状を呈する。	7.5YR4/3 褐色	砂粒・白色粒	諸磯b	実測委託
第44図	2	10号住居跡	深鉢	- / - / 6.3	刻みのある浮線文	5YR4/3 にぶい赤褐色	砂粒・白色粒・赤色粒	諸磯b	
第44図	3	10号住居跡	深鉢	- / - / 4.0	縄文地文	10YR2/2 黒褐色	粗・砂粒・白色粒	諸磯b	
第44図	4	10号住居跡	深鉢	- / - / 6.5	口唇刻み、縄文地文	10YR3/3 暗褐色	砂粒・白色粒・赤色粒	諸磯b	補修孔あり
第44図	5	10号住居跡	深鉢	- / - / 3.5	刻みのある浮線文	5YR5/8 明赤褐色	粗・砂粒・白色粒	諸磯b	
第44図	6	10号住居跡	深鉢	- / - / 4.3	口唇刻み、浮線文	7.5YR3/3 暗褐色	やや粗・雲母・白色粒	諸磯	
第44図	7	10号住居跡	深鉢	- / - / 5.4	口唇棒状工具で刻み風の整形、胴部連続爪型文	10YR3/4 暗褐色	粗・白色粒	諸磯b	
第44図	8	10号住居跡	鉢類	- / - / 5.0	連続爪形文による木の葉文	10YR3/3 暗褐色	粗・白色粒	諸磯a	
第44図	9	10号住居跡	深鉢	- / - / 4.6	縄文地文、浮線文	10YR4/2 灰黄褐色	精・砂粒・金雲母	諸磯b	
第44図	10	10号住居跡	深鉢	- / - / 3.4	縄文地文、沈線によりモチーフを施す	10YR3/1 黒褐色	粗・白色粒	諸磯b	
第44図	11	10号住居跡	深鉢	- / - / 3.4	半截竹管沈線による文様	7.5YR4/3 褐色	精・白色粒・金雲母	諸磯	
第44図	12	10号住居跡	深鉢	- / - / 5.0	縄文地文、稜位沈線区画と波状の沈線か	7.5YR4/3 褐色	精・白色粒	諸磯	
第44図	13	10号住居跡	深鉢	- / - / 3.7	縄文地文、浮線文による渦巻文	10YR3/3 暗褐色	粗・砂粒・白色粒	諸磯b	
第44図	14	10号住居跡	深鉢	- / - / 6.0	縄文地文、沈線文	10YR2/1 黒色	粗・白色粒	諸磯b	
第44図	15	10号住居跡	深鉢	- / - / 8.0	浮線文区画、区画上部は縄文、下部は無文	10YR5/3 にぶい黄褐色	精・白色粒	諸磯b	
第44図	16	10号住居跡	浅鉢	- / - / 3.2	-	5YR4/2 灰褐色	金雲母・白色粒	諸磯	赤彩あり
第44図	17	10号住居跡	浅鉢	- / (21.0) / 2.3	-	7.5YR5/4 にぶい褐色	ほぼ均一・白色粒	諸磯	
第44図	18	10号住居跡	深鉢	- / (11.2) / 1.6	-	7.5YR5/6 明褐色	ほぼ均一・白色粒	諸磯	
第44図	19	10号住居跡	深鉢	- / - / 6.6	-	10 Y R 6 / 4 にぶい黄褐色	ほぼ均一・白色粒	曾利	
第45図	1	11号住居跡	水煙土器把手	25.3 ~ 26.3 / - / (36.5)	口縁部に2単位の水煙把手(1ヶ次相)。胴部隆帯施文後に縦位沈線施文。その後隆帯に沿って沈線、隆帯上に刻み施文。	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂粒・白色粒	曾利I	実測委託
第45図	2	11号住居跡	条線小壺	(14.4) / - / 11.4	口縁部と頸部を隆帯で区画、頸部波状隆帯。胴部条線	2.5YR5/6 明赤褐色	やや精・白色粒・黒色粒・赤色粒	曾利I	断面に摩耗面あり、二次利用か
第45図	3	11号住居跡上層	浅鉢	- / - / 11.6	口唇上部に沈線による文様	5YR4/4 にぶい赤褐色	白色粒(大)・石英・赤色粒	井戸尻	
第45図	4	11号住居跡上層	深鉢	- / - / 8.5	頸部波状隆帯	10YR6/3 にぶい黄褐色	粗・白色粒・黒色粒	曾利I	
第45図	5	11号住居跡	水煙土器把手	- / - / 8.3	棒状工具による沈線	10YR7/6 明黄褐色	ほぼ均一	曾利I	
第45図	6	11号住居跡	深鉢	- / - / 10.1	条線地文	7.5YR4/6 褐色	粗・黒色粒・白色粒	曾利I	
第45図	7	11号住居跡	深鉢	- / - / 5.3	条線地文、刻み隆帯	7.5YR4/3 褐色	粗・砂粒・白色粒・赤色粒	曾利I	
第45図	8	11号住居跡	深鉢	- / - / 7.6	条線地文、刻み隆帯、懸垂文	7.5YR4/3 褐色	粗・白色粒・赤色粒	曾利I	
第46図	9	11号住居跡上層	深鉢	- / - / 6.0	隆帯にへう状工具の刻み、波状沈線による区画	5YR5/3 にぶい赤褐色	砂粒・白色粒	井戸尻.3	
第46図	10	11号住居跡	X字把手	- / - / 9.2	棒状工具による沈線	7.5YR7/6 橙色	砂粒・白色粒	井戸尻	
第46図	11	11号住居跡上層	深鉢	- / - / 3.8	頸部に横位の刻み隆帯	10YR5/3 にぶい黄褐色	粗・白色粒・赤色粒	井戸尻	
第46図	12	11号住居跡	深鉢	- / - / 5.3	胴部垂下隆帯	10YR4/3 にぶい黄褐色	粗・白色粒・赤色粒	曾利	
第46図	13	11号住居跡	深鉢	- / - / 4.6	隆帯による渦巻文	10YR6/4 にぶい黄褐色	粗・白色粒・石英	井戸尻	
第46図	14	11号住居跡	深鉢	- / 10.8 / 4.8	条線地文	7.5YR5/6 明褐色	粗・白色粒・赤色粒	曾利Ⅲ~Ⅳ	
第46図	15	11号住居跡上層	深鉢	- / - / 4.4	沈線区画、区画内縄文	10YR3/2 黒褐色	粗・砂粒・白色粒	五領ヶ台	
第46図	16	11号住居跡	深鉢	- / - / 2.9	-	5YR5/6 明赤褐色	粗・白色粒・金雲母	五領ヶ台	
第46図	17	11号住居跡	深鉢	- / - / 3.8	縦横に沈線	7.5YR3/2 黒褐色	粗・白色粒・黒色粒・赤色粒	諸磯	
第46図	18	11号住居跡上層	深鉢	- / - / 3.4	沈線地文	10YR5/4 にぶい黄褐色	ほぼ均一・白色粒・黒色粒	諸磯b	
第46図	19	11号住居跡	深鉢	- / - / 4.5	沈線	10YR4/2 灰黄褐色	粗・砂粒・白色粒	諸磯	
第46図	20	11号住居跡	深鉢	- / - / 5.2	口縁つなぎ弧文、胴部稜形文か	7.5YR6/4 にぶい橙色	精・赤色粒	曾利Ⅱ	

図版番号	図内番号	出土地点	器種	口径・底径・器高	整形・施文技法	色調	胎土	時期	備考
第46図	1	12号住居跡炉跡	深鉢	16.5/8.6/20.1	唐草文系土器。把手が一つ付く。胴部は綾杉文を地文として、細い逆U字形の隆帯により6単位に区画される	7.5YR5/6 明褐色	精・白色粒・金雲母	曾利Ⅲ	
第46図	2	12号住居跡	深鉢	-/9.4/24.5	縄文地文、沈線区画文、X字把手部に馬蹄形の連続刺突を施す	10YR5/3 にぶい黄褐色	粗・白色粒・赤色粒	曾利Ⅱ	底部網代痕
第46図	3	12号住居跡	X字把手付鉢	-/8.3	縄文地文、沈線区画文、X字把手部に馬蹄形の連続刺突を施す	10YR7/4 にぶい黄褐色	精・白色粒・赤色粒	曾利Ⅱ	
第46図	4	12号住居跡	深鉢	-/8.5	斜行文口縁、頸部波状隆帯	7.5YR5/6 明褐色	ほぼ均一・白色粒・赤色粒	曾利Ⅱ	
第46図	5	12号住居跡	深鉢	-/4.0	内外面弱いミガキ	10YR6/4 にぶい黄褐色	ほぼ均一・白色粒	曾利Ⅱ～Ⅲ	
第47図	6	12号住居跡	鉢類	-/6.3	内外面弱いミガキ	10YR4/1 褐色	粗・白色粒・赤色粒	曾利?	
第47図	7	12号住居跡	条線小壺	-/5.8	条線地文、刻みあり3本隆帯垂下	5YR4/3 にぶい赤褐色	精・ほぼ均一	曾利Ⅰ	
第47図	8	12号住居跡	深鉢	-/6.3	縄文地文、隆帯貼付	10YR4/6 褐色	粗・砂粒・白色粒	曾利Ⅱ	
第47図	9	12号住居跡	浅鉢か	-/3.8	隆帯区画、沈線文様	10YR3/1 黒褐色	粗・砂粒・白色粒	曾利	
第47図	10	12号住居跡	浅鉢か	-/5.3	浅い沈線による施文	7.5YR5/6 明褐色	粗・砂粒多い・白色粒	曾利	器表面磨減、3と同一個体か
第47図	11	12号住居跡	深鉢	-/10.0	縄文地文か	10YR6/4 にぶい黄褐色	粗・砂粒多い・白色粒	曾利	
第47図	12	12号住居跡	深鉢	-/5.5	縄文地文、蛇行隆帯	5YR6/4 にぶい褐色	精・白色粒	曾利Ⅱ	
第47図	13	12号住居跡	深鉢	-/(9.8)/4.0	-	10YR6/6 明黄褐色	粗・白色粒・石英・金雲母		底部網代痕
第47図	14	12号住居跡	鉢	-/9.4/2.7	薄い壁体	2.5Y6/4 にぶい黄色	粗・白色粒・石英		
第47図	15	12号住居跡	深鉢	-/3.0	縄文地文、口唇部浮線文貼付	2.5YR5/6 明赤褐色	やや精・砂粒	諸磯	
第47図	16	12号住居跡	深鉢	-/3.3	刻み浮線文の集合	5YR4/4 にぶい赤褐色	粗・白色粒・雲母	諸磯b	
第47図	1	13号住居跡	深鉢	31.8～33.5/-/(28.5)	口縁部に半截竹管工具による6単位の重弧文。6単位の縦位波状隆帯。頸部に3本の横位波状隆帯。胴部地文にR1縦位回転施文。3単位のU字状隆帯文に沿って沈線。6単位の縦位波状隆帯。	10YR4/2 灰黄褐色	粗・砂粒・白色粒	曾利Ⅱ	実測委託
第47図	2	13号住居跡	深鉢	-/16.3	胴部縄文、底部付近は無文か、内面の調整痕明瞭	10YR4/3 にぶい黄褐色	粗・砂粒	曾利Ⅱ～Ⅲ	外面底部スス付着
第47図	3	13号住居跡	浅鉢か	-/3.9	口唇部外面から内面にかけて半截竹管による沈線、口縁内面に渦巻状の沈線	10YR5/4 にぶい黄褐色	ほぼ均一・白色粒・雲母少	曾利	
第47図	4	13号住居跡	深鉢	-/5.2	頸部は波状隆帯の貼付(2条以上)、胴部の地文は縄文、懸垂文は3本隆帯	7.5YR5/4 にぶい褐色	ほぼ均一・白色粒・雲母	曾利Ⅱ	
第47図	5	13号住居跡	深鉢	-/4.2	重弧文の中心に蛇状隆帯による懸垂文	7.5YR6/3 にぶい褐色	ほぼ均一・白色粒	曾利Ⅱ	
第47図	6	13号住居跡	鉢	-/5.1	縄文地文、3本隆帯と蛇状隆帯による懸垂文	7.5YR6/4 にぶい褐色	ほぼ均一・砂粒	曾利Ⅱ	
第47図	7	13号住居跡	鉢	-/4.7	胴部に細めの列点文	10YR6/6 明黄褐色	砂粒・白色粒・赤色粒	曾利Ⅱ	
第48図	1	14号住居跡	深鉢	21.2/-/22.2	加曾利E系統土器、縄文を施文後に胴部5単位U字状区画、磨り消し	10YR6/6 明黄褐色	やや精・φ2から3mmのレキ含む・金雲母	加曾利E3	
第48図	2	14号住居跡	深鉢	-/10.5	-	7.5YR7/4 にぶい褐色	粗・砂粒・黒雲母	曾利後半	無文
第48図	3	14号住居跡	深鉢	-/8.8	口縁つなぎ弧文区画か、区画内縦位の条線、胴部綾杉文	5YR3/4 暗赤褐色	粗・砂粒・雲母	曾利Ⅲ	
第48図	4	14号住居跡	深鉢	-/6.0	縄文地文	7.5YR4/2 灰褐色	精・砂粒少	曾利Ⅱ	
第48図	5	14号住居跡	深鉢	-/11.2	胴部低隆帯による区画(渦巻か)、区画内沈線による条線	5YR5/6 明赤褐色	精・白色粒・石英	曾利Ⅳ	
第48図	6	14号住居跡	深鉢	-/5.8	縄文地文、隆帯懸垂文	5YR5/4 にぶい赤褐色	粗・砂粒	曾利Ⅱ	
第48図	7	14号住居跡	深鉢	-/5.7	縦位条線地文	7.5YR4/6 褐色	粗・砂粒・小レキ・金雲母	曾利Ⅲ～Ⅴ	
第48図	8	14号住居跡立会	深鉢	-/7.7	つなぎ弧文土器、口縁部区画内縦位条線、胴部は綾杉文か	7.5YR7/4 にぶい褐色	精・砂粒・黒雲母	曾利Ⅳ	
第48図	9	14号住居跡立会	深鉢	-/2.9	1.5cm幅単位で縄文を施文	7.5YR5/6 明褐色	粗・石英・砂粒	曾利Ⅰ	
第48図	10	14号住居跡立会	深鉢	-/(16.0)/5.7	半截竹管による横位集合沈線	10YR5/4 にぶい黄褐色	粗・白色粒・黒雲母	諸磯b	
第48図	11	14号住居跡立会	鉢	-/(7.8)/2.7	外面ナデ	7.5YR5/6 明褐色	精・白色粒・黒色粒・金雲母	諸磯b	

図版番号	図内番号	出土地点	器種	口径・底径・器高	整形・施文技法	色調	胎土	時期	備考
第49図	1	1号壺穴遺構	深鉢	-/(11.1)/20.1	縄文地に横位集合沈線	7.5YR4/6 褐色	粗・白色粒・石英・黒雲母	諸磯b 3	
第49図	2	1号壺穴遺構	深鉢	-/4.8	縄文地文・刻みのある浮線文	7.5YR5/6 明褐色	精・砂粒・石英	諸磯b	
第49図	3	1号壺穴遺構	浅鉢	-/2.5	—	5YR4/3 にぶい赤褐色	粗・白色粒	諸磯b	
第49図	4	1号壺穴遺構	深鉢	-/6.7	半截竹管による沈線文	7.5YR6/6 橙色	粗・白色粒・石英	諸磯?	
第49図	5	1号壺穴遺構	浅鉢	-/5.1	内面・押引による連続爪形文で、三重の円文、二重の方形区画文	5YR5/6 明赤褐色	精・白色粒・金雲母	五領ヶ台II	
第49図	6	1号壺穴遺構	鉢	-/(15.0)/4.4	擦消縄文	10YR5/4 にぶい黄褐色	精・微白色粒	曾利V?	
第49図	1	2号壺穴遺構上層	深鉢	-/5.7	縄文地文	5YR4/3 褐色	粗・白色粒・石英・黒雲母	諸磯b	
第49図	2	2号壺穴遺構	有孔浅鉢	-/2.0	外面ミガキ	2.5YR5/8 明赤褐色	白色粒・金雲母	諸磯b	
第49図	3	2号壺穴遺構	有孔浅鉢	-/5.0	—	7.5YR6/3 にぶい褐色	砂粒・白色粒	諸磯b	
第50図	1	3号土坑	浅鉢	-/1.3	無文	5YR3/2 暗赤褐色	粗・砂粒・黒雲母	諸磯	
第50図	2	5号土坑上層	深鉢	-/6.4	ハナル土器・区内横位集合沈線	5YR6/4 にぶい橙色	精・微砂粒	藤内3	
第50図	3	6号土坑	深鉢	-/3.2	眼鏡状突起に刺突文・浮線文貼付	10YR5/3 にぶい黄褐色	粗・砂粒	諸磯b	
第50図	4	6号土坑	深鉢	-/4.5	浮線文貼付後に縄文施文	10YR3/3 暗褐色	粗・小礫・金雲母	諸磯b	
第50図	5	6号土坑	深鉢	-/4.5	縄文地文・半截竹管集合沈線	10YR3/3 暗褐色	粗・砂粒・雲母	諸磯b	
第50図	6	18号土坑	深鉢	-/9.5	縄文地文・半截竹管による集合沈線で区画	7.5YR6/4 にぶい橙色	粗・白色粒・黒雲母	諸磯b 3	
第50図	7	18号土坑	深鉢	-/3.0	縄文地文・半截竹管による沈線	5YR4/4 にぶい赤褐色	粗・砂粒・金雲母	諸磯	
第50図	8	29号土坑	深鉢	-/3.7	縄文地文・横位集合沈線	10YR3/2 黒褐色	白色粒・黒雲母	諸磯b	
第50図	9	29号土坑	深鉢	-/5.6	縄文地文に沈線	5YR5/6 明赤褐色	粗・砂粒	諸磯b	
第50図	10	30号土坑	深鉢	(22.0)/-/12.8	波状口縁・棒状工具による横位沈線	7.5YR2/2 黒褐色	粗・砂粒・白色粒・金雲母	諸磯b 3	
第50図	11	30号土坑	深鉢	-/8.8	棒状工具による横位沈線	5YR4/2 灰褐色	粗・砂粒・金雲母	諸磯b	
第50図	12	30号土坑	深鉢	-/9.8	棒状工具による沈線	2.5YR4/4 にぶい赤褐色	粗・砂粒・黒雲母	諸磯b 3	
第50図	13	30号土坑	深鉢	-/15.0	縄文地文・横位集合沈線で区画	10YR4/2 灰黄褐色	粗・砂粒・金雲母	諸磯b 3	
第50図	14	30号土坑	深鉢	-/7.0	縄文地文・半截竹管による横位沈線	5YR5/4 にぶい赤褐色	粗・白色粒・黒雲母	諸磯b	
第50図	15	31号土坑	深鉢	(25.0)~30.0)/-(12.0)	4単位の波状口縁。波頂部に貼付文。胴部RL横位回転施文?(原体がはつきりしないが、RL横位回転施文として図化)縄文施文後に沈線文。	5YR4/4 にぶい赤褐色	白色粒・赤色粒	諸磯b	実測委託
第50図	16	31号土坑	深鉢(小)	15.6)/-/12.1	半截竹管による横位沈線	5YR3/6 暗赤褐色	粗・白色粒・石英	諸磯	
第50図	17	31号土坑	深鉢	-/3.8	横位連続爪形文	5YR3/3 暗赤褐色	精・砂粒・金雲母	諸磯b 1	
第51図	18	31号土坑	深鉢	-/4.6	連続爪形文(2条)・口唇刻み	5YR3/2 暗赤褐色	粗・白色粒	諸磯a	
第51図	19	31号土坑	深鉢	-/4.7	刻みのある浮線文・渦巻文のモチーフか	5YR3/4 暗赤褐色	砂粒・白色粒	諸磯b	
第51図	20	31号土坑	深鉢	-/5.1	浮線文	7.5YR4/2 灰褐色	粗・砂粒	諸磯b 2	
第51図	21	31号土坑	深鉢	-/3.4	刻みのある浮線文	7.5YR1.7/1 黒色	精・砂粒	諸磯b	
第51図	22	31号土坑	深鉢	-/10.6/4.4	無文	7.5YR5/6 明褐色	やや密・白色粒・赤色粒	諸磯	
第51図	23	31号土坑	有孔浅鉢	-/2.3	—	5YR4/6 赤褐色	粗・白色粒	諸磯b	
第51図	24	31号土坑	有孔浅鉢	-/1.8	孔周囲に矢羽根状刻みあり	7.5YR5/3 にぶい褐色	やや粗・砂粒・黒雲母	諸磯	
第51図	25	32号土坑	深鉢	-/16.2	横位沈線区画・矢羽根状文モチーフ	7.5YR6/4 にぶい橙色	精・砂粒・白色粒	諸磯b	
第51図	26	32号土坑	深鉢	-/7.3	半截竹管による横位沈線・矢羽根状文	7.5YR3/1 黒褐色	粗・白色粒・赤色粒・石英	諸磯b 3	
第51図	27	32号土坑	深鉢	-/9.6	横位結節縄文	2.5YR5/6 明赤褐色	粗・白色粒・チャート	諸磯	
第51図	28	32号土坑	深鉢	-/10.0/2.5	縄文地文	5YR4/6 赤褐色	粗・白色粒・黒雲母	諸磯	
第51図	29	32号土坑	深鉢	-/8.0/3.3	—	5YR7/4 にぶい橙色	粗・赤色粒・石英	不明	
第51図	30	33号土坑	深鉢	-/13.0	加曾利EIV系・沈線区画文	10YR5/6 黄褐色	精・砂粒・雲母	曾利V	
第51図	31	33号土坑	深鉢	-/7.8	加曾利EIV系・沈線区画後擦消縄文	7.5YR4/1 褐灰色	粗・砂粒・白色粒	曾利V	
第51図	32	33号土坑	深鉢	-/4.8	沈線区画・区内針状沈線か	10YR3/2 黒褐色	やや精・砂粒	曾利V	
第51図	33	33号土坑	深鉢	-/13.1	加曾利EIV系・沈線区画文	7.5YR7/4 にぶい橙色	粗・砂礫・石英	曾利V	
第51図	34	33号土坑	深鉢	-/8.9	加曾利EIV系・沈線区画に擦消縄文・表面縦位のミガキ	7.5YR3/2 黒褐色	やや精・石英	曾利V	

図版番号	図内番号	出土地点	器種	口径・底径・器高	整形・施文技法	色調	胎土	時期	備考
第51図	35	33号土坑	深鉢	-/4.2	縦位条線・蛇状沈線(棒状工具)	2. 5YR5/2 灰赤色	やや精・砂粒	曾利Ⅲ~Ⅳ	
第51図	36	33号土坑	深鉢	-/12.3	1.5cm幅単位の細文を縦位に施す	10YR5/3 にぶい黄褐色	精・砂粒・石英	曾利Ⅳ?	
第52図	37	34号土坑	深鉢	(43.6)/-/15.0	大きく口縁が開く、口縁は4単位の波状になり、貼頂部に突起が貼り付けられる。胴部は細文地に集合沈線。	5YR5/4 にぶい赤褐色	やや精・白色粒	諸磯b 2	
第52図	38	34号土坑	深鉢	-/4.8	細文地に沈線	5YR5/6 明赤褐色	砂粒・白色粒	諸磯b	
第52図	39	34号土坑	深鉢	-/12.5	口縁口唇部刻み・全体に細文	10YR3/2 黒褐色	粗・砂粒・金雲母	諸磯b	
第52図	40	34号土坑	深鉢	-/4.0	口縁突起あり・刻みのある浮線文による渦巻文	2. 5YR4/4 にぶい赤褐色	粗・砂粒・金雲母	諸磯b 2	
第52図	41	34号土坑	深鉢	-/4.9	口唇部に刻み・細文地	7. 5YR5/4 にぶい褐色	白色粒・雲母	諸磯b	
第52図	42	34号土坑	深鉢	-/5.3	口縁部・浮線文貼付後刺突文・胴部細文地に横位沈線	7. 5YR3/3 暗褐色	粗・砂粒・金雲母	諸磯b	
第52図	43	34号土坑	深鉢	-/4.5	口縁波頂部に2つの突起。深めの沈線による渦巻文	7. 5YR3/3 暗褐色	精・砂粒・金雲母	諸磯b 2	
第52図	44	34号土坑	浅鉢	-/2.3	浮線文に刻み・刺突	7. 5YR5/6 明褐色	やや粗・白色粒・雲母	諸磯	
第52図	45	34号土坑	深鉢	-/3.5	浮線文に刻み	10YR4/2 灰黄褐色	粗・砂粒・黒雲母	諸磯b 2	
第52図	46	34号土坑上層	深鉢	-/4.1	細文地に半截竹管による沈線	10YR3/1 黒褐色	精・石英	諸磯b	
第52図	47	34号土坑	深鉢	-/6.4	細文地	5YR4/3 にぶい赤褐色	粗・砂粒・石英	諸磯	
第52図	48	34号土坑	深鉢	-/3.6	浮線文に刻みと刺突	7. 5YR3/3 にぶい褐色	粗・砂粒	諸磯b 2	
第52図	49	34号土坑	深鉢	-/7.8	細文地に横位沈線	2. 5YR4/6 赤褐色	粗・砂粒	諸磯b	
第52図	50	34号土坑	深鉢	-/6.9	細文地・浮線文に刻み	7. 5YR4/4 褐色	やや粗・白色粒	諸磯b 2	
第52図	51	34号土坑	深鉢	-/3.7	連続爪形文による区画・区画内の円形竹管文	7. 5YR5/6 明褐色	砂粒・石英	諸磯b 1	
第52図	52	34号土坑	深鉢	-/3.8	細文地に沈線	10YR4/3 にぶい黄褐色	白色粒・雲母	諸磯b	
第52図	53	34号土坑	浅鉢か	-/4.5	2条の連続爪形文によるモチーフ	7. 5YR4/1 褐灰色	粗・砂粒	諸磯b	
第52図	54	34号土坑	浅鉢	(最長52)/-/4.9	横方向ミガキ	5YR5/4 にぶい赤褐色	白色粒・石英	諸磯	赤彩痕・指先での圧着痕
第53図	55	34号土坑	深鉢	(23.0)/-/15.0	口縁部斜位条線・頸部列点文及び波状隆帯・胴部細文地に蛇行隆帯の懸垂文	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂粒・白色粒・雲母	曾利Ⅱ	
第53図	56	34号土坑	小甕	-/8.0/10.6	細文を地文とした後低隆帯により区画	2. 5YR6/4 にぶい橙褐色	精・砂粒	曾利Ⅱ	
第53図	57	34号土坑	深鉢	-/5.5	隆帯によるつなぎ弧文・胴部縦位条線(ハケ状工具)	10YR5/3 にぶい黄褐色	精・砂粒・雲母	曾利Ⅱ	つなぎ弧文
第53図	58	34号土坑	深鉢	-/3.8	つなぎ弧文系・胴部縦位条線	10YR5/4 にぶい黄褐色	粗・砂粒	曾利Ⅳ	
第53図	59	34号土坑	深鉢	-/4.9	つなぎ弧文系土器	7. 5YR5/6 明褐色	粗・砂粒	曾利Ⅱ	
第53図	60	34号土坑	X字把手付鉢	-/7.6	把手部分欠損・沈線区画に列点文	5YR6/6 橙褐色	粗・白色粒・金雲母	曾利Ⅱ	
第53図	61	34号土坑	浅鉢	-/5.0	突隆帯区画・区画内縦位条線	10YR6/3 にぶい黄褐色	粗・黒色粒	曾利Ⅱ	
第53図	62	34号土坑	鉢	-/5.4	唐草文系の影響か、口縁に沈線による精凹状の区画・区画内縦位の条線。胴部縦位条線	10YR4/1 褐灰色	精・白色粒	曾利Ⅱ	
第53図	63	34号土坑	鉢	-/9.0/2.2	底部網代痕	10YR6/4 にぶい黄褐色	白色粒・雲母	曾利Ⅱ	
第53図	64	35号土坑	深鉢	-/10.3	外面刻みを持つ2本の隆帯を貼付・内面と口唇部に沈線による区画文	7. 5YR5/4 にぶい褐色	やや精・白色粒	曾利Ⅰ	
第53図	65	35号土坑	深鉢	-/3.0	細文地に沈線	5YR7/6 橙褐色	粗・砂粒	諸磯	
第53図	66	35号土坑	深鉢	-/2.8	沈線地に棒状貼付文	5YR3/4 暗赤褐色	粗・赤色粒・黒雲母	諸磯c	
第53図	67	37号土坑上層	深鉢	-/4.6	浮線文	2. 5YR3/4 暗赤褐色	粗・砂粒・赤色粒	諸磯b	
第53図	68	41号土坑	有孔浅鉢	-/3.4	外面ナリ調整	7. 5YR6/6 橙褐色	粗・砂粒・石英	諸磯b	
第53図	69	41号土坑	有孔浅鉢	-/3.8	-	5YR6/6 橙褐色	砂粒・白色粒多	諸磯b	
第53図	70	41号土坑上層	浅鉢	-/2.6	-	5YR7/6 橙褐色	粗・砂粒・白色粒	諸磯	
第53図	71	41号土坑上層	浅鉢	-/5.2	細文地に沈線	7. 5YR5/6 明褐色	砂粒・白色粒・石英	諸磯b	
第54図	72	43号土坑	深鉢	-/3.9	突起あり・細文地に沈線文様	7. 5YR4/3 褐色	粗・砂粒	諸磯b	
第54図	73	43号土坑	深鉢	-/3.8	細文地に刻み浮線文	7. 5YR3/4 暗褐色	粗・砂粒・白色粒	諸磯b 2	

図版番号	図内番号	出土地点	器種	口径・底径・器高	整形・施文技法	色調	胎土	時期	備考
第54図	74	43号土坑	深鉢	-/5.0	連続爪形文と刻み浮線文	7.5YR5/4にぶい褐色	精・白色粒・金雲母	諸磯b 1	
第54図	75	43号土坑	有孔浅鉢	-/2.4	一	7.5YR3/2 黒褐色	粗・白色粒・雲母	諸磯b	
第54図	76	45号土坑	深鉢	-/5.8	縄文地に沈線	7.5YR3/4 暗褐色	粗・白色粒・黒雲母	諸磯b	
第54図	77	50号土坑	X字把手付鉢	-/5.3	棒状工具による沈線区画・区画内列点文	7.5YR5/4にぶい褐色	粗・白色粒・金雲母	曾利Ⅲ	
第54図	78	50号土坑	深鉢	-/4.4	隆帯文	7.5YR4/2 灰褐色	粗・白色粒	曾利Ⅰ	
第54図	79	52号土坑上層	深鉢	-/6.2	一部縄文地文・集合沈線	7.5YR4/1 褐色	粗・白色粒・石英多	諸磯c	
第54図	80	52号土坑	深鉢	-/4.2	ボタン状貼付文・棒状貼付文・横位沈線	5YR3/1 黒褐色	粗・白色粒・石英多	諸磯c	
第54図	81	52号土坑	深鉢	-/3.1	斜位沈線・ボタン状貼付文	7.5YR2/1 黒色	精・砂粒	諸磯c	
第54図	82	52号土坑	深鉢	-/3.3	縄文地文	5YR3/3 暗赤褐色	精・白色粒・金雲母	諸磯b	
第54図	83	52号土坑	深鉢	-/10.8/11.5	縄文地文に横位沈線	7.5YR6/6 橙色	粗・砂粒・白色粒・雲母	諸磯b	
第54図	84	52号土坑	深鉢	-/10.9	縄文地文に横位沈線	7.5YR3/4 暗褐色	白色粒・石英・金雲母	諸磯b	
第54図	85	52号土坑	深鉢	-/8.8	縄文地文に横位沈線	2.5YR5/4にぶい赤褐色	白色粒・石英・金雲母	諸磯b	84と同一個体か
第54図	86	52号土坑上層	深鉢	-/6.1	一部に縄文地文・沈線	10YR3/2 黒褐色	粗・白色粒	諸磯b	
第54図	87	53号土坑	片口付深鉢	-/3.5	沈線と刻みによる施文	2.5YR5/6 明赤褐色	粗・砂粒・金雲母	諸磯	
第54図	88	53号土坑上層	深鉢	-/3.9	刺突による隆起状突起・ボタン状貼付文	7.5YR4/1 褐色	粗・砂粒・白色粒	諸磯c	
第54図	89	53号土坑	深鉢	-/3.8	縄文地文に沈線	5YR3/2 暗赤褐色	粗・砂粒・白色粒	諸磯b	
第54図	90	53号土坑	深鉢	-/8.5	縄文地文に沈線・ボタン状貼付文	2.5YR4/2 灰赤色	粗・白色粒・黒雲母	諸磯b 3	
第54図	91	53号土坑	深鉢	-/4.5	縄文地文	7.5YR7/4にぶい褐色	粗・白色粒・石英・雲母	諸磯b	
第54図	92	53号土坑	深鉢	-/4.2	縄文地文	7.5YR5/6 明褐色	粗・砂粒・白色粒・雲母	諸磯?	
第54図	93	53号土坑	深鉢	-/3.8	縄文地文に集合沈線	5YR4/1 褐色	粗・白色粒・石英・雲母	諸磯b	
第55図	94	53号土坑	有孔浅鉢	-/4.7	鬚状の突起がつく	2.5YR5/6 明赤褐色	粗・白色粒・チャート	諸磯b	
第55図	95	53号土坑	深鉢	-/3.7	沈線区画内連続爪形文・口唇突起	2.5YR3/6 暗赤褐色	粗・白色粒・金雲母	諸磯b	
第55図	96	54号土坑上層	深鉢	-/6.1	縄文地文・波状口縁	10YR4/2 灰黄褐色	粗・白色粒・雲母	諸磯b	
第55図	97	54号土坑上層	深鉢	-/5.4	縄文地文	7.5YR4/4 褐色	精・白色粒	諸磯b	
第55図	98	54号土坑	深鉢	-/6.5	縄文地文・波状口縁	10YR4/1 褐色	粗・白色粒・赤色粒・金雲母	諸磯b	
第55図	99	54号土坑	深鉢	-/4.7	縄文地文に集合沈線	7.5YR2/2 黒褐色	精・白色粒・石英	諸磯b	
第55図	100	54号土坑	深鉢	-/6.0	縄文地文	7.5YR3/3 暗褐色	砂粒・白色粒	諸磯b	
第55図	101	54号土坑	深鉢	-/8.8/4.5	縄文地文	5YR5/6 明赤褐色	粗・白色粒・石英・金雲母	諸磯b 2	
第55図	102	55号土坑上層	深鉢	-/3.5	縄文地文	5YR5/3にぶい赤褐色	粗・砂粒・白色粒	諸磯	
第55図	103	55号土坑上層	深鉢	-/5.4	刻みを持つ浮線文	10YR6/6 明黄褐色	精・白色粒・雲母	諸磯b	
第55図	104	55号土坑	深鉢	-/3.5	キャタピラ文	5YR4/4にぶい赤褐色	粗・赤色粒	井戸尻	
第55図	105	55号土坑上層	深鉢	-/3.1	刻み隆帯・刺突文	7.5YR6/4にぶい褐色	粗・砂粒	井戸尻	
第55図	106	55号土坑上層	深鉢	-/5.2	沈線区画に連続する刻み(ヘラ状工具)	7.5YR6/4にぶい褐色	精・砂粒・黒雲母	曾利V	
第55図	107	56号土坑	深鉢	31.2/7.5/34.7	口縁やや楕円形・沈線区画・区画内八字文・胴部の一部に欠損あるいは穿孔	10YR6/4にぶい黄褐色	砂粒・白色粒	曾利V	(1号土器) 土壌サンプル採取
第56図	108	56号土坑	深鉢	19.0~(20.5)/-(28.5)	4単位位の波状口縁。波頂部に沈線による渦巻文、竹管状工具による刺突。渦巻文直下に2本一対の垂下沈線及び縦位の刻み、刺突。胴部に綾杉文。底部は欠損あるいは穿孔。	7.5YR6/3にぶい褐色	白色粒・黒色粒	曾利V	実測委託 (2号土器)
第56図	109	56号土坑	深鉢	27.0~36.0/9.0/33.0	縦位の櫛歯条線・口縁部のみ横位条線・扁平	10YR6/4にぶい黄褐色	白色粒・雲母	曾利V	(3号土器)
第56図	110	56号土坑	深鉢	-/4.8	隆帯区画・区画内縄文	10YR7/4にぶい黄褐色	白色粒	曾利V	
第56図	111	56号土坑	深鉢	-/5.6	浅い沈線区画・縦位波状文	7.5YR5/3にぶい褐色	粗・白色粒・金雲母	曾利V	
第56図	112	56号土坑	深鉢	-/4.2	低隆帯による区画・区画内条線	10YR7/6 明黄褐色	白色粒・雲母	曾利V	
第56図	113	56号土坑	深鉢	-/8.3	指ナテ隆帯による渦巻文・条線	10YR7/4にぶい黄褐色	粗・白色粒・黒色粒	曾利V	
第56図	114	56号土坑	深鉢	-/6.1	隆帯による区画	10YR7/4にぶい黄褐色	精・砂粒	曾利Ⅲ	
第56図	115	56号土坑	深鉢	-/7.0	微隆帯による区画	10YR6/6 明黄褐色	砂粒・白色粒	曾利V	

図版番号	図内番号	出土地点	器種	口径・底径・器高	整形・施文技法	色調	胎土	時期	備考
第56図	116	56号土坑	深鉢か	-/5.3	綾杉条線・蛇状沈線	10YR5/8 黄褐色	やや粗・砂粒	曾利IV	
第56図	117	56号土坑	深鉢	-/7.5	縦位条線に蛇状沈線	2.5YR6/4にぶい橙褐色	粗・白色粒・黒色粒・金雲母	曾利IV	
第56図	118	56号土坑	把手	-/5.8	把手の一部・沈線による施文	10YR6/3にぶい黄橙褐色	精・砂粒・白色粒・チャート	曾利I～II	
第56図	119	56号土坑	深鉢	-/5.2	縄文地文	7.5YR5/6 明褐色	精・砂粒	曾利?	
第56図	120	56号土坑	深鉢	-/4.4	口唇部に刻み・半截竹管文	7.5YR3/1 黒褐色	粗・石英・金雲母	諸磯	
第57図	121	57号土坑	深鉢	(29.0)/-/10.4	口縁ポタン状突起・弧状条線・胴部縄文地文に横位沈線	5YR5/6 明赤褐色	粗・白色粒・金雲母	諸磯b 2	
第57図	122	57号土坑	深鉢	-/7.8	口縁ポタン状突起・縄文地文	10YR6/6 明黄褐色	やや粗・白色粒・雲母	諸磯b	
第57図	123	57号土坑	深鉢	-/6.9	ポタン状突起・縄文地文に刻みのある浮線文と刺突文	5YR5/6 明赤褐色	やや粗・白色粒・石英	諸磯b 2	
第57図	124	57号土坑	深鉢	-/5.7	断面把手(退化)・縄文地文	7.5YR5/4にぶい褐色	白色粒・石英・金雲母	諸磯b 2	
第57図	125	57号土坑	深鉢	-/6.2	縄文地文に集合沈線	5YR3/1 黒褐色	粗・白色粒・金雲母	諸磯b	
第57図	126	57号土坑	浅鉢	-/3.2	交互刺突文	7.5YR4/4 褐色	やや精・白色粒・雲母	諸磯	
第57図	127	57号土坑	深鉢	-/4.3	縄文地文に浮線文	7.5YR5/3にぶい褐色	粗・白色粒	諸磯b	
第57図	128	57号土坑	深鉢	-/8.8	集合沈線	7.5YR5/4にぶい褐色	粗・砂粒・チャート	諸磯b	
第57図	129	57号土坑	深鉢	-/7.0	縄文地文	5YR4/4にぶい赤褐色	粗・白色粒	諸磯?	
第57図	130	57号土坑	深鉢	-(9.7)/3.0	浮線文	5YR4/6 赤褐色	粗・白色粒・石英・金雲母	諸磯b	
第57図	131	57号土坑	深鉢	-(8.6)/4.0	縄文地文	2.5YR4/6 赤褐色	粗・白色粒・石英	諸磯b	
第57図	132	57号土坑	有孔浅鉢	(24.0)/-/3.7	-	7.5YR5/4にぶい褐色	白赤色粒・雲母	諸磯b	
第57図	133	57号土坑	有孔浅鉢	-/3.0	-	5YR3/2 暗赤褐色	やや精・砂粒・チャート・黒雲母	諸磯b	
第57図	134	57号土坑	有孔浅鉢	-/2.1	-	10YR4/3にぶい黄褐色	やや粗・白色粒・赤黒色粒・雲母	諸磯b	内外面に赤彩
第57図	135	57号土坑	浅鉢	-/6.2	-	10YR4/2 灰黄褐色	やや粗・白色粒・赤黒色粒・雲母	諸磯b	
第57図	136	57号土坑	浅鉢	-(26.0)/3.0	-	10YR2/1 黒色	やや精・白色粒	諸磯	
第57図	137	57号土坑	浅鉢	/(9.4)/1.7	-	7.5YR5/4にぶい褐色	粗・白色粒	諸磯	底部に煤付着
第58図	138	58号土坑	深鉢	-/3.1	隆帯区画・綾杉文	10YR7/3にぶい黄橙褐色	精・白色粒	井戸尻	
第58図	139	58号土坑	深鉢	-/1.4	ポタン状突起・横位沈線	10YR5/4にぶい黄褐色	精・白色粒	諸磯c	
第58図	140	58号土坑	深鉢	-/5.5	柳描条線か	5YR5/6 明赤褐色	精・白色粒・黒雲母	曾利V	
第58図	141	58号土坑	深鉢	-/5.1	御隆帯による区画・区画内柳描条線	10YR6/3にぶい黄橙褐色	やや精・白色粒・赤黒色粒	曾利V	
第58図	142	59号土坑上層	深鉢	-/3.7	半截竹管による沈線	7.5YR4/3 褐色	粗・砂粒・白色粒	諸磯c	
第58図	143	59号土坑	浅鉢	-/3.1	刻みのある浮線文	10YR3/2 黒褐色	粗・白色粒・金雲母	諸磯b	
第58図	144	59号土坑上層	深鉢	-/7.4	半截竹管による沈線	10YR2/2 黒褐色	粗・砂粒多	諸磯b	
第58図	145	61号土坑	浅鉢	-/4.4	刻みのある浮線文	7.5YR4/3 褐色	やや粗・白色粒・雲母	諸磯b	
第58図	146	63号土坑	深鉢	(32.4)/-/17.7	縄文地文に沈線	10YR3/3 暗褐色	白黒色粒・雲母	諸磯b 3	
第58図	147	63号土坑	深鉢	-(11.0)/10.7	縄文地文	5YR5/8 明赤褐色	粗・白色粒・石英・黒雲母	諸磯b	
第58図	148	63号土坑	深鉢	-/12.5	縄文地文	10YR5/6 黄褐色	白色粒・石英・雲母	諸磯b	147と同一個体の可能性あり
第58図	149	63号土坑	深鉢	-/10.0	縄文地文	10YR3/3 暗褐色	精・白色粒・チャート	諸磯b	
第58図	150	63号土坑	深鉢	-/10.6	縄文地文	7.5YR5/4にぶい褐色	粗・白色粒・石英・雲母	諸磯b	147と同一個体の可能性あり
第58図	151	63号土坑	深鉢	-/5.0	縄文地文に集合沈線	10YR6/4にぶい黄橙褐色	粗・白色粒・チャート	諸磯b	
第58図	152	64号土坑	深鉢	-/7.0	縄文地文に浮線文	10YR6/6 明黄褐色	やや粗・白色粒	諸磯b 2	
第58図	153	64号土坑	浅鉢	-(22.0)/3.3	-	7.5YR4/6 褐色	やや粗・白色粒	諸磯	
第58図	154	64号土坑	浅鉢	-(14.8)/2.1	-	10YR3/4 暗褐色	やや粗・白色粒・雲母	諸磯	
第58図	155	65号土坑	深鉢	-/6.2	沈線文	10YR3/1 黒褐色	やや粗・白色粒	諸磯	

図版番号	図内番号	出土地点	器種	口径・底径・器高	整形・施文技法	色調	胎土	時期	備考
第59図	156	外構B区1号土坑	深鉢	-/5.6	縄文地文・半截竹管による多条沈線	7.5YR6/6 橙色	粗・白色粒	諸磯b	
第59図	157	外構B区1号土坑	深鉢	-/7.2	無文・ナデ調整あり	7.5YR6/4にぶい橙色	砂粒多・黒雲母	曾利I	外面煤付着あり
第59図	158	外構B区1号土坑	深鉢	-/4.4	八字状文	7.5YR6/4にぶい橙色	精・砂粒	曾利V	
第59図	159	外構B区2号土坑	深鉢	-/6.4	縄文地文	7.5YR4/6 褐色	砂粒	諸磯b	
第59図	160	外構B区2号土坑	深鉢	-/7.0	縄文地文・横位沈線	10YR4/1 褐灰色	粗・砂粒多	諸磯b	
第59図	161	外構B区2号土坑	深鉢	-/8.4	縄文地文に多条の横位沈線	5YR5/6 明赤褐色	粗・砂粒・金雲母	諸磯b	
第59図	162	外構B区2号土坑	鉢類	-/2.3	連続刺突文	10YR5/4にぶい黄褐色	粗・砂粒多	諸磯b	
第59図	163	外構B区2号土坑	深鉢	-/6.6	縄文地文・半截竹管によるレンズ状の沈線文	10YR6/4にぶい黄褐色	砂粒・白色粒	諸磯b 3	
第59図	164	外構B区2号土坑	ミニチュアか	-/5.4/1.8	無文・外面手づくね	10YR4/3にぶい黄褐色	精・赤色粒		
第59図	165	外構B区2号土坑	深鉢	-/5.0	重文(内面折り返し)に蛇行隆帯の懸垂文	5YR4/3にぶい赤褐色	均一・白色粒・金雲母	曾利II	
第59図	166	遺構外	深鉢	-/5.5	縄文地文の沈線に刻みをして浮線文のようにしている	7.5YR4/6 褐色	白色粒・石英・チャート・金雲母	諸磯b	
第59図	167	遺構外	深鉢	-/5.2	口唇部刻み・横位沈線・棒状貼付文	7.5YR4/6 褐色	白色粒多い	諸磯	
第59図	168	遺構外	深鉢	-/3.5	押引による連続爪形文	7.5YR4/3 褐色	精・金雲母多	五領ヶ台	
第59図	169	遺構外	深鉢	-/5.8	平行沈線区画・区画内斜行沈線	2.5YR4/1 赤灰色	精・砂粒・白色粒	諸磯b	
第59図	170	遺構外	深鉢	-9.3/4.5	—	7.5YR6/6 橙色	粗・白色粒・石英	諸磯b	
第59図	171	遺構外	深鉢	-/5.2	列点文	7.5YR6/3にぶい褐色	砂粒・白色粒・雲母	曾利II	
第59図	172	遺構外	深鉢	-/4.8	つなぎ弧文土器の口縁把手部・把手上面に貼付・内面に沈線による渦巻文	7.5YR5/3にぶい褐色	精・チャート・雲母	曾利III	
第59図	173	遺構外	深鉢	-/7.4	隆線区画・連続刺突文	7.5YR6/6 橙色	精・白色粒・金雲母	曾利V	
第59図	174	遺構外	深鉢	-/6.6	耳状把手がつく・沈線区画内擦消縄文	10YR6/4にぶい黄褐色	白色粒・石英	曾利V末	
第60図	175	遺構外(外構B区)	深鉢	(35.8)/-/7.0	口縁無文	10YR6/4にぶい黄褐色	ほぼ均一・白色粒・黒雲母	曾利I	内外面に横方向ミガキ・煤付着
第60図	176	遺構外(外構B区)	浅鉢	(29.0)/-/7.1	口唇部貼付文・口縁外面U字形懸垂文	5YR5/4にぶい赤褐色	ほぼ均一・白色粒	井戸尻	
第60図	177	遺構外(外構B区)	深鉢	-/5.7	波状口縁・突起あり・縄文地文に縦位沈線	10YR7/6 明黄褐色	ほぼ均一・砂粒・白色粒	曾利V	
第60図	178	遺構外(外構B区)	深鉢	-/8.0	胴部半截竹管による縦位条線・刻みあり	5YR4/2 灰褐色	粗・砂粒	井戸尻	
第60図	179	遺構外(外構B区)	深鉢	-/5.6	縄文地文・横位連続爪形文	5YR4/3にぶい赤褐色	粗・砂粒	諸磯a	
第60図	180	外構C区	深鉢	-/2.6	羽状縄文	10YR6/4にぶい黄褐色	粗・砂粒・金雲母	諸磯	
第60図	181	外構C区	深鉢	-/4.0	連続爪形文・刻み浮線文	5YR2/1 黒褐色	精・金雲母	諸磯b 1	
第60図	182	外構C区	有孔浅鉢	-/2.7	無文	7.5YR2/2 黒褐色	粗・白色粒・金雲母多	諸磯b	
第60図	183	外構C区	浅鉢	-/4.4	—	10YR5/3にぶい黄褐色	精・砂粒・黒雲母	諸磯	
第60図	184	外構C区	浅鉢	-/3.8	—	2.5YR4/1 赤灰色	白色粒・金雲母	諸磯b	
第60図	185	外構C区	深鉢	(17.4)/-/2.8	矢羽根状沈線にボタン・棒状貼付文	10YR5/4にぶい黄褐色	精・ほぼ均一・白色粒	諸磯c	
第60図	186	外構C区	深鉢	-/5.8	半截竹管による沈線・ボタン状突起	5YR5/4にぶい赤褐色	粗・砂粒・金雲母	諸磯a	
第60図	187	外構C区	深鉢	-/2.9	ナデ痕明瞭	10YR4/6 褐色	粗・砂粒	曾利	
第60図	188	外構C区	深鉢	-/4.8	口縁つなぎ弧文(沈線)・胴部は列点文か	10YR6/3にぶい黄褐色	粗・砂粒・黒雲母	曾利IV	
第60図	189	外構C区	深鉢	-/5.2	波状口縁に渦巻文・胴部に八字状文か	7.5YR6/3にぶい褐色	粗・砂粒・黒雲母	曾利V	
第60図	190	外構C区	深鉢	-/5.2	胴部隆帯による格子目文	10YR5/4にぶい黄褐色	精・ほぼ均一・砂粒	曾利II	
第60図	191	外構C区	深鉢	-/12.1	ハケ状工具による縦位条線の地文・蛇状隆帯・懸垂文	7.5YR5/4にぶい褐色	精・白色粒・金雲母	曾利II	
第60図	192	外構C区	深鉢	-/4.2	沈線区画・縄文	5YR6/4にぶい橙色	粗・白色粒・金雲母	曾利V新	加曾利EIV併行
第60図	193	外構C区	深鉢	-/4.4	八字状文	5YR5/4にぶい赤褐色	粗・砂粒・雲母	曾利V	
第60図	194	外構C区	深鉢	-/6.8	沈線区画に縄文	7.5YR5/4にぶい褐色	粗・白色粒	曾利V	
第60図	195	外構C区	深鉢	-/6.5	微隆帯・縷杉状の条線	2.5YR6/6 褐色	精・砂粒・黒雲母	曾利IV	内面コガあり
第60図	196	外構C区	深鉢	-/4.2	胴部・渦巻隆帯	10YR6/3にぶい黄褐色	精・砂粒	曾利I	
第60図	197	外構C区	裝飾把手or口縁	-/5.4	把手か・貼付文による裝飾	10YR6/3にぶい黄褐色	精・白色粒	井戸尻	外面に煤付着

図版番号	図内番号	出土地点	器種	口径・底径・器高	整形・施文技法	色調	胎土	時期	備考
第61図	198	調査区一括-攪乱	深鉢	-/-/12.7	細文地文	10YR3/1 黒褐色	粗・白色粒・石英・チャート	諸磯b	
第61図	199	調査区一括-表土	深鉢	-/-/9.4	地文なし・口縁横位沈線・胴部縦位・斜位沈線	7.5YR3/3 暗褐色	やや精・白色粒	諸磯b	
第61図	200	調査区一括-攪乱	深鉢	-/-/5.3	細文地文にボタン状突起	5YR2/1 黒褐色	白色粒・石英・黒雲母	諸磯b	
第61図	201	調査区一括-表土	深鉢	-/-/3.4	口縁ボタン状貼付文	7.5YR5/4 にぶい褐色	精・白色粒・チャート	諸磯c1	
第61図	202	調査区一括-表土	鉢	-/-/5.8	集合沈線地文に円形押型文	10YR5/4 にぶい黄褐色	白色粒・雲母	諸磯b	
第61図	203	調査区一括-表土	浅鉢	-/-/5.0	細文地文・口縁部に連続刺突	10YR2/1 黒色	精・赤色粒	藤内?	
第61図	204	調査区一括-表土	深鉢	-/-/6.3	地文なし・半截竹管による沈線文	10YR3/2 黒褐色	精・赤色粒多	諸磯b 3	
第61図	205	調査区一括-攪乱	深鉢	-/-/3.3	交互刺突文	5YR4/6 赤褐色	粗・白色粒・金雲母	諸磯b	
第61図	206	調査区一括-表土	鉢	-/-/4.5	—	10YR6/2 灰黄褐色	やや精・白色粒	曾利I~III	
第61図	207	調査区一括-表土	深鉢	-/-/6.8	刻み隆帯の貼付文	10YR6/3 にぶい黄褐色	やや精・白黒赤色粒	曾利I	
第61図	208	調査区一括-表土	深鉢	-/-/9.3	刻み隆線の懸垂文区画・隆帯による渦巻文	10YR6/3 にぶい黄褐色	粗・白色粒・黒色粒	井戸尻	
第61図	209	調査区一括-攪乱	深鉢	-/-/5.4	条線地文・2本隆帯(刻み)	2.5YR5/6 明赤褐色	白色粒・チャート	曾利I	
第61図	210	調査区一括-攪乱	深鉢	-/-/4.7	口縁つなぎ弧文	10YR2/1 黒色	粗・白色粒・金雲母	曾利III~IV	
第61図	211	調査区一括-表土	深鉢	-/-/10.6	無文	10YR7/2 にぶい黄褐色	やや精・白色粒・雲母		
第61図	212	調査区一括-攪乱	両耳鉢	-/-/5.5	棒状工具で隆帯形成・区画内縦位条線・渦巻文	10YR7/4 にぶい黄褐色	精・白色粒・黒色粒	曾利III~IV	

第4表 出土遺物一覧表 (土偶・土製品)

土偶

図版番号	図内番号	出土地点	部位	長さ・幅・厚さ (cm)	整形・施文技法	色調	胎土	時期	備考
第62図	1	4号住居跡上層	胸部	2.4/3.6/3.0	左肘を右手で抱えている・沈線で指を表現する	5YR4/8赤褐色	白色粒・雲母	勝坂	
第62図	2	43号土坑	胸部	4.3/5.6/2.2	胸部中央に浅い沈線による正中線・乳房下から背面にかけて細い沈線(フライング)で文様を施す	10YR4/2 灰黄褐色	白色粒・雲母	曾利	

ミニチュア土器

図版番号	図内番号	出土地点	口径・底径・器高 (cm)	長さ・幅・厚さ (cm)	整形・施文技法	色調	胎土	時期	備考
第62図	3	5号住居跡	(2.4)/-/2.5		口唇部貼付・孔4つあり・有孔浅鉢のミニチュアか	白色粒・赤色粒	諸磯		外内面下方に煤付着
第62図	4	53号土坑	-/(4.0)/4.3		胴部に縦位・斜格子状沈線・底部付近は横位沈線	粗・白色粒	諸磯		赤彩あり
第62図	5	1号竪穴遺構	-/4.6/4.9		横位沈線	粗・白色粒・石英	諸磯b		
第62図	6	遺構外	5.3/2.6/6.8		曾利式土器深鉢のミニチュアか、1単位の把手が口縁につく。指頭痕よく残る	粗・砂粒・赤色粒	中期		

土製円盤

図版番号	図内番号	出土地点	長さ・幅・厚さ (cm)	長さ・幅・厚さ (cm)	重さ (g)	整形・施文技法	色調	胎土	時期	備考
第63図	7	5号住居跡	4.4/3.8/1.0/12.8			側面に研磨部あり・無文の土器片利用	7.5YR4/1 褐灰色	粗・砂粒・赤色粒		
第63図	8	5号住居跡	3.3/2.0/0.8/7.5			無文の土器片利用	10YR4/2 灰黄褐色	粗・白色粒・赤色粒		
第63図	9	11号住居跡	3.5/2.5/0.1/6.9			側面に研磨部あり・縄文のある土器片利用	10YR6/4 にぶい黄褐色	粗・白色粒・黒色粒		
第63図	10	12号住居跡	5.4/5.3/1.0/30.7			側面に研磨部あり・縄文のある土器片利用	7.5YR5/4 にぶい褐色	粗・白色粒・黒雲母		
第63図	11	34号土坑	4.6/4.1/1.4/22.7			側面に研磨部あり・無文の土器片利用	7.5YR5/4 にぶい褐色	粗・白色粒・赤色粒		
第63図	12	58号土坑	3.1/4.0/0.8/12.5			側面に研磨部あり・浮線文のある土器片利用	10YR5/3 にぶい黄褐色	粗・白色粒・金雲母		諸磯か
第63図	13	59号土坑	4.0/3.2/1.0/14.0			側面に研磨部あり・縄文のある土器片利用	7.5YR5/6 明褐色	粗・白色粒・石英		
第63図	14	攪乱	4.7/4.4/0.8/14.9			側面に研磨部と打ち欠き部あり・浮線文のある土器片利用	2.5Y7/3 浅黄褐色	粗・白色粒・石英		

その他土製品

図版番号	図内番号	出土地点	器種	長さ・幅・厚さ (cm)	整形・施文技法	色調	胎土	時期	備考
第63図	15	7号住居跡上層	獸面把手	3.7(器高)	イノシシモチーフの獸面把手・胴部は縄文地文に沈線を施す	5YR5/6 明赤褐色	粗・砂粒・金雲母	諸磯b	内外面に煤付着
第63図	16	10号住居跡	獸面把手	4.1(器高)	イノシシモチーフの獸面把手・頭部に浮線文を施す	5YR5/4 にぶい赤褐色	ほぼ均一・雲母	諸磯b	
第64図	17	4号住居跡	焼成粘土塊	4.3(長)/3.9(短)	指頭痕明瞭に残る・整形された焼成粘土塊	10YR4/1 褐灰色	粗・白色粒・金雲母		重さ 54.6g
第64図	18	5号住居跡	把手部か	4.9/3.1/2.2	全面に縄文を施す・曾利V式の把手の可能性	7.5YR6/4 にぶい褐色	白色粒		
第64図	19	1号竪穴遺構	把手部か	4.8/5.2/2.5	曾利V式の把手の可能性	10YR6/6 明黄褐色	砂粒・白色粒		

第5表 出土遺物一覧表(石器・石製品)

通し 番号	器 種	遺 構	図版 番号	縮尺	石 材	所 見	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)
1	石鏃	1号住居跡	第65図	1/1	黒曜石	C類	17.0	11.0	3.0	0.3
2	石鏃	1号住居跡	第65図	1/1	黒曜石	D類	11.0	14.0	2.0	0.2
3	石鏃	1号住居跡	第65図	1/1	黒曜石	B類	14.0	11.0	2.0	0.2
4	石鏃	1号住居跡2pit	第65図	1/1	黒曜石	A類	13.3	15.1	2.7	0.4
5	石鏃	5号住居跡	第65図	1/1	黒曜石	C類	19.9	11.2	5.4	1.0
6	石鏃	5号住居跡D区	第65図	1/1	黒曜石	C類	18.8	16.5	3.4	0.7
7	石鏃	6号住居跡	第65図	1/1	黒曜石	B類	21.0	17.0	4.0	0.9
8	石鏃	6号住居跡	第65図	1/1	黒曜石	C類	14.0	19.0	4.0	0.6
9	石鏃	6号住居跡	第65図	1/1	黒曜石	C類	12.0	15.0	4.0	0.5
10	石鏃	6号住居跡上層	第65図	1/1	黒曜石	C類	15.7	12.4	3.9	0.5
11	石鏃	6号住居跡電気攪乱内	第65図	1/1	黒曜石	A類	16.5	18.7	3.1	0.7
12	石鏃	7号住居跡	第65図	1/1	滑石	C類	19.7	17.6	3.8	0.8
13	石鏃	7号住居跡	第65図	1/1	黒曜石		16.0	16.0	0.6	1.0
14	石鏃	7号住居跡	第65図	1/1	黒曜石	A類	13.0	13.0	1.0	0.2
15	石鏃	7号住居跡	第65図	1/1	黒曜石	A類	21.0	16.0	4.0	0.7
16	石鏃	7号住居跡	第65図	1/1	黒曜石	B類	14.0	14.0	2.0	0.4
17	石鏃	7号住居跡上層	第65図	1/1	黒曜石	C類	15.0	16.7	3.0	0.4
18	石鏃	8号住居跡上層	第65図	1/1	黒曜石	A類	23.4	21.3	3.0	0.9
19	石鏃	9号住居跡上層	第65図	1/1	黒曜石	A類	21.7	19.9	5.4	1.2
20	石鏃	10号住居跡上層	第65図	1/1	黒曜石	A類	14.5	11.8	2.8	0.2
21	石鏃	7号住居跡2pit	第65図	1/1	黒曜石	C類	19.5	14.8	2.9	0.6
22	石鏃	10号住居跡上層	第65図	1/1	黒曜石	C類	15.0	10.7	2.8	0.3
23	石鏃	10号住居跡1pit	第65図	1/1	黒曜石	未製品か	19.4	14.4	6.2	1.3
24	石鏃	10号住居跡	第65図	1/1	黒曜石	A類	23.6	16.9	4.3	1.1
25	石鏃	10号住居跡	第65図	1/1	黒曜石	D類	14.5	17.7	4.6	1.2
26	石鏃	10号住居跡	第65図	1/1	黒曜石	D類	27.4	23.3	5.1	2.4
27	石鏃	11号住居跡上層	第65図	1/1	黒曜石	B類	27.0	15.0	4.0	1.0
28	石鏃	12号住居跡	第65図	1/1	黒曜石	A類	22.0	14.0	3.0	0.7
29	石鏃	14号住居跡	第65図	1/1	黒曜石		18.0	15.0	3.0	0.6
30	石鏃	1号竪上層	第65図	1/1	黒曜石	A類	17.3	14.2	4.1	0.6
31	石鏃	17号土坑上層	第66図	1/1	黒曜石	C類	13.1	10.4	3.4	0.2
32	石鏃	35号土坑	第66図	1/1	黒曜石	D類	12.0	15.0	2.0	0.3
33	石鏃	43号土坑	第66図	1/1	黒曜石	A類	20.8	13.6	2.8	0.5
34	石鏃	43号土坑	第66図	1/1	チャート		23.5	21.0	4.0	1.6
35	石鏃	57号土坑	第66図	1/1	黒曜石	D類	16.0	19.0	3.0	0.7
36	石鏃	61号土坑	第66図	1/1	黒曜石	C類	19.0	19.0	3.0	0.7
37	石鏃	遺構外	第66図	1/1	黒曜石	D類	17.7	19.9	4.0	0.7
38	石鏃	遺構外	第66図	1/1	黒曜石	C類	22.3	17.0	3.9	0.9
39	石鏃	C2G	第66図	1/1	黒曜石		12.9	16.0	2.8	0.5
40	石鏃	E2G	第66図	1/1	黒曜石	B類	16.0	9.9	3.8	0.8
41	石鏃	外構B区	第66図	1/1	黒曜石	C類	25.0	17.0	4.0	1.1
42	石鏃	外構B区2号土坑	第66図	1/1	黒曜石	A類	19.9	15.2	5.2	0.9
43	石鏃	外構B区③西側	第66図	1/1	黒曜石	C類	19.0	17.0	3.0	0.5
44	石鏃	外構C区	第66図	1/1	黒曜石	A類	25.0	19.0	5.0	1.7
45	石鏃	外構C区	第66図	1/1	チャート	D類	15.0	11.0	2.0	0.3
46	石鏃	表土	第66図	1/1	黒曜石	C類	17.0	16.0	3.0	0.6
47	石鏃	攪乱	第66図	1/1	黒曜石	D類	16.0	16.0	4.0	0.7

通し 番号	器 種	遺 構	図版 番号	縮尺	石 材	所 見	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)
48	石鏃	立会調査11月19日	第66図	1/1	黒曜石	D類	19.0	16.0	5.0	1.0
49	石鏃未製品	6号住居跡	第66図	1/1	黒曜石		16.0	15.0	5.0	1.1
50	石鏃未製品	5号住居跡	第66図	1/1	黒曜石		32.0	28.4	10.7	7.6
51	石鏃未製品	5号住居跡	第66図	1/1	黒曜石		17.9	19.2	5.7	1.6
52	石鏃未製品	34号土坑	第66図	1/1	黒曜石		30.0	22.0	10.0	5.6
53	石鏃未製品	遺構外	第66図	1/1	黒曜石		27.8	23.2	9.2	4.4
54	石匙	6号住居跡上層	第67図	1/1	黒曜石	両刃で直刃。辺は直線で三角形を呈す	31.4	37.6	8.3	6.5
55	石匙	7号住居跡上層	第67図	1/1	チャート	片刃で凸刃。側辺は丸みをおびる	27.6	42.5	6.7	6.0
56	石匙	10号住居跡	第67図	1/1	黒曜石	両刃で凸刃。肩が張り長方形を呈す	21.3	31.1	7.1	3.1
57	石匙	10号住居跡	第67図	1/1	黒曜石	両刃で凸刃。側辺は直線と凸状	20.9	27.0	6.1	2.7
58	石匙	13号住居跡	第67図	1/1	安山岩	片刃で凸刃。側辺は直線と凸状	33.6	54.1	8.3	9.2
59	石匙	35号土坑	第68図	1/1	チャート	両刃で直刃。肩が張り長方形を呈す	30.0	40.0	9.0	7.7
60	石匙	53号土坑	第68図	1/1	ホルンフェルス	両刃で直刃。側辺は残存部直線	33.5	50.0	4.5	8.1
61	石匙	57号土坑	第68図	1/1	珪質頁岩	つまみ部のみ残存	27.0	22.0	8.5	4.7
62	石匙	遺構外	第68図	1/1	チャート	片刃で凸刃。側辺は丸みをおびる	26.6	43.3	7.0	7.0
63	縦形石匙	外構B区一括	第68図	1/1	ホルンフェルス	片刃で直刃	42.0	17.0	5.0	5.6
64	石匙(大型)	5号住居跡	第68図	1/2	流紋岩	両刃で凹刃。側辺は丸みをおびる	37.9	74.5	13.7	32.2
65	石匙(大型)	12号住居跡	第68図	1/2	ホルンフェルス	ほぼ自然面を利用	51.8	68.7	17.7	36.4
66	石匙(大型)	13号住居跡	第68図	1/2	ホルンフェルス	片刃で直刃	64.3	74.7	15.4	46.1
67	楔形石器	B6グリッド	第69図	1/1	黒曜石	両極打撃痕	21.5	19.5	10.5	4.3
68	楔形石器	E2グリッド	第69図	1/1	黒曜石	両極打撃痕	18.0	13.0	8.0	1.7
69	二次加工剥片	1号住居跡	第69図	1/1	粘板岩	つまみ部状の加工と刃部を形成	47.0	39.0	9.0	13.6
70	二次加工剥片	6号住居跡	第69図	1/1	黒曜石	表裏面に剥離痕と刃部を形成	36.0	26.5	5.5	4.2
71	二次加工剥片	外構B区	第69図	1/1	黒曜石	側片の一つは内湾し、刃部を形成	23.5	18.0	3.5	1.3
72	二次加工剥片	E2グリッド	第69図	1/1	黒曜石	押圧剥離による形成。石鏃未製品か	21.5	17.0	3.5	1.5
73	二次加工剥片	遺構外	第69図	1/1	水晶	一部で刃部を形成。使用痕あり	41.2	25.6	10.6	11.2
74	搔器	5号住居跡	第69図	1/1	黒曜石	楕円形の刃部と形成抉り部あり	20.4	21.3	5.4	2.0
75	搔器	5号住居跡	第69図	1/1	チャート	二辺に刃部を形成	44.1	35.9	12.3	18.1
76	石錐	1号住居跡3・4pit	第70図	1/1	黒曜石	レンズ状断面	41.4	16.7	8.2	5.0
77	石錐	7号住居跡炉跡	第70図	1/1	流紋岩	つまみ部左右非対象。断面三角形	35.1	15.4	9.3	2.5
78	石錐	7号住居跡	第70図	1/1	黒曜石	つまみ部左右非対象。断面三角形	24.0	21.0	5.0	1.4
79	石錐	10号住居跡1pit	第70図	1/1	凝灰岩	レンズ状断面	48.7	22.0	10.7	9.0
80	石錐	10号住居跡3pit	第70図	1/1	流紋岩	つまみ部左右非対象。断面三角形	57.4	16.5	7.3	5.2
81	石錐	遺構外	第70図	1/1	黒曜石	棒状の形態。断面四角形	46.0	14.4	7.6	3.9
82	石錐	外構C区	第70図	1/1	チャート	つまみ部左右非対象。断面四角形	31.0	23.0	10.0	4.5
83	石錐	A4・B4グリッド	第70図	1/1	黒曜石	断面三角形。先端破損	27.0	22.0	7.5	3.8
84	石錐	E2グリッド	第70図	1/1	黒曜石	断面三角形	20.5	11.0	6.5	1.2
85	横刃形石器	6号住居跡炉跡	第71図	1/3	頁岩	長辺に片刃を形成	51.4	32.2	10.6	12.8
86	原石・石核	1号竪穴遺構	第71図	1/2	黒曜石	一部自然風化面	35.0	92.0	30.0	88.0
87	原石・石核	47号土坑	第71図	1/2	黒曜石	一部自然風化面	45.0	39.0	38.0	52.9
88	原石・石核	攪乱	第71図	1/2	黒曜石	一部自然風化面	53.0	44.0	23.0	52.2
89	打製石斧	4号住居跡炉上部	第71図	1/3	ホルンフェルス	短冊形	97.5	48.5	22.4	105.9
90	打製石斧	5号住居跡	第71図	1/3	砂岩	短冊形	111.0	56.0	18.0	128.5
91	打製石斧	5号住居跡	第71図	1/3	ホルンフェルス	短冊形	102.0	41.0	15.0	69.8
92	打製石斧	5号住居跡	第71図	1/3	砂岩	短冊形。側面敲打痕	111.0	44.0	19.0	100.8
93	打製石斧	5号住居跡vi土	第72図	1/3	ホルンフェルス	分銅形	73.0	48.0	12.0	42.9
94	打製石斧	6号住居跡	第72図	1/3	ホルンフェルス	短冊形	117.0	57.0	19.0	132.0
95	打製石斧	6号住居跡	第72図	1/3	流紋岩	バチ形	93.0	46.0	15.0	68.9

通し 番号	器 種	遺 構	図版 番号	縮尺	石 材	所 見	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)
96	打製石斧	6号住居跡上層	第72図	1/3	頁岩	長台形	77.4	57.2	21.0	92.9
97	打製石斧	7号住居跡	第72図	1/3	頁岩	長台形	95.7	49.6	8.3	42.2
98	打製石斧	7号住居跡上層	第72図	1/3	ホルンフェルス	短冊形	159.6	85.9	29.0	351.1
99	打製石斧	1号竪穴	第72図	1/3	ホルンフェルス	バチ形	69.0	44.0	12.0	36.5
100	打製石斧	6号土坑	第72図	1/3	砂岩	短冊形	103.0	44.0	10.0	47.7
101	打製石斧	7号土坑	第72図	1/3	凝灰岩	長台形	128.0	54.0	16.0	114.6
102	打製石斧	30号土坑	第72図	1/3	砂岩	短冊形	77.0	37.0	9.0	26.6
103	打製石斧	31号土坑	第72図	1/3	砂岩	長台形	80.0	53.0	19.0	86.5
104	打製石斧	61号土坑	第72図	1/3	砂岩	長台形	91.8	49.1	20.6	107.5
105	打製石斧	外構B区	第72図	1/3	砂岩	短冊形	100.0	51.0	21.0	118.1
106	打製石斧	外構C区	第72図	1/3	砂岩	短冊形	96.0	43.0	20.0	81.6
107	打製石斧	外構E区	第72図	1/3	ホルンフェルス	短冊形	107.0	45.0	15.0	84.3
108	磨製石斧	5号住居跡	第73図	1/1	緑色岩		28.5	10.0	7.0	3.1
109	磨製石斧	5号住居跡	第73図	1/1	緑色岩		61.5	29.5	13.0	37.5
110	磨製石斧	遺構外	第73図	1/1	蛇紋岩		37.0	17.5	7.5	8.1
111	磨製石斧	5号住居跡	第73図	1/2	緑色岩	乳棒状	152.0	48.0	39.0	381.0
112	磨製石斧	14号住居跡	第73図	1/2	緑色岩		47.0	54.5	27.0	81.0
113	磨製石斧	34号土坑上層	第73図	1/2	硬質細砂凝灰岩		27.0	38.0	22.5	38.6
114	尖頭器	56号土坑上層	第73図	1/2	チャート		31.5	74.3	11.1	27.7
115	尖頭器	10号住居跡1pit	第73図	1/2	チャート		40.0	36.0	13.5	24.1
116	磨石類	1号住居跡	第74図	1/3	安山岩	円形礫。両面に敲打痕及び磨面	108.0	95.0	68.0	847.0
117	磨石類	1号住居跡	第74図	1/3	安山岩	方形礫。両面に磨面。小口面に敲き痕	92.0	67.0	42.0	461.0
118	磨石類	4号住居跡	第74図	1/3	安山岩	稜磨石。全体に磨面	130.0	70.0	40.0	533.0
119	磨石類	5号住居跡	第74図	1/3	安山岩	断面三角形。各面に敲打痕	89.0	56.0	52.0	313.0
120	磨石類	5号住居跡	第74図	1/3	安山岩	円形礫。片面に敲打痕	58.0	51.0	43.0	114.0
121	磨石類	5号住居跡	第74図	1/3	安山岩	方形礫。全体に磨面。両面に敲打痕	93.0	52.0	44.0	285.0
122	磨石類	5号住居跡vi土	第74図	1/3	安山岩	円形礫。両面に敲打痕	84.0	58.0	46.0	291.0
123	磨石類	5号住居跡	第74図	1/3	安山岩	円形礫。全体に磨面。両面に敲打痕	98.0	66.0	55.0	467.0
124	磨石類	5号住居跡	第75図	1/3	安山岩	不整形礫。両面に敲打痕	106.0	64.0	41.0	329.0
125	磨石類	5号住居跡	第75図	1/3	安山岩	方形礫。全体に磨面	82.0	59.0	39.0	305.0
126	磨石類	5号住居跡	第75図	1/3	安山岩	円形礫。両面と小口に敲打痕	116.0	86.0	52.0	752.0
127	磨石類	6号住居跡	第75図	1/3	安山岩	円形礫。両面に敲打痕	99.0	78.0	47.0	397.0
128	磨石類	6号住居跡	第75図	1/3	安山岩	円形礫。全体に磨面	107.0	92.0	53.0	853.0
129	磨石類	7号住居跡	第75図	1/3	安山岩	不整形礫。全体に磨面。両面に敲打痕	109.0	71.0	44.0	474.0
130	磨石類	7号住居跡	第75図	1/3	安山岩	円形礫。全体に磨面。両面に敲打痕	85.0	70.0	49.0	378.0
131	磨石類	7号住居跡	第76図	1/3	安山岩	円形礫。全体に磨面。側面に敲打痕	91.0	78.0	54.0	493.0
132	磨石類	7号住居跡	第76図	1/3	砂岩	棒状方形礫。小口に敲打痕	98.0	35.0	33.0	203.0
133	磨石類	7号住居跡	第76図	1/3	安山岩	蛤形礫。刃部状の敲き部	99.0	112.0	34.0	573.0
134	磨石類	7号住居跡上層	第76図	1/3	安山岩	円形礫。両面・側面に敲打痕	103.8	77.7	54.5	585.9
135	磨石類	10号住居跡	第76図	1/3	花崗質砂岩	円形礫。全体に磨面	104.0	68.0	50.0	512.0
136	磨石類	11号住居跡上層	第76図	1/3	安山岩	円形礫。表面と側面に粗い敲打痕。裏面に細かい敲打痕	100.7	85.9	52.5	558.3
137	磨石類	13号住居跡	第77図	1/3	安山岩	不整形礫。三面に敲打痕	112.0	73.0	65.0	694.0
138	磨石類	14号住居跡	第77図	1/3	安山岩	断面三角形。全体に磨面。三面に敲打痕	118.0	59.0	46.5	503.0
139	磨石類	14号住居跡	第77図	1/3	花崗質砂岩	小口に敲打痕	117.0	49.0	28.0	221.0
140	磨石類	10号土坑上層	第77図	1/3	安山岩	方形礫。全体に磨面。両面に敲打痕	77.0	68.0	42.0	278.0
141	磨石類	26号土坑	第77図	1/3	安山岩	不整形礫。両面に敲打痕	121.0	63.0	48.0	391.0
142	磨石類	35号土坑	第77図	1/3	安山岩	円形礫。全体に磨面。	87.0	72.0	51.0	484.0

通し 番号	器 種	遺 構	図版 番号	縮尺	石 材	所 見	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)
143	磨石類	52号土坑	第77図	1/3	安山岩	稜磨石。全体に磨面。両面に敲打痕	122.0	65.0	41.0	431.0
144	磨石類	55号土坑上層	第78図	1/3	安山岩	円形磔。両面・側面に敲打痕	99.0	66.0	32.0	296.0
145	磨石類	56号土坑上層	第78図	1/3	砂岩	小型の円形磔。全体に磨面	42.0	39.0	34.0	70.0
146	磨石類	57号土坑上層	第78図	1/3	安山岩	円形磔。両面に敲打痕。小口に敲き痕	107.0	82.0	45.0	554.0
147	磨石類	57号土坑	第78図	1/3	花崗質砂岩	稜磨石。全体にも磨面	114.0	78.0	40.0	446.0
148	磨石類	57号土坑	第78図	1/3	砂岩	方形棒状磔。小口に敲打痕	79.0	44.0	33.0	223.0
149	磨石類	60号土坑	第78図	1/3	砂岩	方形磔。両面と小口に敲打痕	76.0	66.0	41.0	328.0
150	磨石類	遺構外	第78図	1/3	安山岩	円形磔。両面に敲打痕	89.6	73.4	44.1	348.3
151	磨石類	遺構外	第78図	1/3	安山岩	稜磨。三面に敲打痕	123.0	68.0	44.0	481.0
152	磨石類	遺構外	第79図	1/3	安山岩	円形磔。片面と小口面に敲打痕	124.0	79.0	67.0	934.0
153	磨石類	外構B区	第79図	1/3	安山岩	不整形磔。片面と小口面に敲打痕	108.0	76.0	49.0	527.0
154	磨石類	外構C区	第79図	1/3	安山岩	方形棒状磔。小口に敲打痕	148.0	69.0	61.0	1088.0
155	磨石類	C4G	第79図	1/3	安山岩	円形磔。両面と側面に敲打痕	118.3	67.6	30.8	333.9
156	磨石類	表土	第79図	1/3	安山岩	円形磔。両面に敲打痕	103.0	57.0	39.0	229.0
157	磨石類	1号トレンチ試掘	第79図	1/3	安山岩	円形磔。両面と側面に敲打痕	115.0	65.0	52.0	587.0
158	磨石類	2号トレンチ	第80図	1/3	安山岩	円形磔。両面と側面に敲打痕	110.0	67.0	37.0	322.0
159	磨石類	攪乱	第80図	1/3	花崗岩	円形磔。両面に敲打痕	94.0	72.0	48.0	481.0
160	磨石類	攪乱	第80図	1/3	安山岩	円形磔。両面に敲打痕	76.0	55.0	41.0	236.0
161	磨石類	立会 (H29・10・24)	第80図	1/3	安山岩	円形磔。両面に敲打痕	118.0	60.0	40.0	377.0
162	石皿	5号住居跡	第80図	1/4	安山岩		105.0	84.0	73.0	805.0
163	石皿	5号住居跡	第80図	1/4	安山岩		180.0	238.0	112.0	6000.0
164	石皿	15号土坑	第81図	1/4	安山岩	被熱。煤付着	148.0	149.0	72.0	1674.0
165	石皿	57号土坑	第81図	1/4	安山岩	多孔石か	126.0	121.0	60.0	1191.0
166	石皿	遺構外	第81図	1/4	デイサイト	裏面凹形	139.0	178.0	93.0	1614.0
167	石皿	攪乱 (5号住居内)	第81図	1/4	安山岩	加工溝あり	170.0	181.0	66.0	2750.0
168	磔石皿	4号住居跡	第81図	1/4	安山岩		227.0	152.0	69.0	3300.0
169	磔石皿	4号住居跡	第81図	1/4	安山岩		202.0	155.0	46.0	2413.0
170	磔石皿	4号住居跡	第82図	1/6	安山岩	疎らに敲打痕あり	457.0	392.0	110.0	30500.0
171	磔石皿	5号住居跡	第82図	1/4	安山岩		179.0	128.0	48.0	1933.0
172	磔石皿	7号住居跡	第82図	1/4	安山岩		220.0	175.0	45.0	2552.0
173	磔石皿	7号住居跡	第83図	1/4	安山岩	多孔石	211.0	199.0	69.0	3800.0
174	磔石皿	外構B区	第83図	1/4	安山岩		258.0	138.0	67.0	3054.0
175	大型磨石	1号住居跡炉石	第83図	1/6	安山岩	炉石に再利用。凹み部・敲き部あり	360.0	114.0	80.0	4750.0
176	大型磨石	1号住居跡炉石	第83図	1/6	安山岩	炉石に再利用。凹み部・敲き部あり	310.0	136.0	126.0	6600.0
177	大型磨石	外構B区	第83図	1/6	花崗質砂岩	小口に敲打痕	291.0	76.0	59.0	2444.0

石製品一覧

通し 番号	器種	遺構	図版 番号	縮尺	石 材	所見	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)
1	有孔石製品	30号土坑	第84図	1/1	滑石	2mm程度の円孔が2つ	19.0	20.0	5.0	2.9
2	有孔石製品	30号土坑	第84図	1/1	滑石	2mm程度の円孔が2つ	17.0	22.0	3.0	1.4
3	けつ状耳飾か	31号土坑	第84図	1/1	チャート	表裏面に敲打状の痕跡	31.0	15.5	9.0	4.9
4	けつ状耳飾	63号土坑	第84図	1/1	滑石	表裏面両方から孔を空けようとした痕跡、未貫通の孔あり。	34.0	34.0	10.0	12.1
5	石製裝飾品	7号住居跡上層	第84図	1/1	硬玉 (翡翠)	片側より4.5mm程度の孔を空けている	27.0	18.5	8.0	7.1

第4章 自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

酒呑場遺跡(北杜市長坂町長坂上条所在)は、標高712m前後の丘陵地に広がる縄文時代の集落を中心とした遺跡である。今回は、炭化物(炭化材と土器付着炭化物)の樹種同定と年代測定を実施し、遺構、遺物の年代に係る資料を得るとともに、炉石付着物の由来を調べるために赤外分光分析と炭素・窒素同位体分析を実施する。また、埋嚢等土壌に関して、遺体埋納の痕跡を調べるためリン・カルシウム・炭素分析と脂質分析を行う。

第1節 炭化物の分析

1. 試料

分析試料は、試料番号1(1住 炭化材 C-002)、試料番号2(4住-1 p-1656付着炭化物)、試料番号3(7住炭化材-1)の3点である。年代測定は3点全て、炭化材同定は試料番号1と3、顕微鏡観察は試料番号2を行う。

2. 放射性炭素年代測定

(1)分析方法

試料は、塩酸(HCl)により炭酸塩等酸可溶成分を除去、水酸化ナトリウム(NaOH)により腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、塩酸によりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する(酸・アルカリ・酸処理 AAA:Acid Alkali Acid)。濃度は塩酸、水酸化ナトリウム共に1mol/Lであるが、試料番号3は、炭素の損耗を防ぐため、アルカリの濃度を薄く(0.1mol/L)して処理する(AaAと記載)。

試料の燃焼、二酸化炭素の精製、グラファイト化(鉄を触媒とし水素で還元する)はElementar社のvario ISOTOPE cube とIonplus社のAge3を連結した自動化装置を用いる。処理後のグラファイト・鉄粉混合試料をNEC社製のハンドプレス機を用いて内径1mmの孔にプレスし、測定試料とする。

測定はタンデム加速器をベースとした14C-AMS専用装置(NEC社製)を用いて、14Cの計数、13C濃度(13C/12C)、14C濃度(14C/12C)を測定する。AMS測定時に、米国国立標準局(NIST)から提供される標準試料(HOX-II)、国際原子力機関から提供される標準試料(IAEA-C6等)、バックグラウンド試料(IAEA-C1)の測定も行う。

$\delta^{13}C$ は試料炭素の13C濃度(13C/12C)を測定し、基準試料からのずれを千分偏差(‰)で表したものである。放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代(BP)であり、誤差は標準偏差(One Sigma;68%)に相当する年代である。測定年代の表示方法は、国際学会での勧告に従う(Stuiver & Polach,1977)。また、暦年較正用に一桁目まで表した値も記す。暦年較正に用いるソフトウェアは、Oxcal4.3.2(Bronk,2009)を用いる。較正曲線はIntcal13(Reimer et al.,2013)を用いる。

(2)結果・考察

結果を第6表、第86図に示す。今回の試料は状態が良く、測定に必要な炭素量は十分回収できている。同位体補正を行った測定値は、試料番号1(1住 炭化材 C-002)は $3,220 \pm 25BP$ 、試料番号2(4住-1 p-1656付着炭化物)は $4,205 \pm 30BP$ 、試料番号3(7住炭化材-1)は $4,165 \pm 30BP$ である。

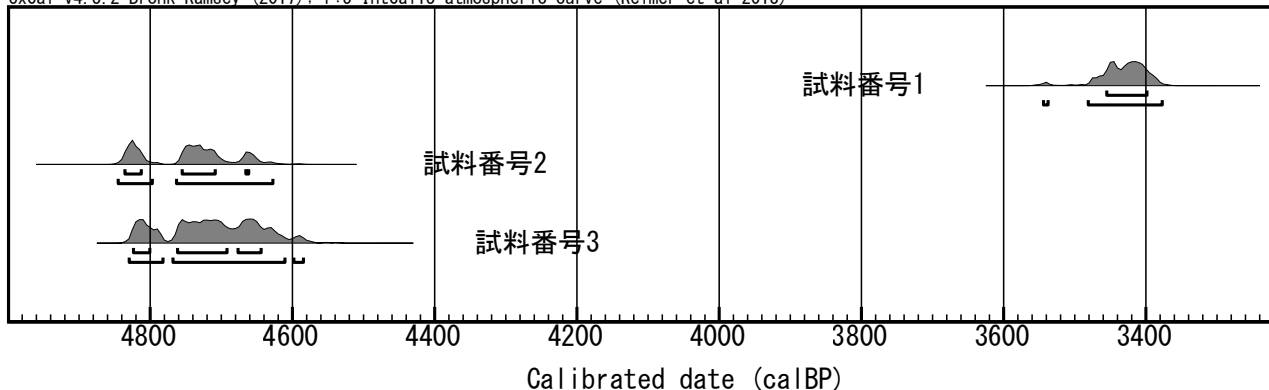
暦年較正は、大気中の14C濃度が一定で半減期が5,568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の14C濃度の変動、その後訂正された半減期(14Cの半減期 $5,730 \pm 40$ 年)を較正することによって、暦年代に近づける手法である。測定誤差 2σ の暦年代は、試料番号1(1住 炭化材 C-002)は $3,544 \sim 3,377calBP$ 、試料番号2(4住-1 p-1656付着炭化物)は $4,845 \sim 4,628 calBP$ 、試料番号3(7住炭化材-1)の $4,830 \sim 4,585calBP$ である。暦年較正值でみると、3,450年前後の試料番号1と4,700年前の試料番号2と3の2つのグループに分かれる。

第6表 放射性炭素年代測定結果

試料	種別/性状	方法	補正年代 (暦年較正用) BP	$\delta^{13}C$ (‰)	暦年較正年代							Code No.					
					年代値									確率			
					σ	cal BC							cal BP				
試料番号1 1号住居跡 炭化材 C-002	炭化材 (クリ)	1M (AAA)	3220±25 (3218±26)	-25.7 ±0.5	σ	cal BC	1506	-	cal BC	1450	3455	-	3399	cal BP	0.682	TKA- 18991	pal- 11097
					2 σ	cal BC	1595	-	cal BC	1589	3544	-	3538	cal BP	0.011		
						cal BC	1532	-	cal BC	1428	3481	-	3377	cal BP	0.943		
試料番号2 4住遺物-1 p-1656付着 炭化物(オコゲ)	鱗茎	1M (AAA)	4205±30 (4204±28)	-24.3 ±0.5	σ	cal BC	2887	-	cal BC	2864	4836	-	4813	cal BP	0.229	TKA- 18992	pal- 11098
						cal BC	2806	-	cal BC	2760	4755	-	4709	cal BP	0.426		
					2 σ	cal BC	2717	-	cal BC	2713	4666	-	4662	cal BP	0.027		
						cal BC	2896	-	cal BC	2848	4845	-	4797	cal BP	0.294		
					cal BC	2814	-	cal BC	2679	4763	-	4628	cal BP	0.660			
					cal BC	2875	-	cal BC	2852	4824	-	4801	cal BP	0.122			
cal BC	2813	-	cal BC	2743	4762	-	4692	cal BP	0.381								
試料番号3 7号住居跡 炭化材-1	炭化材 (クリ)	0.1M (AaA)	4165±30 (4167±28)	-25.4 ±0.4	σ	cal BC	2728	-	cal BC	2695	4677	-	4644	cal BP	0.179	TKA- 18993	pal- 11099
						cal BC	2881	-	cal BC	2833	4830	-	4782	cal BP	0.196		
					2 σ	cal BC	2819	-	cal BC	2662	4768	-	4611	cal BP	0.735		
						cal BC	2649	-	cal BC	2636	4598	-	4585	cal BP	0.022		

- 1) 年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用。
- 2) BP年代値は、1950年を基点として何年前であることを示す。
- 3) 付記した誤差は、測定誤差 σ (測定値の68.2%が入る範囲)を年代値に換算した値。
- 4) AAAは酸・アルカリ・酸処理、AaAはアルカリの濃度を薄くした処理を示す。
- 5) 暦年の計算には、Oxcal v4.3.2を使用
- 6) 暦年の計算には、補正年代に()で暦年較正用年代として示した、一桁目を丸める前の値を使用している。
- 7) 1桁目を丸めるのが慣例だが、較正曲線や較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1桁目を丸めていない。
- 8) 統計的に真の値が入る確率は、 σ が68.2%、2 σ が95.4%である

OxCal v4.3.2 Bronk Ramsey (2017); r:5 IntCal13 atmospheric curve (Reimer et al 2013)



第86図 暦年較正結果

3. 炭化材同定

(1)分析方法

試料を自然乾燥させた後、木口(横断面)・柁目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類(分類群)を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東(1982)やWheeler他(1998)を参考にする。また、日本産樹木の木材組織については、林(1991)や伊東(1995,1996,1997,1998,1999)を参考にする。

(2)結果・考察

樹種同定結果を第7表に示す。炭化材は2点とも広葉樹のブナ科クリ属クリ(Castanea crenata Sieb. et Zucc.)である。形態的特徴は、環孔材で、孔圏部は3-4列、孔圏外で急激に径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-15細胞高。

1号住居跡は、覆土から炭化材が多量に出土しており、焼失住居あるいは焼失部材を投棄した可能性が考えられている。同定を実施した炭化材は垂木の可能性があると考えられる。一方、7号住居跡の炭化材は、覆土内から出土しているが、状況や形状の詳細は不明である。これら

第7表 樹種同定結果

番号	遺構	試料名	状態	形状等	種類
1	1号住居跡	炭化材 C-002	炭化材	柁目状	クリ
3	7号住居跡	炭化材-1	炭化材	板目状	クリ

らの炭化材は、いずれも広葉樹のクリに同定された。クリは二次林等に生育する落葉高木であり、木材は重硬で強度と耐朽性が

高い。材質を考慮すれば、強度が高く腐りにくいクリ材を意図的に垂木などの建築部材に利用したことが推定される。

酒呑場遺跡では、これまでの調査でも縄文時代中期とされる竪穴住居跡のpit内から出土した炭化材がクリに同定されている(パリノ・サーヴェイ株式会社,2005)。また、酒呑場遺跡が位置する峡北地域では、上ノ原遺跡(旧須玉町)の縄文時代後期とされる住居跡出土炭化材でクリが優占する結果が得られているほか、上北田遺跡(旧白州町)の縄文時代前期とされる竪穴住居跡出土炭化材、社口遺跡(旧高根町)の縄文時代中期後半とされる竪穴住居跡出土炭化材、宿尻遺跡(韮崎市)の縄文時代後期とされる竪穴住居跡出土炭化材等でもクリが確認されている(伊東・山田2012)。今回の結果は、既存の報告例とも整合的である。

4. 顕微鏡観察 (写真図版22)

(1)分析方法

土器(4号住居遺物-1)付着炭化物をマクロレンズによる接写、マイクروسコープによる観察・撮影を行うとともに、付着炭化物の破片を電子顕微鏡で観察する。

(2)結果・考察

土器付着物は、炭化した鱗茎が複数個(10個前後?)付着した状態である。ほとんど鱗茎の形状をなしていないものから、断面形状が観察できるものまでであるが、保存状態は全体的に悪い。その中でも保存のよい個体をみると、鱗茎は黒色、広卵形で、7mm×5mm程度。崩れているが、構成する薄い葉が中軸から層状に巻いて重なる構造が確認される。形状や鱗茎葉肉部の細胞形状をみると、佐々木ほか(2016)等であいられている「ツルボ型」に似るが、保存状態が悪いため、種類を特定することは難しい。縄文土器に付着した炭化鱗茎は、県内では水呑場北遺跡など数例が認められている。

第2節 炉石付着物の分析

1. 試料

試料は1号住居跡の炉石(南側)に付着した黒色物(試料番号4)である。調理等の痕跡の可能性があり、赤外分光分析(フーリエ変換赤外線吸収スペクトル法, FT-IR)と安定同位体分析を実施する。

2. 赤外分光分析

(1)分析方法

微量採取した黒色物をダイヤモンドエクスペレスにより加圧成型した後、顕微FT-IR装置(サーモエレクトロン(株)製Nicolet Avatar 370,Nicolet Centaurus)を利用し、測定を実施した。なお、赤外線吸収スペクトルの測定は、作成した試料を鏡下で観察しながら測定位置を絞込み、アパーチャでマスクングした後、透過法で測定した。得られたスペクトルはベースライン補正などのデータ処理を施した後、吸光度(ABS)で表示している。測定条件及び各種補正処理の詳細については、FT-IRスペクトルと共に図中に併記しているので、そちらを参照されたい。

(2)結果・考察

有機物を構成している分子は、炭素や酸素、水素などの原子が様々な形で結合している。この結合した原子間は絶えず振動しているが、電磁波のようなエネルギーを受けることにより、その振動の振幅は増大する。この振幅の増大は、その結合の種類によって、ある特定の波長の電磁波を受けたときに突然大きくなる性質がある。この時に、電磁波のエネルギーは結合の振動に使われて(すなわち吸収されて)、その物質を透過した後の電磁波の強度は弱くなる。

有機物を構成している分子における結合の場合は、電磁波の中でも赤外線の領域に入る波長を吸収する性質を有するものが多い。そこで、赤外線の波長領域において波長を連続的に変えながら物質を透過させた場合、さまざまな結合を有する分子では、様々な波長において、赤外線の吸収が発生し、いわゆる赤外線吸収スペクトルを得ることができる。通常、このスペクトルは、横軸に波数(波長の逆数 cm^{-1} で示す)、縦軸に吸光度(ABS)を取った曲線で表されることが多い。したがって、既知の物質において、どの波長でどの程度の吸収が起こるかを調べ、その赤外線吸収スペクトルのパターンを定性的に標準化し、これと未知物質の赤外線吸収スペクトルのパターンとを定性的に比較することにより、

測定情報

サンプルスキャン回数: 128
バックグラウンドスキャン回数: 64
分解能: 4.000
サンプルゲイン: 8.0
ミラー速度: 1.8988

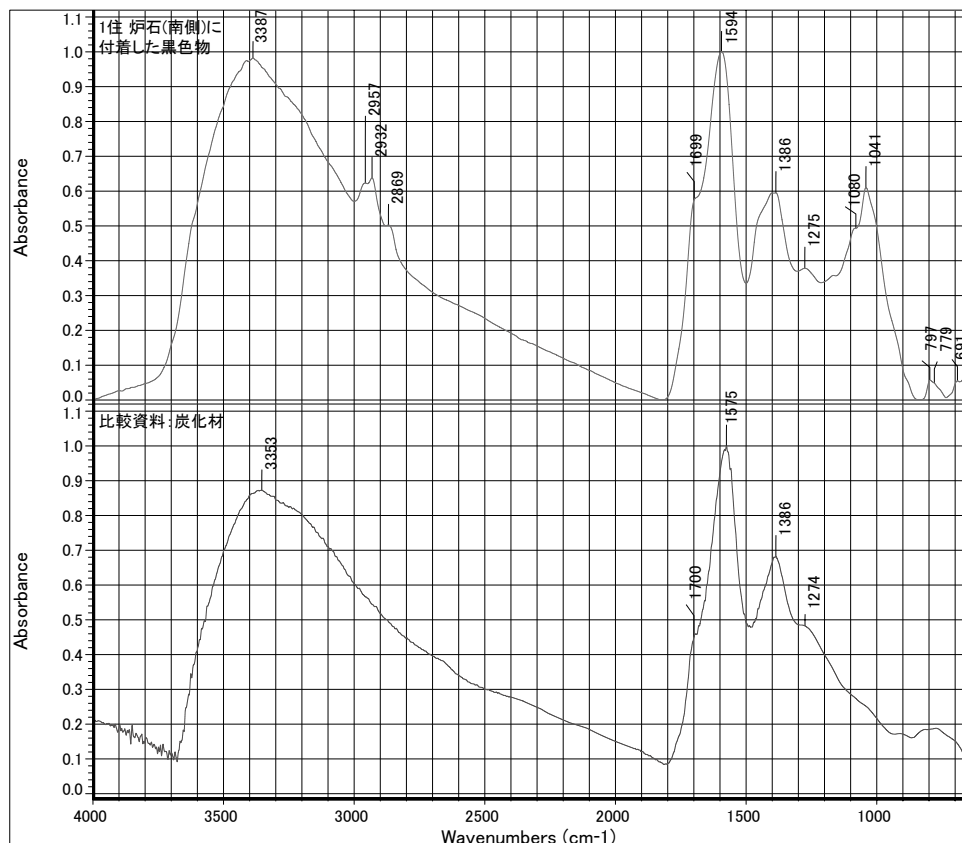
光学系の構成

検出器: MCT/A
ビームスプリッタ: KBr
光源: IR

備考

ダイヤモンドエクスプレス成型
顕微透過法
可変アパーチャ使用

ベースライン補正
スムージング処理
Y軸正規化



第 87 図 FT-IR スペクトル

未知物質の同定をすることもできる(山田,1986)。

FT-IRスペクトルを第87図に示す。なお、図中には、比較資料として炭化材の実測スペクトルを併記している。

黒色物の赤外線吸収特性は、3400cm⁻¹付近の幅広い吸収帯のほか、1594cm⁻¹、1386cm⁻¹、1041cm⁻¹の強い吸収帯や2957cm⁻¹、2932cm⁻¹、2869cm⁻¹、1699cm⁻¹、1275cm⁻¹、1080cm⁻¹、797cm⁻¹、779cm⁻¹、691cm⁻¹の吸収帯によって特徴付けられる。このうち、3400cm⁻¹付近の吸収帯はO-H伸縮振動、2957cm⁻¹、2932cm⁻¹、2869cm⁻¹の吸収帯はメチル基およびメチレン基のC-H伸縮振動、1699cm⁻¹の吸収帯はC=O伸縮振動、1594cm⁻¹の吸収帯はC=C伸縮振動、1386cm⁻¹の吸収帯はC-O伸縮振動あるいはO-H変角振動と予想される。なお、797cm⁻¹、779cm⁻¹のダブルット吸収と691cm⁻¹の吸収は石英に特有の振動で、1041cm⁻¹付近の極大吸収はSi-O伸縮振動と判断される。

パリーノ・サーヴェイ(株)では試料の出所が既知の物質について、同一測定条件で赤外線吸収スペクトルを測定した例がいくつかあるが(未公表)、遺跡で検出される有機質遺物の代表としては漆、天然アスファルト、松脂、動植物油、炭化物などの調査例がある。これらは、いずれも固有の吸収帯があり、漆では3400、2930、2860、1720、1620、1450、1270cm⁻¹、天然アスファルトでは2960、2920、2860、1700、1610、1460、1380cm⁻¹と脂肪族飽和炭化水素に帰属する吸収帯に特徴がある。また、松脂は1700cm⁻¹、動植物油は1740cm⁻¹付近に特徴的な吸収帯があり、炭化物は3400cm⁻¹、1600cm⁻¹、1390cm⁻¹付近に見られる極大吸収によって特徴付けられる。

黒色物の赤外線吸収特性には、2957cm⁻¹、2932cm⁻¹、2869cm⁻¹にメチル基およびメチレン基のC-H伸縮振動による吸収が僅かに見られるものの、基本的には3387cm⁻¹、1594cm⁻¹、1386cm⁻¹付近の極大吸収のほかには珪酸塩鉱物に関連した1041cm⁻¹および797cm⁻¹、779cm⁻¹、691cm⁻¹の吸収が確認されるのみである。赤外線吸収特性から材質を判断することは難しいが、これまでに実測した各種有機化合物の中では、比較試料として掲げた炭化材のスペクトルパターンに類似する。黒色物が何らかの有機物が炭化したものである可能性が評価されるものの、赤外分光分析では元の物質まで言及することは難しい。

3. 炭素・窒素同位体分析

(1)分析方法

測定は、東京大学総合研究博物館タンデム加速器分析室の協力を得た。使用機器は、安定同位体比質量分析装置 (EA-IRMS: 元素分析計/質量分析計、元素分析計: EuroEA3028-HT (EuroVector社製)、質量分析計: IsoPrime(Micromass社) である。

試料をスズカプセルに入れて封入し、機器にセットする。スズカプセル中の試料は、自動的に加熱された燃焼管に投入される。燃焼管内では、酸素ガスを瞬間的に導入することによって、スズの燃焼熱を利用して瞬間的に高温(一千数百度)となり、一瞬にして試料を燃焼させる。燃焼によって発生した気体を、キャリアガス(He)とともに還元管を通す。これによって、最終的に試料中の炭素は二酸化炭素(CO₂)に、窒素は窒素ガス(N₂)にそれぞれ変化する。これをコラムに通すことで両者は分離し、熱電対検出器にクロマトグラム(分離された信号)として検出される。この信号をもとに、クロマトグラムの面積計算を行い、元素含有率を求める。この段階で、炭素含量、窒素含量、C/Nを測定できる。分離された窒素ガスと二酸化炭素は、順に質量分析計に導入される。質量分析計では、試料をイオン化して加速させ、強い磁力の中を通して進路を曲げることで、わずかに重さの違う同位体を分離する。ここで、窒素安定同位体比(15N/14N)、炭素安定同位体比(13C/12C)を測定する。このように、1回の試料の導入によって、炭素含量、窒素含量、C/N、窒素安定同位体比、炭素安定同位体比を測定可能だが、付着炭化物に含まれる炭素量は窒素量より圧倒的に多い。このため、炭素安定同位体比の検出用に試料の分量を合わせると、窒素量は出力不足となり、窒素安定同位体比を正確に求めることができなくなる。そこで、まず1回目の測定で炭素含量、窒素含量、C/N、炭素安定同位体比を求める、その際求められた窒素含量から、窒素安定同位体比を求めるのに必要な試料量を計算し、試料を増やして、再度分析し、窒素安定同位体比を求めている(2回測定している)。今回は、1回目の測定では試料を0.5mg、2回目の測定では試料を10mg使用している。

(2)結果・考察

分析の結果を第8表、第88図に示す。炭素の安定同位体比を示す $\delta 13C$ は、食物連鎖の各系列において、最下位の植物から高位の動物まで大きな変化がないのが特徴である。産業革命前の陸上の植物は、 $\delta 13C$ が-28~-24‰程度のC3植物と、-11~-9‰程度のC4植物に大きく分けられる。大部分の植物質食料はC3植物で、日本列島のC4植物は、ヒエ・アワ・キビなど雑穀類が主なメンバーになる。栄養源としてC3植物を摂取した動物の $\delta 13C$ は、C3植物とほぼ同程度の値となる。他方、C3植物とC4植物の双方を摂取した動物は、その摂取割合に応じて、 $\delta 13C$ がC3植物寄りかC4植物寄りになる。このように、試料の $\delta 13C$ と、食物連鎖系一次生産者の $\delta 13C$ を比較することで、試料の由来物がどの食物連鎖の系列に属するものであるのか、また試料の由来物の栄養源がどこにあったのかを推定できる。

第8表 安定同位体分析結果

試料番号	遺構	試料	$\delta 13C$ (‰)	$\delta 15N$ (‰)	C (%)	N (%)	C/N
4	1号住居跡	炉石(南側)に付着した黒色物	-25.8	3.8	33.9	0.8	48.9

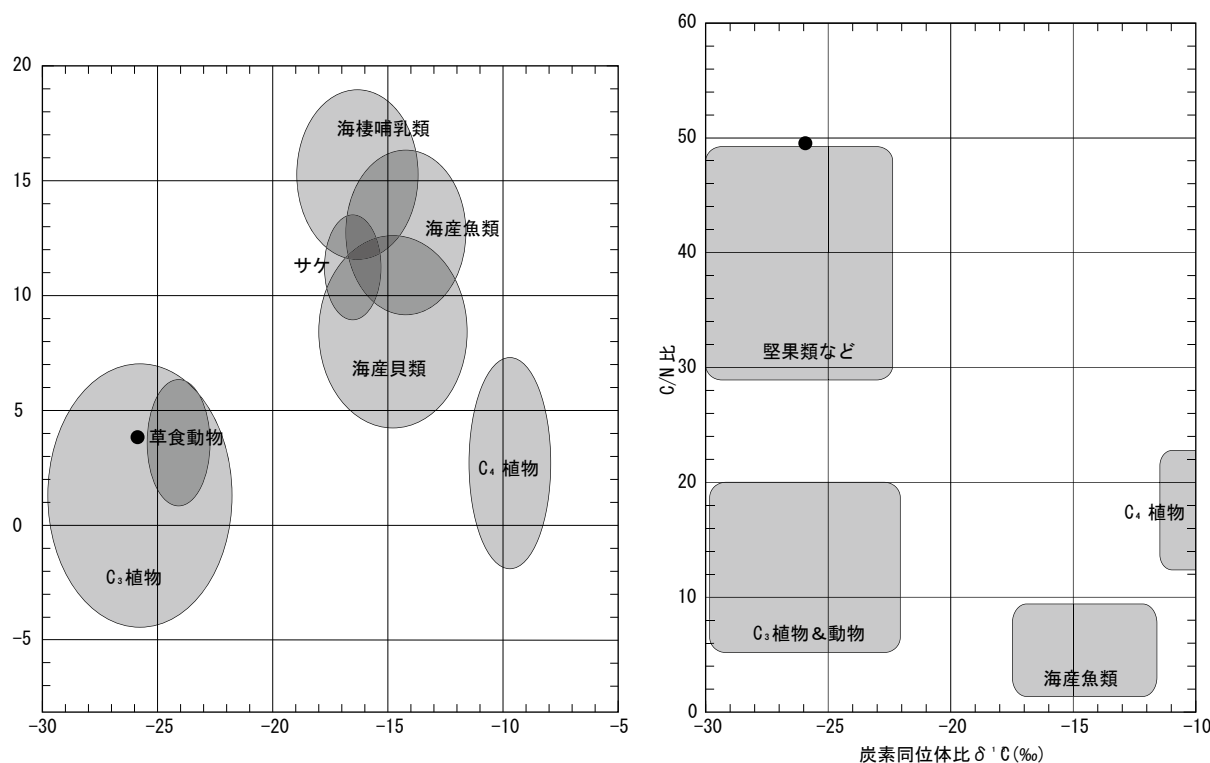
産業革命以後、 $\delta 13C$ が小さい化石燃料の大量消費により現代の大気中の二酸化炭素の $\delta 13C$ は低下し続けている (C13-Suess効果)。現代の大気中の二酸化炭素の $\delta 13C$ は-8.0‰程度であるが、産業革命以前は、-6.4‰程度と見積もられている (Friedli et al.,1986)。この差の分だけ、産業革命以前の陸上動植物の $\delta 13C$ は、現代に比べると大きくなる。

海水中の食物連鎖系一次生産者である、海産植物プランクトンや底生珪藻類の、産業革命以前の $\delta 13C$ は不明である。現代の温帯海域では-20‰程度で、C3植物とC4植物の中間的な値となっている。日本近海を含む北太平洋では、現代の表層海洋の $\delta 13C$ は、産業革命以前に比べて0.8~1.0‰程度小さくなっていると推算されている (Eide et al.,2017)。海洋におけるC13-Suess効果は、陸上に比べるといくぶん小さいようである。

第88図は、遺跡出土の動植物遺物と現生の食材を用いて作成した日本列島における食料資源の炭素窒素同位体比である。現生食材の $\delta 13C$ は、C13-Suess効果を踏まえた補正を行なっている。窒素の安定同位体比を示す $\delta 15N$ は、食物連鎖の系列において、高位になるほど大きくなっていくのが特徴である。よって、 $\delta 15N$ からは、試料の由来物の食物連鎖の栄養段階が推定できる。また、海洋中は陸上よりも食物連鎖の段階数が多いので、海洋生物の食物連鎖上位者

は陸上の食物連鎖上位者よりも $\delta^{15}\text{N}$ が大きいという特徴もある。窒素はタンパク質に由来するので、総炭素原子数/総窒素原子数 (C/N比) も、試料の由来を推定する尺度となる。つまり、タンパク質を豊富に含んだ肉・魚類は窒素を多く含むので、C/N比が比較的小さく、タンパク質が少ない堅果類や果実、海藻類などは、C/N比が大きくなる。C3植物とC3植物を摂取した草食動物は、 $\delta^{13}\text{C}$ と $\delta^{15}\text{N}$ では区別できないところがあるが、C/N比によって堅果類などを分離することができる。これら $\delta^{13}\text{C}$ 、 $\delta^{15}\text{N}$ 、C/N比の3つの指標について、試料とC3植物、C3植物を摂取した草食動物、C4植物、海産小型魚、海産大型魚、海棲哺乳類などのグループが持つ範囲を比較することで、炭化物試料の由来について推定することができる。

炭化物の由来は、 $\delta^{13}\text{C}$ が -26‰ 程度であること、C/N比が30を超えることから、タンパク質の少ないC3植物由来と推定される。付着物が植物質食糧由来であれば、図が示すように堅果類のような澱粉質のものが考えられる。ただし、微粉となった炭化材や燃料材に由来する煤なども同様な値になることが予想されるため、食糧由来かどうかを決めることは難しい。



第 88 図 測定結果と食材の比較

第 3 節 埋設土器等の土壌の分析

1. 試料

試料は、試料番号5(5住-1 埋甕内部の土)、試料番号6(5住-1 埋甕 甕外の土)、試料番号7(5住-2 P-3305(個体土器)混入土)、試料番号8(7住-1 1号埋甕内の土)、試料番号9(7住-2 2号埋甕内の土)、試料番号10(7住 住居覆土の土)、試料番号11(31号土坑 礫集中層と土器集中層の中間の土)、試料番号12(56号土坑-107(土器内中間・底付近)、試料番号13(56号土坑 土坑内堆積土壌)の9点である。リン・カルシウム・炭素分析は全点、脂質分析は試料番号7と12の2点について行う。

2. リン・カルシウム・炭素分析

(1)分析方法

有機炭素はチューリン法、リン酸含量は硝酸・過塩素酸分解-バナドモリブデン酸比色法、カルシウム含量は硝酸・過塩素酸分解-原子吸光法(土壌環境分析法編集委員会,1997、土壌標準分析・測定法委員会,1986)に従った。以下に各

項目の操作工程を示す。

試料を風乾後、土塊を軽く崩して2mmの篩で篩い分ける。この篩通過試料を風乾細土試料とし、分析に供する。また、風乾細土試料の一部を乳鉢で粉碎し、0.5mm篩を全通させ、粉碎土試料を作成する。風乾細土試料については、105℃で4時間乾燥し、分析試料水分を求める。

有機炭素は、粉碎土試料0.100～1.000 gを100ml三角フラスコに正確に秤りとり、0.4Nクロム酸・硫酸混液10mlを正確に加え、約200℃の砂浴上で正確に5分間煮沸する。冷却後、0.2%フェニルアントラニル酸液を指示薬に0.2N硫酸第一鉄アンモニウム液で滴定する。滴定値および加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりの有機炭素量（Org-C乾土%）を求める。これに1.724を乗じて腐植含量（%）を算出する。

リン酸、カルシウム含量は、粉碎土試料1.00gをケルダール分解フラスコに秤量し、はじめに硝酸（HNO₃）約10mlを加えて加熱分解する。放冷後、過塩素酸（HClO₄）約10mlを加えて再び加熱分解を行う。分解終了後、水で100mlに定容し、ろ過する。ろ液の一定量を試験管に採取し、リン酸発色液を加えて分光光度計によりリン酸（P₂O₅）濃度を測定する。別にろ液の一定量を試験管に採取し、干渉抑制剤を加えた後に原子吸光光度計によりカルシウム（CaO）濃度を測定する。これら測定値と加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりのリン酸含量（P₂O₅mg/g）とカルシウム含量（CaOmg/g）を求める。

(2)結果・考察

土壌化学分析結果を第9表に示す。野外土性（ペドロロジー学会編、1997）は、全試料でSiC（シルト質埴土）であり、土色は10YR2/2黒褐色～10YR3/2黒褐色と土質に大きな差異はない。腐植含量は4.48～5.50%であり土質に相応し大きな差異はない。全リン酸は7住の1号埋嚢土の土、住居覆土の土で3.90～3.97mg/gと分析試料中では相対的に少ない。これに対して5住の遺物番号2（P3305）混入土、31土坑の礫集中層と土器集中層の中間の土、56土坑の遺物番号107（土器内中間・底付近）では6.93～7.44mg/gと相対的に多い。他の試料は4.33～5.97mg/gであり、リン酸含量が全体的に多く保持される。カルシウム含量は1.82～3.68mg/gとリン酸含量に比べると全体的に少ない傾向にあり、リン酸含量との間に相関関係は示されない。

一般的に炭素含量は、主に植生繁茂の指標として用いられ、その炭素の集積量は主に植物遺体供給量に規定される。気候的要因による植生の繁茂状態が、炭素含量に大きく影響を与えているとされる。そして、リン酸の多くが植物に由来することが知られている。

リンは生物にとって主要な構成元素であり、動植物中に普遍的に含まれる元素であるが、特に人や動物の骨や歯には多量に含まれている。生物体内に蓄積されたリンはやがて土壌中に還元され、土壌有機物や土壌中の鉄やアルミニウム

第9表 土壌化学分析結果

試料名			土色	土性	有機炭素 C (%)	腐植 (%)	全リン酸 P ₂ O ₅ (mg/g)	全カルシウム CaO (mg/g)
5	5号住居跡 遺物-1	埋嚢嚢内部の土	10YR2/2 黒褐	SiC	2.90	5.00	5.12	2.32
6		埋嚢 嚢外の土	10YR3/2 黒褐	SiC	2.60	4.48	4.33	2.02
7	5号住居跡 遺物-2	P-3305(个体土器) 混入土	10YR2/2 黒褐	SiC	3.12	5.38	7.44	2.91
8	7号住居跡 遺物-1 遺物-2	1号埋嚢土の土	10YR3/2 黒褐	SiC	2.61	4.50	3.90	3.68
9		2号埋嚢土の土	10YR3/2 黒褐	SiC	2.68	4.62	4.54	2.41
10		住居覆土の土	10YR3/2 黒褐	SiC	2.88	4.97	3.97	2.18
11	31号土坑	礫集中層と土器集 中層の中間の土	10YR3/2 黒褐	SiC	2.97	5.12	6.93	2.45
12	56号土坑	遺物番号107(土 器内中間・底付近)	10YR2/2 黒褐	SiC	3.19	5.50	7.06	2.26
13		土坑内堆積土壌	10YR3/2 黒褐	SiC	2.92	5.03	5.97	1.82

備考

(1) 土性：土壌調査ハンドブック改訂版（ペドロロジー学会編、1997）の野外土性による。

SiC・・・シルト質埴土（粘土 25～45%、シルト 45～75%、砂 0～30%）

(2) 土色：マンセル表色系に準じた新版標準土色帖（農林省農林水産技術会議監修、1967）による。

と難溶性の化合物を形成することがある。特に活性アルミニウムの多い火山灰土では、非火山性の土壌や沖積低地堆積物などに比べればリン酸の固定力が高いため、火山灰土に立地した遺跡での生物起源残留物の痕跡確認にリン酸含量は有効なことがある。

土壌中に普通に含まれるリン酸含量、いわゆる天然賦存量については、いくつかの報告事例があるが(Bowen,1983; Bolt・Bruggenwert,1980;川崎ほか,1991;天野ほか,1991)、これらの事例から推定される天然賦存量の上限は約3.0mg/g程度である。また、人為的な影響(化学肥料の施用など)を受けた黒ボク土の既耕地では5.5mg/g(川崎ほか,1991)という報告例があり、当社におけるこれまでの分析調査事例では骨片などの痕跡が認められる土壌では6.0mg/gを越える場合が多い。一方、カルシウムの天然賦存量は普通1~50mg/g(藤貫,1979)といわれ、含量幅がリン酸よりも大きい傾向にある。これは、リン酸に比べると土壌中に固定され難い性質による。これら天然賦存量は、遺体の痕跡を明確に判断できる目安として重要ではあるが、天然賦存量以下だからといって遺体埋納を全て否定するものではない。遺体が土壌中で分解した後、その成分が時間経過とともに徐々に系外へと流亡し、その結果含量が天然賦存量の範囲となってしまうことも考えられるからである。

今回の分析調査では、全試料がリン酸の天然賦存量である3.0mg/gを超える特徴的に多い試料である。腐植に伴うリン酸含量の増加とも考えられるが、上述したように6.0mg/gを超えるリン酸含量を保持する試料が、5住-2混入土、31土坑の礫集中層と土器集中層の中間の土、56号土坑-107(土器内中間・底付近)の3点で示され、カルシウム含量は付随していないもの特徴的に多い。また、比較試料である56号土坑の土坑内堆積土壌では、6.0mg/gには届かないものの5.97mg/gと多く保持する。続いて遺構毎の比較試料と比較してみると、5住-1の埋嚢内部の土、5住-2の混入土、7住-2の2号埋嚢土の土、31土坑の礫集中層と土器集中層の中間の土、56号土坑-107(土器内中間・底付近)でリン酸が顕著に多いことが示され、リン酸含量の結果からは墓としての利用がされたと考えられる。ただし、遺跡全体をみると7住ではリン酸の保持量が特徴的ではないと考えられるため、今回の分析結果からは不明瞭である。また、カルシウム含量が全試料で少ないことから、墓坑以外の使用目的として利用された可能性も挙げられるが、これについては言及することは出来ない。

したがって、今回の分析調査では5住、31号土坑、56号土坑では墓として利用されたなど人為的影響の可能性がある。しかし、これらの試料では脂質が未検出であること、酪農試験場の牧草地として使われていた経緯などから、後代の影響が及んでいる可能性もあるため、詳細な検討は今後の課題としたい。

3. 脂質分析

(1)分析方法

分析は、坂井ほか(1996)に基づき、脂肪酸およびステロール成分の含量測定を行う。土壌試料が浸るに十分なクロロホルム：メタノール(2:1)を入れ、超音波をかけながら脂質を抽出する。ロータリーエバポレーターにより、溶媒を除去し、抽出物を塩酸-メタノールでメチル化を行う。ヘキサンにより脂質を再抽出し、セップパックシリカを使用して脂肪酸メチルエステル、ステロールを分離する。脂肪酸のメチルエステルの分離は、キャピラリーカラム(ULBON,HR-SS-10,内径0.25mm,長さ30m)を装着したガスクロマトグラフィーを使用した。注入口温度は250℃、検出器は水素炎イオン検出器を使用する。ステロールの分析は、キャピラリーカラム(J&W SCIENFIC,DB-1,内径0.36mm,長さ30m)を装着する。注入口温度は320℃、カラム温度は270℃恒温で分析を行う。キャリアガスは窒素を、検出器は水素炎イオン化検出器を使用する。

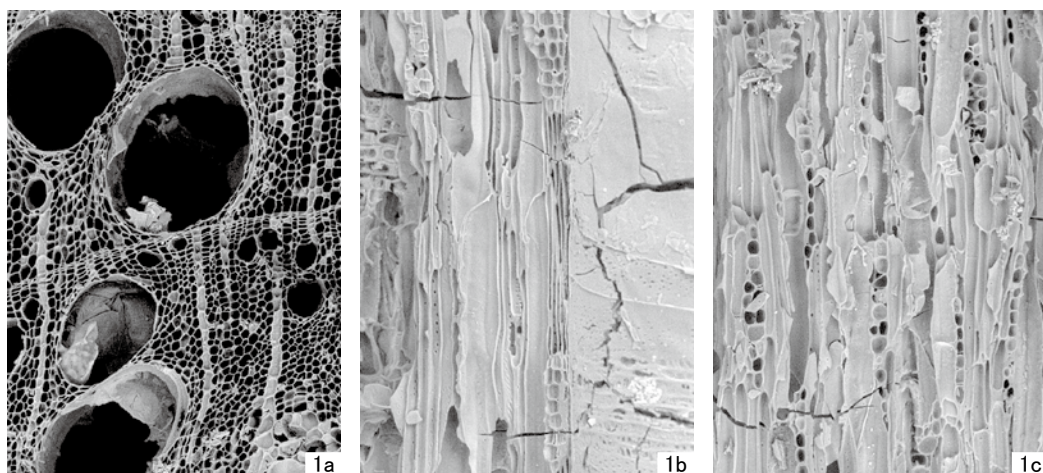
(2)結果・考察

分析の結果、試料番号7(5住-2混入土)、試料番号12(56号土坑-107(土器内中間・底付近))ともに、脂肪酸・ステロールが未検出である。このため、今回の脂肪酸の結果から由来を知ることは難しい。

引用文献

天野洋司・太田 健・草場 敬・中井 信,1991,中部日本以北の土壌型別蓄積リンの形態別計量.農林水産省農林水産技術会議事務局編 土壌蓄積リンの再生循環利用技術の開発,28-36.
Bolt,G.H.・Bruggenwert,M.G.M,1980,土壌の化学.岩田進午・三輪睿太郎・井上隆弘・陽 捷行訳,学会出版センター,309p.

- Bowen,H.J.M.,1983,環境無機化学-元素の循環と生化学-,浅見輝男・茅野充男訳,博友社,297p.
- Bronk RC.,2009,Bayesian analysis of radiocarbon dates. *Radiocarbon*,51, 337-360.
- 土壤標準分析・測定法委員会編,1986,土壤標準分析・測定法.博友社,354p.
- Eide, M., Olsen, A., Ninnemann, U.S., Eldevik, T., 2017. A global estimate of the full oceanic 13 C Suesseffect since the preindustrial: Full Oceanic 13C Suess Effect. *Global Biogeochemical Cycles* 31, 492-514.
- Friedli, H., Loetscher, H., Oeschger, H., Siegenthaler, U., Stauffer, B., 1986. Ice core record of the 13C/12C ratio of atmospheric CO2 in the past two centuries. *Nature* 324, 237-238.
- 藤貫 正,1979,カルシウム.地質調査所化学分析法,52,57-61.
- 林 昭三,1991,日本産木材 顕微鏡写真集.京都大学木質科学研究所.
- 伊東隆夫,1995,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ.木材研究・資料,31,京都大学木質科学研究所,81-181.
- 伊東隆夫,1996,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ.木材研究・資料,32,京都大学木質科学研究所,66-176.
- 伊東隆夫,1997,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ.木材研究・資料,33,京都大学木質科学研究所,83-201.
- 伊東隆夫,1998,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ.木材研究・資料,34,京都大学木質科学研究所,30-166.
- 伊東隆夫,1999,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ.木材研究・資料,35,京都大学木質科学研究所,47-216.
- 伊東隆夫・山田昌久(編),2012,木の考古学 出土木製品用材データベース.海青社,449p.
- 川崎 弘・吉田 滯・井上恒久,1991,九州地域の土壤型別蓄積リンの形態別計量.農林水産省 農林水産技術会議事務局編 土壤蓄積リンの再生循環利用技術の開発,23-27.
- 農林省農林水産技術会議事務局監修,1967,新版標準土色帖.
- パリオ・サーヴェイ株式会社,2005,酒吞場遺跡における自然科学分析.「酒吞場遺跡(第1～3次)-酪農試験場増・改築工事に伴う発掘調査報告書-(遺物編-本文編)」,山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第216集,山梨県教育委員会,101-109.
- ペドロロジー学会編,1997,土壤調査ハンドブック改訂版.博友社,169p.
- Reimer P.J., Bard E., Bayliss A., Beck J.W., Blackwell P.G., Bronk R.C., Buck C.E., Cheng H., Edwards R.L., Friedrich M., Grootes P.M., Guilderson T.P., Hafliðason H., Hajdas I., Hatté C., Heaton T.J., Hoffmann D.L., Hogg A.G., Hughen K.A., Kaiser K.F., Kromer B., Manning S.W., Niu M., Reimer R.W., Richards D.A., Scott E.M., Southon J.R., Staff R.A., Turney C.S.M., van der Plicht J.,2013,IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves 0-50,000 years cal BP. *Radiocarbon*,55,1869-1887.
- 坂井良輔・小林正史・藤田邦雄,1996,灯明皿の脂質分析.富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告第7集 梅原胡摩堂遺跡発掘調査報告(遺物編)第二分冊,財団法人 富山県文化振興財団,24-37.
- 佐々木由香・米田恭子・小林和貴,2016,縄文時代から弥生時代の出土炭化鱗茎同定の試み.日本文化財科学会第33回大会研究発表要旨集,30-31.
- 島地 謙・伊東隆夫,1982,図説木材組織.地球社,176p.
- Stuiver M., & Polach A.H.,1977,Radiocarbon 1977 Discussion Reporting of 14C Data. *Radiocarbon*, 19, 355-363.
- Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.(編),1998,広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト.伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩(日本語版監修),海青社,122p. [Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.(1989)IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification].
- 山田富貴子,1986,赤外線吸収スペクトル法,機器分析のてびき第1集.化学同人,1-18.



1.クリ(7号住居跡;炭化材-1)
a:木口,b:柁目,c:板目

100 μm:a
100 μm:b,c

第 89 図 炭化材顕微鏡写真

第5章 総括

第1節 酒呑場遺跡の集落変遷

今回の調査によって、酒呑場遺跡の集落の一端が明らかとなった。改めて既往の発掘調査結果を照らし合わせて、主に縄文時代中期後半を主体とした集落の変遷について見ていきたい。

縄文時代の集落の変遷過程については、野代幸和氏によって、5段階にまとめられている（野代2001）。すなわちⅠ期（前期：中越式・諸磯式）、Ⅱ期（中期前葉：五領ヶ台式から新道式）、Ⅲ期（中期中葉：藤内・井戸尻式）、Ⅳ期（中期後葉：曾利式）、Ⅴ期（後期前葉：称名寺式）である。Ⅰ期は台地の中心部に35軒ほど、Ⅱ期は北西部の台地縁辺部から中央部を中心に67軒、猪沢式期から徐々に環状に分布し始める。Ⅲ期になると台地中央北側を中心に大規模な環状集落が形成され始め、藤内式期41軒、井戸尻式期43軒と、最盛期を迎える。Ⅳ期の曾利式期は35軒と規模が縮小し、Ⅴ期にはA区に1軒のみと集落がみられなくなる（第1次～4次までの住居跡軒数）。

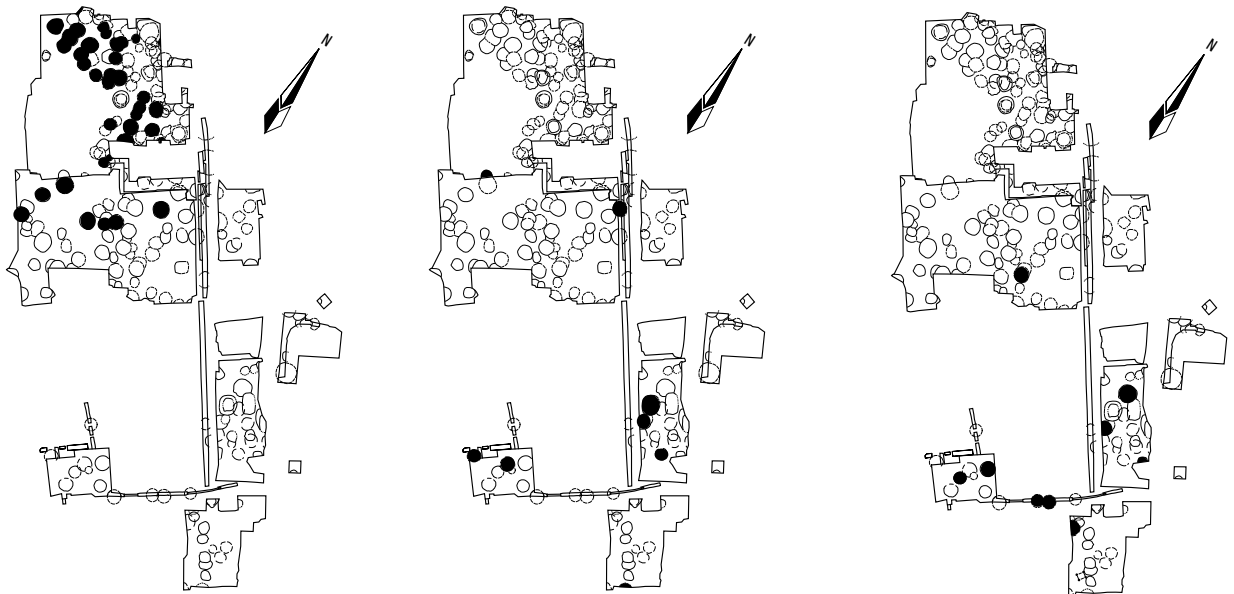
今回の調査では、Ⅰ期（諸磯b式）の住居跡2軒（11号住居跡を含めれば3軒）、Ⅳ期の住居跡10軒が見つかった。本調査区ではⅠ期の住居跡はまばらだが、該期の多くの土坑が検出されており、集落域として機能していたとみてよいだろう。Ⅱ期では、五領ヶ台式の土器が遺構覆土内から出土しているが、遺構に帰属すると考えられるものはない。Ⅱ期からⅢ期の猪沢式から藤内式までの土器はほとんど出土がなく、若干藤内式の土器が含まれる程度であった。

さて、Ⅲ期の後半に該当する井戸尻式から、Ⅳ期の曾利式期にかけて、丁寧にみていきたいと思う（第90図）。井戸尻式期の集落分布は、台地北部の環状集落のやや中央よりにまとまる傾向を示す。今回の第5次調査区地点からは、曾利Ⅰ式期の土器が主体の住居跡（5号住居跡、11号住居跡）覆土内より井戸尻式の土器が出土し、曾利Ⅰ式でも古相、過渡期的な位置づけとなりうる。既往の調査事例において曾利Ⅰ式期は、A区1軒、B区4軒、C区とG区に1軒ずつと、それまでの井戸尻式期の住居跡分布域から突然地点を変え、台地のやや南部寄りにポツポツと認められるようになる。5号住居跡の埋設土器は井戸尻式期の最終段階の面影をよく残しており、曾利式期の集落形成の先駆けとして評価することができるかもしれない。曾利Ⅱ式期は本調査区で4軒（4号住居跡、7号住居跡、12号住居跡、13号住居跡）、A区1軒、B区3軒、I区で1軒確認できる。曾利Ⅰ式期でまばらに拡散した居住域のなかを埋めていくように展開していく。曾利Ⅲ式は、本調査区ではⅡ式の住居跡の覆土内に一部含まれるものの、帰属する遺構はない。ただし、A区2軒、B区4軒、I区とJ区で1軒ずつと、台地の東側では継続的に展開している様子が分かっている。曾利Ⅳ式は、本調査区より3軒（1号住居跡、6号住居跡、14号住居跡）、A区4軒、B区2軒、C区2軒、G区1軒、I区1軒となる。本調査区やA区に分布がやや多く、台地の南側に集中していた可能性もある一方で、C区にも2軒認められることから、再び集落が外側へと拡大していった状況が想定される。曾利Ⅴ式は本調査区、A区、B区で1軒ずつ、G区で2軒と、南側では減少傾向が認められるが、C区では近接して3軒分布している。いずれかに集中する傾向はなく、曾利式期の集落が形成され始めた時期（曾利Ⅰ式）の分布域とほぼ同じように、散在する傾向が認められる。なお、I区では曾利Ⅴ式期の配石遺構なども確認される。

Ⅴ期（称名寺式）になると、遺構はほとんど認められず、本調査区では遺物の出土もない。A区で住居跡1軒や数基の土坑が検出されており、集落の展開は台地の南部から長坂上条遺跡にかけてへと再度変遷していくと思われる。

第91図は酒呑場遺跡のA区・B区・E区、今回の第5次調査区のみを取り上げた遺構分布図で、このうち時期の判明している土坑を時期ごとに重ねてプロットしたものである。酒呑場遺跡の過去の調査区における土坑の検討は、同じく野代氏がまとめている（野代2008）。今回の調査区は、過去の調査区に比較すると土坑の分布は希薄だが、そのほとんどが諸磯b式期を占めている。過去の調査区においても、曾利式期の住居跡の軒数に対して曾利式期の土坑基数の比率は小さく、各期において土坑を用いる傾向が異なるという見解が見いだされている。また、住居跡の展開する領域と土坑の展開する領域も原則連動している様子で、Ⅱ期からⅢ期にかけての土坑は本調査区・A区・B区ではほとんど認められない。

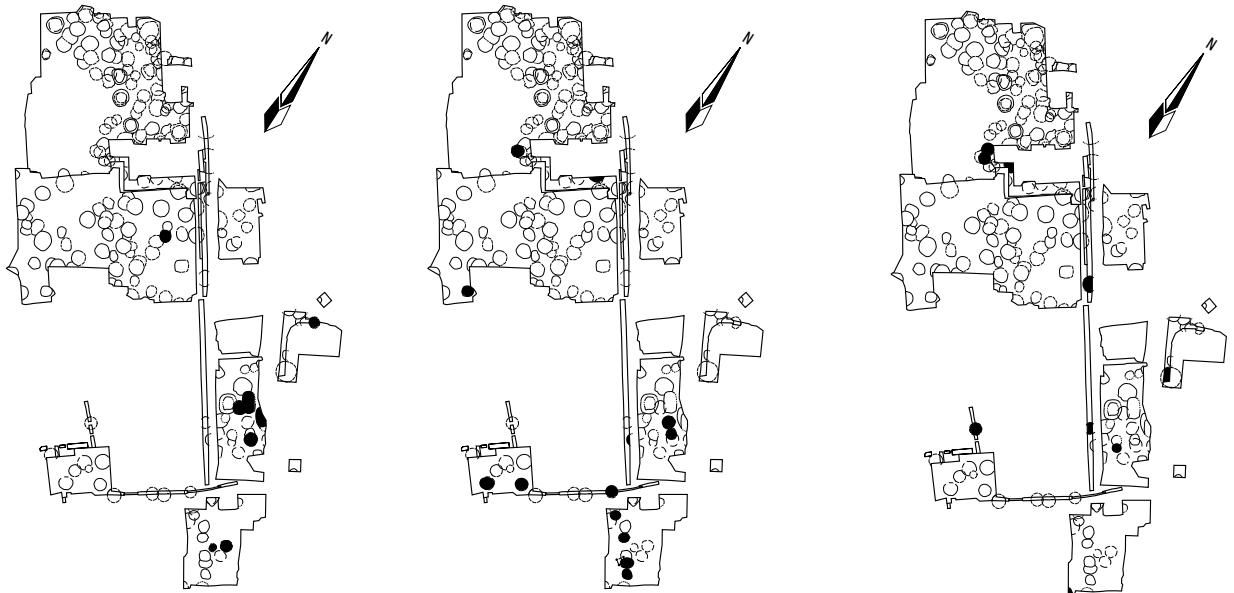
今回の調査成果から再度当遺跡の集落展開についてまとめると、Ⅰ期（前期）の集落は本調査区の北東域を中心に環状的に集落を展開、Ⅱ期・Ⅲ期では台地の北側で環状集落を形成する。Ⅳ期では台地南側に集落の拠点は移動する。現状で確認されている曾利式期の遺構はA区・B区・本調査区に密度が高いが、第3次調査（I区）の所見では、浅いレ



井戸尻式期

曾利Ⅰ式期

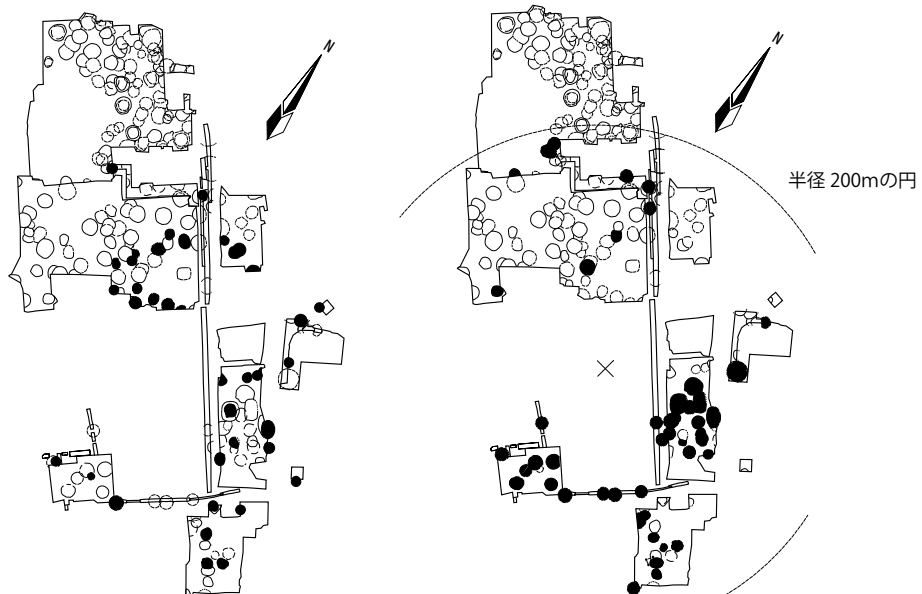
曾利Ⅱ式期



曾利Ⅲ式期

曾利Ⅳ式期

曾利Ⅴ式期

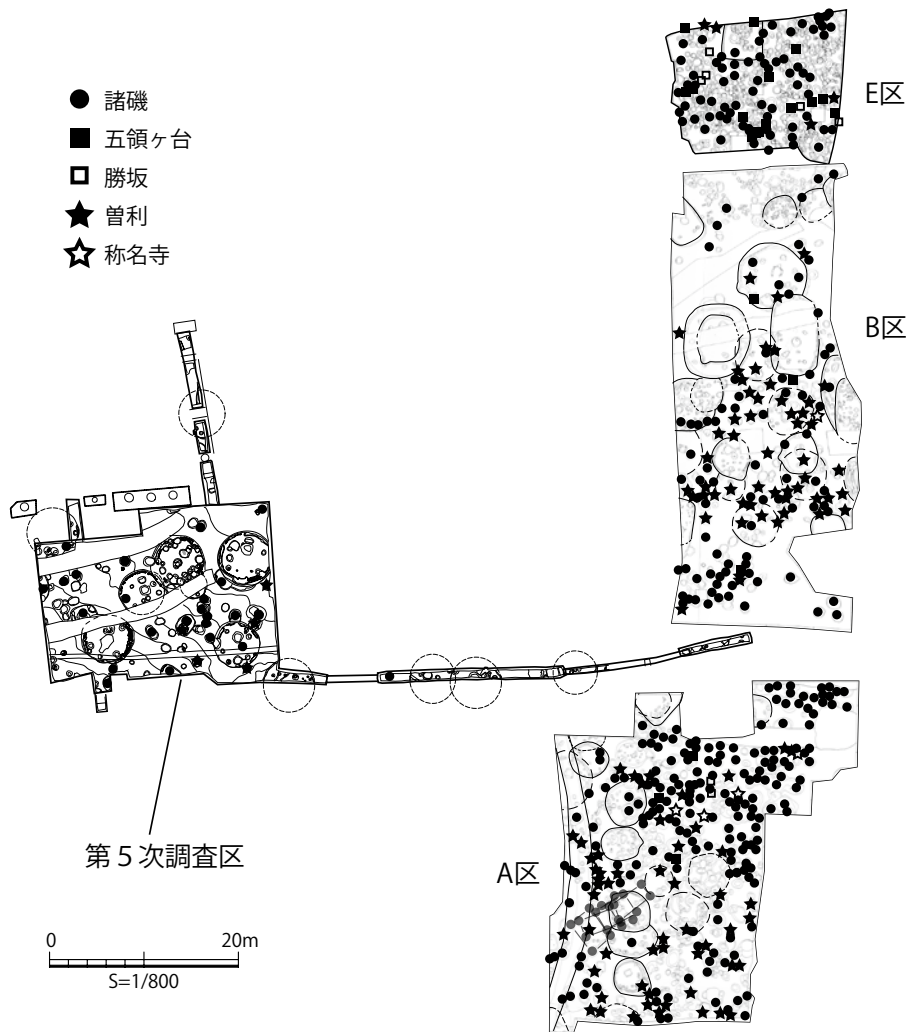


前期前半

曾利式期 (全)

0 1/3000 100m

第 90 図 酒呑場遺跡集落の変遷



第 91 図 酒呑場遺跡 台地南部域の土坑分布

ベルにあった曾利式期の遺構・遺物が耕作によって攪乱されている可能性が指摘されている。このことも踏まえて、Ⅱ期・Ⅲ期のもを越える大規模な環状集落が、本調査区とB区の間を中心に形成されていた可能性はますます高くなったといえる。

第 2 節 石囲炉について

今回の調査区では、炉石が残存する屋内石囲炉が合計5基確認された。基本的に残存率はよいが、中でも注目される①1号住居跡の炉、②4号住居跡・7号住居跡の炉についてそれぞれ所見を述べたい。

①1号住居跡の炉跡について

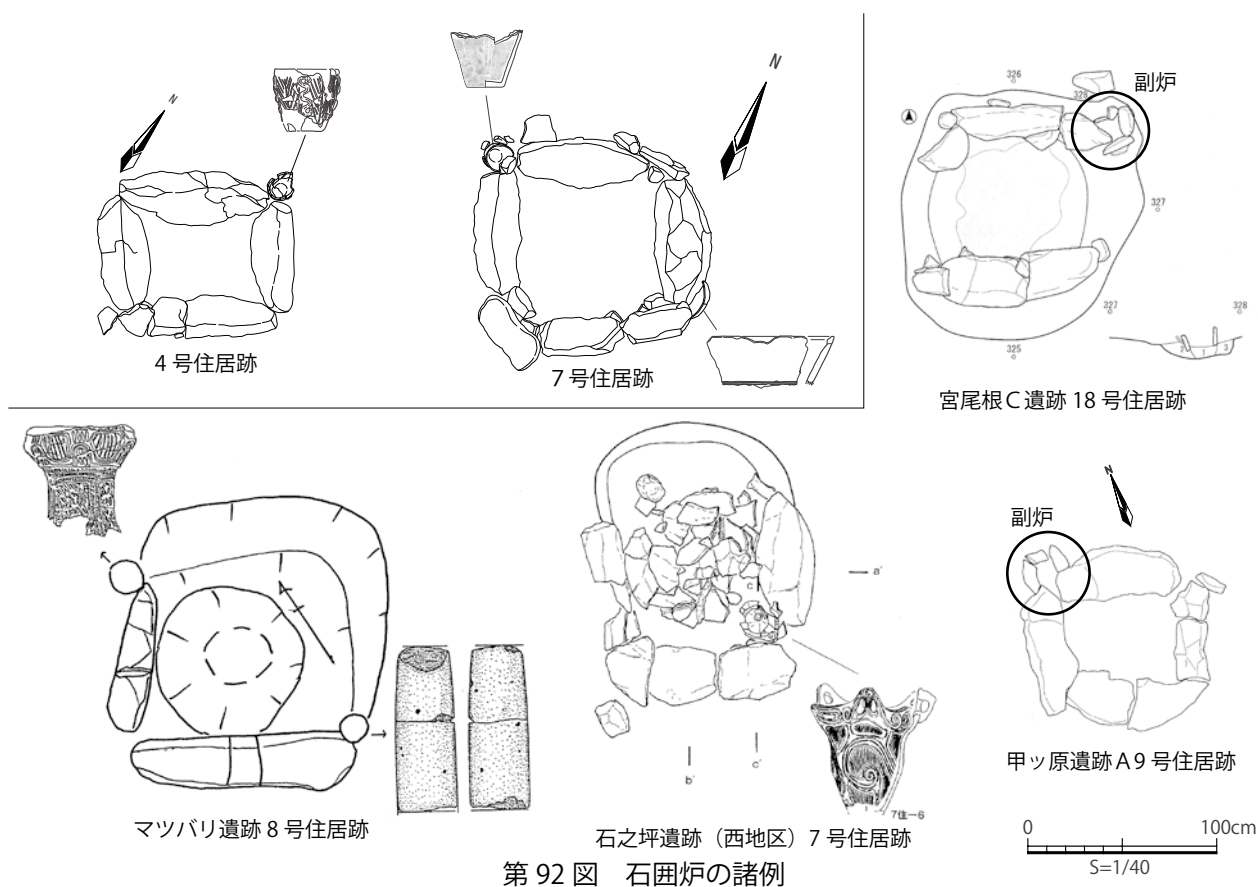
1号住居跡は埋設土器の年代観から曾利Ⅳ式期の所産と考えられる。石囲炉は北半分を攪乱により欠失しているが、側辺の炉石と住居入口側の炉石は良好に残存している。東側辺の炉石は2段で組み立てられており、1段目に凹み石が再利用されている。住居入口側の炉石は平坦面を上にもかけており、この炉石と側辺の炉石のそれぞれの隅角部には、石棒状の大型磨石類（第83図175、176）を埋めて樹立させる。石囲炉に石棒や円柱状の礫を用いる事例はまれにあり、火を伴う祭祀行為とする見方があるほか、櫛原功一氏は“柱の象徴性”とみている（櫛原2011）。

さて、1号住居跡の炉石には、燃焼部側の縁に黒色物質がべったりと付着していた。この黒色物質については、従来その存在のみ指摘されていたが、分析・考察がおろそかになっていることが腰原綾氏によって問題視されている（腰原1999）。今回、第4章の報告にあるように、この黒色物については赤外分光分析と安定同位体分析による理化学分析

を実施した。まず、赤外分光分析からは、これらが松脂や植物油などの由来となる可能性は低く、炭化物と推定された。さらに、安定同位体分析からは、炭化材と仮定した場合、堅果類などの澱粉質のものに由来する可能性が指摘できるようになった。黒色付着物は、タールの可能性も指摘されていたが、今回の分析結果ではその可能性は低いと推定される。澱粉質に由来するということだが、堅果類をペーストにしたものを炉石に貼り付け炉を燃焼し、加熱を伴う簡単な調理をしたのだろうか。同様の事例の化学分析の増加が待たれる。

②4号住居跡・7号住居跡の炉石について

4号住居跡と7号住居跡はいずれも曾利Ⅱ式新段階の住居跡と推定される。4号住居跡の石囲炉は4辺を斜めに立てて置き、詰石はほとんどないもので、7号住居跡のものは入口側以外の3辺を斜めに立て、詰石を用いるタイプのものである。いずれの炉石も注目されるのが隅角部外側に据えられた小型の土器である。4号住居跡は完形のを北東隅に、7号住居跡は上半部を欠く土器を北西隅に配置している。なお、7号住居跡では、対角となる南東隅に深鉢の口縁部の破片を炉石に咬ませて配置している。



第 92 図 石囲炉の諸例

これらは炉体土器を伴う石囲炉とは異なり、あくまで炉の外側に設置されるもので、土器の外面には被熱の痕跡やススは認められない。同様の事例は管見の限り県内にはなく、長野県木曾町のマツバリ遺跡8号住居跡の例がある（日義村教育委員会1995）。マツバリ遺跡の事例も、やはり奥側、炉の北西隅に下半部を欠く土器を配置しており、榊原功一氏はこれらの土器を「副炉」と同様の施設と推定する（榊原2011）。副炉とは「中期後半の方形石囲炉の右奥、あるいは左奥の隅に小形石囲い施設を設け」るもので（榊原前掲）、南信などを中心にみられるようである。山梨県内においてもわずかではあるが副炉の存在が認められる。宮尾根C遺跡18号住居跡は石囲炉右奥に（北杜市教育委員会2009）、甲ッ原遺跡A区9号住居跡では石囲炉左奥に認められる（山梨県教育委員会1998）。宮尾根C遺跡のものは曾利Ⅱ式、甲ッ原遺跡では曾利Ⅲ式の年代観が与えられており、本遺跡の事例とほぼ同時期の所産である。

また、石之坪遺跡（西地区）7号住居跡では、炉内手前右隅にほぼ完形の土器が正位で出土している。関間俊明氏はこれを廃棄行為パターンの一つとしている（関間2008）が、本遺跡の事例も住居廃絶後に持ち出すことなくその場に

留めていることから、類似する状況としてもよいかもしれない。

土器の位置・向き問わず完形の土器が炉内に放置・遺棄される事例は櫛原氏も指摘されている（櫛原2001）。4号住居跡の炉内および炉外にかけては、ほぼ完形の深鉢（4住-1）が部位を異にして遺棄されており、意図的な行為と捉えることができる。繰り返しになるが2例の炉跡に付設された小型の土器も、住居廃棄時に持ち去られたのではなく、あえて住居内に残したまま住居を手放していることには注意が必要で、なんらかの祭祀行為が伴っている可能性も考えられよう。

翻って、そもそもの副炉の意義や、あえて土器を用いる理由、その用途（石囲炉内燃焼中に、何か物を置くなどの行為があったのか）については、十分な検討ができなかった。今後の課題としておきたい。

第3節 その他の遺構・遺物について

①屋内土器埋設遺構（埋甕）について

住居内における土器埋設遺構は、本調査区内から5事例確認された。いずれも中期後半曾利式段階の所産である。なお、このうち7号住居跡では、2個体の土器を並列して埋設している。

第94図に、酒呑場遺跡の第1次～第4次調査までで確認された屋内土器埋設遺構の遺構図と埋設土器の実測図を用意した。既往の調査では、A区1号住居跡、10号住居跡、B区3号住居跡、4号住居跡、8号住居跡、16号住居跡、17号住居跡、C区85号住居跡、I区58号住居跡に認められている。ただし、B区4号住居跡は3号住居跡との重複部分からの出土であるため、遺構の帰属を判断するのは困難である。また、B区12号住居跡でも入口部付近出土の土器が埋設土器であった可能性を指摘されている。

埋設土器の属性には埋設場所、埋設姿勢、埋設部位（欠損状態）、土器の器種・法量などがあり、これらの属性分析から地域的特性などが論じられてきた。酒呑場遺跡のものは第1次～第4次調査までのものはすべて正位のものだったが、今回曾利I式期の5号住居跡から逆に埋設された底部穿孔の長胴甕（5住-1）が発見された。同時期の屋外埋設土器遺構にも同様の事例があり（市川三郷町宮の前遺跡、甲州市殿林遺跡、山梨市上コブケ遺跡B区など）、比較検討の余地があるだろう。

ここで注目されるのが、5号住居跡a4ピット内から出土した小型の甕（5住-2）である。この土器は、ピット内の底に横位でほぼ完形のまま出土した。ピットの位置は住居跡の奥壁側で、入口側に埋設された長胴甕とは対立する位置にあたる。これらの土器間の型式差は小さく、併存していた可能性もある。近年東日本を中心に屋内埋設土器の集成および属性を検討した菊池祥宏氏によれば（菊池2016）、横位に埋設する事例は中期末以降に増加するとされている。なお、第4章土壌の化学分析では、5号住居跡、7号住居跡の埋設土器に含まれていた土壌のうち、5住-2が最もリン酸値の高い結果を示しており、土器棺墓としての利用も想定できる。

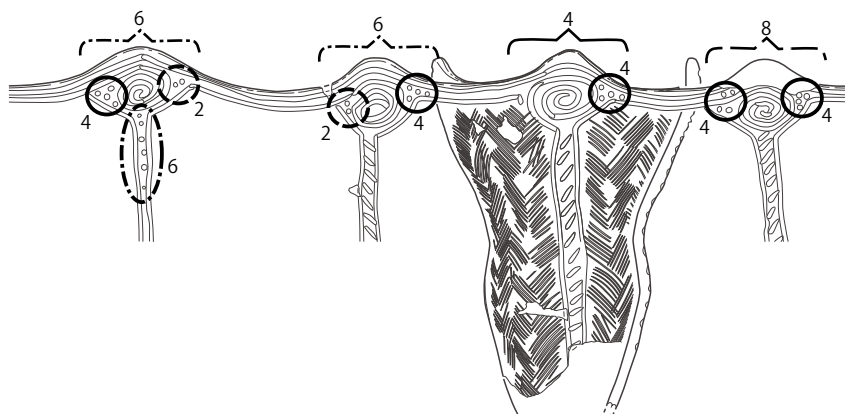
②56号土坑出土土器について

56号土坑は曾利V式の土坑で、3個体の深鉢が底に埋納されていた（第55図107、第56図108、109）。107は胴部に打ち欠いたような痕跡があり、土器内の土壌分析の結果は高いリン酸値を示しているが、土坑の覆土自体も比較的リン酸値が高い。状況からすれば土坑墓と想定しうるが、土器は副葬品と土器棺いずれの可能性も考えられる。

注目されるのが108の深鉢である。胴部は綾杉文を地文とし、曾利IV式新段階からV式古段階に相当する型式である。底部は欠失しているが、それ以外の欠損は少なく、意図的なものと推定される。土器は4単位の波状口縁となり、2条の沈線が垂下し胴部を区画する。しかし、右側の1条はつなぎ弧文のように口縁部文様帯の次の単位へと続き、波頂部で渦巻文となる。胴部を区画する2条の沈線の間には斜行する沈線が連続的に刻まれるが、4単位のうち一つは円形の連続刺突（6個）となる。また、この円形刺突はそれぞれの渦巻文の左右に認められる。

円形刺突の数は、それぞれの渦巻文によって異なっている。例えば、胴部の沈線間に円形刺突を施す箇所を始点として、土器を左回転させたときに正面に来る単位の刺突文数を（渦巻文左側・右側）で示すと、（4・2）、（2・4）、（0・4）、（4・4）となる。ただし、（4・4）となる単位の波頂部が一部欠失しており、4以上の数となる可能性も考えられる。なお、始点とした単位において胴部の沈線間に認められる円形刺突の数は6個であり、渦巻文

の左右(4・2)の和となっている。いずれも「2・4・6・8」の偶数により規定された数値となるが、これらから数列表的規則性を読み解くことはできなかった。いずれにしても、偶数単位については曾利式期の土器群の単位(把手の数など)として普遍的に認められるものであり、このような“数”へのこだわりが、なんらかの物語性をもって土器に表されている可能性も考えられよう。

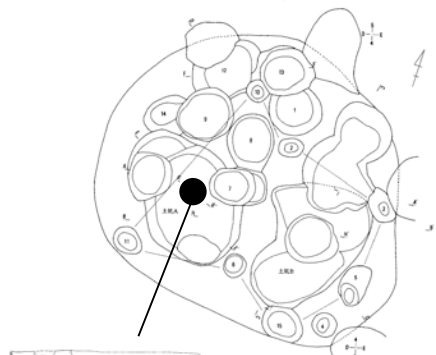


第93図 56号土坑出土遺物に表現される“数の認識”

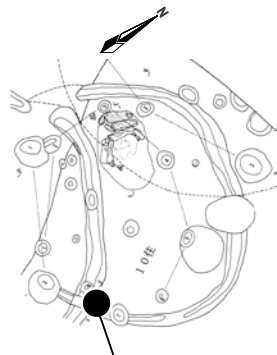
藤田富士夫氏は、縄文時代の「数字」認識に関わる資料について紹介しているが、いずれも土偶や土版・土製品に確認されるものが多く、土器の事例は少ない(藤田2006・2007)。しかし、多くの事例は同様に円形刺突で施されるものであり、藤田氏は「小石の記数法」と表現する。土器に刻まれた数が何を意味するかを直ちに説明することは困難だが、貴重な事例の一つとしてここに報告し、今後の研究に寄与したい。

【参考文献】

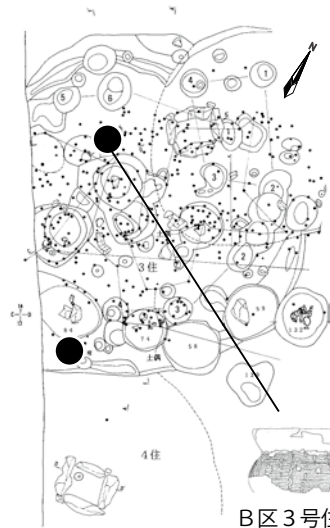
- 関間俊明 2008 「屋内炉の関わる廃棄土器について」『考古学ジャーナル』第578号 ニューサイエンス社
 菊池祥宏 2016 「縄文時代住居内埋設土器の展開」『Archaeo-Clio』第13号 東京学芸大学考古学研究室
 櫛原功一 2001 「炉に放置された土器」『帝京大学山梨文化財研究所報』第41号 帝京大学山梨文化財研究所
 櫛原功一 2011 「石囲炉の象徴性」『帝京大学文化財研究所研究報告』第15集 帝京大学山梨文化財研究所
 櫛原功一 2013 「奥壁側に山形の炉石をもつ方形石囲炉の系譜」『山梨県考古学協会誌』第22号 山梨県考古学協会
 腰原綾 1999 「中部山岳地帯における屋内炉の変遷について」『天理大学考古学研究室紀要』3
 野代幸和 2001 「酒呑場遺跡の集落変遷」『山梨県考古学協会誌』第12号 山梨県考古学協会
 野代幸和 2008 「北杜市(旧長坂町)酒呑場遺跡の土坑について—第1～2次調査(A～E区)を中心に—」『研究紀要』24 山梨県立考古博物館・山梨県埋蔵文化財センター
 日義村教育委員会 1995 『マツバリ遺跡』日義村の文化財11
 藤田富士夫 2006 「縄文時代の自然数列に関わる「数字」認識について」『考古学論究』第11号 立正大学考古学会
 藤田富士夫 2007 「縄文人の記数法と“算術”の発見」『列島の考古学Ⅱ』渡辺誠先生古稀記念論文集刊行会
 北杜市教育委員会 2009 『宮尾根C遺跡』北杜市埋蔵文化財調査報告第30集
 山梨県教育委員会 1998 『甲原遺跡Ⅳ』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第145集



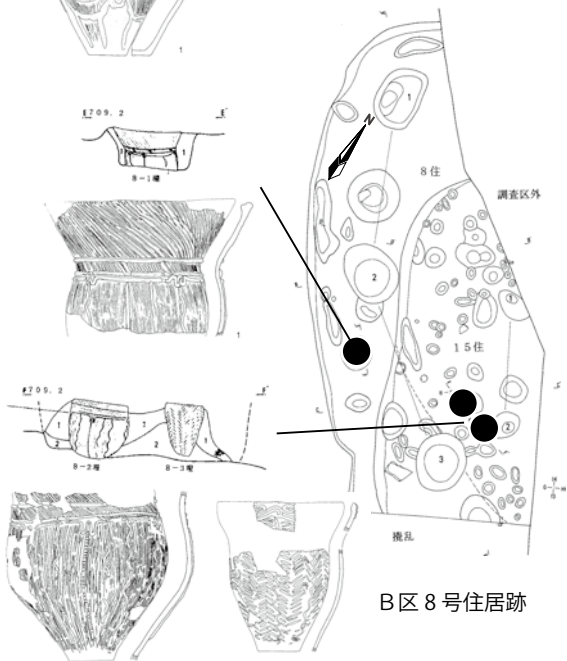
A区1号住居跡



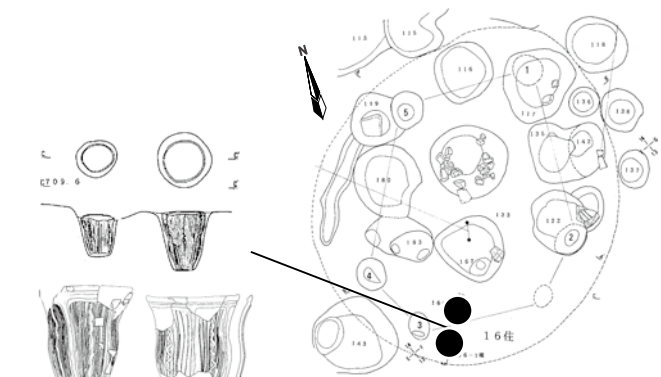
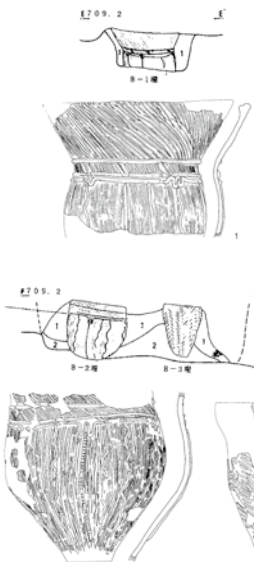
A区10号住居跡



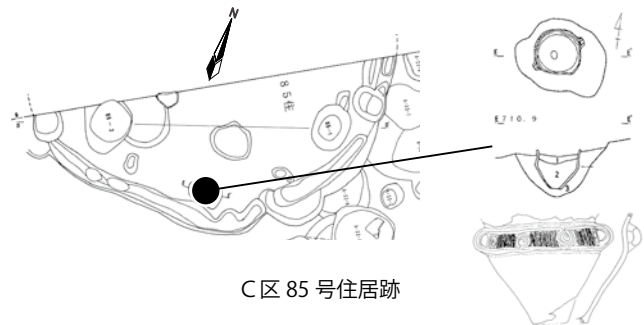
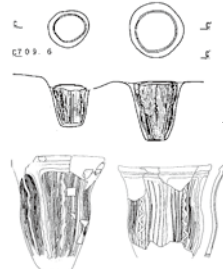
B区3号住居跡



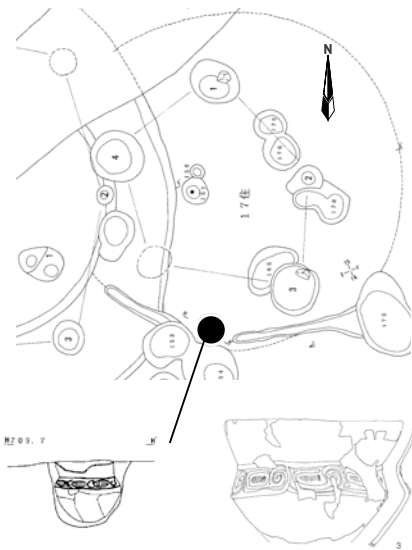
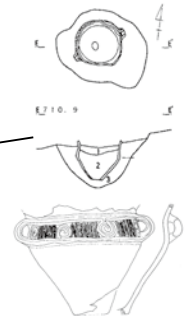
B区8号住居跡



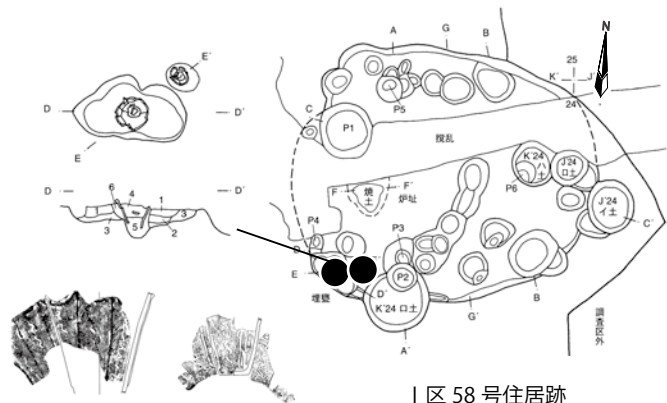
B区16号住居跡



C区85号住居跡



B区17号住居跡



I区58号住居跡



※住居跡スケール=1/120

第94図 酒呑場遺跡の屋内土器埋設遺構



調査区遠景 北東から釜無川方面を望む



調査区および遺跡全体 垂直撮影

写真図版 2



1号住居跡 検出状況（東から）



1号住居跡 土層断面（東西ベルト）



1号住居跡炉跡 検出状況



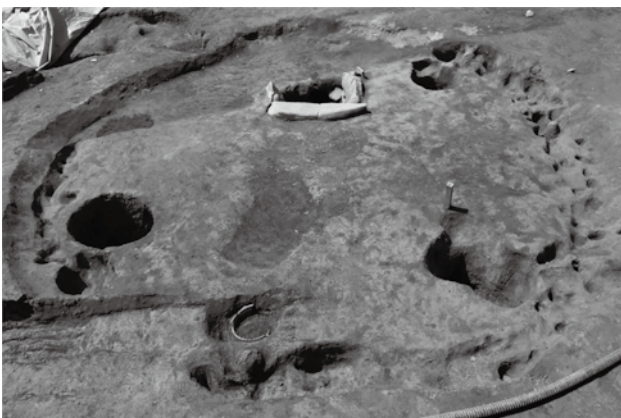
1号住居跡炉跡 完掘状況



1号住居跡埋設土器 検出状況



1号住居跡埋設土器 完掘状況



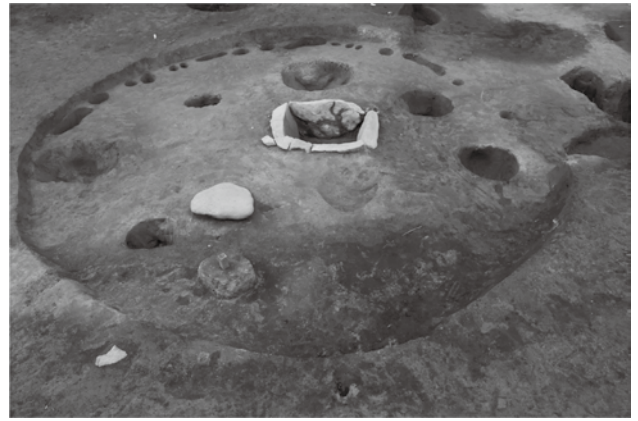
1号住居跡 完掘状況（南から）



4号住居跡 土層断面（南北ベルト）



4号住居跡 ピット検出状況



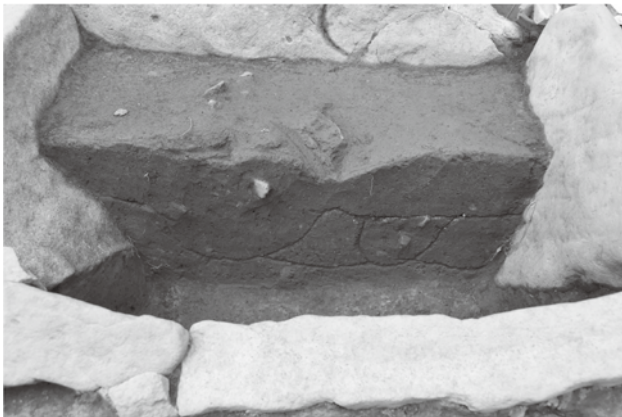
4号住居跡 完掘状況



4号住居跡 遺物出土状況



4号住居跡炉跡 検出状況



4号住居跡炉跡 半掘状況



4号住居跡炉跡 完掘状況



5号住居跡・8号住居跡 検出状況

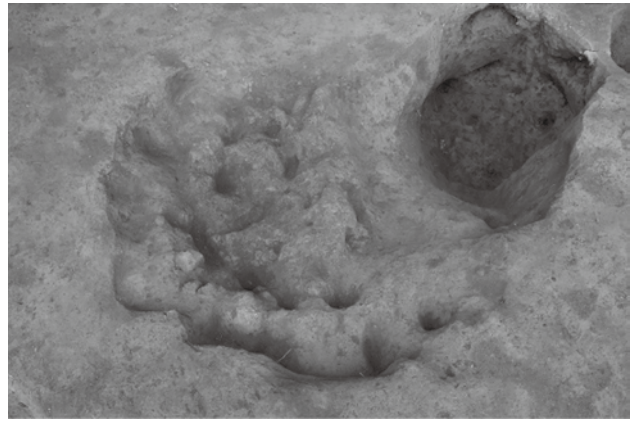


5号住居跡 遺物分布状況

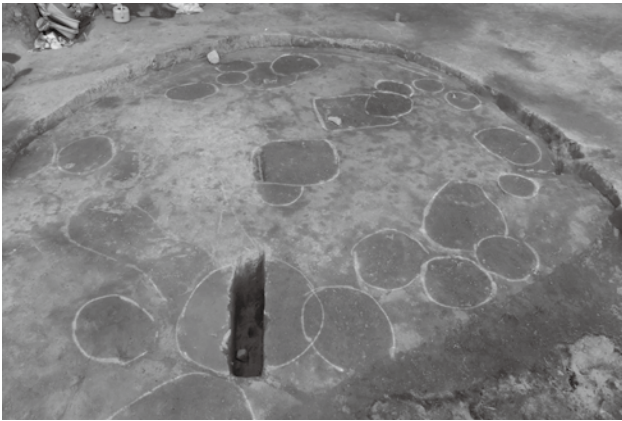
写真図版 4



5号住居跡 遺物出土状況



5号住居跡炉跡 完掘状況



5号住居跡 ピット検出状況



5号住居跡炉跡 完掘状況



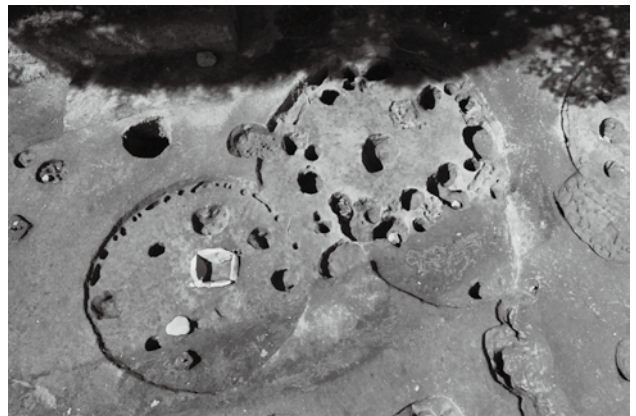
5号住居跡埋設土器 検出状況



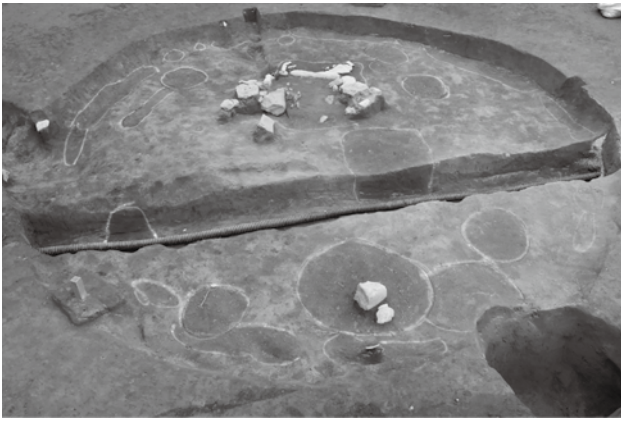
5号住居跡埋設土器 完掘状況



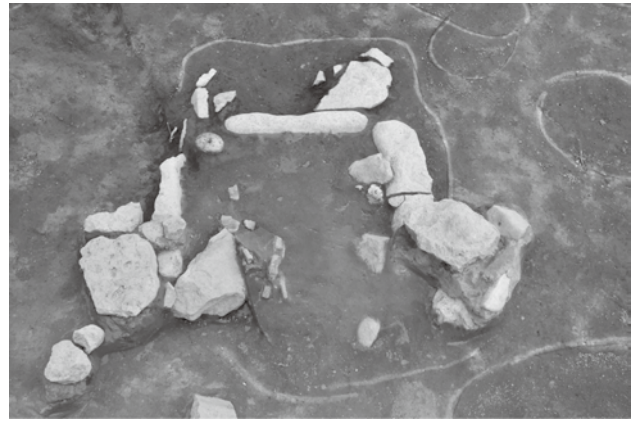
5号住居跡ピット内遺物 出土状況



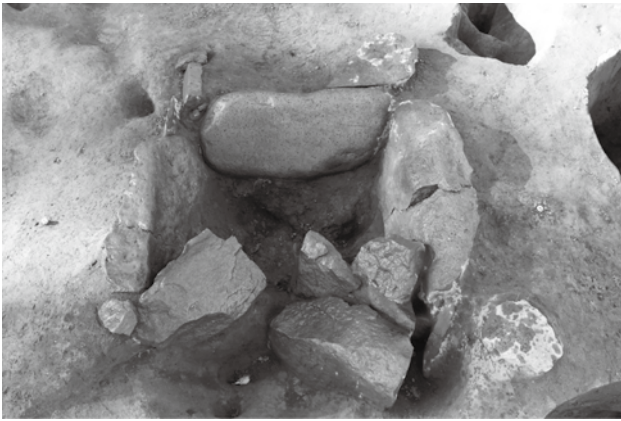
5号住居跡周辺 空中撮影



6号住居跡 遺物出土状況



6号住居跡炉跡 検出状況



6号住居跡炉跡 完掘状況

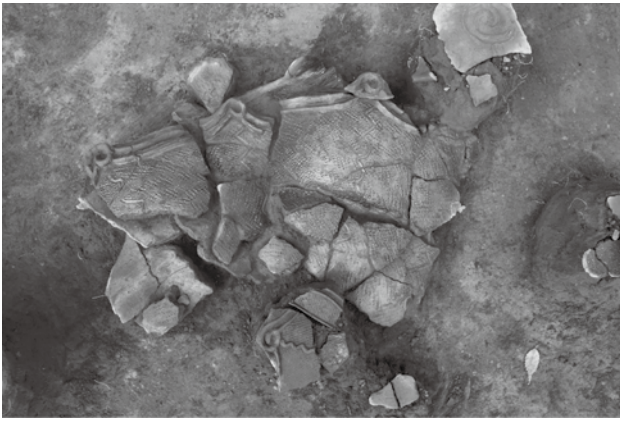


6号住居跡 完掘状況



7号住居跡 遺物出土状況

写真図版6



7号住居跡 遺物出土状況



7号住居跡炉跡 壁面土層



7号住居跡 埋設土器検出状況



7号住居跡 埋設土器



7号住居跡炉跡 完掘状況 (正面)



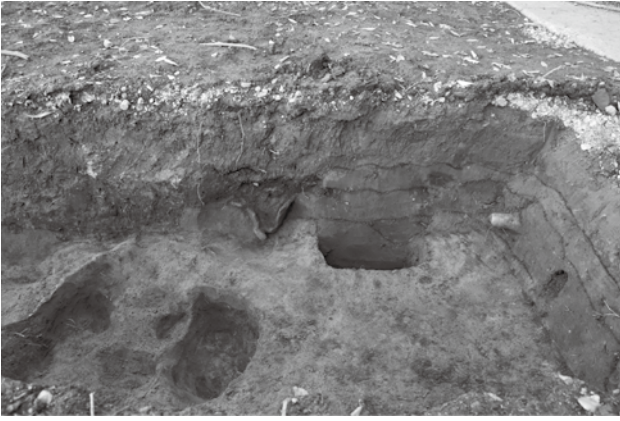
7号住居跡炉跡 付設土器



7号住居跡 完掘状況



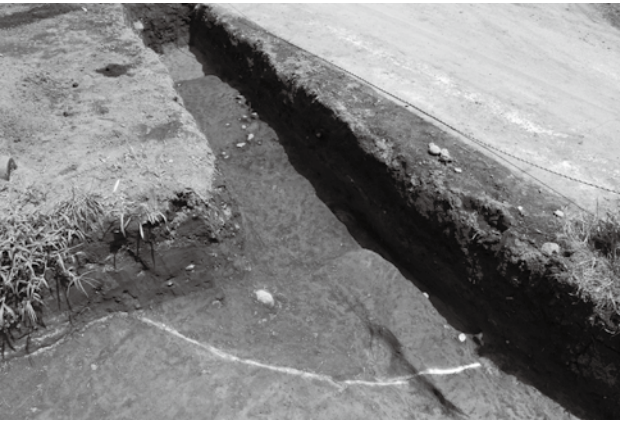
7号住居跡周辺 空中撮影



9号住居跡 完掘状況



9号住居跡 埋設土器



10号住居跡 検出状況



10号住居跡 完掘状況



11号住居跡 水煙文把手土器



11号住居跡 (1~7号土坑) 検出状況



11号住居跡 完掘状況



12号住居跡 完掘状況

写真図版 8



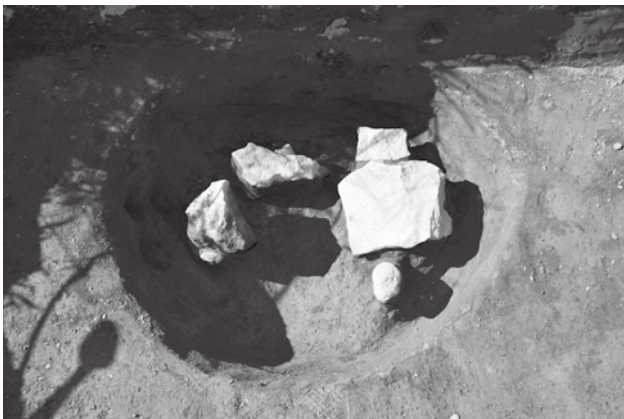
12号住居跡炉跡 完掘状況



13号住居跡 遺物出土状況



外構B区地点 完掘状況



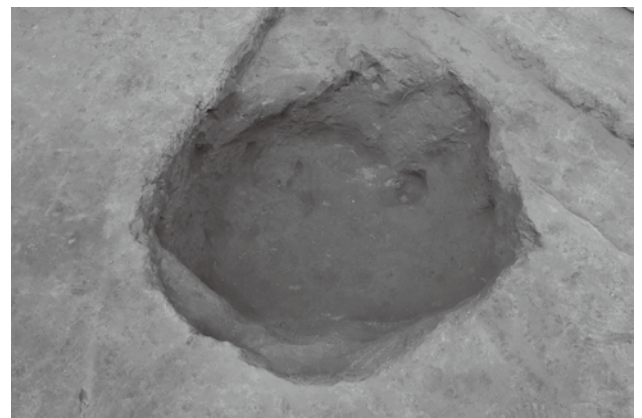
外構B区2号土坑



外構C区4・5号土坑



外構C区地点 完掘状況



18号土坑 完掘状況



30号土坑 遺物出土状況



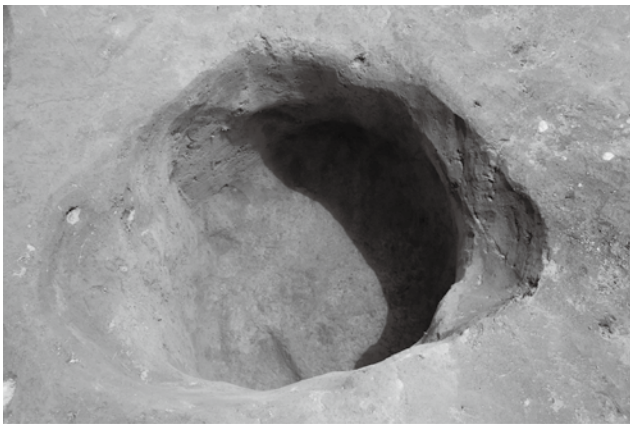
30号土坑 完掘状況



31号土坑 集石検出状況



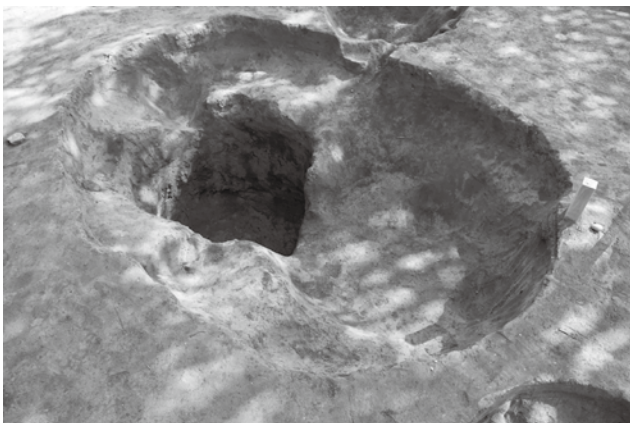
31号土坑 遺物出土状況



33号土坑 完掘状況



34号土坑 検出状況



34号土坑 完掘状況



41号土坑上層 遺物出土状況

写真図版 10



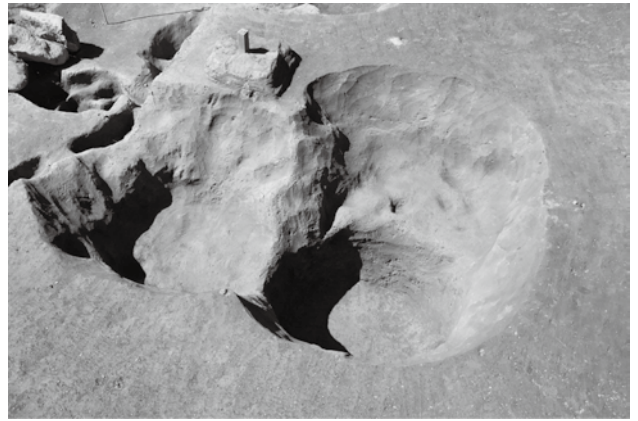
43号土坑周辺 完掘状況



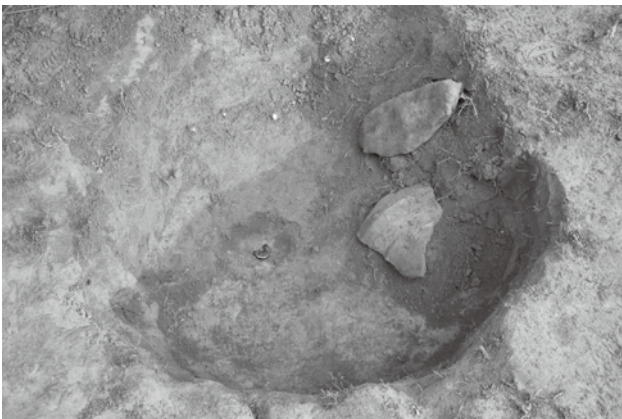
53号土坑周辺 完掘状況



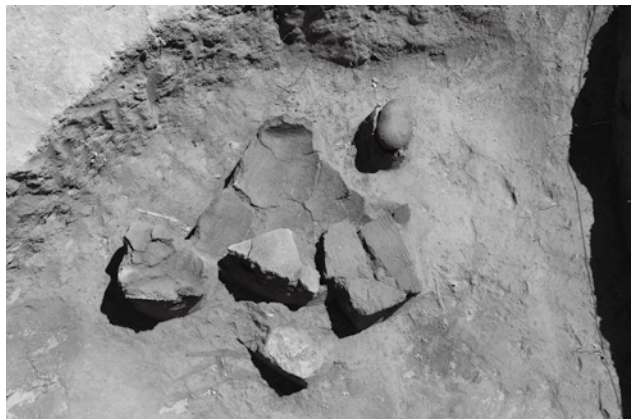
56号土坑 遺物出土状況 (北西から)



56号土坑・57号土坑



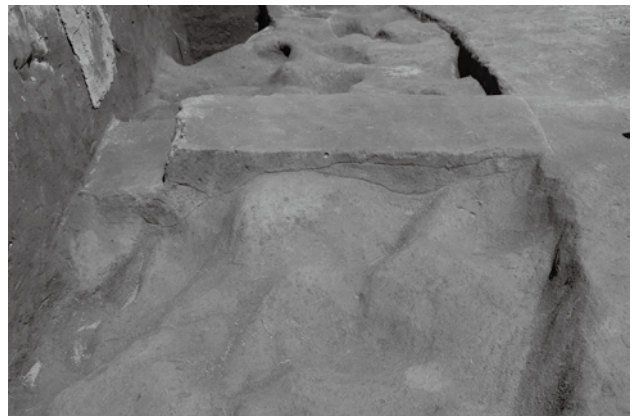
63号土坑 遺物出土状況



1号竖穴遺構 遺物出土状況



1号竖穴遺構 完掘状況



2号竖穴遺構



発掘調査風景



RCヘリ空中写真撮影



発掘体験セミナーの開催



遺跡見学会の開催



給水管工事立会 追加調査の実施



ケヤキ抜根作業立会 追加調査の実施

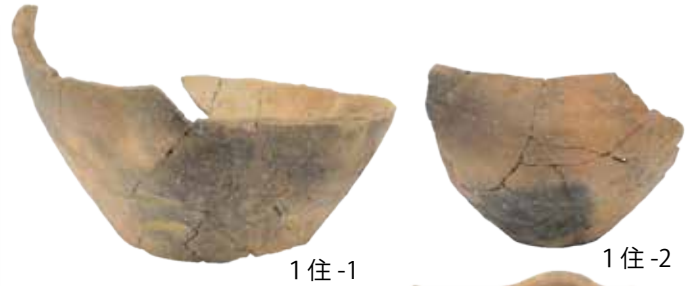


電気配管埋設工事立会 14号住居跡の調査



14号住居跡 遺物出土状況

写真図版 12





5住-11



7住-1



7住-2



7住-5



7住-6



7住-7



7住-8



7住-10



7住-31



9住-1



9住-2

写真図版 14



10住-1



12住-1



12住-2



11住-1



13住-1



14住-1



31土-15



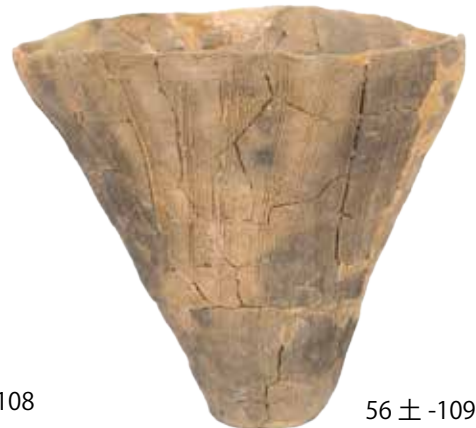
33土-37



56土-107



56土-108



56土-109



土偶 1



土偶 2



ミニチュア土器 3



ミニチュア土器 5



ミニチュア土器 6



土製品 15



土製品 16



54



55



76



79



80



56



62



108



109



110



112



113



111



1



2



3



4

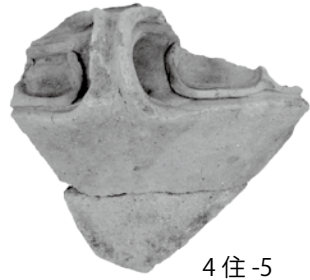


5

写真図版 16



4住-3



4住-5



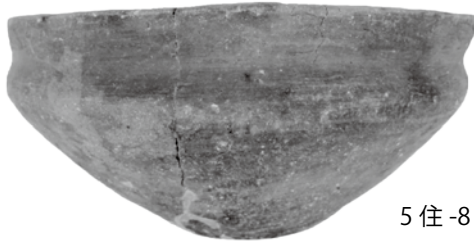
5住-4



5住-5



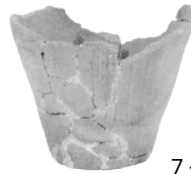
5住-6



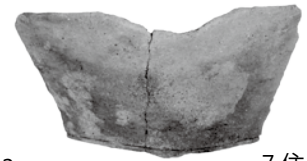
5住-8



6住-1



7住-3



7住-4



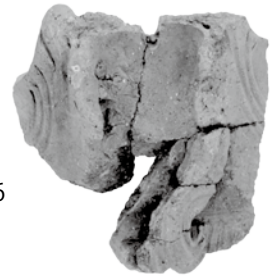
7住-16



7住-32



7住-36



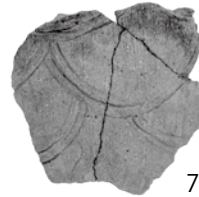
7住-38



11住-14



13住-2



7住-37



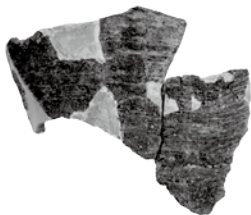
12住-3



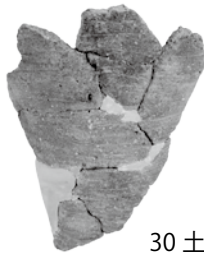
31住-22



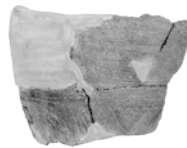
32住-25



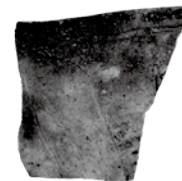
30住-10



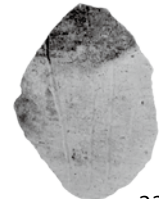
30住-11



30住-12



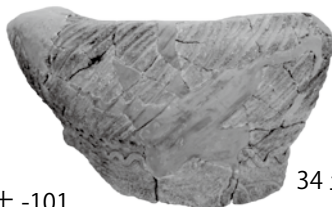
33住-30



33住-33



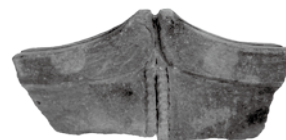
33住-34



34住-55



34住-56



35住-1



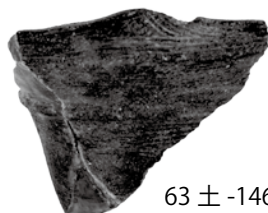
52住-83



54住-101



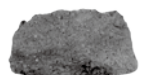
57住-121



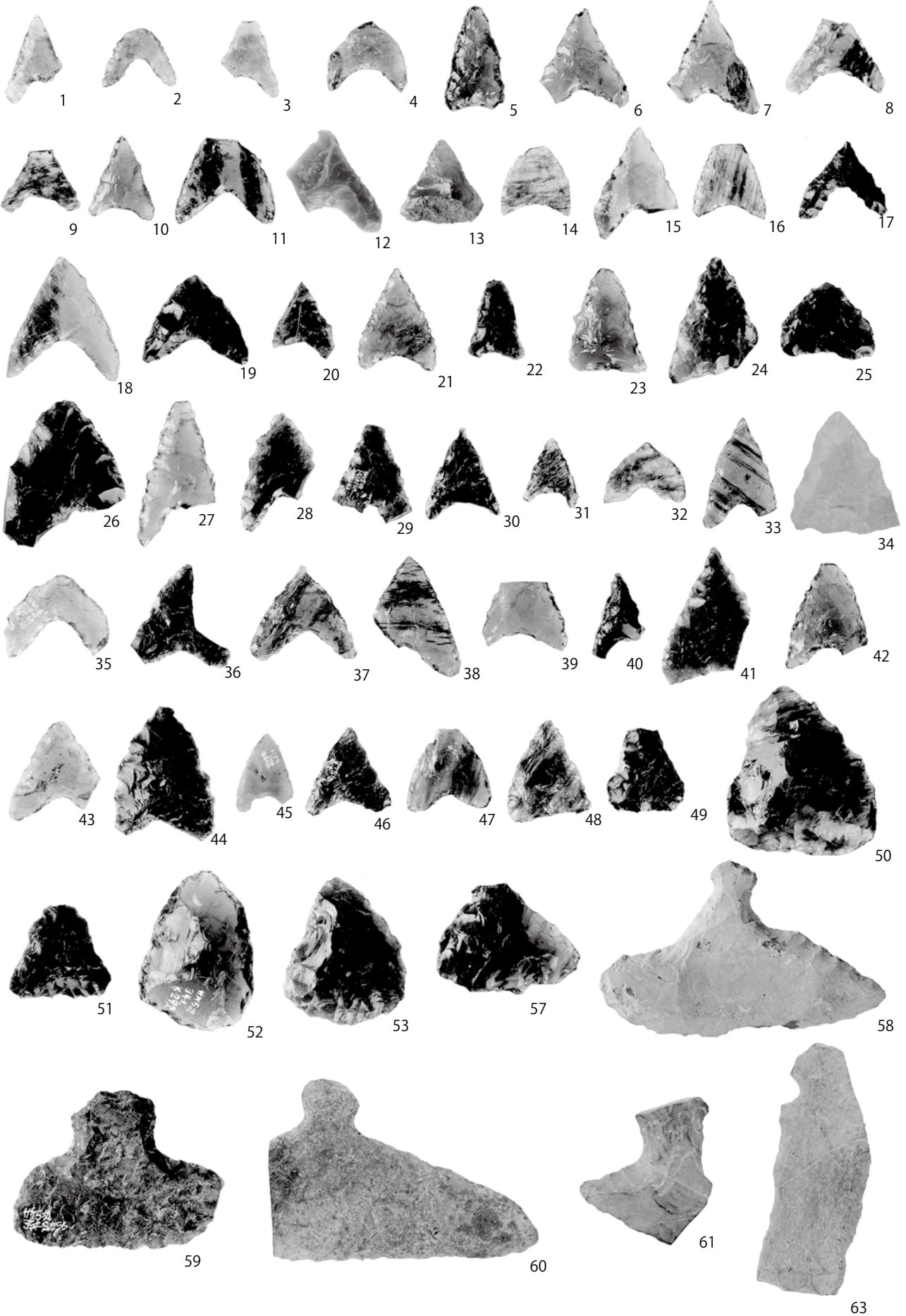
63住-146



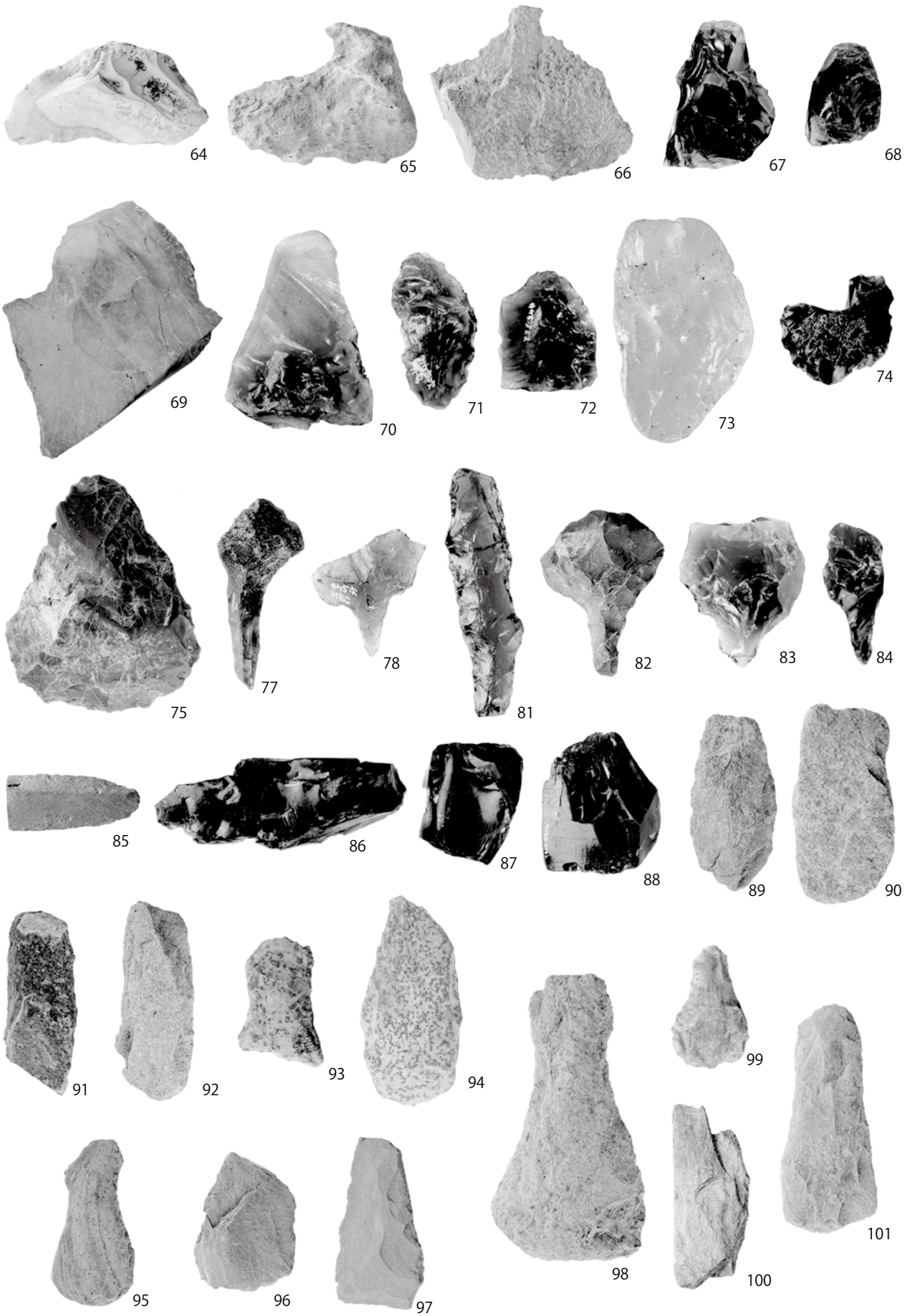
57住-122

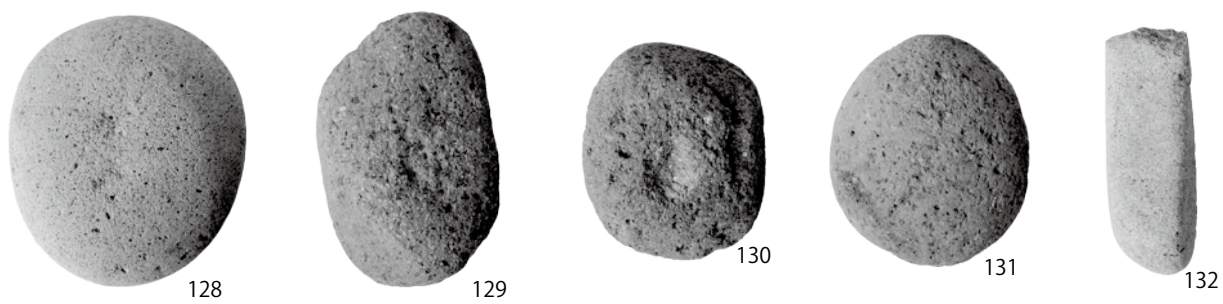


遺構外-170



写真図版 18





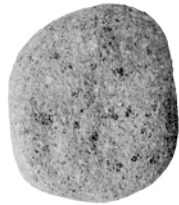
写真図版 20



138



139



140



141



142



143



144



145



146



147



148



149



150



151



152



153



154



155



156



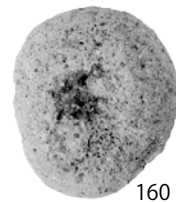
157



158



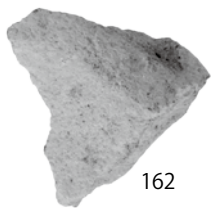
159



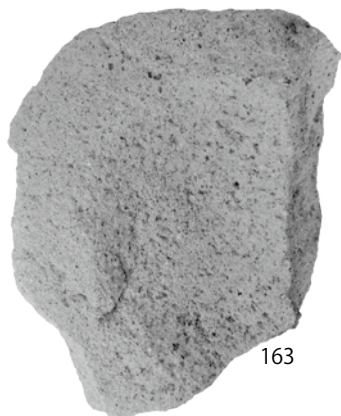
160



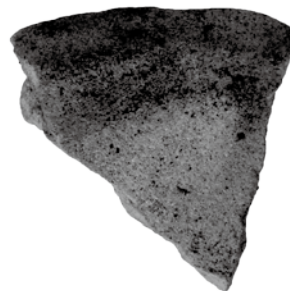
161



162



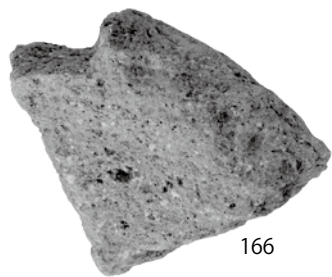
163



164



165



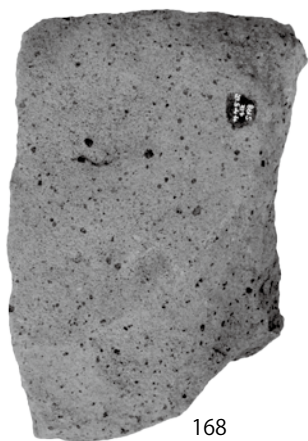
166



167



170



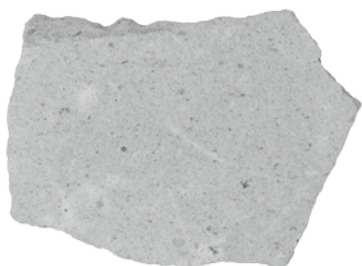
168



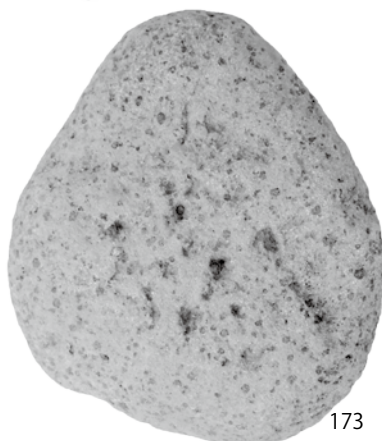
169



172



171



173



174



175



176



177

写真図版 22



近接撮影

2cm



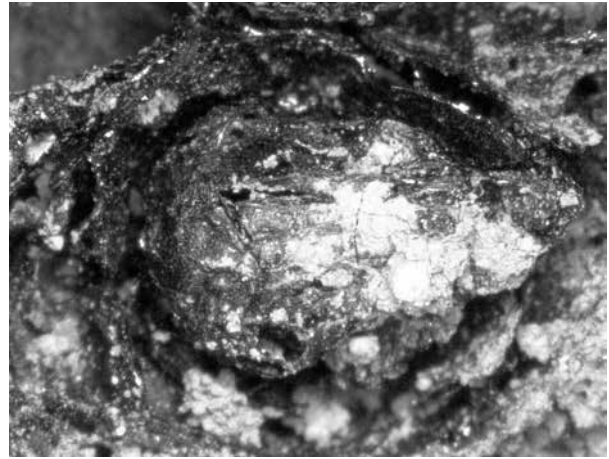
近接撮影

5mm



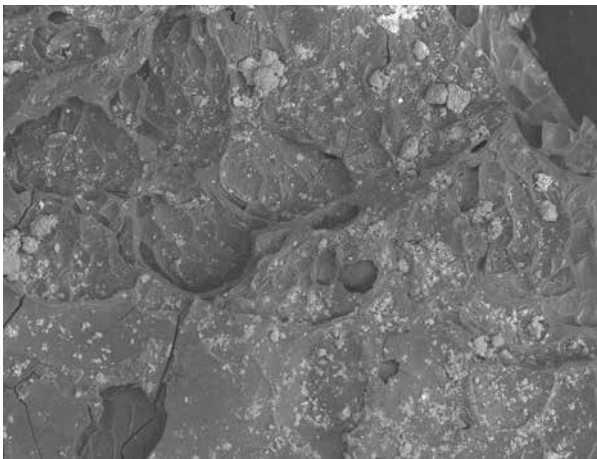
近接撮影

5mm



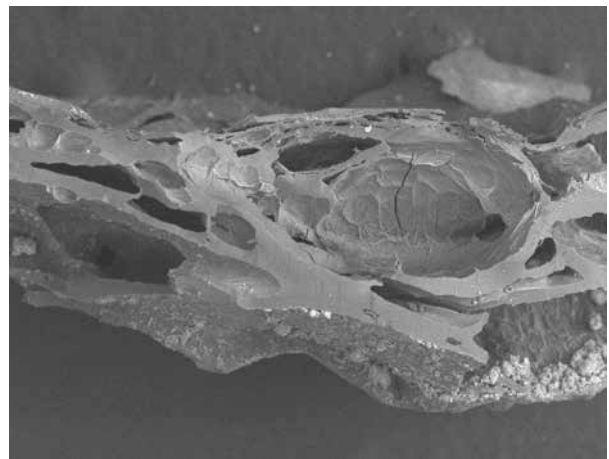
マイクروسコープ像

1mm



電子顕微鏡像

0.5mm



電子顕微鏡像

0.5mm

報告書抄録

ふりがな	さけのみばいせき (だい5じ)							
書名	酒呑場遺跡 (第5次)							
副書名	畜産酪農技術センター長坂支所施設等整備事業に伴う発掘調査報告書							
シリーズ名	山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第320集							
編著者名	熊谷晋祐・岩永祐貴・浅川一郎・バリノ・サーヴェイ株式会社							
編集機関	山梨県埋蔵文化財センター							
所在地	〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町923 TEL055-266-3016							
発行機関	山梨県教育委員会・山梨県農政部							
発行日	2019年3月15日							
ふりがな 所収遺跡名	所在地	市町村 コード	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
さけのみばいせき 酒呑場遺跡	山梨県北杜市 長坂町長坂上 条621-2	19209	4-102	35° 48' 58"	138° 22' 16"	20170509 ～ 20170922 追加立会調査あり	474㎡	建物
	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
	集落跡	縄文時代	縄文時代前～中期の住居跡12軒、竪穴遺構2基、縄文時代の土坑89基		縄文時代前期後半～中期後葉の土器・石器・土製品（土偶・土製円盤・ミニチュア土器など）・石製品（装飾品など）		第5次調査。縄文時代中期後半：曾利式期の環状集落の一部を調査。炉石に付着した黒色物の分析を実施。	

要約	<p>酒呑場遺跡は、北杜市長坂町長坂上条に位置する遺跡で、これまでに当センターでは4回の発掘調査を行っている。今回は、遺跡内に位置する畜産酪農技術センター長坂支所の施設等整備事業に伴うもので、第5次調査となる。過去の調査では10,000㎡以上が調査され、縄文時代前期から中期にかけての大集落を形成していることが判明していたが、今回の調査においても集落域の続きを確認し、その広がりが見えるようになった。</p> <p>調査で検出された竪穴住居跡は12軒、竪穴状遺構2基、土坑89基となり、住居跡は中期後葉の曾利式期が多く、土坑は諸磯式期のものが大半である。曾利式期の5軒の住居跡からは、良好に残存する石囲炉が見つかっており、そのうち2基は炉に小型の土器を付設する特殊なものであった。また、4軒の住居跡からは土器埋設遺構が見つかり、うち1基は大型の長胴甕を逆位で埋設するものである。多数見つかった土坑のうちのいくつかは、墓坑の可能性もある。曾利式最終段階に位置付けられる土坑の一つからは、ほとんど完形の深鉢が3個体出土した。</p> <p>過去の調査資料の再整理等を含め、曾利式期の集落の広がりや変遷について考えていく必要がある。</p>
----	---

山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第320集

酒呑場遺跡 (第5次)

畜産酪農技術センター長坂支所施設等整備事業に伴う発掘調査報告書

印刷 2019年3月7日
 発行 2019年3月15日
 編集 山梨県埋蔵文化財センター
 山梨県甲府市下曾根町923
 TEL 055-266-3016
 maizou-bnk@pref.yamanashi.lg.jp
 発行 山梨県教育委員会・山梨県農政部
 印刷 株式会社 峡南堂印刷所

